

2018

ケージーエス株式会社

ブレイルメモスマート 16 / 40 共通ユーザースガイド

はじめに

この度は、点字ディスプレイ ブレイルメモスマートをご利用頂き、誠にありがとうございます。このマニュアルでは、ブレイルメモスマート（BMスマート）のできること、および各機能の操作方法の詳細について、ご説明致します。

このマニュアルは、ブレイルメモスマート 16(BMS16)と、ブレイルメモスマート 40(BMS40)で、共通になっています。これらの機種機能や操作方法は、ほとんど同じですが、一部異なる所があります。

そのような機能／操作については、**(BMS16の場合)**、**(BMS40の場合)**のような注釈を付けておりますので、ご使用の機種に合わせてお読みください。

また、本製品のパッケージ内容、特長、基本的な操作方法については、同梱の「簡単スタートガイド」に記載しています。このマニュアルの前に、まず「簡単スタートガイド」からお読み頂けますよう、お願い致します。

特に、簡単スタートガイド内の「安全に関するご注意」を、最初に必ずお読みください。

〔簡単操作設定について〕

「簡単操作設定」は、本機の操作をより簡単にするために、各種の機能を、利用可能にするか、隠してしまうかを、お客様が、プログラム別、コマンド別に選択できる機能です。これは使わないという機能を、「隠す」に設定しておく、プログラム一覧やメニューにも表示されなくなりますので、お客様が使いたい、その他の機能を、より早く見つけれられるようになります。

初期状態でも、利用頻度が低いと思われるいくつかのプログラムやコマンドが、「隠す」に設定されています。このマニュアルでは、簡単操作設定で選択できる機能に、（簡単操作選択項目）という注釈を付記しています。

簡単操作設定について詳しくは、〈2. 1. 2 簡単操作設定とクイック優先モード〉の項を参照してください。

〔ブレイルメモスマートでできること〕

本機の主な機能は、以下のとおりです。

- 各種点字ファイルを開覧、編集できます。
- クイックメモプログラムを使うと、ファイル名やフォルダ名を全く意識しないで、点字の文書を管理できます。
- テキストファイル(txt)、リッチテキストファイル(rtf)、表のデータファイル(csv)を開覧、編集できます。また、拡張機能を使うと、マイクロソフトオフィス形式のファイルや、PDFファイルも閲覧できます。
- テキスト文書や点字文書の中で、2次元の表を、行や列の見出しを確認しながら編集できます（テーブルビューモード）。
- テキスト文書や点字文書の中で、日付が指定されている行を抽出し、スケジュール管理に利用できます（タイムライン表示機能）。
- テキストファイルや、点字ファイルの中にある、階層構造で整理された計算表を集計できます（ツリー型集計機能）。
- 学習内容のリストからのランダム出題に点字で答えながら、内容を覚えることができます（学習カード機能）。
- テキストファイルを点訳したり、点字ファイルを仮名テキストファイルに変換できます。
- デイジーデータとテキストデイジーデータを閲覧できます（対応バージョンは、DAISY Ver2.02, Ver3.0です）。
- テキストファイル、点字ファイルを、テキストデイジーデータに変換できます。
- オーディオファイル、音楽データ(mp3,wma,wav)を再生できます。
- オーディオ再生の早聞きは、4倍速まで利用可能です。
- デイジーデータやオーディオデータを聞きながら、点字やテキストでノートを取れます（編集ウィンドウを操作しながら、背景で動いているオーディオ再生もコントロールできます）。
- 音楽データは、アルバムの連続再生、ランダム再生もできます。
- 内蔵マイクで、オーディオファイル(wav)に録音できます。
- パソコン等に接続し、点字ディスプレイ装置として使用できます。
- 点字ディスプレイ装置として接続している時、本機とパソコンの間で、クリップボードのテキストデータ、点字データを転送できます。
- 点字プリンタに接続して印刷できます。（BMS16は、Bluetooth接続のみ）
- 当社のブレイルメモシリーズ機と、点字文書の送受信ができます。
- 他のBMスマートや、ブレイルメモ、パソコンと、点字によるチャットができます。
- 時計、アラーム、カレンダー、予定表、タイマーなどの機能を利用できます。
- テキストファイルや点字ファイルに書いたスケジュールを、カレンダーに表示して管理できます（スケジュール文書機能）。
- 電卓で、点字の記号を使って計算できます。

高村明良氏開発の点訳辞書検索ソフト「スマートコータクン」をご利用頂けます。国語辞典、英和辞典、和英辞典、四字熟語辞典など30種類の点訳辞書をご利用頂くには、別に、点字ボランティアグループ つつじフレンドが販売する辞書パッケージ「スマートディック」が必要です。

〔本マニュアルの構成〕

本マニュアルは、次の11章と、付録から構成されています。

第1章 本機の基本操作 本機をご利用頂くための基本的な事項をご説明します。

第2章 ファイルとプログラムの選択

メインウィンドウから、プログラムやファイルを開く操作、ファイルをコピーしたり削除する操作についてご説明します。また、電卓などのツールの起動方法と使い方についてもご説明します。

第3章 時計とカレンダー

時計、アラーム、カレンダー、予定表などのユーティリティ機能の使い方をご説明します。

第4章 文書の編集と利用

テキスト文書と点字文書の編集の方法をご説明します。

第5章 図書データの利用

デイジーデータと点字図書データの閲覧方法についてご説明します。

また、本機の添付ソフト、「BMシリーズ機器用ユーティリティ」の中に含まれる、「サピエ図書館検索ツール」の使い方をご紹介します。

第6章 メディアデータの利用

メディアデータの再生方法と、本機内蔵のマイクから録音する方法についてご説明します。

第7章 外部機器との接続 本機の通信機能についてご説明します。

第8章 設定とカスタマイズ 本機の各種設定機能についてご説明します。

第9章 ホビー機能 本機のホビー機能についてご紹介します。

第10章 サポート機能

ファームウェアのバージョンアップや拡張機能ライセンスのインストールの方法、本機のテスト機能の使い方をご説明します。

第11章 スマートコータクン スマートコータクンについてご紹介します。

付録

〔本マニュアルで使用している商標について〕

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft®Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows の正式名称は、Microsoft®Windows®Operating System です。

Windows 10 は、Microsoft®Windows®10 operating system の略です。

Windows 8 は、Microsoft®Windows®8 operating system の略です。

Windows 7 は、Microsoft®Windows®7 operating system の略です。

Windows Vista は、Microsoft®Windows®Vista operating system の略です。

Windows XP は、Microsoft®Windows®XP Home Edition operating system および、Microsoft®Windows®XP Professional operating system の略です。

Acrobat®Reader®は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

目次

第1章 基本操作	1
1. 1 電源	1
1. 2 入出力の基本設定	4
1. 3 表示と操作	5
1. 4 文字の入力	13
1. 5 ファイルと保存場所	17
1. 6 ヘルプ	20
第2章 ファイルとプログラムの選択	22
2. 1 メインウィンドウとプログラムの選択	22
2. 2 ファイルの選択	28
2. 3 記憶メディアの検出ウィンドウ	37
2. 4 ファイルとフォルダの管理	39
2. 5 ツールメニュー	45
第3章 時計とカレンダー	53
3. 1 時計とアラーム	53
3. 2 カレンダーと予定表	56
第4章 文書の編集と利用	62
4. 1 利用できる文書	62
4. 2 クイックメモと点字文書の編集	62
4. 3 テキスト文書の編集	74
4. 4 点字編集とテキスト編集で共通の機能	85
第5章 図書データの利用	96
5. 1 デイジーデータの閲覧	96
5. 2 点字図書の閲覧	109
5. 3 パソコンで、サピエ図書館からデイジー ファイルや点字ファイルをダウンロードする	115
5. 4 コメント機能	119
第6章 メディアデータの利用	121
6. 1 メディアデータの利用方法	121
6. 2 オーディオ再生	122
6. 3 メディア再生	126
6. 4 マイクから録音する	133
第7章 外部機器との接続	137
7. 1 通信機能の概要	137
7. 2 パソコンやブレイルメモと接続するための準備	140
7. 3 本機を点字ディスプレイとして使用する	143
7. 4 点字文書の送受信	144
7. 5 点字チャット	146
7. 6 点字印刷（BMS16は、Bluetooth接続のみ）	148
7. 7 外部ドライブモード	150
7. 8 液晶ディスプレイの接続	151
第8章 設定とカスタマイズ	152
8. 1 各種調節機能	152
8. 2 操作のカスタマイズ	154

8. 3 ユーザーショートカット機能.....	158
8. 4 設定機能一覧.....	159
8. 5 ワンタッチ設定.....	168
8. 6 全ての設定を初期値に戻す.....	169
8. 7 簡単操作設定.....	170
第9章 ホビー機能.....	176
9. 1 クモの糸.....	176
9. 2 神経衰弱.....	177
9. 3 白黒.....	177
9. 4 ナンバープレイス（ナンプレ）.....	179
9. 5 魚釣り.....	180
9. 6 暗算マスター.....	180
9. 7 お宝さがし.....	181
9. 8 将棋盤.....	182
第10章 サポート機能.....	187
10. 1 ファームウェアのバージョンアップと拡張機能ライセンスのインストール方法.....	187
10. 2 テスト機能.....	189
第11章 スマートコータクン.....	192
付録.....	193

Ver 1.2.1

改訂 2018年4月1日

ケージーエス株式会社

第 1 章 基本操作

この章では、本機をご利用頂くための基本的な事項をご説明します。

1. 1 電源

この節では、電源のオン/オフの操作、バッテリーの充電、バッテリーの交換方法などについてご説明します。

1. 1. 2 本機の起動と終了

この項では、電源のオン/オフ、スリープモード、リセットスイッチなどについてご説明します。

本機には、電源オフ、電源オン、スリープの三つの状態があります。

本機を使用できるのは、電源オンの動作状態です。

これらの状態を変えるには、本体右側面奥にある電源ボタンを使用します。

〔電源のオン/オフ〕

本機が電源オフの状態では、点字表示部が少しざらざらした状態になっていて、ACアダプタを挿すと、「BMスマート 停止中」と点字表示されます。

この状態から、本機を起動するには、電源ボタンを、5秒間ぐらい、少し長めに押します。

すると、「BMスマート」と点字表示され、間もなく、「BMスマート 起動中」の表示に変わります。この表示になったら、電源ボタンを離してください。

しばらくすると、「BMスマート起動中」と発声されます。このメッセージが出るまで、電源ボタンを押し続けていても問題ありません。起動が完了すると、「メインウィンドウ」が表示されます。

本機を電源オフする時も、電源ボタンを5秒間ぐらい、長めに押します。すると、5秒ぐらいで「ピポ」という音が鳴り、「BMスマートを終了します。」と発声されますので、電源ボタンを離してください。

まもなく、本機が終了して、点字表示部が少しざらざらした状態になります。

本機は、電源がオフになっていても、設定されたアラーム時刻になると自動的に起動して、お知らせします。この機能をオフするには、コントロールキーを押しながら、電源ボタンを長く押しします。すると、「アラームを無効にして、BMスマートを終了します。」と発声されます。

〔スリープモード〕

BMスマートをスリープさせたり、スリープから動作状態に戻すにも、電源ボタンを使います。

BMスマートを、動作状態からスリープさせるには、電源ボタンを2秒程度押して、離します。

すると、「BMスマートをスリープします」と発声され、間もなく、点字表示がオフします。

BMスマートには、オートスリープ機能があり、初期設定で、5分間操作しなかった場合も、自動的にスリープモードに入ります。

本機がスリープしている状態では、点字表示部が少しざらざらした状態になっていて、ACアダプタを挿すと、「BMスマート スリープ」と点字表示されます。この状態から、動作状態に戻すには、電源ボタンを2秒程度押します。すると、間もなく、「BMスマート 準備完了」と発声さ

れます。

オートスリープ機能のオン/オフを切り替えるには、コントロールキーを押しながら、電源ボタンを短く押します。

〔リセットスイッチ〕

本機は、ファイルのコピー中などには、電源ボタンを押しても電源オフやスリープができないようになっています。そのような作業の進行中でないのに、何らかの異常により、電源オフできなくなった時は、リセットボタンを押して、本機を強制終了してください。

リセットスイッチは、SDカードスロットの右上の小さな穴の中にあります。つまようじなど、細いもので押してください。

1. 1. 2 バッテリー

この項では、バッテリーの充電と残量の確認、バッテリーの交換方法についてご説明します。

〔バッテリーを充電する〕

本機では、専用バッテリー（リチウムイオン型 2 次電池）を 3 個使用しています。

フル充電からの連続使用時間は、標準的な使用の場合、約 8 時間です。

バッテリーを充電するには、製品付属の AC アダプタを挿します。

すると、バッテリーがフル充電になるまで充電されて、自動的に充電が止まります。

【危険】

AC アダプタは、必ず製品付属の物を使用してください。

それ以外の AC アダプタは、接続できても絶対に使用しないでください。火災・故障の原因になります。

バッテリーが空の状態からの充電時間は、6 時間以内で、最初の 3 時間で約 70% 充電できます。バッテリーに残量があっても、追加充電されます。本機が停止している状態、スリープしている状態で AC アダプタを挿すと、「BM スマート 停止中」、「BM スマート スリープ」などのように点字表示されます。

AC アダプタを挿しても、途中の接続が緩んでいたりして、充電しそこになってしまうことがありますので、これらの点字表示を確認するようにしてください。なお、充電中でも、本機の操作は可能です。本機を使いながら充電しても、充電時間が長くなることはありません。

〔バッテリーの残量を確認する〕

本機が停止している状態では、電源スイッチを押し、1 秒以内に離すと、点字表示で、バッテリーの残量や充電状態を確認できます。この場合、AC アダプタが接続されている時は、充電レベル（0～4）、または充電完了と表示されます。

また、AC アダプタが接続されていない時は、バッテリーレベル（0～4）と表示されます。数字が大きい方が、充電量が多いことを示します。

本機が動作している状態で、バッテリー残量を確認するには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → ツール → 電源ステータス

（このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+1（2,4 の点）です）。

すると、「電源ステータス」のウィンドウが開きます。このウィンドウに、ACアダプタの接続状態、バッテリーの充電状態と残量などが表示されます。

なお、バッテリー残量が、初期設定で 10%以下になると、「すぐに充電してください」というメッセージが表示されます。この場合は、ACアダプタを接続して、充電を行ってください。

〔バッテリーの交換〕

バッテリーは 2 年を目途に交換してください。

交換用のバッテリーは弊社で販売いたしますので、お気軽に、以下まで御連絡ください。

また、使い終わったバッテリーは、お住まいの自治体の指示にしたがい処分してください。

連絡先: 「ケーシーエス株式会社」

TEL: 0493-72-7311

【注意】

バッテリーの交換のさいは、必ず先に、電源を切り、ACアダプタを外してください。

感電・火災・故障の原因になります。

(バッテリーの取り外し方)

1. 電源を切り、ACアダプタを外します。
2. 本体を裏返します。本体前面（SDカードドライブのある側）が手前に来るように置いてください。
3. 中央付近にある 2 ヶ所の凹凸が付けてある所を探し、それを両手の親指で押し込むように持ちます。
4. 親指を深く押しこみながら、奥にスライドさせます。
5. バッテリーボックスの蓋が外れるので、バッテリーに指を添えてこぼれ落ちないように注意しながら、本体を表返し、バッテリーを取り出します。

(バッテリーの入れ方)

6. バッテリーボックスが上を開いている状態で、本体前面が手前に来るように置いてください。
7. バッテリーボックスの中に、向きに注意して、バッテリーを並べます。
バッテリーの点字シールが貼られている面が上になるようにして、シールの矢印が左を指す向きに入れてください。
バッテリーの向きを間違えると、接点が破損してしまいますので、入れ終わったら、必ずシールの矢印を触って、左向きになっていることを確認してください。
8. 蓋を閉めます。凹凸がついた印が手前にくるように蓋を持ち、本体の奥から手前に向けてスライドさせます。蓋が両側のガイドに添って、本体から浮かないように、ゆっくりスライドさせてください。
9. 「カチッ」と音が鳴るまでスライドできたら、完了です。

1. 2 入出力の基本設定

この節では、ボリュームの調節と音声のオン/オフ、操作キーのロック、両手入力と片手入力の切替え方法などについてご説明します。

1. 2. 1 ボリュームと速度の調節

ボリュームや速度を調節するには、本体右側面手前側にある「ボリュームボタン」を使います。まず、コントロールキーを押しながら、ボリュームアップボタン（奥側）、またはボリュームダウンボタン（手前側）を押して、設定する項目を選びます。

（設定する項目）

- （1）メインボリューム（初期設定）……音声出力全体の音量を調節します。
- （2）スピーチ速度……音声合成エンジンの発話速度を調節します。
- （3）スピーチ音量……音声合成エンジンのボリュームを調節します。
- （4）ブザー音量……ブザー音のボリュームを調節します。
- （5）オーディオ再生速度……オーディオデータ、デイジーデータ再生時の再生速度を調節します。
- （6）オーディオボリューム……オーディオデータ、デイジーデータ再生時のボリュームを調節します。
- （7）メディア再生ボリューム……メディアデータ再生時のボリュームを調節します。
- （8）自動送り時間……点字表示の自動送り時間間隔を調節します。

設定する項目が選択できたら、ボリュームアップボタン、ボリュームダウンボタンを押して、その設定値を変更します。変更を確定する操作は必要ありません。

なお、次の小指キーとボリュームボタンの組み合わせ押しで、いつでも、以下の設定ができます。

オルトキー+ボリュームボタン：メインボリュームの調節

セレクトキー+ボリュームボタン：スピーチ速度の調節

ウィンキー+ボリュームボタン：オーディオ再生速度の調節

1. 2. 2 消音モード

本機の音声出力は、以下の操作でオン/オフできます。

コマンドキー+M（1・3・4の点）……音声ミュートのオン/オフ

コントロールキー+コマンドキー+M……ブザー音のみ鳴らす

※これらの操作にセレクトキーを組み合わせると、設定の変更内容自体も、読み上げなくなります。

また、本機の点字表示は、以下の操作でオン/オフできます。

コマンドキー+Q（1・2・3・4・5の点）……点字表示のオン/オフ

*ただし、音声出力と点字表示を両方オフすることはできません。

1. 2. 3 操作キーや電源ボタンをロックする

本機を動作状態のままカバンに入れたい時などには、「キーロック機能」が便利です。キーロック機能をオン/オフするには、親指キー3個と□(2,4,5の点)を押します。なお、本機には、パスワードを掛けて操作をロックする機能はありません。

【注意】

本機をカバンなどに入れる時は、必ず、ACアダプタやUSBケーブル、ヘッドフォン、USBメモリーなどを取り外してください。機械を破損する危険があります。SDカードは、奥まで挿さっていれば、装着したままで、問題ありません。

1. 2. 4 両手入力と片手入力

本機の点字入力には、通常の両手入力の他に、左手用と右手用の2種類の片手入力モードがあります。点字キーから通常の入力ができなくなってしまった場合、片手入力状態になっている可能性があります。

*片手入力モードは、簡単操作設定機能により、初期状態で無効化されています。この機能を有効にする方法については、〈2. 1. 2 簡単操作設定とクイック優先モード〉の項を参照してください。

片手入力と両手入力は、以下のように切り替えられます。

- (A) 両手入力に戻す……親指キー3個と、6点キー6個を同時に押す。
- (B) 左手入力モードに入る……親指キーの左2個と、6点キーの左3個を同時に押す。
- (C) 右手入力モードに入る……親指キーの右2個と、6点キーの右3個を同時に押す。

なお、左手入力、または右手入力の状態で、6点キーを全て押すと、「左手入力中」または「右手入力中」と発声します。

片手入力モードの詳細については、〈8. 2 [D] 片手入力モード〉の項を参照してください。

1. 3 表示と操作

この節では、ウィンドウとメニュー、点字表示の進め方、ショートカット操作、各種のキー操作について、ご説明します。

1. 3. 1 ウィンドウ

本機では、いろいろな機能を、ウィンドウ単位で操作します。ウィンドウとは、プログラムの操作パネルのようなもので、その中に、それぞれのプログラムを操作するために必要なものが表示されます。

例えば、点字の文書を書くプログラムのウィンドウには、読みたい文書を選ぶためのリストや、選択した文書を編集するための枠などが表示されます。

また、オーディオデータを再生するプログラムのウィンドウには、再生ボタンや、巻戻し、早送りなどのボタンが用意されます。各ウィンドウには、そのウィンドウを区別するための名前である、「タイトル」が付けられています。

また、そのウィンドウの中で、操作するために今選択している要素を、フォーカスと呼びます。本機を起動した時、最初に開くのがメインウィンドウです。何か作業を始めるには、メインウィンドウのプログラムリストから目的のプログラムを起動します。

プログラムが起動すると、そのプログラムのウィンドウが開きます。

*初期設定では、メインウィンドウが開くと、「クイック優先モード」という機能により、点字でメモを取るためのプログラム、「クイックメモ」が、自動的に起動するようになっています。「クイック優先モード」については、〈2. 1. 2 簡単操作設定とクイック優先モード〉の項を参照してください。

〔1〕今開いているウィンドウを確認する

今開いているウィンドウの一覧を表示するには、ウィンキーを押します。

すると、メインウィンドウ以外のウィンドウのタイトルが一覧表示されます。

別のウィンドウに移動したい場合は、上下矢印キーで操作したいウィンドウを選んでエンターキーを押してください。

エスケープキーを押すと、ウィンドウ一覧を閉じます。(メインウィンドウ以外に開いているウィンドウがない時は、ウィンドウ一覧を開く代わりに、「メインウィンドウを表示しています」と発声します。

〔2〕ウィンドウ間を移動する方法

以下の操作でも別の、ウィンドウに移動できます。

次のウィンドウに移動するには、オルトキーとタブキーを押します。

前のウィンドウに移動するには、オルトキーとシフトタブキーを押します。

メインウィンドウに戻るには、ウィンキーとセレクトキーを押します。

〔3〕ウィンドウの読み上げ

表示中のウィンドウを読み上げるには、以下のように操作します。

フォーカス位置を読み上げるには、コマンドキーとF (1,2,4 の点) を押します。

ウィンドウ全体を読み上げるには、コマンドキーとW (2,4,5,6 の点) を押します。

ウィンドウタイトルを読み上げるには、コマンドキーとT (2,3,4,5 の点) を押します。

ウィンドウ内のステータス情報を読み上げるには、ウィンキーとS (2,3,4 の点) を押します。

編集ウィンドウで、カーソルがある行を読むには、コマンドキーと1,4 の点を押します。

編集ウィンドウで、カーソル位置の単語を読むには、コマンドキーと2,5 の点を押します。

編集ウィンドウでカーソル位置の文字を読むには、コマンドキーと3,6 の点を押します。

表示されている文書やリストを連続読みするには、コマンドキーと1~6 の点を押します。

〔4〕ウィンドウを片付ける

使い終わったウィンドウは、次の操作で閉じます。

ウィンドウを閉じるには、コマンドキーとZ (1,3,5,6 の点) を押します。

ただし、一度閉じてもすぐに関けるようなウィンドウは、エスケープキーでも閉じられるようになっています。

〔5〕ボタンとホットキー

ウィンドウの中にも、いくつかの入力欄やリスト、ボタンなどが含まれていることがあります。

このような要素をコントロールと呼びます。

コントロールの間を移動するには、タブキー、またはシフトタブキーを使います。

(ボタンが並んでいる場合は、上下矢印キーでも、その間を移動できます)。

ボタンにも、メニューの項目と同じように、機能が割り当てられています。
ボタンを押して、その機能を実行するには、スペースキーを押します。
タブキーで目的のボタンに移動しなくても、そのボタンの機能を実行できるようにするため、ボタンに文字が割り当てられている場合があります。
このような場合は、オルトキーとその文字の操作で、ボタンを選択できます。
(このような操作を、ホットキーと呼んでいます)。

1. 3. 2 メニュー

〔1〕メニュー

本機の多くのウィンドウに、メニューが用意されています。
メニューとは、そのウィンドウでできることを一覧表にしたもので、そこから実行したいコマンドを選択できるようになっています。
ウィンドウの操作には、様々なキーを使いますが、それらを全て覚えていなくても、メニューで確認しながら、操作することができます。
メニューを開くには、オルトキーを押します。
メニューには、一行に一個のコマンドが表示されます。
上下矢印キーでコマンドを選択し、エンターキーを押すと、そのコマンドが実行されます。
「サブメニュー」と表示されている項目には、更に子供のメニューがあり、エンターキーでその中に入ります。
サブメニューから出るには、バックスペースキーを押します。
(左右矢印キーでも、サブメニューに出入りできます)。
オルトキーを押すと、コマンドを実行せずにメニューを閉じます。

〔2〕メインメニュー

メインウィンドウのメニューを、特に「メインメニュー」と呼んでいます。
メインメニューには、本機の全般に関わる操作や設定のコマンドが登録されています。
どのウィンドウからでも、ウィンキーとスペースキーの操作で、メインメニューを開くことができます。

1. 3. 3 点字表示と行

本機のウィンドウやメニューは、複数の行で構成されています。
点字表示では、その中の一行の内容を表示します。
また、上下矢印キーを押すと、点字表示を前後の行に移動できます。
今表示している行の内容を読み上げるには、コマンドキー+1,4 の点を押します。
行の長さはまちまちで、点字表示部に一度に表示しきれないこともあります。
このような時は、行の先頭部分だけが点字表示されます。
点字表示は、マス空け以外の所で表示が切れると大変読みにくいので、マス空けで切れるように調節されます。このような表示の仕方を、ワードラップと呼んでいます。
行に続きがある時は、表示の送りキーで、点字表示を右に進めながら、残りの部分を読んで行きます。
また、点字表示を左に戻すには、表示の戻しキーを押します。
行末や行頭を表示するには、表示の送りキー、戻しキーを、コントロールキーと組み合わせて押

します。

行末で表示の送りキーを押すと、次の行に移動します。

〔自動送り機能〕

「自動送り」は、点字表示を一定時間ごとに、自動的に進める機能です。

表示の送りキーと戻しキーを同時に押すと、自動送りが始まります。

同じ操作をもう一度すると、自動送りが止まります。

自動送り中も、表示の送りキーや戻しキーが使えますが、矢印キーなど、その他のキーを押すと、自動送りは止まります。

また、自動送り中は、ボリュームボタンで、自動送りの時間間隔を調節できます。

〔スポットメッセージ〕

スポットメッセージは、状態の変化や、コマンドの実行結果などを、短い時間の点字表示で伝える機能です。

例えば、次のような時に、スポットメッセージが表示されます。

- バッテリーが少なくなり、充電が必要な時。
- 編集ウィンドウで、カーソルが文末まで移動した時。
- 編集ウィンドウで、編集禁止に設定されているため、文書を変更できない時。
- 選択範囲をコピーした時。

なお、スポットメッセージをすぐに消したい時は、タッチカーソルを押してください。

また、スポットメッセージが長くて表示しきれない時は、表示の送りキーで次を表示できます。

1. 3. 4 ショートカットとグローバルショートカット

ショートカットは、今操作しているウィンドウのコマンドを、メニューを開かずに実行する短縮操作です。

ショートカットキーの操作は、コマンドキー、またはコントロールキーとの組み合わせに割り当てられています。

ショートカットはウィンドウ毎に決められていますが、いくつかのウィンドウで同じコマンドがある場合は、共通のショートカットキーが割り当てられています。

複数のウィンドウで共通に使用できるショートカットには、次のようなものがあります。

コントロールキー+N (1,3,4,5 の点) ……新規作成：新しい文書、またはフォルダを作ります。

コントロールキー+O (1,3,5 の点) ……開く：既存の文書、またはデータを開きます。

コントロールキー+R (1,2,3,5 の点) ……履歴一覧：最近使った文書、またはデータを開きます。

コントロールキー+S (2,3,4 の点) ……上書き保存：編集集中の文書を、ファイルに上書き保存します。

コントロールキー+セレクトキー+R (1,2,3,5 の点) ……編集禁止設定：開いている文書の編集禁止設定をオン/オフします。

コントロールキー+C (1,4 の点) ……コピー：ファイル一覧や、編集集中の文書の選択範囲を、クリップボードに登録します。元の位置のデータは、そのまま残ります。

コントロールキー+X (1,3,4,6 の点) ……切り取り：ファイル一覧や、編集集中の文書の選択範囲を、クリップボードに登録します。元の位置にあったデータは、残りません。

コントロールキー+V (1,2,3,6 の点) ……貼り付け：クリップボードに登録されているデータを、現在位置に挿入します。

クリップボードについては、〈2. 4. 1 クリップボード〉の項を参照してください。

コントロールキー+F (1,2,4 の点) ……検索：キーワードを検索します。

コマンドキー+2,3,6 の点…前を検索：同じキーワードで、現在位置より前を検索します。

コマンドキー+3,5,6 の点…後ろを検索：同じキーワードで、現在位置より後ろを検索します。

コントロールキー+H (1,2,5 の点) ……置換：キーワードを別のキーワードに置き換えます。

コントロールキー+セレクトキー+F (1,2,4 の点) ……お気に入り文書として登録：今選択している文書、または開いている文書を、お気に入り文書として登録します。

これに対して、グローバルショートカットは、ウィンドウの枠を越えて利用できるショートカットです。グローバルショートカットは、どのウィンドウを操作している時でも、ワンタッチで、同じ機能呼び出せます。

グローバルショートカットには、ウィンキーを含む操作が割り当てられています。グローバルショートカットは、コマンドを実行するだけでなく、プログラムや文書をワンタッチで呼び出したたり、いろいろな設定をワンタッチで変更するような使い方もサポートしています。

1. 3. 5 コマンドキーを使った操作

コマンドキー（親指キー中央）と、点字キーの組み合わせで、各種のキー操作、ショートカットを実行できます。

〔キー操作〕

- 1 の点…上矢印キー
- 2 の点…コントロールキー+左矢印キー
- 3 の点…左矢印キー
- 4 の点…下矢印キー
- 5 の点…コントロールキー+右矢印キー
- 6 の点…右矢印キー
- 1,2 の点…シフトキー+タブキー
- 4,5 の点…タブキー
- 2,3 の点…ページアップキー
- 5,6 の点…ページダウンキー
- 1,3 の点…ホームキー
- 1,2,3 の点…コントロールキー+ホームキー
- 4,6 の点…エンドキー
- 4,5,6 の点…コントロールキー+エンドキー
- 1,5 の点…エスケープキー
- 2,4 の点…インサートキー

〔制御のショートカット〕

- 1,3,5,6 の点(Z)…プログラムの終了
- 1,3,4 の点(M)…音声出力のオン/オフ
- 1,2,3,4,5 の点(Q)…点字表示のオン/オフ
- 1,2,5 の点(H)…ヘルプの表示

(コントロールキーを組み合わせると、トピックヘルプ「BMスマートの使い方」を開きます)。

1,2,5,6 の点……名前の変更

〔読み上げのショートカット〕

1,2,4 の点(F)……フォーカス項目の読み上げ

2,3,4 の点(S)……ステータス情報の読み上げ

2,3,4,5 の点(T)……タイトルの読み上げ

2,4,5,6 の点(W)……ウィンドウの読み上げ

1,4 の点……行の読み上げ

2,5 の点……単語の読み上げ

3,6 の点……文字の読み上げ

1,2,3,4,5,6 の点……文書の連続読み上げ

1. 3. 6 ナビキー

ナビキーは、本機前面にあるワンセット2個のキーで、それぞれに、上下、前後などの対になる操作を割り当てて使用します。BMS 16には2組、BMS 40には1組のナビキーがあります。ナビキーを一つだけ押すと、割り当てられている操作で前か後ろに移動します。

ナビキーを二つ同時に押すと、今割り当てられている操作を表示します。

続けて同時に押すと、ナビキーの割り当てを次の操作に切り替えます。セレクトキーと組み合わせると、前の操作に戻ります。コントロールキーと同時に押すと、標準の操作に戻ります。

また、BMS 40では、前面の左側2個、右側2個のキーの組み合わせ押しを、拡張ナビキーと呼んでいます。拡張ナビキーの割り当ては、ナビキー自体の操作では変更できません。

ナビキーに割り当てられる操作は、次の7種類です。

上下矢印キー (ナビキー1 初期値)

ホーム/エンドキー

左右矢印キー

タブキー (ナビキー2 初期値)

検索 (拡張ナビキー 初期値)

見出し行

表示の送り・戻し (拡張ナビキーでは選択不可)

*BMS40で、ナビキーに「表示の送り・戻し」を選択すると、前面キーの左側2個だけ、右側2個だけで、表示の送り・戻しの操作ができるようになります。

〔BMS 16でのナビキーの配置の設定〕

BMS 16では、専用の矢印キーがないため、点字を読む手と反対側のナビキーに、上下矢印キーが割り当てられていると便利です。そこで、お客様が主にどちらの手で点字を読むかに合わせて、ナビキーの配置を、変更できるようになっています。点字を主に左手で読む場合は、次の操作を行って、ナビキー1が右側に来る設定に変更してください。

ナビキーを、右手操作用に設定する……コントロールキー+ナビボタン 1, 3, 4

また、点字を主に右手で読む場合は、次の操作を行って、ナビキー1が左側に来る設定にしてく

ださい（この設定は、初期設定です）。

ナビキーを、左手操作用に設定する……コントロールキー+ナビボタン 1, 2, 4
（ナビボタンは、本機前面の4個のボタンで、左側から、1、2、3、4の順です）。

1. 3. 7 サイドキー（BMS40のみ）

BMS40には、本体上面の左奥、右奥に3個ずつ、サイドキーがあります。

本体の背面右側にある「左右切替えスイッチ」に連動して、右手操作モードでは右側から、左手操作モードでは左側から、1～6の番号を付けて呼びます。

サイドキーは、初期状態で、以下の操作に使用できるように設定されています。

〔標準の割り当て〕

サイドキー1……エスケープ
 サイドキー2……タブ
 サイドキー3……シフト+タブ
 サイドキー4……F7
 サイドキー5……F11
 サイドキー6……F1
 サイドキー1+2……デリート
 サイドキー1+3……割り当てなし
 サイドキー2+3……バックスペース
 サイドキー1+2+3……割り当てなし
 サイドキー4+5……F3
 サイドキー4+6……割り当てなし
 サイドキー5+6……シフト+F3
 サイドキー4+5+6……割り当てなし

1. 3. 8 矢印キーとディスプレイキー（BMS40のみ）

BMS40には、点字表示部のすぐ奥の、左右両側に、4個ずつの方向キーがあります。
これらのキーは、矢印キーやディスプレイキーとして使用します。

本体背面右側にある「左右切替えスイッチ」に連動して、右手操作の時は、右側の4個が矢印キー、左手操作の時は、左の4個が矢印キーになります。矢印キーとして使わない側の方向キーは、ディスプレイキーになります。矢印キーは、文書を書いたり、メニューを選択したりする時、移動の向きを指定するために使用します。

また、矢印キーを、前面にある、表示の送りキーや戻しキーと組み合わせると、範囲選択の操作ができます。ディスプレイキーは、点字ディスプレイモードで、スクリーンリーダーの操作に使います。

なお、BMS16には、方向キーがありません。矢印キーの操作をする時は、コマンドキーをご使用ください。

〔矢印キーの組み合わせ押し〕

矢印キーは、以下の操作に使用できます。

矢印キーと、コマンドキーの操作の対応は、以下の通りです。

上矢印キー コマンドキー+1の点 上の行に移動します

下矢印キー コマンドキー+4の点 下の行に移動します

左矢印キー コマンドキー+3の点 左のマスに移動します

右矢印キー コマンドキー+6の点 右のマスに移動します

ホームキー（左+下矢印キー） コマンドキー+1・3の点 先頭に移動します

エンドキー（右+上矢印キー） コマンドキー+4・6の点 末尾に移動します

ページアップキー（左+上矢印キー） コマンドキー+2・3の点 前のページ、
または1画面分上に移動します

ページダウンキー（右+下矢印キー） コマンドキー+5・6の点 次のページ、
または1画面分下に移動します

前の見出し（左+右+上矢印キー） コマンドキー+1・2・3・6の点 前の見出し行に
移動します

次の見出し（左+右+下矢印キー） コマンドキー+3・4・5・6の点 次の見出し行に
移動します

前の段落（左+上+下矢印キー） コマンドキー+1・2・3・4の点 前の段落に
移動します

次の段落（右+上+下矢印キー） コマンドキー+1・4・5・6の点 次の段落に
移動します

1. 3. 9 共通ウィンドウ

共通ウィンドウとは、決まった目的のために、いろいろな所で使われるウィンドウです。

共通ウィンドウが表示されたら、いつでも同じ方法で操作できます。

ここでは、共通ウィンドウの内、メッセージボックスと設定シートについてご説明します。

〔A〕メッセージボックス

メッセージボックスは、情報を表示したり、操作を選択するための、共通ウィンドウです。

このウィンドウが開くと、音声で、「〇〇の情報メッセージ」、「〇〇の問い合わせメッセージ」のようにタイトルが発声され、続いて、メッセージの本文が表示されます。

メッセージの後には、「OK、キャンセル」とか「はい、いいえ」のように、選択できるボタンを読み上げますので、メッセージをよく聞いて、適当なボタンを選択してください。

編集した文書の保存や、ファイルの削除の問い合わせなど、とても大切なメッセージが表示される場合がありますので、メッセージが聞き取れなかった場合は、以下の操作でメッセージを再確認してから操作を選択してください。

〔操作〕

コマンドキー+T（2・3・4・5の点）：メッセージのタイトルを確認します。

コマンドキー+F（1・2・4の点）：メッセージの本文を確認します。

コマンドキー+W（2・4・5・6の点）：メッセージと選択肢を確認します。

エンターキー：OKボタンを押します。

エスケープキー：キャンセルボタンを押します。

Y（1・3・4・5・6の点）：「はい」ボタンを押します。

N（1・3・4・5の点）：「いいえ」ボタンを押します。

タブキー：ウィンドウの中を移動して、選択できるボタンや、メッセージ本文を、
一つずつ確認できます。

スペースキー: ボタンを選択している時、そのボタンを押します。

〔B〕 設定シート

設定シートは、各種の設定を行うための、共通ウィンドウです。

このウィンドウが開くと、音声で、「設定シート、〇〇」のように、タイトルと、設定内容の説明が発声されます。

このウィンドウには、設定内容のリストがあり、設定する項目と、その項目の現在の値が、一行に一つずつ表示されます。

項目の値は、数値や選択肢、文字列などで、それぞれの項目毎に異なります。

〔操作〕

リストでは、次の操作ができます。

上矢印キー: 前の設定項目に移動します。

下矢印キー: 次の設定項目に移動します。

左矢印キー: 数値項目の値を1減らします。または、前の選択肢を選びます。

バックスペースキー: 上の操作と同様、値を減らします。

右矢印キー: 数値項目の値を1増やします。または、次の選択肢を選びます。

スペースキー: 文字列やパスの項目では、設定ウィンドウを開きます。その他の項目では、上の操作と同様、値を増やします。

コントロール+スペースキー: 数値の入力ウィンドウ、または文字列の編集ウィンドウを開きます。

数値項目では、リストから直接数字を入力できます。

エンターキー: 変更を保存して、設定シートを閉じます。

エスケープキー: 変更を保存しないで、設定シートを閉じます。

また、設定内容に標準値がある場合は、以下のボタンが表示されます。

〔標準値から変更している項目を表示する〕……このボタンを押すと、設定を変更している項目と、その標準値を確認できます。

〔標準に戻す〕……このボタンを押すと、全ての項目を標準値に変更します。
エンターキーを押して確定してください。

1. 4 文字の入力

この節では、キー入力モード、直接文字入力モードの選択と入力方法、日本語変換の操作についてご説明します。

1. 4. 1 文字入力の操作

本機では、テキスト文書と点字文書を編集できます。

テキストという言葉は、本機では、「点字」に対する「墨字」の情報という意味で使用していません。

本機の点字キーからの入力は、テキスト編集のウィンドウを操作している時はテキスト入力に、点字編集のウィンドウを操作している時は点字入力に、自動的に切り替わります。

また、テキスト入力での操作方法に、一般的なキーボードと同じような形でテキストを入力する「キー入力モード」と、点字が表す文字をそのまま入力する「直接文字入力モード」の二種類が

あります。

かな漢字変換を使った一般的な文字入力、キー入力モードで行います。

一方、直接文字入力モードでは、かな漢字変換を使わないで文字を入力します。ひらがなとカタカナなどの文字種を区別してテキストを入力できたり、各種記号などを点字の形で指定できるなどのメリットがあります。

自分だけが読むメモを書く時に、かな漢字変換は大変という方は、ぜひ直接文字入力モードでの、かな分かち書きをお試しください。

点字キーが、今どのような入力モードになっているかは、次の操作で確認できます。

コマンドキー+1, 6の点: 現在の入力モードを読み上げます。

また、次の操作で、本機のテキスト入力の状態を変更できます。

コマンド+左親指キー: キー入力モードと、直接文字入力モードの切り換え

コマンド+右親指キー: キー入力モードでの、漢字変換(IME)のオン/オフ

キー入力モードは、一般のキーボードと同様に、半角英数字を入力します。漢字やひらがなを入力する時は、かな漢字変換を使います。

直接文字入力モードは、半角/全角の文字種を指定して、直接文字を入力できます。かな漢字変換を使わずに、ひらがな/カタカナを入力できます。

初期状態はキー入力モードです。

また、メッセージボックスなど半角アルファベットで操作するウィンドウが表示されると、直接文字入力モードから自動的にキー入力モードに戻ります。

キー入力モードでは、以下の操作で、カナ入力/英数字入力を変更します。

右親指+4, 6の点: カタカナモード

右親指+5, 6の点: 英数字モード

右親指+6の点: キャップス(大文字)モード

直接文字入力モードでは、以下の操作で、文字の種類を変更します。

右親指+7: 全角ひらがなモード

右親指+カ: 全角カタカナモード

右親指+4, 6の点: 半角カタカナモード

右親指+4, 5の点: 全角小文字モード

右親指+4の点: 全角大文字モード

右親指+5, 6の点: 半角小文字モード

右親指+6の点: 半角大文字モード

1. 4. 2 キー入力モードで操作する

本機が起動した時、点字キーは、「キー入力モード」になっています。

キー入力モードでは、6点キーを使って、通常のキーボードと同じように、半角英数字および記号の入力ができます。

また、日本語変換をオンにすると、かな漢字変換を使った日本語入力ができます。

〔現在の入力モードを確認する〕

コマンドキーと1,6の点を押して、「キー入力モード」と発声すれば、キー入力モードになっています。

もし「直接文字入力モード」と発声した場合は、コマンドキーと左親指キー(エンターキー)を押してキー入力モードに変更できます。

また、「日本語変換オン」と発声した場合は、日本語変換がオンになっています。
日本語変換は、コマンドキーと右親指キー（スペースキー）でオン/オフできます。
入力モードに続けて、今選択されている文字種も発声されます。

〔文字種の選択〕

- (1) 右親指+4, 6の点: カタカナモード
キーボードがかなモードになり、かな点字での入力操作ができる状態です。点字の濁音、半濁音、拗音、特殊音も、自動的に変換されます。
ただし、助詞の「は」や「へ」は、墨字の規則で入力してください。記号の入力については、〈半角かなモードで使用できる記号〉の項を参照してください。
- (2) 右親指+5, 6の点: 英数字モード
キーボードが英数字モードになり、アルファベット小文字での入力操作ができる状態です。一文字だけアルファベット大文字を入力したい時は、6の点に続けて入力します。6の点を2回入力すると、大文字モードに変わります。記号の入力については、〈半角英数字モードで使用できる記号〉の項を参照してください。
- (3) 右親指+6の点: キャップス（大文字）モード
キーボードが英数字モード（CapsLock オン）になり、アルファベット大文字での入力操作ができる状態です。5,6の点を入力すると、英数字モード（小文字）に変わります。
- (4) 数符（3,4,5,6の点）
数字の入力操作ができる状態です。その他の点字が入力されると、数符を入力する前のモードに戻ります。
- (5) NABCC モード
NABCC コード（北米点字コード）の対応で、入力した点字に対応する英数字、記号類を入力します。アルファベットの点字はアルファベットのキーに、下がり数字の点字は数字キーに変換されます。
（コントロールキー、オルトキー、ウィンキーとの組み合わせで入力された点字は、全てNABCCモードで変換されます）。
NABCC コードについては、〈付録（A4）「NABCC（北米点字）コード〉の項を参照してください。

〔日本語変換の操作〕

日本語変換モードは、コマンドキーと右親指キー（スペースキー）でオン/オフします。
日本語変換の操作の流れは、ほぼパソコンと同じで、次のように操作します。

- (1) 変換したい言葉の読み方をかなで入力します。
- (2) 適当な長さまで入力できたら、スペースキーを押して変換します。スペースキーを押すごとに、別の変換候補が表示されます。使われている漢字を詳細読みしますので、目的の書き方が説明されるまでスペースキーを押してください。
- (3) 変換できたら、エンターキーを押して確定します。文の続きがある場合は、(1)に戻って入力を続けます。次の読み方を入力すると、変換した言葉は自動的に確定します。

1. 4. 3 直接文字入力モードで入力する

直接入力モードでは、半角、全角の英数字、ひらがな、カタカナ、および記号類を、点字の書き方で入力できます。

このモードでは、英語二級点字による略字・縮字の入力も可能です。
また、漢点字での入力も、このモードで行います。

〔現在の入力モードを確認する〕

コマンドキーと1,6の点を押して、「直接文字入力モード」と発声すれば、直接文字入力モードになっています。

もし「キー入力モード」と発声した場合は、コマンドキーと左親指キー（エンターキー）を押して直接文字入力モードに変更できます。

入力モードに続けて、今選択されている文字種も発声されます。

〔文字種の選択〕

直接文字入力モードでは、以下の操作で、文字の種類を変更します。

- 右親指+ヒ: 全角ひらがなモード
- 右親指+カ: 全角カタカナモード
- 右親指+4, 5の点: 全角小文字モード
- 右親指+4の点: 全角大文字モード
- 右親指+ス: 全角数字モード

入力できる全角記号については、〈付録（A3）全角記号〉を参照してください。

- 右親指+5, 6の点: 半角小文字モード
- 右親指+6の点: 半角大文字モード
- 数符（3,4,5,6の点）: 半角数字モード

入力できる半角英数字記号については、〈付録 半角英数字モードで使用できる記号〉を参照してください。

- 右親指+4, 6の点: 半角カタカナモード

入力できる半角かな記号については、〈付録 半角かなモードで使用できる記号〉を参照してください。

〔英語二級点字の入力〕

英語の入力モードは、以下の操作で切り変えます。

- 右親指+2,3の点: グレード2（二級点字モード）
- 右親指+2の点: グレード1（英数字モード）
- 右親指+3,5,6の点: グレード0（NABCCモード）

〔漢点字の入力〕

漢点字を入力する時は、始点として左親指キー、終点として右親指キーを使用します。

1. 5 ファイルと保存場所

この節では、本機で利用できる記憶メディア、ファイルとフォルダ、ファイル名の付け方などについてご説明します。

1. 5. 1 記憶メディアとフォルダ

〔記憶メディア〕

本機には、次の3個の記憶メディアがあります。

- (A) 内蔵SDカード(¥sdmemory)……本体内蔵のマイクロSDカードです。
- (B) 前面SDカード(¥sdmemory2)……本体前面中央に挿入するSDカードです。
- (C) USBメモリー(¥usbmemory)……本体左側面手前に接続するUSBメモリーです。
(ハードディスクや、CD-ROM、NTFSフォーマットの記憶メディアは、本機には接続できません)。

〔フォルダとファイル〕

フォルダはファイルを分類して管理するための入れもので、フォルダの中にファイルを保存したり、また、フォルダの中に更にフォルダを作ることでもあります。この時、内側のフォルダを、外側のフォルダのサブフォルダ、逆に、外側のフォルダを、内側のフォルダの親フォルダと呼びます。一番外側のフォルダをルートフォルダと呼び、エンマーク(¥)の記号で表します。ルートフォルダは特別なフォルダで、その中に直接ファイルやフォルダを作ることにはできません。その代わりに、ルートフォルダの中には、利用可能な記憶メディアが、サブフォルダとして含まれます。

内蔵SDカードは、本機で常時利用可能なので、いつでもルートフォルダから選択できます。

内蔵SDカードのフォルダ名は、sdmemory です。

前面SDカードや、USBメモリーは、本機に接続されている時だけ、ルートフォルダから選択可能になります。

前面SDカードのフォルダ名は、sdmemory2 です。

また、USBメモリーのフォルダ名は、usbmemory です。

これらの記憶メディアのフォルダの中には、直接ファイルを保存することもできますし、更にその中にフォルダを作って、分類しながら、ファイルを保存して行くこともできます。

〔パス〕

ファイルを保存した場所を表すために、ルートフォルダから一階層ずつ、フォルダの名前を列挙して、エンマーク(¥)で繋いだものを「パス」と言います。

例えば、前面SDカードの中に、「マニュアル」というフォルダがあり、その中に「BMスマート.txt」というファイルがあったとすると、このファイルのパスは、次のようになります。

¥sdmemory2¥マニュアル¥BMスマート.txt

このパスには、エンマーク(¥)が3回出てきますが、最初の¥がルートフォルダを表していて、後の2個はフォルダ階層を繋ぐ記号として使われています。

〔マイドキュメントフォルダ〕

内蔵SDカード以外の記憶メディアは、本機の動作中も、読み書きしていない時には取り外した

り、接続したりできます。

そこで、いつでも使えるデータの保存場所として、内蔵SDカードの中に、「マイドキュメント」という名前のフォルダが用意されています。

各種プログラムからも、標準的なデータの保存場所として、この「マイドキュメント」フォルダが使われます。

「マイドキュメント」フォルダのパスは、「¥sdmemory¥マイドキュメント」です。

1. 5. 2 アプリフォルダ

アプリフォルダは、本機のプログラムから、外付けの記憶メディアの中の文書やデータを参照しやすくするために用意されるフォルダです。

プログラム別に、以下の6個のアプリフォルダの名前が定められています。

記憶メディアを接続すると、その中に、以下の名前のフォルダが用意されます。

BMS_AudioData……オーディオ再生プログラム用。

BMS_Brldata……点字編集プログラム用。

BMS_DaisyData……デイジー再生プログラム用。

BMS_MediaData……メディア再生プログラム用。

BMS_QuickMemo……クイックメモプログラムへのデータの出し入れ用。

BMS_TextData……テキスト編集プログラム用。

また、内蔵の記憶メディアには、必要に応じて、「マイドキュメント」フォルダ内に以下のフォルダが作られます。

これらは、外付けの記憶メディアからデータを移動したり、コピーしたりした時の保存場所になります。

「点字文書」

「テキスト文書」

「点字図書データ」

「デイジーデータ」

「オーディオデータ」

「メディアデータ」

1. 5. 3 ファイル名と拡張子

ファイルの名前は、ほぼ自由に付けることができますが、いくつかのルールがあります。

〔ファイル名に使えない文字〕

次の半角記号は、特別な目的で使われるため、ファイル名やフォルダ名に含めることはできません。

¥ (エンマーク) ……ルートフォルダ、またはフォルダ階層を区切るために使用します。

* (アスタリスク) ……ファイルマスクで、0文字以上の文字列を表すために使用します。

? (クエスチョンマーク) ……ファイルマスクで、任意の1文字を表すために使用します。

;(セミコロン) ……複数のファイルマスクを区切るために使用します。

また、次の文字も、パソコンのOSで特別な目的で使われるため、ファイル名やフォルダ名に含められません。

：(コロン)、/スラッシュ、" (ダブルコーテーション)、< (小なり)、> (大なり)、| (縦線)
これらの文字を使いたい時は、全角記号をご使用ください。

〔拡張子〕

ファイル名の中で、. (ピリオド) より前の部分を主ファイル名、後ろの部分を拡張子と呼びます。主ファイル名の部分には、ファイルの内容を区別するための自由な名前を付けることができます。これに対して、拡張子には、ファイルの種類や、保存形式を表すために決められている文字列を指定しなければなりません。

(拡張子の例)

テキストファイル: .txt

ブレイルメモ点字ファイル: .bmt

サピエ図書館の点字ファイル: .bes, .bet (.besの方が、.betより新しいデータ形式です)。

ファイルを保存する際には、目的のファイル形式を表す拡張子を指定してください。また、既存のファイルの拡張子を間違ったものに変更すると、ファイルが開けなくなったり、データが壊れてしまう危険がありますので、ファイル名を変更する際には充分ご注意ください。

〔ファイルマスク〕

ファイルマスクは、ファイル一覧に表示するファイルを絞り込む時などに使う指定方法です。ファイルマスクでは、次の特別な文字を使用します。

* (アスタリスク) ……ファイルマスクで、0文字以上の文字列を表すために使用します。

? (クエスチョンマーク) ……ファイルマスクで、任意の一文字を表すために使用します。

； (セミコロン) ……複数のファイルマスクを区切るために使用します。

これらの文字を、次のように使用します。

*.txt ……拡張子が.txtのファイルだけを表示します。*の部分には、どのような文字列が来ても構わないという意味です。

.bes;.bet ……拡張子が.besと.betのファイルを表示します。セミコロンで区切ると、複数のファイルマスクを結合できます。

. ……全てのファイルを表示します。

報告.* ……ファイル名に「報告」という言葉を含むファイルだけを表示します。

???.* ……主ファイル名が3文字のファイルだけを表示します。?の部分には、どのような文字が来ても構わないという意味です。

1.6 ヘルプ

この節では、キーヘルプモードとウィンドウヘルプ、トピックヘルプなどについてご説明します。

1.6.1 キーヘルプモード

キーヘルプモードは、キーの名前やそれらのキーに対して割り当てられている機能を確認するためのモードです。

キーヘルプモードで何かキー操作をすると、キーの名前や割り当てられている機能、その操作により入力される文字などを読み上げます。

小指キー4個を同時に押すと、キーヘルプモードに入り、「キーヘルプオン」と音声と点字で表示します。

再度小指キー4個を同時に押すと、キーヘルプモードを終了し、「キーヘルプオフ」と音声と点字で表示します。

キーヘルプモードは、キー操作を確認するためのモードですので、そこで入力されたコマンドは実行されません。

キーヘルプモードを使用した後、キーヘルプモードから抜けるのを忘れないようにご注意ください。

1.6.2 ウィンドウヘルプ

多くのウィンドウに、ウィンドウヘルプを用意しています。

ウィンドウヘルプでは、現在の状況に応じた操作説明を点字と音声で読むことができます。

ウィンドウヘルプを開くには、コマンドキー+H（1・2・5の点）を押します。

ウィンドウヘルプでは、上/下矢印キーで、一行ずつ移動しながら、内容を確認してください。

また、コマンドキー+1～6の点の操作で、ヘルプの内容を連続読みします。

ヘルプの表示を終了するには、コマンドキー+Z（1・3・5・6の点）を押します。

1.6.3 トピックヘルプ

トピックヘルプは、トピックの階層をたどりながら、「知りたいこと」が見つけれられるように構成されたヘルプ機能です。

具体的な操作方法をご紹介しますとともに、複数のウィンドウを使用する操作、類似機能の使い分け、操作上の注意点などもご説明しています。

トピックヘルプを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → ヘルプ → トピックヘルプ「BMスマートの使い方」

（ショートカット：コントロールキーを押しながら、コマンドキー+H（1・2・5の点）を押す）。

説明中の参照可能なトピックを読みたい時は、エンターキーを押します。

この場合、バックスペースキーを押すと、元のトピックに戻ります。

トピックの先頭に戻るには、コマンドキー+1・2・3の点を押します。

トピックヘルプに表示される内容は、簡単操作設定機能により制限されます。

1. 6. 4 BMスマートユーザズガイド

本機のユーザズガイド本編を、ヘルプ機能で参照できます。

この機能を使うと、マニュアルの中の見出し階層や参照先に、エンターキーでジャンプできます。

BMスマート・ユーザズガイドを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → ヘルプ → BMスマート・ユーザズガイド

(ショートカット：コントロールキー+セレクトキーを押しながら、コマンドキー+H (1・2・5の点) を押す)。

説明中の参照可能な項目を読みたい時は、エンターキーを押します。

この場合、バックスペースキーを押すと、元の項目に戻ります。

その項目の先頭に戻るには、コマンドキー+1・2・3の点を押します。

第2章 ファイルとプログラムの選択

この章では、メインウィンドウから、プログラムやファイルを開く操作、ファイルをコピーしたり削除する操作についてご説明します。また、電卓などのツールの起動方法と使い方についてもご説明します。

2. 1 メインウィンドウとプログラムの選択

この節では、メインウィンドウとメインメニューの機能、本機のプログラムについてご説明します。また、本機の簡単操作設定、クイック優先モードについてもご説明します。

2. 1. 1 メインウィンドウの働き

メインウィンドウは、本機を起動した時に開き、最後まで閉じないウィンドウです。メインウィンドウは、次の目的で使用します。

- (1) 各種プログラムを起動します。
- (2) 目的のファイルを探して開きます。
- (3) 各種の設定を管理します。
- (4) 通信ポートを管理します。
- (5) セルフテストやバージョンアップの機能を提供します。

どのウィンドウにいる時でも、ウィンキー+セレクトキーの操作で、メインウィンドウに戻ります。

2. 1. 2 簡単操作設定とクイック優先モード

〔簡単操作設定について〕

「簡単操作設定」は、本機の操作をより簡単にするために、各種の機能を、利用可能にするか、隠してしまうかを、お客様が、プログラム別、コマンド別に選択できる機能です。

これは使わないという機能を、「隠す」に設定しておくことで、プログラム一覧やメニューにも表示されなくなりますので、お客様が使いたい、その他の機能を、より早く見つけられるようになります。

初期状態でも、利用頻度が低いと思われるいくつかのプログラムやコマンドが、「隠す」に設定されています。

例えば、「点字文書の送受信」や「点字チャット」、「点字印刷」の項目は、初期状態で「隠す」に設定されています。

また、同一プログラムのウィンドウは、初期状態で、複数開かない設定になっています。

このマニュアルでは、簡単操作設定で選択できる機能に、(簡単操作選択項目)という注釈を付記して、初期設定値を表示しています。

もし、マニュアルにこの注釈がある機能が、本機のプログラムリストやメニューに表示されていない場合は、以下のコマンドで、簡単操作設定をご確認ください。

メインメニュー → 各種設定 → 簡単操作設定

また、本機にある全ての機能を利用可能にするには、簡単操作設定の最初の項目で、選択肢、「以下の設定を無効にして、本機の全ての機能を利用可能にする」を選択してください。
 なお、簡単操作設定が有効になっている時は、メインウィンドウのタイトルにも、簡単操作有効と表示されます。

簡単操作設定を変更したら、表示を更新するために、本機を再起動してください。

簡単操作設定の設定項目については、〈8. 7 簡単操作設定〉をご参照ください。

〔クイック優先モード〕

クイック優先モードは、本機で、点字のメモを取るための操作を分かりやすくするために用意されている、簡単操作設定機能の一つで、初期状態でオンになっています。

このモードでは、本機を起動した時、「クイックメモ」が自動的に起動します。

また、ウィンキー+セレクトキーの操作で、メインウィンドウとクイックメモの間を行き来できるようになります。

クイック優先モードの時は、メインウィンドウのタイトルにも、クイック優先モードと表示されます。

(この場合、「簡単操作有効」とは表示されませんが、クイック優先モードの時は、簡単操作も有効になっています。)

2. 1. 3 プログラムリストとプログラムの起動

本機には、様々な機能があるため、利用したい機能別にプログラムが分かれています。

メインウィンドウには、次のようなプログラムリストが表示されます。

(詳細については、各項目の参照先をご覧ください。)

クイックメモ(Q) 点字文書の編集1
 (参照先) 〈4. 2. 1 クイックメモプログラム〉

時計(C) 〈現在時刻〉 時計の表示, 各種タイマー
 (簡単操作選択項目) 「A2 時計とアラーム」 = 利用可能
 (参照先) 〈3. 1. 1 時計プログラム〉

アラーム 〈次のアラーム時刻〉 アラームの設定
 (簡単操作選択項目) 「A2 時計とアラーム」 = 利用可能
 (参照先) 〈3. 1. 2 アラーム〉

カレンダー(S) 〈今日の日付〉 カレンダーの表示, 予定の登録
 (簡単操作選択項目) 「A3 カレンダーと予定表」 = 利用可能
 (参照先) 〈3. 2. 1 カレンダープログラム〉

今日の予定(Y) 〈登録されている予定〉 今日の予定の確認
 (簡単操作選択項目) 「A3 カレンダーと予定表」 = 利用可能
 (参照先) 〈3. 2. 2 予定表〉

テキスト編集(T) テキスト文書の編集
 (簡単操作選択項目) 「A4 テキスト編集プログラム」 = 利用可能
 (参照先) 〈4. 3. 2 テキスト編集プログラム〉

点字編集(B) 点字文書の編集2

(簡単操作選択項目)「A5 点字編集プログラム」＝利用可能
(参照先)〈4. 2. 2 点字編集プログラム〉

点字図書閲覧(W) 点字図書の閲覧
(簡単操作選択項目)「A6 点字図書閲覧プログラム」＝利用可能
(参照先)〈5. 2. 2 点字図書閲覧プログラム〉

オーディオ再生(A) オーディオファイルの再生 (音声の早聞き可能)
(簡単操作選択項目)「A7 オーディオ再生プログラム」＝利用可能
(参照先)〈6. 2. 1 オーディオ再生プログラム〉

ボイスレコーダー(V) マイクから録音する
(簡単操作選択項目)「A8 ボイスレコーダープログラム」＝利用可能
(参照先)〈6. 4. 1 ボイスレコーダープログラム〉

デイジー再生(P) デイジーデータの再生
(簡単操作選択項目)「A9 デイジー再生プログラム」＝利用可能
(参照先)〈5. 1. 3 デイジー再生プログラム〉

メディア再生(M) 音楽データの再生
(簡単操作選択項目)「A10 メディア再生プログラム」＝利用可能
(参照先)〈6. 3. 1 メディア再生プログラム〉

点字ディスプレイ(D) 点字ディスプレイ (必要な時に自動起動する)
(参照先)〈7. 3 本機を点字ディスプレイとして使用する〉

点字データの送受信(R) 旧ブレイルメモとの通信
(簡単操作選択項目)「A11 点字文書送受信プログラム」＝隠す
(参照先)〈7. 4 点字文書の送受信〉

点字印刷 点字プリンタによる印刷 (BMS 16は、Bluetooth接続のみ)
(簡単操作選択項目)「A13 点字印刷プログラム」＝隠す
(参照先)〈7. 6 点字印刷〉。

点字チャット(*) 点字によるチャット
(簡単操作選択項目)「A12 点字チャットプログラム」＝隠す
(参照先)〈7. 5 点字チャット〉

BMスマートユーザズガイド テキストデイジー版マニュアルの表示

スマートコータクン (プレインストール版) (K) 点字辞書検索
(参照先)〈第 11 章 スマートコータクン〉

〔プログラムの起動方法〕

プログラムを起動するには、次の2通りの方法があります。

- (1) メインウィンドウのプログラムリストで、エンターキーを押す。メインウィンドウで、上下矢印キーを押すと、プログラムリストの中を順番に移動します。目的のプログラムの所でエンターキーを押すと、そのプログラムが起動します。既に起動している場合

は、そのウィンドウに移動します。

- (2) グローバルショートカットにより起動する。プログラムリストで、(括弧)内に文字が指定されているプログラムは、どこからでも、この文字を使ったグローバルショートカットで、直接開くことができます。例えば、時計には、Cの文字が割り当てられているので、ウィンキーとCを押すと、時計プログラムが起動します。

この操作は、他のウィンドウで作業している時、メインウィンドウに戻らなくても、別のプログラムを直接起動できるので、便利です。

〔同じプログラムの複数起動〕

簡単操作設定の、「F1 同じプログラムの複数起動」項目を、「許可する」に設定すると、同じプログラムのウィンドウを同時に複数開けるようになります。

この場合、複数起動可能なプログラムには、プログラムリストの、プログラム名の前に、* (アスタリスク) のマークが追加されます。

これらの項目では、同じプログラムを再度選択すると、既に関いているウィンドウに移動するか、新しいウィンドウを開くかを問い合わせるメッセージが表示されます。

また、コントロールキーを押しながら、エンターキーを押すと、そのプログラムが今開いているウィンドウの一覧を表示します。

2. 1. 4 メインメニュー

メインウィンドウのメニューを、メインメニューと呼びます。

メインウィンドウの機能の内、プログラムを起動すること以外は、全てメインメニューから選択します。

〔メインメニューの項目〕

メインメニューには、次の項目があります。

各項目の詳細については、以下の項を参照してください。

- (1) 「ファイル」サブメニュー： 〈2. 2. 2 ファイルメニュー〉参照。
- (2) 「ツール」サブメニュー： 〈2. 5 ツールメニュー〉参照。
- (3) 「各種設定」サブメニュー： 〈8. 4 設定機能一覧〉参照。
- (4) 「接続」サブメニュー： 〈第7章 外部機器との接続〉参照。
- (5) 「ホビー」サブメニュー： 〈第9章 ホビー機能〉参照。
- (6) ヘルプ」サブメニュー： 〈第10章 サポート機能〉参照。

- (1) 「ファイル (F)」サブメニュー： 全ての種類のファイルを表示して、目的のファイルを選択します。

新規作成 (N), コントロール + N: 新しいファイルを作って編集を始めます。

ファイルの種類に対応したプログラムが起動します。

最近開いたファイル (R), コントロール + R: 最近開いたファイルの一覧表を表示します。

前回の位置で、文書やデータを開くことができます。

開く (O), コントロール + O: 既存のファイルを開いて編集します。

ファイルの種類に対応したプログラムが起動します。

お気に入り文書一覧 (F), コントロール + F: お気に入りに指定した文書の一覧表を表示し

ます。(簡単操作選択項目 B6) = 隠す
クリップボードから開く (C)、コントロール + C: クリップボードのデータを対応するプログラムで開きます。

ブロックフォルダ (B): ブロックフォルダの内容を表示します。ブロックの登録と挿入の機能で使用されるファイルの一覧です。(簡単操作選択項目 C2) = オフ
ゴミ箱の表示 (T): ゴミ箱の内容を表示します。ゴミ箱には、最近削除したファイルが残されています。
ゴミ箱を空にする (E): ゴミ箱の中のファイルを全て消去して、ゴミ箱を空にします。

(2) 「ツール (T)」サブメニュー: 各種のツールを起動します。

電卓 (C): 電卓ウィンドウを開きます。

(簡単操作選択項目 B1) = 利用可能

グローバル検索 (G): グローバル検索を起動します。最近開いた文書の内容を、検索できます。(簡単操作選択項目 B2) = 隠す

デイジー変換 (D): デイジー変換のための新規設定ファイルを作成します。テキスト文書、点字文書から、テキストデイジーデータを作ります。

(簡単操作選択項目 B3) = 隠す

電源ステータス (P): ACアダプタとバッテリーの状態を表示します。

内蔵SDカードのデータのバックアップ (K): 内蔵SDカード内の、指定したフォルダの内容をバックアップします。(簡単操作選択項目 B10) = 隠す

記憶メディアの管理 (M): 記憶メディアのチェックと、フォーマットを行います。

(簡単操作選択項目 B4) = 隠す

読者認証コードのインストール (A): 読者認証コードファイル(.bmt)の内容をシステムに登録します。

スピーチ単語登録 (S): スピーチ用の単語登録を行います。

(簡単操作選択項目 B5) = 隠す

点訳単語登録 (B): 点訳用の単語登録を行います。

(簡単操作選択項目 B5) = 隠す

文字入力マクロ登録 (I): 点字入力キーからの短縮入力を登録します。

(簡単操作選択項目 B5) = 隠す

ユーザー辞書の選択 (U): 登録したユーザー辞書の有効/無効を切り替えます。

(3) 「各種設定 (S)」サブメニュー: 本機の全般的な設定に関する以下のコマンドがあります。

全般設定 (G)、コントロール + M: 本機の全般的な動作に関する設定を行います。

メッセージの点訳設定 (M): 本機のメッセージやメニューを点訳する方法を設定します。

スピーチの設定 (S): 読み上げのボリュームや速度などを調節します。

テキスト編集の設定 (T)、コントロール + T: テキスト編集時の読み上げ方を設定します。

点字編集の設定 (B)、コントロール + B: 点字編集時の読み上げ方を設定します。

テキスト・点字変換設定 (1): テキスト文書を点訳する方法を設定します。

点字・テキスト変換設定 (2): 点字データをテキスト変換する際の変換方法を設定します。

オーディオ再生の設定 (P): オーディオ再生時のボリュームや再生速度などを調節します。

オーディオ録音の設定 (R): オーディオ録音時の音質を調節します。

サイドキーの設定 (K): サイドキーへのキーの割り当てを設定します。

(簡単操作選択項目 B7) = 隠す

ボリュームボタンに割り当てられている設定 (V)、コントロール + V: ボリュームボタンに割り当てられている設定項目を一括変更できます。(簡単操作選択項目 B8) = 隠す

全ての設定を初期値に戻す (D): 全ての設定項目を、標準値に戻します。

ワンタッチ設定 (O): ワンタッチ設定の内容を登録します。ワンタッチ設定は、グローバル

ショートカットで、いろいろな設定を変更できる機能です。
 (簡単操作選択項目 B9) = 隠す

(4) 「接続 (C)」サブメニュー: 本機を他の機器と接続するための、以下のコマンドがあります。

「USB ポート (U)」サブメニュー: USB ポートの設定および操作のためのコマンドです。

USBポートの設定 (S): USBポートの接続条件を設定します。

USBポートの状態 (T): USBポートの接続状態、通信状態を表示します。

「ブルートゥースポート (B)」サブメニュー: ブルートゥースポートの設定および操作のためのコマンドです。

ブルートゥースの設定 (S): ブルートゥースポートの接続条件を設定します。

ブルートゥース接続 (C): 他のブルートゥース機器と接続します。

ブルートゥース切断 (D): ブルートゥースポートを切断します。

ブルートゥース待機 (W): ブルートゥースポートを接続待機状態にします。

ブルートゥースポートの状態 (T): ブルートゥースポートの接続状態、通信状態を表示します。

(BMS40 のみ) 「RS ポート (R)」サブメニュー: RS ポートの設定および操作のためのコマンドです。

RSポートの設定 (S): RSポートの接続条件を設定します。

RSポートの状態 (T): RSポートの接続状態、通信状態を表示します。

モニター用点字ディスプレイの接続 (M): 通信ポートから他の点字ディスプレイを接続し、操作を共有します。

(5) 「ホビー (B)」サブメニュー: 点字を触りながら楽しめるゲームです。お楽しみください。(簡単操作選択項目 E) = 隠す

クモの糸 (S): マークや数字が同じカードをクリックして、ポイントを集めるトランプゲームです。

神経衰弱 (C): 同じ数字のカードを組み合わせて、ポイントを集めるトランプゲームです。

白黒 (S): 表と裏が白・黒のコマを8×8マスの盤の上に置き、相手のコマを挟んで裏返ししながら、自分の色のコマを増して行くゲームです。

ナンバープレイス (ナンプレ) (N): 1~9の数字が、同じ行、列、ブロック内に重ならないように、数字で空白を埋めて行くゲームです。

魚釣り (G): 仕掛けをうまく操って、魚を誘い、あたりにあわせて釣り上げます。

暗算マスター (A): 算盤をイメージしながら、暗算の練習ができるゲームです。

お宝さがし (T): 盤の中に埋まっているお宝を見つけるゲームです。

将棋盤 (B): 将棋盤です。詰め将棋などを考える時にご利用ください。

(6) 「ヘルプ (H)」サブメニュー: ヘルプとサポートの機能です。

バージョン情報 (M): プログラムのバージョンやシリアル番号を表示します。

トピックヘルプ「BMスマートの使い方」 (U): BMスマートのいろいろな使い方を紹介します。

BMスマート・ユーザズガイド (M): BMスマートのマニュアルを表示します。

点字表示テスト (B): 点字表示部の状態を確認するための機能です。

キー入力テスト (K): 操作キーの状態を確認するための機能です。

バッテリー充放電テスト (C): バッテリーの充放電時間を表示します。

ファームウェアのバージョンアップ (E): 前面 SD カード、またはUSBメモリーから新しいファームウェアをインストールします。

BMスマート拡張機能ライセンスのインストール (L): BMスマートの拡張機能を利用するためのライセンスをインストール、またはアンインストールします。

教育施設用機能制限: 教育施設でのテスト解答用に、辞書、電卓、ホビー機能を無効化します。

BM スマートの強制終了 (F): データや設定を保存しないで、BM スマートを強制終了します。

〔メインメニューのコマンドを実行するグローバルショートカット〕

メインメニューには、本機全体に関わる機能が含まれているため、他のウィンドウを操作している時でも、メインメニューを開きたい場合があります。

そこで、グローバルショートカット、ウィンキー+スペースキーの操作で、どのウィンドウからでも、直接メインメニューを開けるようになっています。

この中から、矢印キーで目的のコマンドを選択して、エンターキーを押すと、そのコマンドを実行できます。

メインメニューのコマンドにも、いくつかショートカットキーが設定されていますが、このショートカットは、そのままでは、メインウィンドウにいる時にしか使えません。

これは不便なので、更にウィンキーを加えたグローバルショートカット操作により、どのウィンドウからでも直接実行できるようになっています。

例えば、「最近開いたファイル」コマンドには、コントロール+Rのショートカットが指定されていますので、ウィンキー+コントロールキー+Rの操作で、別のウィンドウからも、直接「最近開いたファイル」コマンドを実行できます。

2.2 ファイルの選択

この節では、メインメニューのファイルサブメニューの各コマンドについてご説明します。また、ファイルの選択で使用される共通ウィンドウの操作についてもご説明します。

2.2.1 ファイルを選択するための操作

この項では、ファイルの選択で使用される共通ウィンドウの操作についてご説明します。

〔A〕ファイル選択ウィンドウ

このウィンドウでは、記憶メディアやフォルダの間を移動して、開きたいファイルや、編集した結果を保存したいファイルを選択します。このウィンドウには、一つのフォルダに含まれるサブフォルダとファイルのリストが表示されています。

リストには、まずサブフォルダが表示され、その後ろに、ファイルが表示されます。名前の後に、フォルダと読み上げる項目は、サブフォルダです。どこのフォルダの内容を表示しているかは、ステータスの読み上げコマンド（コマンドキー+S）で確認できます。

このウィンドウを開いた時、始めに、どのフォルダの内容が表示されるかは、実行したコマンドにより変わります。今表示されているフォルダが目的の場所でない場合は、まず、親フォルダに出たり、サブフォルダに入ったりしながら、目的のフォルダに移動します。

親フォルダに出るにはバックスペースキーを押します。サブフォルダに入るには、その項目を選択して、エンターキーを押します。

その後、ファイルのリストから目的のファイルを選択するか、そのフォルダに作りたい、新しいファイル名を入力します。

〔ウィンドウの構成〕

このウィンドウには以下の項目があり、タブキーで項目の間を移動します。

(フォルダ選択ボタン)

今表示しているフォルダのパスが表示されています。このボタンを押すと、パスの各階層のフォルダ名がリストで表示されます。目的のフォルダを選択してエンターキーを押すと、そのフォルダに移動できます。

(ファイルの種類ボタン)

「ファイルリスト」に表示するファイルの種類が表示されています。このボタンを押すと、選択可能なファイルの種類のリストが表示されます。

今表示中のフォルダに含まれている全てのファイルを表示するには、ここで「全てのファイル」を選択します。

(ステータス表示)

表示しているフォルダの名前と、下のリスト内にあるサブフォルダ、ファイルの数、およびファイルの合計サイズが表示されています。

(ファイルリスト)

サブフォルダとファイルの一覧表が表示されています。

(ファイル名の編集ボックス)

新しいファイル名を入力する所です。ファイルを作れないフォルダでは表示されません。また、この欄にフォルダのパスを指定して、そのフォルダに移動することもできます。

〔ファイルリストの操作〕

ファイルリストでは、次の操作ができます。これらの中には、ファイルの選択では使わない操作も含まれていますが、それらの使い方については、〈2.4 ファイルとフォルダの管理〉で説明します。

上矢印キー (コマンドキー+1の点) : 前の項目に移動します。

下矢印キー (コマンドキー+4の点) : 次の項目に移動します。

ホームキー (コマンドキー+1, 3の点) : 最初の項目に移動します。

エンドキー (コマンドキー+4, 6の点) : 最後の項目に移動します。

文字列: その文字列で始まるフォルダやファイルの項目に移動します。

エンターキー: このファイルを開きます。または、サブフォルダに入ります。

コントロール+エンターキー: ファイル一覧を開いたままにして、このファイルを別のウィンドウで開きます。

バックスペースキー: 親フォルダに戻ります。

コントロール+バックスペースキー: ルートフォルダに戻ります。

デリートキー: 選択中のファイル、またはサブフォルダを削除します。

コマンドキー+1, 2, 5, 6の点: 選択中のファイル、またはサブフォルダの名前を変更します。

- コントロール+C: 選択中のファイル、またはサブフォルダを、コピー対象として登録します。
- コントロール+セレクト+C: 選択中のファイル、またはサブフォルダを、コピー対象に追加します。
- コントロール+X: 選択中のファイル、またはサブフォルダを、移動対象として登録します。
- コントロール+セレクト+X: 選択中のファイル、またはサブフォルダを、移動対象に追加します。
- コントロール+V: 別のフォルダでコピー、または移動対象として登録したファイル、またはサブフォルダを、今表示中のフォルダに貼り付けます。
- コントロール+F: ファイル名検索を行います。
- オルト+エンターキー: 選択中のファイル、フォルダ、記憶メディアのプロパティを表示します。点字データの文書名の確認、オーディオファイルの試し聞き、フォルダに含まれる全ファイル数とサイズの確認などができます。

【ファイル選択・操作メニュー】

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。これらの中には、ファイルの選択では使わない機能も含まれていますが、それらの使い方については、〈2.4 ファイルとフォルダの管理〉、および関連するプログラムの項で説明します。

- (1) 「ファイル (F)」サブメニュー: 選択中のファイルを開いたり、管理するためのコマンドが含まれています。このファイルを開く、またはサブフォルダに入る、エンターキー: 選択中のフォルダに入るか、またはファイルを開きます。
 - 親フォルダに戻る、バックスペースキー: 表示中のフォルダから、その親フォルダに移動します。
 - ルートフォルダに戻る、コントロール+バックスペースキー: ルートフォルダに移動します。
 - ファイル名やパスを入力して開く: ファイル名を入力して開いたり、移動したい先のパスを入力します。
 - フォルダ階層を表示する: ルートフォルダから、表示中のフォルダまでのフォルダ階層を一覧表示します。
 - 一覧に表示するファイルの種類を選択する: 一覧に表示するファイルの種類を選択します。
 - 表示中のフォルダをお気に入りに設定する、コントロール+セレクト + F: 表示中のフォルダをお気に入りに登録します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す
 - ファイル名で検索する (F)、コントロール + F: 指定したファイル名を、フォルダ階層の中から検索します。
 - このファイルのプロパティを表示する、オルト + エンターキー: 選択している項目の情報を表示します。
- (2) 「編集 (E)」サブメニュー: 選択中のファイルをコピー、移動、削除するためのコマンドが含まれています。
 - 全て選択 (A)、コントロール + A: 表示されている全ての要素(ファイルやフォルダ)を選択します。
 - コピー (C)、コントロール + C: 選択中の要素をコピー操作の対象としてクリップボードに登録します。
 - 切り取り (T)、コントロール + X: 選択中の要素を移動操作の対象としてクリップボードに登録します。
 - 貼り付け (P)、コントロール + V: クリップボードに登録されているファイルやフォルダ

を、表示中のフォルダに貼り付けます。
削除 (D), デリートキー: 選択中の要素を削除します。
削除したファイルを、ゴミ箱から元に戻す (U): この記憶メディアのゴミ箱から、ファイルを取り出して、元の場所に戻します。
新規フォルダの作成 (N), コントロール + N: 表示中のフォルダに、新しいサブフォルダを作成します。
名前の変更 (R), コマンドキー + 1, 2, 5, 6の点: 選択している項目の名前を変更します。

- (3) 「プログラム (P)」サブメニュー: このフォルダに対する操作を行うコマンドが含まれています。
- フォルダ内の文書を検索する (S), コントロール + S: フォルダ内のテキストファイル、点字ファイルからキーワード検索します。
 - フォルダ内の点字図書一覧を表示する (W): フォルダ内の点字図書一覧から、目的の図書を選択して開きます。
 - フォルダ内のデジター図書一覧を表示する (P): フォルダ内のデジター図書一覧から、目的の図書を選択して開きます。
 - フォルダ内の曲を再生する (M): フォルダ内のメディアデータを含むプレイリストを更新して開きます。
 - フォルダ内の点字ファイルから、点字図書データを作る (B): フォルダ内の点字ファイルを含む点字図書データを作成して開きます。
- (4) 表示方法の設定, オルト + スペースキー: ファイル一覧の表示方法を設定します。

〔B〕履歴一覧ウィンドウ

このウィンドウは、目的のファイルを、最近使ったファイルの一覧表から選択するために使用します。目的のファイルを選択してエンターキーを押すと、そのファイルが開き、プログラムで最後に使用していた位置に移動します。最近使用したファイルでも、今接続されていないSDカードやUSBメモリーに保存したものはリストに表示されません。

〔ウィンドウの構成〕

このウィンドウには以下の項目があり、タブキーで項目の間を移動します。

(ファイルの種類ボタン)

「ファイルリスト」に表示するファイルの種類が表示されています。
このボタンを押すと、選択可能なファイルの種類のリストが表示されます。
全ての種類のファイルを表示するには、ここで「全てのファイル」を選択します。

(ステータス表示)

下のリスト内のファイルの数が表示されています。

(ファイルリスト)

ファイルの一覧表が表示されています。

〔ファイルリストの操作〕

ファイルリストでは、次の操作ができます。

- 上矢印キー (コマンドキー + 1 の点): 前の項目に移動します。
- 下矢印キー (コマンドキー + 4 の点): 次の項目に移動します。
- ホームキー (コマンドキー + 1, 3 の点): 最初の項目に移動します。

- エンドキー（コマンドキー+4，6の点）：最後の項目に移動します。
- エンターキー：このファイルを開きます。
- コントロール+エンターキー：ファイル一覧を開いたままにして、このファイルを別のウィンドウで開きます。
- デリートキー：履歴を削除します。

コントロール+C(1，4の点)：データを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー／移動する方法〉を参照してください。

コントロール+X(1，3，4，6の点)：データを、他の記憶メディアに移動するか、または移動対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー／移動する方法〉を参照してください。

〔履歴一覧メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

- (1) このファイルを開く，エンターキー：選択中の項目を開きます。
- (2) このファイルがあるフォルダを開く，コントロール + O：選択中の項目が含まれているフォルダの、ファイル一覧を開きます。
- (3) 履歴から削除する (D)，デリートキー：選択中の項目を、履歴一覧から削除します。併せて、この項目が使用するファイルも削除するか否かの確認も表示されます。
- (4) お気に入りに設定する，コントロール+セレクト + F：選択中の項目をお気に入りに登録します。（簡単操作選択項目 B6）＝隠す
- (5) このデータをコピーする，コントロール + C：選択中のデータを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として登録します。（簡単操作選択項目 C6）＝利用可能
- (6) このデータを移動する，コントロール + X：選択中のデータを、他の記憶メディアに移動するか、移動対象として登録します。（簡単操作選択項目 C6）＝利用可能
- (7) ファイルのプロパティを表示する，オルト + エンターキー：選択している項目の情報を表示します。

〔C〕 お気に入り文書一覧ウィンドウ

本機には、ファイルやフォルダをお気に入りに設定して、簡単に開けるようにする機能があります。このウィンドウは、お気に入りに設定した文書を、一覧から選択するために表示されます。目的の文書を選択してエンターキーを押すと、その文書が開きます。

また、目的の文書を選択してスペースキーを押すと、その文書の表示名やグローバルショートカットを変更できます。お気に入り文書でも、今接続されていないSDカードやUSBメモリーに保存したものはリストに表示されません。

なお、文書をお気に入りに設定するには、各プログラムの「お気に入りに追加」コマンドを使用します。

〔ウィンドウの構成〕

このウィンドウには以下の項目があり、タブキーで項目の間を移動します。
(ファイルの種類ボタン)

「文書リスト」に表示するファイルの種類が表示されています。
このボタンを押すと、選択可能なファイルの種類が表示されます。
全ての種類のファイルを表示するには、ここで「全てのファイル」を選択します。
(ステータス表示)
下のリスト内の文書の数が表示されています。
(文書リスト)
文書の一覧表が表示されています。

〔文書リストの操作〕

文書リストでは、次の操作ができます。

上矢印キー (コマンドキー+1の点) : 前の項目に移動します。

下矢印キー (コマンドキー+4の点) : 次の項目に移動します。

ホームキー (コマンドキー+1, 3の点) : 最初の項目に移動します。

エンドキー (コマンドキー+4, 6の点) : 最後の項目に移動します。

エンターキー: この文書を開きます。

コントロール+エンターキー: 文書一覧を開いたままにして、この文書を別のウィンドウで開きます。

スペースキー: お気に入り設定を編集します。

デリートキー: お気に入り設定を削除します。

コントロール+C (1, 4の点): データを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として、クリップボードに登録します。

詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

コントロール+X (1, 3, 4, 6の点): データを、他の記憶メディアに移動するか、または移動対象として、クリップボードに登録します。

詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

〔お気に入りメニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

(1) このファイルを開く, エンターキー: 選択中の項目を開きます。

(2) このファイルがあるフォルダを開く, コントロール + O: 選択中の項目が含まれているフォルダの、ファイル一覧を開きます。

(3) お気に入りから削除する (D), デリートキー: 選択中の項目を、履歴一覧から削除します。併せて、この項目が使用するファイルも削除するか否かの確認も表示されます。

(4) お気に入り文書の設定を開く: 選択中の項目のお気に入り文書設定を開きます。

(5) このデータをコピーする, コントロール + C: 選択中のデータを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) = 利用可能

(6) このデータを移動する, コントロール + X: 選択中のデータを、他の記憶メディアに移動するか、移動対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) = 利用可能

(7) このファイルのプロパティを表示する, オルト + エンターキー: 選択している項目の情報を表示します。

〔D〕 ゴミ箱ウィンドウ

本機では、削除したファイルやフォルダを、同じ記憶メディアの中の、ゴミ箱という特別なフォルダに移動して、しばらくの間残しておくようになっています。

このウィンドウは、一度削除したファイルやフォルダを、ゴミ箱から復活させるために使用します。このウィンドウに表示されるゴミ箱内のファイルの範囲は、ゴミ箱コマンドを実行した場所により変わります。

ファイル一覧には、次の情報が表示されています。

1. ファイル名
2. ファイルのサイズ
3. 削除された日時
4. 削除する前にファイルがあった場所
一覧から目的の文書を選択してエンターキーを押すと、その文書がゴミ箱から取り出されて、元の場所に戻ります。
取り出されたファイルがどこに戻ったかが分からなくならないようにするため、ゴミ箱から取り出す前に、元あった場所を確認しておいてください。

デリートキーを押すと、選択中の文書が、完全に削除されます。

オルトキーを押しながら、エンターキーを押すと、ファイルのプロパティ情報が表示されます。

〔ゴミ箱メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

- (1) このファイルをゴミ箱から取り出す、エンターキー：選択中の項目を、ゴミ箱から取り出して、元の場所に戻します。
- (2) このファイルを完全に削除する (D)、デリートキー：選択中の項目を、記憶メディアから完全に削除します。
- (3) このファイルのプロパティを表示する、オルト + エンターキー：選択している項目の情報を表示します。
- (4) ゴミ箱を空にする (E)：ゴミ箱内のファイルを全て削除します。

2. 2. 2 ファイルメニュー

この項では、メインメニューの「ファイル」サブメニュー内の各コマンドについてご説明します。

本機では、何かのファイルを開いて利用したい場合、(A) 直接ファイルを選択して開く方法と、(B) 先にやりたい作業のプログラムを起動してから、その中で、目的のファイルを指定する方法の二通りの操作があります。

- (A) の場合は、メインメニューのコマンドを使って、ファイルを選択します。
すると、そのファイルの種類に対応したプログラムが自動起動して、ファイルが表示されます。この場合は、ファイルを選択する時に、そのフォルダの中に含まれる、全ての種類のファイルが表示されます。

これに対して、(B) の場合は、先にプログラムを選択しているため、そのプログラムで利用できる種類のファイルのみが表示されます。ファイルの種類に関わらず、フォルダの中にある全てのファイルを確認したいというような場合は、メインメニューのコマンドをご使用ください。

〔A〕 新規作成 (ショートカット コントロール+N)

「別ウィンドウで新規ファイルを編集する (ファイル一覧)」というタイトルのファイル選択ウィンドウが開きます。

前節の〈〔A〕 ファイル選択ウィンドウ〉の項で説明した要領で、操作してください。ここで、新しい名前のファイルを指定すると、ファイルの種類に対応したプログラムが起動します。

既存のファイルを選択すると、内容を破棄して、新たに編集するか否かの問い合わせメッセージが表示されます。

〔B〕 最近開いたファイル (ショートカット コントロール + R)

「別ウィンドウでファイルを開く (履歴一覧)」というタイトルの履歴一覧ウィンドウが開きません。

前節の〈〔B〕 履歴一覧ウィンドウ〉の項で説明した要領で、操作してください。最近使用したファイルのリストから、目的のファイルを選択すると、対応したプログラムが起動します。

このコマンドでファイルを開くと、前回の終了位置で、文書やデータを開くことができます。

〔C〕 開く (ショートカット コントロール + O)

「別ウィンドウでファイルを開く (ファイル一覧)」というタイトルのファイル選択ウィンドウが開きます。

前節の〈〔A〕 ファイル選択ウィンドウ〉の項で説明した要領で、操作してください。ここで、既存のファイルを選択すると、ファイルの種類に対応したプログラムが起動します。

新規ファイルを指定すると、ファイルを新しく作成してよいか否かの問い合わせメッセージが表示されます。

〔D〕 お気に入り文書一覧 (ショートカット コントロール + F)

(簡単操作選択項目 B6) = 隠す

「別ウィンドウでファイルを開く (お気に入り文書一覧)」というタイトルのウィンドウが開きます。

前節の〈〔C〕 お気に入り文書一覧ウィンドウ〉の項で説明した要領で、操作してください。目的のファイルを選択すると、対応したプログラムが起動します。

このコマンドでファイルを開くと、前回の終了位置で、文書やデータを開くことができます。

〔文書やデータをお気に入りに登録する方法〕

文書やデータをお気に入り文書に設定するには、次のように操作します。
文書やデータのお気に入り設定を解除する場合も同様です。

(1) 各プログラムにある「お気に入り文書に追加」コマンドを実行します。

メニュー → ファイル → お気に入り文書に追加

(または、メニュー → データ → お気に入り文書に追加)

このコマンドには、各プログラム共通のショートカット、コントロールキー+セレクトキー+F (1,2,4 の点) が割り当てられています。

(2) 「お気に入り文書に追加」コマンドを実行すると、次のような確認のメッセージが表示されます。

まだお気に入りに設定されていない場合：「この文書をお気に入りに設定しますか？」

既にお気に入りに設定されている場合：「この文書のお気に入り設定を解除してよろしいですか？」

次に進むには、エンターキーを押します。

エスケープキーを押すと、変更を中止します。

(3) お気に入りに設定する場合、続いて、設定シート「お気に入り文書の設定」が表示されます。

このウィンドウには、次の項目があります。

- データ名……この文書またはデータをお気に入り一覧ウィンドウに表示する時の名前を指定します。
- ショートカット……ショートカットの文字、0～9、A～Z、または「なし」を選択します。
- 組み合わせるキー……ウィンキー、ウィンキー+コントロールキー、ウィンキー+オルトキーの中から選択します。
- 場所……ここには、対象の文書またはデータのパスが表示されます。編集はできません。

例えば、このファイルのグローバルショートカットとして、ウィンキー+O (1,3,5 の点) を設定したい場合、ショートカットに文字Oを指定し、組み合わせるキーにウィンキーを選択します。

すると、グローバルショートカット、ウィンキー+Oで、直接、このファイルの編集ウィンドウや再生ウィンドウを開けるようになります。

エンターキーを押すと、このファイルの、お気に入り設定が保存されます。

なお、グローバルショートカットでファイルを開いた場合、文書を開いてからも、そのショートカットをフォーカス移動に使えます。

〔E〕 クリップボードから開く (ショートカット：コントロール + C)

クリップボードに、テキスト、または点字のブロックが登録されている時、その内容を対応するプログラムで表示します。クリップボードのデータは、クリアされません。

〔F〕 ブロックフォルダ（簡単操作選択項目 C2） = オフ

「ブロックフォルダの管理（ファイル一覧）」というタイトルのファイル選択ウィンドウが開きます。

ブロックフォルダは、ブロック登録・挿入機能で登録された、点字やテキストの情報を保存しているフォルダです。

ブロック登録された文字列が、マーク毎のファイルで保存されています。前節の〈〔A〕 ファイル選択ウィンドウ〉の項で説明した要領で、操作してください。

なお、ブロック登録／挿入機能については、〈4. 4. 2 ブロックの登録／挿入機能〉を参照してください。

〔G〕 ゴミ箱の表示

「削除したファイルを、ゴミ箱から元に戻す」というタイトルのウィンドウが表示されます。

ゴミ箱をこのコマンドで開くと、内蔵SDカードと、今接続されている全ての記憶メディアのゴミ箱の内容が表示されます。

このウィンドウから、誤って削除してしまったファイルを復活させることができます。前節の〈〔D〕 ゴミ箱ウィンドウ〉の項で説明した要領で、操作してください。

〔H〕 ゴミ箱を空にする

ゴミ箱の中のファイルを全て消去して、ゴミ箱を空にします。

2. 3 記憶メディアの検出ウィンドウ

この節では、SDカードやUSBメモリーを挿入した時に表示される、記憶メディアの検出ウィンドウについてご説明します。

これらの記憶メディアを挿入すると、次のようなウィンドウが表示されます。

“記憶メディア”が挿入されました。

利用可能：“利用可能容量”

全容量：“全容量”

内容を表示しますか？

[点字図書を開く (W)]

[デイジー図書を開く (D)]

[テキストファイルを編集する (BMS_TextData フォルダ) (T)]

[点字ファイルを編集する (BMS_BriData フォルダ) (B)]

[メディアデータを再生する (BMS_MediaData フォルダ) (M)]

[オーディオデータを再生する (BMS_AudioData フォルダ) (A)]

[点字ファイルを取り込む (BMS_QuickMemo フォルダから、マイドキュメントフォルダにコピーする)。]

[点字ファイルを取り出す (マイドキュメントフォルダから、BMS_QuickMemo フォルダにコピーする)。]

[ファイル一覧を表示する (F)]

[内蔵SDカードのデータをバックアップする (K)]

[ゴミ箱からファイルを取り出す]

[ゴミ箱を空にする (ゴミ箱で使用中のサイズ)]

*これらのボタンの中には、アプリフォルダの状態によって、表示されないものもあります。

〔操作〕

クイックメモの点字文書を出し入れしたい時は、次のボタンを押します。

- (1) [点字ファイルを取り込む (BMS_QuickMemo フォルダから、マイドキュメントフォルダにコピーする)。]

クイックメモのアプリフォルダ BMS_QuickMemo 内のファイルを、マイドキュメントフォルダにコピーします。点字図書を取り込みたい時などには、図書データのフォルダごと、アプリフォルダにコピーしておいても構いません。

なお、ブレイルメモ形式以外の点字ファイルは、ブレイルメモ形式に変換して、コピーされます。

- (2) [点字ファイルを取り出す (マイドキュメントフォルダから、BMS_QuickMemo フォルダにコピーする)。]

マイドキュメントフォルダ内のブレイルメモ形式の点字ファイルを、クイックメモのアプリフォルダ BMS_QuickMemo 内にコピーします。この機能は、クイックメモの文書をバックアップする目的でも利用できます。

記憶メディア内の図書データを開きたい時は、次のボタンを押します。

- (3) [点字図書を開く (W)]

記憶メディア内の点字図書が一覧表示されます。目的の図書を選択して、エンターキーを押すと、その図書を閲覧できます。

- (4) [デイジー図書を開く (D)]

記憶メディア内のデイジー図書が一覧表示されます。目的の図書を選択して、エンターキーを押すと、その図書を閲覧できます。

アプリフォルダにコピーした各種データを開きたい時は、対応するプログラムのボタンを押します。

- (5) [メディアデータを再生する (BMS_MediaData フォルダ) (M)]

- (6) [オーディオデータを再生する (BMS_AudioData フォルダ) (A)]

すると、プログラムが起動して、データを選択できる状態になります。

記憶メディア上で点字文書やテキスト文書を管理したい時は、次のボタンを押してください。

- (7) [テキストファイルを編集する (BMS_TextData フォルダ) (T)]

テキストファイルの選択ウィンドウが開き、アプリフォルダ BMS_TextData の内容が表示されます。

既存のファイルを開くか、新規ファイル名を指定して、新しいファイルを編集できます。

- (8) [点字ファイルを編集する (BMS_BriData フォルダ) (B)]

点字ファイルの選択ウィンドウが開き、アプリフォルダ BMS_BriData の内容が表示されます。既存のファイルを開くか、新規ファイル名を指定して、新しいファイルを編集できます。

記憶メディア自体の内容を確認したい時は、次のボタンを押します。

この記憶メディアに、内蔵SDカード内のデータをバックアップしたい時は、次のボタンを押します。

(9) [内蔵SDカードのデータをバックアップする (K)]

この機能の操作については、〈2. 5 [E] 内蔵SDカードのデータのバックアップ〉の項を参照してください。

(10) [ファイル一覧を表示する (F)]

ファイル選択ウィンドウが開き、記憶メディアフォルダ内の全てのファイルが表示されます。

(11) [ゴミ箱からファイルを取り出す]

この記憶メディアのゴミ箱の内容が表示されます。

この記憶メディアに対するアクションが必要ない時は、エスケープキーを押してください。

2. 4 ファイルとフォルダの管理

ファイル選択ウィンドウでは、目的のファイルを選ぶだけでなく、新しいフォルダを作ったり、ファイルをコピーしたりといった、様々な操作をすることができます。この節では、このような、ファイルやフォルダの管理のための操作をご説明します。

2. 4. 1 クリップボード

ここでは、ファイルやフォルダのコピーや移動のためにクリップボードを使う時の、操作の流れと、注意点をご説明します。

クリップボードは、本機の中に一つだけある、各種データの一時保管場所で、コピーや移動の操作をする時に使用します。コピーというのは、どこかにあるデータを、別の場所に複写するという操作ですが、コピー元の指定と、コピー先の指定を、いっぺんにするのは、大変です。

そこで、コピー元の指定をするコマンドと、コピー先の指定をするコマンドを分けて、その間の中継場所として、クリップボードを使用するようになっています。

操作の流れは、次のようになります。

(1) まず、ファイル選択ウィンドウで、コピーしたいファイルがあるフォルダに移動します。

(2) このフォルダで、コピーしたいファイルを選択し、コピーコマンドを実行します。すると、選択したファイルの場所の情報が、クリップボードに登録されます。

(3) 次に、ファイル選択ウィンドウを、ファイルをコピーしたい先のフォルダに移動します。

(4) このフォルダで、ファイルの貼り付けのコマンドを実行します。

すると、クリップボードに記憶されている場所のファイルが、そのフォルダに複写され

ます。

貼り付けコマンドを実行しても、クリップボードの情報は削除されないで、(3)

(4)の操作を繰り返して、同じファイルをいくつかのフォルダにコピーすることも可能です。

ここで注意したいのが、実際にファイルが複写されるのは、(4)で貼り付けコマンドが実行された時であることです。

その前にコピー元の記憶メディアを外してしまうと、ファイルのコピーは行われません。しかし、SDカード同士、USBメモリー同士でファイルをコピーしたいような場合には、コピー元とコピー先のメディアを、同時に接続しておくことができません。

このような場合は、目的のファイルを、一時的に内蔵SDカードなど、別の場所にコピーしてから、それを、目的の記憶メディアに移動させるようにしてください。

ファイルを、ある場所から、別の場所に移動させたい場合は、上記のコピーコマンドの変わりに、切り取りコマンドを使用します。すると、続いて、貼り付けコマンドを実行した時に、ファイルが複写されるのではなく、移動されるようになります。

コピーの場合と違って、ファイルの移動をすると、元の場所にはファイルがなくなることに注意してください。

また、SDカード同士、USBメモリー同士でファイルを移動したいような場合には、目的のファイルを、一時的に内蔵SDカードなど、別の場所に移動してから、それを、更に目的の記憶メディアに移動させるようにしてください。

クリップボードに記憶しておけるのは、最後に登録した一件の情報だけです。クリップボードに次の情報を登録すると、それまで記憶していた情報はなくなってしまいます。

また、クリップボードは、ファイルのコピーや移動の操作だけでなく、点字やテキストの文書を編集する場合にも使用します。ファイルのコピーや移動の場合、クリップボードに登録するのは、ファイルの場所の情報だけなので、クリップボードが上書きされても、ファイル自体がなくなってしまうことはありません。

しかし、文書編集でクリップボードを使う場合には、コピーや移動の途中の文章そのものが、クリップボードに登録されています。特に、移動中の文章は、移動元の文書の中にも、もう残されていないので、クリップボードから消えてしまうと困ったことになります。

クリップボードを使用した操作を行う時は、今、クリップボードの中に大切な情報が残されていないかどうかを、常に注意するようにしてください。

2. 4. 2 ファイルとフォルダの管理のための操作方法

〔A〕ファイルを別の場所にコピーする

ファイルをコピーしたい場合は、ファイル選択ウィンドウを次のように操作します。

- (1) コピーしたいファイルがあるフォルダに移動し、目的のファイルを選択します。
連続して表示されている複数のファイルをコピーしたい時は、セレクトキー、または表示の送り/戻しキーを押しながら、目的のファイルの範囲を上下矢印キーで移動します。
- (2) 「ファイルのコピー」コマンドを実行します。
メニュー → 編集 → コピー
(このコマンドのショートカットは、コントロールキー+C(1,4の点)です)。
すると「コピー対象として登録しました」と発声します。
- (3) 次に、ファイルをコピーしたい先のフォルダに移動します。
- (4) 「ファイルの貼り付け」コマンドを実行します。
メニュー → 編集 → 貼り付け
(このコマンドのショートカットは、コントロールキー+V(1,2,3,6の点)です)。
すると、コピー対象として登録済みのファイルが、今表示中のフォルダにコピーされます。フォルダとそれに含まれるファイルをまとめて別の場所にコピーしたい場合の操作も、上記と同じです。

また、コピーしたい複数のファイルが連続して表示されていない場合は、追加コピー（ショートカット=コントロールキー+セレクトキー+C）の操作を使用します。この場合、今選択しているファイルが、既にコピー対象として登録済みのファイルに追加されます。

ファイルをコピーする時の注意点については、〈2. 4. 1 クリップボード〉の項を参照してください。

〔B〕ファイルを別の場所に移動する

ファイルを移動したい場合は、ファイル選択ウィンドウを次のように操作します。

- (1) 移動したいファイルがあるフォルダに移動し、目的のファイルを選択します。
連続して表示されている複数のファイルを移動したい時は、セレクトキー、または表示の送り/戻しキーを押しながら、目的のファイルの範囲を上下矢印キーで移動します。
- (2) 「ファイルの切り取り」コマンドを実行します。
メニュー → 編集 → 切り取り
(このコマンドのショートカットは、コントロールキー+X(1,3,4,6の点)です)。
すると「移動対象として登録しました」と発声します。
- (3) 次に、ファイルを移動したい先のフォルダに移動します。

(4) 「ファイルの貼り付け」コマンドを実行します。

メニュー → 編集 → 貼り付け

(このコマンドのショートカットは、コントロールキー+V(1,2,3,6の点)です)

すると、移動対象として登録済みのファイルが、今表示中のフォルダに移動します。

フォルダとそれに含まれるファイルをまとめて別の場所に移動したい場合の操作も、上記と同じです。

また、移動したい複数のファイルが連続して表示されていない場合は、追加切り取り(ショートカット=コントロールキー+セレクトキー+X)の操作を使用します。この場合、今選択しているファイルが、既に移動対象として登録済みのファイルに追加されます。

ファイルのコピー対象と、移動対象の登録を混在させることはできません。クリップボードに登録されたファイルリストが、コピー対象になるか、移動対象になるかは、最後に実行した追加コマンドで決まります。

ファイルを移動する時の注意点については、〈2. 4. 1 クリップボード〉の項を参照してください。

〔C〕ファイルの名前を変更する

ファイルの名前を変更したい場合は、ファイル選択ウィンドウを次のように操作します。

(1) 名前を変更したいファイルを選択します。

(2) 「名前の変更」コマンドを実行します。

メニュー → 編集 → 名前の変更

(このコマンドのショートカットは、コマンドキー+1,2,5,6の点です)。

すると「名前の変更」ウィンドウが開きます。

(3) ファイルの新しい名前を入力して、エンターキーを押します。

ファイルの拡張子(ファイル名のピリオド以降の部分)は、ファイルの種類を表していて、変更すると、ファイルが開けなくなる場合があります。

特に変更する必要がない場合、拡張子を変更しないでください。

また、一部の半角記号は、ファイル名には使用できません。使えない記号については、

〈1. 5. 3 ファイル名と拡張子〉の項を参照してください。

そのフォルダの中に、同名のファイルやフォルダがなければ、名前が変更されます。

フォルダの名前を変更したい場合の操作も同様です。

〔D〕ファイルを削除する

ファイルを削除したい場合は、ファイル選択ウィンドウを次のように操作します。

(1) 削除したいファイルを選択します。

連続して表示されている複数のファイルを削除したい時は、セレクトキー、または表示

の送り／戻しキーを押しながら、目的のファイルの範囲を上下矢印キーで移動します。

(2) デリートキーを押します。

すると、下のどちらかのメッセージが表示されます。

1個のファイルを削除する場合：「ファイル（ファイル名）を削除してよろしいですか？」

2個以上のファイルを削除する場合：「これらの（個数）のファイルを削除してよろしいですか？」

(3) メッセージの中のファイル名や個数が正しいことを、もう一度確認してください。

削除してよければ、点字キーから「Y（1,3,4,5,6の点）」を入力します。

削除したくない時は、エスケープキーを押してください。

フォルダを削除したい場合の操作も同様です。

〔E〕フォルダを作る

ファイル選択ウィンドウから、新しいフォルダを作成できます。

(1) サブフォルダを作りたい、親フォルダに移動します。

(2) 「新規フォルダの作成」コマンドを実行します。

メニュー → 編集 → 新規フォルダの作成

すると、「新規フォルダの作成」ウィンドウが開きます。

(3) 新しいフォルダ名を入力して、エンターキーを押します。一部の半角記号は、フォルダ名には使用できません。使えない記号については、〈1. 5. 3 ファイル名と拡張子〉の項を参照してください。そのフォルダの中に、同名のファイルやフォルダがなければ、新しいフォルダが作成されます。

〔F〕ファイルの情報を確認する

ファイル選択ウィンドウから、点字ファイルの文書名の確認や、オーディオファイルの試し聞きができます。

(1) 内容を確認したいファイルを選択します。

(2) オルトキー＋エンターキーを押します。

すると、「ファイル情報」ウィンドウが開き、このファイルに関する情報が表示されます。

(3) 点字ファイル（BMT形式、BES形式、BET形式）の場合、「点字文書名」の欄に、文書名が表示されます。

(4) オーディオファイルの場合、「再生する」ボタンの行でスペースキーを押すと、オーディオデータが再生されます。

2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー／移動する方法

履歴一覧や、お気に入り文書一覧のウィンドウでは、データや文書を、より簡単な操作で、別の記憶メディアにコピーしたり、移動したりできます。

これらの操作は、デジ再生や、点字図書閲覧などのプログラムの、データ一覧ウィンドウでも利用できます。

〔A〕データや文書を別の記憶メディアにコピーする

データや文書をコピーしたい場合は、次のように操作します。

(1) 目的のデータや文書を選択します。

(2) 「このデータをコピーする」コマンドを実行します。

メニュー → このデータをコピーする

(メニュー → ファイル → この本をコピーする)

(このコマンドのショートカットは、コントロールキー+C(1,4の点)です)。

(3) すると、「データのコピー先の選択」ウィンドウが開き、次の選択肢が表示されます。

(A) 内蔵SDの「マイドキュメント」フォルダ

(B) 前面SDのアプリフォルダ

(C) USBメモリーのアプリフォルダ

(D) クリップボードに、コピー対象として登録する

(A) ~ (C) を選択すると、その場所にあるアプリフォルダに、データがコピーされます。ただし、今データがあるフォルダや、接続されていない記憶メディアは、選択肢に表示されません。

(D) を選択した場合は、ファイルをコピーする場合と同様に、ファイル一覧ウィンドウでコピー先のフォルダを選択し、「ファイルの貼り付け」コマンドを実行してください。

〔B〕データや文書を別の記憶メディアに移動する

データや文書を移動したい場合は、次のように操作します。

(1) 目的のデータや文書を選択します。

(2) 「このデータを移動する」コマンドを実行します。

メニュー → このデータを移動する

(メニュー → ファイル → この本を移動する)

(このコマンドのショートカットは、コントロールキー+X(1,3,4,6の点)です)。

(3) すると、「データの移動先の選択」ウィンドウが開き、次の選択肢が表示されます。

- (A) 内蔵SDの「マイドキュメント」フォルダ
- (B) 前面SDのアプリフォルダ
- (C) USBメモリーのアプリフォルダ
- (D) クリップボードに、移動対象として登録する

(A) ~ (C) を選択すると、その場所にあるアプリフォルダに、データが移動します。

ただし、今データがあるフォルダや、接続されていない記憶メディアは、選択肢に表示されません。

(D) を選択した場合は、ファイルを移動する場合と同様に、ファイル一覧ウィンドウで移動先のフォルダを選択し、「ファイルの貼り付け」コマンドを実行してください。

2.5 ツールメニュー

この節では、電卓やデジ変換ツールなど、メインメニューのツールサブメニュー内の各コマンドについてご説明します。

〔A〕電卓

(簡単操作選択項目)「B1 電卓ツール」=利用可能

電卓プログラムを使うと、点字で書いた式を計算できます。

このプログラムを起動するには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → ツール → 電卓

グローバルショートカット、ウィンキー+ケ (1・2・4・6の点) でも起動できます。

電卓プログラムが実行されると、「式の計算」ウィンドウが開きます。

ここに、計算したい式を点字で書き、エンターキーを押すと、計算結果が表示されます。

式の中で使える記号は、次の9種類です。

プラス + [2,6の点] マイナス - [3,5の点]

掛ける * [1,6の点] 割る / [3,4の点]

2乗 [1,2,6の点] 3乗 [1,4,6の点]

累乗 ^ [4,5の点] ルート [3,4,5の点]

括弧 () [2,3,6の点, 3,5,6の点]

また、次の関数を使用できます。

三角関数 sin() [2,3,5の点 2,3,4の点] cos() [2,3,5の点 1,4の点]

tan() [2,3,5の点 2,3,4,5の点]

π は、[4の点 1,2,3,4の点]で表します。

対数関数 log() [1,2,3の点 1,3,5の点 1,2,4,5の点]

log10() [1,2,3の点 1,3,5の点 1,2,4,5の点 3,4,5,6の点 1の点 2,4,5の点]

変数として、a～zの26文字を使用できます。

各変数の値は、ウィンドウを開いた時に、0にクリアされます。

変数に値を代入するには、変数=式、または、式=変数のように入力します。

(例) $x=7/5$ (=は、2、5の点、2マスです)

式の中に変数を含めると、その値を計算に利用できます。

(例) $(2x+1)(x+2)$ (xに1.4が記憶されているので、計算結果は、12.92)

*このように、数字と変数の間や、括弧と括弧の間の×の記号は、省略することもできます。

(変数機能を無効にするには、[設定]を開いて、「変数を利用可能にする」をオフにしてください)。

〔B〕グローバル検索

(簡単操作選択項目)「B2 グローバル検索ツール」=隠す

グローバル検索機能を使うと、最近開いた文書から、効率的にキーワード検索できます。

グローバル検索を起動するには、次のコマンドを選択します。

メインメニュー → ツール → グローバル検索

〔使い方〕

(1) このコマンドを実行すると、まず「グローバル検索」のウィンドウが開きます。

ここで、検索したいデータの種類を、以下のボタンで選択してください。

[最近使ったテキスト文書から検索] ボタン……指定したキーワードを、お気に入り文書、最近開いた文書の中のテキストファイルから検索します。

[最近使った点字文書から検索] ボタン……指定したキーワードを、お気に入り文書、最近開いた文書の中の点字ファイルから検索します。

[全てのテキスト文書を検索] ボタン……指定したキーワードを、本機内の全てのテキストファイルから検索します。

[全ての点字文書を検索] ボタン……指定したキーワードを、本機内の全ての点字ファイル、点字図書から検索します。

(2) すると、検索するテキスト、または点字のキーワードを指定するウィンドウが開きます。検索するデータの種類に応じて、テキスト、または点字のキーワードを指定してください。

(3) すると、「ファイルから検索中」のウィンドウが開き、キーワードが見つかったファイル名と、キーワードを含む行の内容が階層的に表示されます。

検索結果が確認できたら、エスケープキーを押してウィンドウを閉じます。

キーワードが見つかったファイルを編集したい場合は、エンターキーを押してください。すると、文書編集ウィンドウが開いて、選択中の行が表示されます。

〔C〕 デイジー変換

(簡単操作選択項目)「B3 デイジー変換ツール」=隠す

デイジー変換ツールは、指定されたテキスト／点字文書から、テキストデイジーデータを生成します。点字ファイルは、本文がカナに変換されて、テキストデイジーデータに追加されます。テキストファイルや点字ファイルの中で指定されている見出し行が、デイジーデータの見出しになります。

〔使い方〕

テキストデイジーデータを作るには、次のように操作します。

- 〔1〕 デイジーデータに含めるテキストファイルや点字ファイルに、見出しを設定します。
リッチテキストファイル (.rtf) や点字ファイル (.bmt) 中の行を見出し行に設定するには、編集ウィンドウの「見出し行に設定」コマンドをご使用ください。

テキストファイル (.txt) の場合は、2行以上の空行の次の行と、「#」、「##」などで始まる行が見出し行になります。

- 〔2〕 デイジー変換コマンドを実行します。

メインメニュー → ツール → デイジー変換

すると、「デイジー変換設定ファイルの選択」のウィンドウが開きます。

最初に変換する場合は、適当なフォルダに移動し、ファイル名を指定して、変換設定ファイルを新規作成してください。

前回変換した時の設定ファイルがある場合は、そのファイルを選択してください。

すると、「デイジーデータ情報」のウィンドウが開きます。

- 〔3〕 以下のDA I S Yデータの書誌情報を入力します。

タイトル (この項目のみ必須です)

著者

発行日

発行元

I S B N

原本発行日

原本発行元

- 〔4〕 データIDを指定します。

デイジーデータの中で使用されるIDです。

自動的に生成された初期値が入っていますが、変更することもできます。

- 〔5〕 デイジーデータに含めたいテキストファイル、点字ファイルをリストに登録します。
「追加」ボタンを押して、ファイルを選択してください。
点字ファイルは、カナに変換して追加されます。

リストに表示されている順で、デイジーデータに入ります。ファイルの順序を変更するには、目的の文書を選んで、「上へ」、「下へ」ボタンを押します。

「削除」ボタンを押すと、リスト上で選択されている文書をリストから外します。各ファイル中の見出し行が、デイジーデータの見出しになります。

文書のまとまりに付けられる見出しは、「編集」ボタンで変更できます。

- 〔6〕 OKボタンを押すと、デイジーデータに変換されます。
各設定はファイルに保存されるので、変換元のデータを変更した時、今回の設定ファイルを開けば、すぐにデイジーデータを作り直せます。

〔D〕 電源ステータス

電源ステータスツールは、ACアダプタとバッテリーの状態を表示します。

このツールは、次のコマンドで実行します。

メインメニュー → ツール → 電源ステータス

グローバルショートカット、ウィンキー+1（2・4の点）でも実行できます。

このツールを実行すると、「電源ステータス」ウィンドウが開きます。

このウィンドウでは、現在の充電状態と、バッテリーの充電量を表示しています。

1行目 ACアダプタには、接続中、接続なしのいずれかが表示されます。

2行目 バッテリーには、充電中、使用中、未使用のいずれかが表示されます。

3行目 バッテリー残量には、バッテリーの推定充電量をパーセントで表示します。

充電中は、パーセントの後にクエスチョンマークが表示されます。

4行目 スリープ機能には、一定時間操作しないと、自動的にスリープする機能が、現在有効かどうかを表示します。

何かの作業中のためにスリープできない場合は、その理由が表示されます。

スリープ機能を手動でオン/オフするには、コントロールキーを押しながら、電源ボタンを短く押します。

〔E〕 内蔵SDカードのデータのバックアップ

〔簡単操作選択項目〕「B10 内蔵SDカード内のデータのバックアップ」＝隠す

このツールは、内蔵SDカードに保存されているデータを、前面SDカードや、USBメモリーにバックアップします。

次の方法で起動できます。

メインメニュー → ツール → 内蔵SDカードのデータのバックアップ

(記憶メディアの検出ウィンドウで、[内蔵SDカードのデータをバックアップする] ボタンを押す)。

このツールが起動すると、

(1) まず、「記憶メディアの選択 (バックアップマネージャ)」のウィンドウが表示されます。ここで、バックアップしたデータを保存したい記憶メディアを選択し、エンターキーを押します。

(2) すると、「バックアップマネージャ」のウィンドウが表示されます。

次のボタンが表示されますので、上下矢印キーで選択し、エンターキーを押してください。

- [1. バックアップ: 内蔵SDカードの対象フォルダをバックアップする]
- [2. リストア: バックアップデータを、内蔵SDカードに、書き戻す]
- [3. 設定: 内蔵SDカード内のバックアップ対象フォルダを設定する]
- [4. 削除: バックアップデータを削除する]

(3) [バックアップ] ボタン

このボタンを選択すると、バックアップが始まります。

バックアップの対象フォルダを選択していなければ、内蔵SDカード全体 (プログラムフォルダを除く) がバックアップされます。

バックアップしたデータは、「BMS_Backup」というフォルダ内に、日付時刻のフォルダ名で保存されます。

(4) [リストア] ボタン

このボタンを選択すると、バックアップしたデータを、内蔵SDカードに書き戻すことができます。「バックアップデータ一覧」のウィンドウが開きますので、書き戻したい日付のデータを選択して、エンターキーを押してください。

(5) [設定] ボタン

このボタンを選択すると、バックアップの対象フォルダを指定できます。

「データのバックアップ」ウィンドウが開き、指定しているバックアップ対象フォルダのリストが表示されます。

ここでは、インサートキーで、新規バックアップ項目の追加、デリートキーで、バックアップ項目の削除ができます。

また、スペースキーを押すと、選択中のバックアップ項目を編集できます。

「設定シート：バックアップ項目#の設定」ウィンドウが表示されますので、次のように設定します。

- ・「バックアップする場所」には、バックアップしたいフォルダのパスを指定します。
- ・「バックアップ対象」には、このフォルダをバックアップから除外するか、フォルダ内だけをバックアップするか、サブフォルダ内のファイルもバックアップするかを指定します。
- ・「毎回、新しいフォルダにバックアップする」は、バックアップ後の情報を、日付時刻名の新しいフォルダに保存するか、「データ蓄積フォルダに追記するかを選択します。」

(6) [削除] ボタン

「バックアップデータ一覧」のウィンドウが開きますので、削除したい日付のデータを選択して、エンターキーを押してください。

〔F〕 記憶メディアの管理

(簡単操作選択項目)「B4 記憶メディアの管理ツール」=隠す

記憶メディアの管理ツールは、記憶メディアのチェック、またはフォーマットを行います。このツールを実行するには、次のコマンドを選択します。

メインメニュー → ツール → 記憶メディアの管理

このコマンドを実行すると、「記憶メディアの管理」ウィンドウが開きます。

このウィンドウでは、まず、対象の記憶メディアをリストから選択します。

その後、[チェックする] ボタン、または [フォーマット] ボタンを押して、処理を実行してください。

〔G〕 読者認証コードのインストール

読者認証コードのインストールツールは、読者認証コードファイル(.bmt)の内容をシステムに登録します。

このツールを実行するには、次のコマンドを選択します。

メインメニュー → ツール → 読者認証コードのインストール

このコマンドを実行すると、「読者認証コードリストの選択」の、ファイル選択ウィンドウが開きます。このウィンドウを操作して、目的の読者認証コードファイルを選択すると、その内容がBMスマートにインストールされます。

〔H〕 スピーチ単語登録

(簡単操作選択項目)「B5 各種ユーザ辞書」=隠す

スピーチ単語登録は、スピーチエンジンでの単語の読み方を修正するためのユーザー辞書です。

このツールを起動するには、次のコマンドを選択します。

メインメニュー → ツール → スピーチ単語登録

このツールを起動すると、「スピーチ単語登録」のウィンドウが開きます。

このウィンドウには、現在登録されている単語の一覧表が表示されています。

単語の読み方は、ひらがなか、カタカナで指定してください。

〔I〕 点訳単語登録

(簡単操作選択項目)「B5 各種ユーザ辞書」=隠す

点訳単語登録は、本機の点字表示やデータ変換で使用しているテキスト点訳エンジンのためのユーザ辞書です。

このツールを起動するには、次のコマンドを選択します。

メインメニュー → ツール → 点訳単語登録

このツールを起動すると、「点訳単語登録」のウィンドウが開きます。このウィンドウには、現在登録されている単語の一覧表が表示されています。

単語の点字表記は、ひらがなか、カタカナで指定してください。

単語の漢字と点字の対応を指定するために、| (半角縦線) を使用します。

例：「点訳機能」→「テン|ヤク |キ|ノー」

〔J〕 文字入力マクロ登録

(簡単操作選択項目)「B5 各種ユーザ辞書」=隠す

文字入力マクロ登録は、直接文字入力モードのユーザ辞書です。

入力に使用する点字と、それに対応するテキスト文字列を指定します。

この機能を使うと、点字入力できない特殊な記号や定型文などを、指定した点字パターンで入力できます。

このツールを実行するには、次のコマンドを選択します。

メインメニュー → ツール → 文字入力マクロ登録

このツールを起動すると、「文字入力マクロ登録」のウィンドウが開きます。

このウィンドウには、現在登録されているマクロの一覧表が表示されています。

点字パターンは、7の点や8の点を使って、別の文字の点字と重ならないように指定してください。

7の点は左親指キー、8の点は右親指キーで入力します。

「漢点字表示でも使用する」をチェックした項目は、点字入力時だけでなく、テキストを表示する際の点字変換でも使用されます。

例：以下のように指定しておくと、(8の点) + URL の点字3文字で、KGSのホームページアドレスを短縮入力できます。

「1368,1235,123」→「http://www.kgs-jpn.co.jp/」。

(1368 は、右親指キーと 1,3,6 の点の組み合わせです)。

〔K〕 ユーザー辞書の選択

(簡単操作選択項目) 「B5 各種ユーザ辞書」=隠す

このツールは、各種のユーザー辞書パッケージを追加、削除したり、ユーザー辞書の有効/無効を切り替えるために使用します。

メインメニュー → ツール → ユーザー辞書の選択

このツールを起動すると、「ユーザー辞書の選択」ウィンドウが開きます。

初期設定で、以下の2種類の辞書が追加されています。

- 理療科用読み辞書「読ター」
- 理療科用点訳辞書「読ター」

このウィンドウで、有効にしたい辞書をチェックし、無効にしたい辞書のチェックを外します。

チェックボックスは、点字表示部の左端にありますので、タッチカーソルで、チェックをオン/オフしてください。

また、ユーザー辞書の追加や削除を行うには、オルトキーを押して、「ユーザー辞書メニュー」を開き、対応するコマンドを選択してください。

(ただし、予め追加されているユーザー辞書は、削除できません)。

第3章 時計とカレンダー

この章では、時計、アラーム、カレンダー、予定表などのユーティリティ機能の使い方をご説明します。

3. 1 時計とアラーム

この節では、時計や各種カウンター、アラームについてご説明します。

3. 1. 1 時計プログラム

(簡単操作選択項目)「A2 時計とアラーム」=利用可能

時計プログラムでは、現在の時刻を確認したり、本機の時計を合わせることができます。また、アラームをセットしたり、ストップウォッチや、カウントダウンタイマーの機能を利用できます。

お休みタイマー機能を利用すると、音楽やデジ書を読んでいても、指定した時間で本機を電源オフすることができます。

時計プログラムを起動するには、メインウィンドウの「時計」項目でエンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとC (1,4 の点) を押します。すると、時計ウィンドウが開きます。

このウィンドウが開くと、現在の時刻が表示されます。時刻を表示した状態にしておくと、一分ごとに時刻を読み上げます。

このウィンドウには、以下のボタンがあり、時計に関連する機能を選択できます。タブキーで移動し、スペースキーでボタンを押してください。オルトキーを押して、メニューからも、同様の機能を選択できます。

〔A〕 **アラーム**：アラーム一覧を表示します。メインウィンドウの「アラーム」項目から開くのと同じです。
アラーム機能については、次節で説明します。

〔B〕 **お休みタイマー**：指定した時間経過すると、本機を終了します。
(1) このコマンドを実行すると、「お休みタイマー」の設定シートが開きます。
時間: 数値 [0 - 3]
分: 数値 [0 - 59]
本機を終了するまでの時間を指定して、エンターキーを押してください。

(2) すると、「お休みタイマー」ウィンドウが開き、終了するまでの残り時間が表示されません。指定時間経過すると、自動的に本機が終了します。

- (3) [延長] ボタンを押すと、残り時間が10分間長くなります。
お休みタイマーは、ウィンドウを閉じると無効になります。

〔C〕ストップウォッチ：時間を計ります。

- (1) このコマンドを実行すると、「ストップウォッチ」ウィンドウが開きます。
- (2) エンターキーを押すと、計測をスタート/ポーズします。
- (3) 経過時間を0に戻すには、[クリア] ボタンを押してください。
ウィンドウを閉じると、計測は終了します。

「時計の設定」で「ストップウォッチの音声出力」を指定すると、経過時間を定期的に、音声でお知らせします。

〔D〕カウントダウン：カウントダウンタイマーで、時間を計ります。

- (1) このコマンドを実行すると、「カウントダウンの設定」の設定シートが開きます。
時間: 数値 [0 - 99]
分: 数値 [0 - 59]
秒: 数値 [0 - 59]
計りたい時間を指定して、エンターキーを押してください。

- (2) すると、「カウントダウン」ウィンドウが開いて、残り時間が表示されます。
指定時間経過すると、アラーム音とメッセージでお知らせします。
カウントダウンタイマーは、ウィンドウを閉じると無効になります。

ストップウォッチの音声出力: なし, 1分毎に読み上げ, 10秒毎に読み上げ, 計測中の音声出力を選択します。

〔E〕時計の設定：時計機能の設定を行います。

このコマンドを実行すると、「時計の設定」の設定シートが開きます。

以下の選択肢があります。

12時間表示: オフ, オン 時刻を、午前/午後の12時間制で表示するか、24時間制で表示するかを選択します。

時報機能: オフ, オン 毎時0分に、時報を鳴らすかどうかを指定します。

〔F〕時計を合わせる：現在の日付と時刻を合わせます。時計がくるってしまった時に使用します。

このコマンドを実行すると、「現在時刻の設定」の設定シートが開きます。

年: 数値 [2000 - 2100]

月: 数値 [1 - 12]

日: 数値 [1 - 31]

時: 数値 [0 - 23]

分: 数値 [0 - 59]

秒: 数値 [0 - 59]

エンターキーを押すと、時計が指定した日付と時刻に設定されます。

〔時計メニュー〕

上記のボタンに割り当てられている機能を、メニューからも選択できます。

- (1) アラーム (A): アラームを設定します。
- (2) スリープタイマー (S): スリープタイマーを開きます。
- (3) ストップウォッチ (S): ストップウォッチを開きます。
- (4) カウントダウン (C): カウントダウンタイマーを開きます。
- (5) 時計の設定 (S): 時計プログラムの設定シートを開きます。
- (6) 時計を合わせる: 本機の時計を合わせます。

3. 1. 2 アラーム

(簡単操作選択項目)「A2 時計とアラーム」=利用可能

アラームは、指定した時間になると、メッセージと、ビープ音、または音楽の再生でお知らせする機能です。アラームには、曜日や時刻で指定する通常のアラームと、予定の設定の中で指定するスケジュールアラームの2種類があります。

メインウィンドウのアラームの項には、これらの内で、次にアラームが鳴る時刻が表示されません。

〔A〕アラーム一覧

アラーム一覧は、アラーム時計を一覧表示して、各項目を設定/解除します。
また、アラーム時計を追加したり、削除したりできます。

アラーム一覧を開くには、メインウィンドウの「アラーム」項目で、エンターキーを押すか、時計プログラムからアラームコマンドを選択します。

初期状態では、アラームが1件指定できるようになっていますが、必要に応じてアラーム時計の数を増やすこともできます。

〔操作方法〕

- このウィンドウでは、次の操作が可能です。
- スペースキー: 選択中のアラーム時計を設定します。
- インサートキー: アラーム時計を増やします。
- デリートキー: 選択しているアラーム時計を削除します。
- エスケープキー: このウィンドウを閉じます。

〔アラーム設定メニュー〕

上記の操作を、メニューからも選択できます。

- (1) アラームの編集: 選択中のアラーム時計を設定します。

- (2) アラームの追加: アラーム時計を増やします。
- (3) アラームの削除: 選択しているアラーム時計を削除します。

〔B〕アラームの設定方法

アラーム一覧でアラームの編集を選択すると、「アラームの設定」シートが開きます。

アラーム 1: オフ, オン

鳴らす日: 毎日, 平日, 休日, 毎週日曜日, 毎週月曜日, 毎週火曜日, 毎週水曜日, 毎週木曜日,
毎週金曜日, 毎週土曜日

時刻: 数値 [0 - 23]

数値 [0 - 59]

メモ: “表示するメッセージ”

サウンドファイル: “再生するオーディオファイルのパス”

ボリューム: 標準, 小, 中, 大, 最大

エンターキーを押すと、設定した内容が有効になります。

3. 2 カレンダーと予定表

この節では、カレンダーや、予定の登録・確認方法についてご説明します。

3. 2. 1 カレンダープログラム

(簡単操作選択項目)「A3 カレンダーと予定表」=利用可能

カレンダープログラムでは、日付と曜日を確認したり、お休みの日を調べられます。
また、日付を選択して、予定を登録したり、確認できます。

カレンダープログラムを起動するには、メインウィンドウの「カレンダー」項目を選択するか、
グローバルショートカット、ウィンキーとS (2,3,4 の点) を押します。すると、カレンダーウ
ィンドウが開きます。

このウィンドウが開くと、まず今日の日付が表示されます。
矢印キーで日付を前後に動かして、目的の日付に移動します。

その日がお休みの時は # (シャープ)、予定が登録されている時は * (アスタリスク) が、日付
の前に表示されます。

日付の欄の次には、予定を表示する欄があり、その日付に書き込んだ予定を確認することができ
ます。予定が登録されている場合、日付を選択すると、この欄の内容も読み上げます。

このウィンドウを閉じるには、コマンドキー+Z (または、エスケープキー) を押します。

〔日付移動の操作〕

日付の欄では、次の操作で日付を移動できます。

これらの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

上矢印キー：前の日に移動します。

下矢印キー：次の日に移動します。

この操作は、設定により左右矢印キーに変わります。

ホームキー：週の初めに移動します。

エンドキー：週の終わりに移動します。

左矢印キー：前の週に移動します。

右矢印キー：次の週に移動します。

この操作は、設定により上下矢印キーに変わります。

ページアップキー：前の月に移動します。

ページダウンキー：次の月に移動します。

1~6: その月のn週目（カレンダーのn行目）に移動します。

A~G: その週の指定した曜日に移動します。Aが日曜、Gが土曜です。

スペースキー：今日の日付に戻ります。

コントロール+スペースキー：日付の入力ウィンドウを開きます。

日付は、以下のように指定してください。

2020/7/24 = 2020年7月24日

9/27 = 今年の9月27日

6 = 今月の6日

1b = 今月の第1月曜日（最初の月曜日）

コントロール+エンターキー：その日のお休みマークをオン/オフします。

コントロール+左矢印キー：前のお休みに移動します。

コントロール+右矢印キー：次のお休みに移動します。

コマンドキー+1, 4の点：月の情報を読み上げます。

コマンドキー+2, 5の点：週の情報を読み上げます。

コマンドキー+3, 6の点：日の情報を読み上げます。

〔予定の追加と編集〕

予定を追加したり、確認したりするには、次のように操作します。

これらの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

(1) 日付の欄でエンターキーを押すと、新しい予定を追加できます。

予定の編集ウィンドウが開きますので、ここに、新しい予定を入力して、エンターキーを押してください。

すると、新しい予定を追加した予定一覧が開きます。

- (2) 予定の欄でエンターキーを押すと、予定一覧が開き、その日の予定が表示されます。予定がない時は、新規に追加できます。
予定一覧では、予定にアラームを設定したり、設定済みの予定を削除できます。
- (3) 登録されている全ての予定を確認するには、[予定の編集] ボタンを押します。
すると、予定一覧が開き、登録されている全ての予定が表示されます。
- (4) 予定を検索するには、[予定の検索] ボタンを押します。
すると、「予定の検索」ウィンドウが開きますので、ここに、探したいキーワードを入力して、エンターキーを押してください。
指定したキーワードを含む予定のみが、一覧表示されます。

〔お休みの曜日を設定する〕

週の何曜日がお休みかを変更するには、「お休みの曜日」ボタンを押します。
すると、「お休みの曜日の設定」の設定シートが開きます。

日曜日: オフ, オン

月曜日: オフ, オン

火曜日: オフ, オン

水曜日: オフ, オン

木曜日: オフ, オン

金曜日: オフ, オン

土曜日: オフ, オン

初期状態では、日曜日と土曜日がお休みに設定されています。

お客様のお休みの曜日をオンにして、エンターキーを押してください。

〔カレンダーの設定〕

[カレンダーの設定] ボタンを押すと、「カレンダーの設定」の設定シートが開きます。
以下の選択肢があります。

一週間を左右方向に配置する: オフ, オン
この項目をオンにすると、矢印キーの働きが変更され、左右矢印キーで1日単位、上下矢印キーで1週間単位の移動になります。

日数カウンター: オフ, 今日からの日数, 今日からの週数
日付の欄に、今日からの日数や週数を表示するか否かを選択します。

読み上げで、月を省略する: オフ, オン
月の中を移動している時、月の読み上げを省略するか否かを選択します。

予定を点字で入力する: オフ, オン
予定を編集する時、点字編集を開くか、テキスト編集を開くかを選択します。

変更内容を有効にするには、エンターキーを押してください。

〔カレンダーメニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

(1) 「日付の移動」サブメニュー: カレンダーの中を移動するコマンドです。

前の日, 上矢印キー (コマンドキー+1の点): 前の日に移動します。

次の日, 下矢印キー (コマンドキー+4の点): 次の日に移動します。

週の初め, ホームキー (コマンドキー+1, 3の点): 週の初めに移動します。

週末, エンドキー (コマンドキー+4, 6の点): 週末に移動します。

前の週, 左矢印キー (コマンドキー+3の点): 前の週に移動します。

次の週, 右矢印キー (コマンドキー+6の点): 次の週に移動します。

前の月, ページアップキー (コマンドキー+2, 3の点): 前の月に移動します。

次の月, ページダウンキー (コマンドキー+5, 6の点): 次の月に移動します。

前のお休み, コントロール+左矢印キー (コマンドキー+2の点): 前のお休みに移動します。

次のお休み, コントロール+右矢印キー (コマンドキー+5の点): 次のお休みに移動します。

「週を指定して移動」サブメニュー: 第何週かを指定して移動するコマンドです。

第1週, 1: 第1週の同じ曜日に移動します。

第2週, 2: 第2週の同じ曜日に移動します。

第3週, 3: 第3週の同じ曜日に移動します。

第4週, 4: 第4週の同じ曜日に移動します。

第5週, 5: 第5週の同じ曜日に移動します。

第6週, 6: 第6週の同じ曜日に移動します。

「曜日を指定して移動」サブメニュー: 何曜日かを指定して移動するコマンドです。

日曜日, A: 同じ週の日曜日に移動します。

月曜日, B: 同じ週の月曜日に移動します。

火曜日, C: 同じ週の火曜日に移動します。

水曜日, D: 同じ週の水曜日に移動します。

木曜日, E: 同じ週の木曜日に移動します。

金曜日, F: 同じ週の金曜日に移動します。

土曜日, G: 同じ週の土曜日に移動します。

日付を指定して移動, コントロール+スペースキー: 月/日、または年/月/日を指定して移動します。

今日の日付に戻る, スペースキー: 今日の日付に戻ります。

(2) 「読み上げ」サブメニュー: カレンダーの情報を読み上げるコマンドです。

月の情報, コマンドキー+1, 4の点: 月の情報を読み上げます。

週の情報, コマンドキー+2, 5の点: 週の情報を読み上げます。

日の情報, コマンドキー+3, 6の点: 日の情報を読み上げます。

(3) お休みに設定, コントロール+エンターキー: 選択中の日付のお休みマークをオン/オフします。

- (4) 予定の追加 (A): 新しい予定を登録します。
- (5) 予定の編集 (E): 登録済みの予定を編集します。
- (6) 予定の検索 (S): 登録されている予定を検索します。
- (7) 「情報のコピー (C)」サブメニュー: カレンダーの情報をクリップボードにコピーするコマンドです。

年のカレンダーをコピー, コントロール + Y: 表示中の年のカレンダーを、クリップボードにコピーします。

月のカレンダーをコピー, コントロール + M: 表示中の月のカレンダーを、クリップボードにコピーします。

週のカレンダーをコピー, コントロール + W: 表示中の週のカレンダーを、クリップボードにコピーします。

日の情報をコピー, コントロール + D: 表示中の日の情報を、クリップボードにコピーします。

日付のコピー, コントロール + C: 表示中の日付を、クリップボードにコピーします。

- (8) お休みの曜日の設定: お休みの曜日を設定します。
- (9) カレンダーの設定: カレンダープログラムの設定シートを開きます。

3. 2. 2 予定表

(簡単操作選択項目) 「A3 カレンダーと予定表」 = 利用可能

予定表機能では、今日の予定を、メインウィンドウの「今日の予定」項目から確認できます。また、予定一覧ウィンドウでは、予定の追加と削除、スケジュールアラームの設定ができます。

〔A〕今日の予定

今日の予定を確認するには、メインウィンドウの「今日の予定」項目を選択するか、グローバルショートカット、ウィンキーとY (1,3・4・5・6の点) を押します。

すると、「今日の予定 (日付)」というタイトルのメッセージボックスが開き、登録されている予定が表示されます。

メッセージボックスで予定が確認できたら、エスケープキーを押します。

更に、予定一覧ウィンドウを開きたい場合は、エンターキーを押してください。

〔B〕予定一覧

このウィンドウには、登録されている予定の一覧表が表示されます。

説明の欄に、日付がある場合は、その日の予定のみが表示されています。

全ての予定を表示したい場合、カレンダーウィンドウからは、予定の編集コマンドを選択してください。このウィンドウでは、予定の追加と削除、スケジュールアラームの設定ができます。

〔操作方法〕

このウィンドウでは、次の操作が可能です。

これらの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

スペースキー: 選択している予定を編集します。

インサートキー (コマンドキー+2, 4の点): 予定を追加します。

デリートキー: 選択している予定を削除します。

エスケープキー (親指キー3個、またはコマンドキー+1, 5の点): このウィンドウを閉じます。

〔予定一覧メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

(1) 予定の編集: 予定を編集します。

(2) 予定の追加: 予定を追加します。

(3) 予定の削除: 予定を削除します。

(4) 予定をテキストでコピー: 選択中の予定を、テキストとして、クリップボードに登録します。

(5) 「検索」サブメニュー: キーワード検索に関する以下のコマンドがあります。

新規検索, コントロール + F: 新しいキーワードを検索します。

前を検索, コマンドキー+2, 3, 6の点: 今のカーソル位置より前を検索します。

後ろを検索, コマンドキー+3, 5, 6の点: 今のカーソル位置より後ろを検索します。

初めから検索, コマンドキー+1, 3, 6の点: 文書の初めから検索します。

(6) 「ファイル」サブメニュー: ファイルの保存と読み込みに関する以下のコマンドがあります。

選択項目をファイルに保存: 選択されている項目を、XML ファイルに保存します。

ファイルから読み込み: このアプリケーションで保存した XML ファイルを読み込みます。

〔C〕 予定の編集

予定一覧で目的の予定を選択して、スペースキーを押すと、「予定の設定」の設定シートが開きます。このウィンドウでは、予定の日付や内容の変更、スケジュールアラームの設定などができます。

日付: 数値 [2000 - 2100]

数値 [1 - 12]

数値 [1 - 31]

期間: 数値 [1 - 100]

メモ内容: “表示するメッセージ”

アラーム: オフ, オン

時刻: 数値 [0 - 23]

数値 [0 - 59]

サウンドファイル: “再生するオーディオファイルのパス”

ボリューム: 標準, 小, 中, 大, 最大

変更内容を有効にするには、エンターキーを押してください。

第4章 文書の編集と利用

この章では、テキスト文書と点字文書の編集の方法をご説明します。

4. 1 利用できる文書

本機では、各種点字データと、テキストデータを閲覧／編集できます。

また、本機の拡張機能として、マイクロソフト社のオフィス形式文書や、アドビシステム社のPDF文書の内容を閲覧できる機能を用意しています。

これらの文書の閲覧については、〈4. 3. 1 テキスト編集で利用できるファイル形式〉をご参照ください。

また、点字データを、点字図書閲覧機能で読む方法については、〈5. 2 点字図書の閲覧〉をご参照ください。

〔対応している点字データ形式〕

本機で直接読み書きできる点字データの形式は、以下のとおりです。

- .bmt…ブレイルメモ点字文書。
- .bes,.bet…点字編集システム、サピエ図書館形式。
- .bse,.nab…BASE形式。
- .brl,.brf…標準点字形式。

本機で点字文書を編集する操作については、次節〈4. 2 クイックメモと点字文書の編集〉でご説明します。

〔対応しているテキストデータ形式〕

本機で直接読み書きできるテキストデータの形式は、以下のとおりです。

- .txt…テキストファイル。
- .rtf…リッチテキストファイル。

本機で、テキスト文書を編集する操作については、〈4. 3 テキスト文書の編集〉でご説明します。

4. 2 クイックメモと点字文書の編集

この節では、点字文書を編集する方法についてご説明します。

点字文書を編集するためのプログラムには、クイックメモと点字編集があります。

クイックメモは、文書の保存先フォルダやファイル名を指定する必要がなく、点字だけで文書を管理できるのが特長です。クイックメモで作成した文書は、全て内蔵SDメモリー内の「マイドキュメント」フォルダ内に保存されます。

これに対して、点字編集プログラムでは、他の記憶メディアやフォルダに保存されているファイルも、選択して編集できます。また、編集した文書の、保存先や、ファイルの形式も指定できます。

4. 2. 1 クイックメモプログラム

クイックメモプログラムでは、点字のメモを簡単な操作で取ることができます。

〔A〕クイックメモを起動する

クイックメモの起動方法は、クイック優先モードがオンになっているか、オフになっているかで変わります。クイック優先モードの初期設定は、オンです。メインウィンドウのタイトルに、「クイック優先モード」と表示されていれば、クイック優先モードになっています。クイック優先モードは、点字でメモを取るための操作を分かりやすくするためのモードで、本機の電源を入れると、クイックメモが自動的に起動します。

クイック優先モードがオフの場合、クイックメモを起動するには、メインウィンドウの「クイックメモ」項目を選択して、エンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとQ（1,2,3,4,5の点）を押します。

クイックメモを終了するには、コマンドキー+Z（1,3,5,6の点）を押します。

クイック優先モードでない場合は、エスケープキーでも、クイックメモを終了できます。

なお、簡単操作設定が有効になっている場合は、クイックメモプログラムのメニューからも、クイック優先モードをオン/オフできます。

簡単操作設定を無効にすると、クイック優先モードは利用できなくなります。

〔B〕クイックメモ 文書一覧ウィンドウ

クイックメモが起動すると、「クイックメモ 点字文書一覧」ウィンドウが開きます。

ここには、クイックメモで管理している全ての文書が、点字の文書名で表示されています。

目的の文書を選択してエンターキーを押すと、その文書が開きます。

また、このウィンドウでは、新規文書の作成、文書名の変更、文書の削除、文書を別の記憶メディアにコピーする操作ができます。

「クイックメモ 文書一覧」ウィンドウは、以下のように操作します。

これらの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔文書を開く〕

(1) 既存の文書を開くには、一覧で目的の文書を選び、エンターキーを押します。

すると、点字編集ウィンドウが開き、文書が表示されます。

(2) 新規文書を作成するには、オルトキー+N（1,3,4,5の点）を押して、[新規作成]ボタンを選択します。

すると、「新規点字データの作成」ウィンドウが開きます。

ここで、新しい文書の名前を、点字64マス以内で指定し、エンターキーを押します。

すると、点字編集ウィンドウで、新しい空の文書が開きます。

点字編集ウィンドウの操作方法については、〈4. 2. 3 点字編集ウィンドウの基本操作〉の項を参照してください。

〔絞り込み表示〕

文書の数が多くなってくると、文書一覧から、目的の文書を探すのが大変になってきます。そんな時は、「絞り込み表示」機能が便利です。

文書一覧でスペースキーを押すと、「絞り込み表示」ウィンドウが開きます。

ここで、探したい文書名の一部を、点字で入力し、エンターキーを押します。

すると、文書名に、指定した言葉の入った文書だけが、一覧表示されます。

絞り込み表示中は、一番上の行に「絞り込み「〇〇」、〇個の文書があります。」のように表示されています。

この状態でも、既存の文書を開くなど、この項でご紹介している全ての操作が可能です。

絞り込み表示を終了して、全ての文書を表示するには、エスケープキーを押します。

〔文書名を変更する〕

文書の名前を変更するには、文書一覧から、目的の文書を選んで、バックスペースキーを押します。

すると、「文書名の変更」ウィンドウが開きます。

ここで、新しい名前を入力し、エンターキーを押してください。

これまでの文書名を参照するには、下矢印キーを押してください。

〔文書を削除する〕

文書を削除するには、文書一覧から、目的の文書を選んで、デリートキーを押します。

すると、文書の削除の確認のメッセージが表示されます。

文書を削除してよければ、ここでY（1,3,4,5,6の点）を押してください。

文書を削除したくない時は、エスケープキーを押してください。

削除された文書は、「ゴミ箱」に移動します。

〔間違えて削除してしまった文書を元に戻す〕

もし、文書を間違えて削除してしまった時は、タブキーを何回か押して〔ゴミ箱〕ボタンに移動し、スペースキーを押してください。

すると、ゴミ箱の中にある文書の一覧が表示されますので、ゴミ箱から出したい文書を選んで、エンターキーを押します。

ゴミ箱の表示を終了するには、エスケープキーを押します。

なお、〔ゴミ箱〕ボタンは、ゴミ箱が空の時は表示されません。

また、クイックメモのゴミ箱からは、自動的に文書が削除されることはありません。

点字データはサイズが小さいので、そのままにしておいて問題ありませんが、文書を消去したい場合は、〔ゴミ箱を空にする〕ボタンを押してください。

〔クイックメモの文書から、キーワードを検索する〕

指定したキーワードが書かれている文書を見つけたい場合は、オルトキー+F（1,2,4の点）を押して、〔検索〕ボタンを選択します。

すると、「点字キーワード検索」ウィンドウが開きます。

ここで、探したいキーワードを点字で入力し、エンターキーを押します。

すると、キーワードが見つかった文書が一覧表示されます。

この時、文書一覧の一行目には、「検索「〇〇」、〇個の文書があります」のように表示されま

す。

目的の文書を選びエンターキーを押すと、こんどは、その文書の中でキーワードが見つかった行の一覧が表示されます。

このウィンドウで目的の行を選択してエンターキーを押すと、点字編集ウィンドウが開き、その文書の選択した行が表示されます。

点字編集ウィンドウの操作方法については、〈4. 2. 3 点字編集ウィンドウの基本操作〉の項を参照してください。

検索結果の表示を終了するには、エスケープキーを押します。

〔文書を別の場所に保存する〕

クイックメモで作成した文書を、SDメモリーやUSBメモリーなど、他の場所にコピーするには、オルトキー+V（1,2,3,6の点）を押して、[名前を付けて保存] ボタンを選択します。

すると、「保存先点字ファイルの選択」ウィンドウが開きます。

このウィンドウで、文書の保存先と、ファイル名を指定してください。

なお、クイックメモで文書が保存されているファイル名を確認したい場合は、文書一覧で目的の文書を選び、オルトキー+エンターキーを押してください。

「ファイル情報」のウィンドウが開いて、ファイル名が確認できます。

〔C〕クイックメモメニュー

クイックメモメニューから、以下のコマンドが選択できます。

- (1) 新規作成 (N): 新しい文書を作って、編集します。
- (2) 名前で絞り込み (L): 指定した名前を含む文書のみを表示します。
- (3) 検索 (F), コントロール + F: 全ての文書から、キーワード検索します。
- (4) 絞り込みと検索のクリア (A): 絞り込み表示、検索結果表示を終了して、全ての文書を一覧に表示します。
- (5) 削除 (D): 選択中の文書を削除して、ゴミ箱に移動します。
- (6) 文書名の変更 (C): 選択中の文書の文書名を変更します。
- (7) 表示設定 (S): 文書一覧の表示内容を変更します。
- (8) 名前を付けて保存 (V): 選択中の文書を、指定したファイル名で、別の場所に保存します。
- (9) ファイルのプロパティ: ファイルの属性情報を表示します。
- (10) ゴミ箱: クイックメモの文書一覧表示と、ゴミ箱内の表示を切り替えます。
- (11) ゴミ箱を空にする (E): クイックメモのゴミ箱内の文書を消去して、ゴミ箱を空にします。
- (12) クイックメモ優先モード (R): クイックメモ優先モードの設定をオン/オフします。

4. 2. 2 点字編集プログラム

(簡単操作選択項目)「A5 点字編集プログラム」=利用可能

点字編集プログラムでは、記憶メディアに保存されている各種の点字データを開いて、閲覧/編集できます。

また、編集した文書の、保存先や、ファイルの形式も指定できます。

目的の内容がどのファイルに書かれているか分からない時は、指定したキーワードを含む点字文書を、フォルダから検索して、開くことができます。

更に、テキストファイルを選択し、その内容を点訳して編集することもできます。

点字編集プログラムを起動するには、メインウィンドウの「点字編集」項目を選択して、エンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとB（1・2の点）を押します。

すると、まず、「点字ファイルの選択」ウィンドウが開きます。

このウィンドウからの操作で、最初に関く点字文書を選択してください。

すると、その内容で、点字編集ウィンドウが開きます。

〔A〕点字ファイルの選択ウィンドウ

ここでは、編集する文書を新規に作成するか、または、既存の文書をどのように選ぶかを選択します。

以下のボタンの中から選択してください。

〔新規メモファイルを作成する〕（オルト+N）：内蔵SDメモリー内の「マイドキュメント」フォルダに、自動生成したファイル編集します。作られるファイル名は、「メモ 点字」で始まります。

〔マイドキュメントの内容を表示〕（オルト+M）：内蔵SDメモリー内の「マイドキュメント」フォルダを表示します。ここから、既存のファイルを開くか、新しいファイルを作って編集できます。

〔アプリフォルダ（BMS_BriData）の内容を表示〕：接続されている記憶メディアの、アプリフォルダを表示します。ここから、既存のファイルを開くか、新しいファイルを作って編集できます。

〔ファイル一覧を表示〕（オルト+F）：最近ファイルを開いたフォルダを表示します。ここから、既存のファイルを選ぶか、新しいファイルを作って編集できます。

〔履歴一覧を表示〕（オルト+R）：最近開いたファイルの一覧表を表示します。ファイル履歴から開くと、文書内の最後に編集していた位置が表示されます。

〔ファイルから検索〕（オルト+E）：指定したキーワードをファイルから検索し、キーワードが見つかったファイルを開きます。

〔テキストファイルから変換〕（オルト+T）：テキストファイルの内容を点字に変換して表示します。

〔新規メモファイルを作成する〕を選択すると、すぐに点字編集ウィンドウが開きます。

それ以外の方法を選択すると、更に、ファイルや履歴を選択するウィンドウが開きます。

ファイルを選択するウィンドウの操作については、〈2. 2. 1 〔A〕ファイル選択ウィンドウ〉の項を参照してください。

また、履歴から選択するウィンドウの操作については、〈2. 2. 1 〔B〕履歴一覧ウィンドウ〉の項を参照してください。

〔B〕ファイルから検索する

点字ファイルの選択ウィンドウで、〔ファイルから検索〕ボタンを押すと、指定したキーワードを含むファイルを、フォルダから検索して、開くことができます。

この場合、以下のウィンドウが、順に表示されます。

A. 「点字キーワード検索ウィンドウ」：検索したいキーワードを指定します。

B. 検索するフォルダの選択ウィンドウ：ファイルを検索するフォルダを指定します。

C. 検索結果の表示ウィンドウ：すると、検索が実行されて、見つかったファイルが、フォルダ毎に表示されます。

検索結果からファイルの項目を選択して、エンターキーを押すと、そのファイルが開きます。

4. 2. 3 点字編集ウィンドウの基本操作

このウィンドウでは、各種形式の点字ファイルを編集できます。

編集した内容をファイルに保存するには、コントロールキー+Sを押します。

編集が終わったら、コマンドキー+Zを押して、ウィンドウを閉じます。

この文書がもう不要になった場合は、ウィンドウを開いたままでオルトキー+デリートキーを押してください。確認の上、ファイルを削除して、ウィンドウを閉じます。

文書内を移動するには、次のように操作します。

上矢印キー：前の行に移動します。

下矢印キー：次の行に移動します。

コントロール+左矢印キー：前の単語に移動します。

コントロール+右矢印キー：次の単語に移動します。

左矢印キー：前のマスに移動します。

右矢印キー：次のマスに移動します。

ホームキー：行の先頭に移動します。

エンドキー：行の末尾に移動します。

ページアップキー：前のページに移動します。

ページダウンキー：次のページに移動します。

コントロール+ホームキー：文書の先頭に移動します。

コントロール+エンドキー：文書の末尾に移動します。

タッチカーソルキー：カーソルを、対応するマスに移動します。

カーソル位置のタッチカーソルキーを押すと、カーソルをオフにします。

コントロール+M（1、3、4の点）：今のカーソル位置をマークします。

コントロール+J（2、4、5の点）：マーク位置に移動します。セレクトキーを組み合わせると、マーク位置までを範囲選択します。

コマンドキー+1，4の点：行の内容を読み上げます。

コマンドキー+1から6の点：カーソルを移動しながら、文書を読み上げます。

コマンドキー+1，5，6の点：今のカーソル位置を表示します。

コントロール+P：ページ行を表示します。

コントロール+セレクト+R：編集禁止設定をオン/オフします。

オルト+エンターキー：「編集情報」を表示します。

〔ページ行の編集〕

ページ行の編集中は、

次のように操作します。

エスケープキー：ページ行の編集を終了して、元の場所に戻ります。

エンターキー：ページ行の編集を終了して、本文の対応するページに戻ります。

上矢印キー：前のページ行に移動します。

下矢印キー：次のページ行に移動します。

- コントロール+デリートキー: 表示中のページ行を削除します。
- インサートキー: 前に新しいページ行を挿入します。
- コントロール+エンターキー: ページ行を連番で挿入します。

4. 2. 4 点字編集での編集操作

点字編集ウィンドウで、コピーや削除などの編集操作を行うには、対象範囲を指定するために、まず「範囲選択」を行います。

範囲選択するには、シフトキー（表示の送り・戻しキー、セレクトキーのどれか）を押しながら、タッチカーソルキーや矢印キーなどで選択したい範囲を移動します。

範囲選択できたら、次の中から、目的の操作を行います。

- デリートキー: カーソル位置にある1文字を削除します。範囲選択されている時は、選択範囲を削除します。
- バックスペースキー: カーソルの左側にある1文字を削除します。範囲選択されている時は、選択範囲を削除します。
- コントロール+C: 選択範囲をコピーして、クリップボードに登録します。
- コントロール+X: 選択範囲を切り取り、クリップボードに登録します。

コピーや切り取りを行った場合は、目的の場所に移動して、更に以下のコマンドを実行します。

- コントロール+V: クリップボードに登録されている文字列を、カーソル位置に貼り付けます。クリップボードにテキストの文字列が登録されている時は、自動的に点訳されます。

上記の操作の結果が、思うようにならなかった時は、次のコマンドを実行します。

- コントロール+Z: 直前に行なった編集操作を取り消します。

4. 2. 5 点字キーワード検索と置換

キーワードを検索するには、次のように操作します。

- (1) 検索キーワードを指定して、検索を開始するには、コントロール+Fを押します。すると、検索するキーワードと、方向を指定するために、以下のウィンドウが、順に表示されます。
 - A. 点字キーワード検索ウィンドウ
 - B. 検索の方向を選択するウィンドウ
- (2) 後ろ方向を検索するには、コマンドキー+3, 5, 6の点を押します。
- (3) 前方向を検索するには、コマンドキー+2, 3, 6の点を押します。
- (4) 文書の先頭から検索するには、コマンドキー+1, 3, 6の点を押します。
- (5) 指定したキーワードを一括置換するには、コントロール+Hを押します。すると、置換するキーワードと、方向を指定するために、以下のウィンドウが、順に表示されます。
 - C. 置換する点字文字列の指定ウィンドウ
 - D. 置換後の点字文字列の指定ウィンドウ
 - E. 置換ウィンドウ

〔1〕新規検索

コントロール+Fを押して、新規検索を開始した場合、次の2ステップで、検索するキーワードと、検索の方法を指定します。

A. 点字キーワード検索ウィンドウ

点字のキーワードを検索します。

検索するキーワードを指定して、エンターキーを押してください。

前回指定したキーワードを参照するには、下矢印キーを押してください。

「マス空けを無視して検索」のチェックボックス：ここをチェックすると、マス空けの入りが違う文字列も検索できます。

〔指定した文字列を検索する〕ボタン：通常の実行を行います。

〔OR検索：指定した語のどれかを含む行を検索する〕ボタン：下記のOR検索を行います。

〔AND検索：指定した語を全て含む行を検索する〕ボタン：下記のAND検索を行います。

〔キャンセル〕ボタン：検索を中止します。

〔OR検索について〕

OR検索では、指定されたキーワードを同時に探し、最も早く見つかったキーワードの位置に移動します。

複数のキーワードを指定するには、検索キーワードの入力欄で、各キーワードを2マス以上のマス空けで区切ります。

キーワードを指定してから、〔OR検索〕ボタンを押してください。

〔AND検索について〕

AND検索では、1データ行の中に、指定したキーワードが全て含まれている行を探して、その行内で第一キーワードが見つかった位置に移動します。

ここで、第一キーワードとは、複数のキーワードの中で、最初に指定されているキーワードです。

複数のキーワードを指定するには、検索キーワードの入力欄で、各キーワードを2マス以上のマス空けで区切ります。

キーワードを指定してから、〔AND検索〕ボタンを押してください。

〔コントロール+エンターキーの操作〕

この操作は、AND検索で、該当する行の一覧表を表示するためのショートカット操作です。

AND検索で、文書中の目的の行を急いで参照したい時にご使用ください。

B. 検索の方向を選択するウィンドウ

以下のボタンで、検索する方向を選択します。

「前を検索」は、現在のカーソル位置から、文書の先頭に向かって検索します。

「後ろを検索」は、現在のカーソル位置から、文書の末尾に向かって検索します。

「初めから検索」は、文書の先頭から、末尾に向かって検索します。

これらの検索でキーワードが見つかったら、その位置にカーソルを移動します。

「一覧表示」は、キーワードが見つかった行をリストで表示します。

〔2〕キーワードの置換

コントロール+Hを押して、キーワードの一括置換を開始した場合、次の3ステップで、置換前と置換後のキーワードと、置換する範囲を指定します。

C. 置換する点字文字列の指定ウィンドウ

指定した点字文字列を、別の文字列に置き換えます。

置換前の文字列を指定して、エンターキーを押してください。

前回指定したキーワードを参照するには、下矢印キーを押してください。

D. 置換後の点字文字列の指定ウィンドウ

点字文字列置換の2ステップ目です。

置換後の文字列を指定して、エンターキーを押してください。

E. 置換ウィンドウ

以下のボタンで、置換を行う範囲を選択します。

「前を置換」：文書の先頭から、現在のカーソル位置までの間で置換を行います。

「後ろを置換」：現在のカーソル位置から、文書の末尾までの間で置換を行いません。

4. 2. 6 点字編集でのジャンプ機能

点字の文書の中を移動する時、見出し行や、ブックマーク行などの行に付けられたマーク、段落や行区切りなどの行の特長を利用したジャンプ方法を利用できます。

〔見出し行の操作〕

今表示している行を見出し行に指定したり、前後の見出し行に移動できます。

コマンドキー+3, 4, 5の点: 見出し行に設定します。

コマンドキー+1, 2, 6の点: 見出し行設定を解除します。

コマンドキー+3, 4, 5, 6の点: 次の見出し行に移動します。

コマンドキー+1, 2, 3, 6の点: 前の見出し行に移動します。

コントロール+L: 見出し行一覧を表示します。

*見出し行を指定した文書は、ブレイルメモファイル形式 (.bmt)、またはBES形式 (.bes) で保存してください。

それ以外の形式では、見出し行の情報を保存できません。

〔ブックマーク行の操作〕

今表示している行をブックマーク行に指定したり、前後のブックマーク行に移動できます。

コントロール+B: ブックマーク行設定をオン/オフします。

コマンドキー+2, 3, 4, 5, 6の点: 次のブックマーク行に移動します。

コマンドキー+1, 2, 3, 5, 6の点: 前のブックマーク行に移動します。

コントロール+セレクト+L: ブックマーク行一覧を表示します。

*ブックマーク行を指定した文書は、ブレイルメモファイル形式 (.bmt) で保存してください。
それ以外の形式では、ブックマーク行の情報を保存できません。

〔段落に移動〕

前後の段落に移動できます。

コマンドキー+1, 4, 5, 6の点: 次の段落に移動します。

コマンドキー+1, 2, 3, 4の点: 前の段落に移動します。

〔行区切りに移動〕

空行で区切られたブロックの先頭に移動できます。

コマンドキー+1, 3, 4, 5, 6の点: 次の行区切りに移動します。

コマンドキー+1, 2, 3, 4, 6の点: 前の行区切りに移動します。

4. 2. 7 点字編集メニュー

点字編集ウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

メニュー項目は、クイックメモから開いた場合と、点字編集から開いた場合でほぼ同じですが、クイックメモから開いた場合は、ファイルを選択するコマンドは表示されません。

- (1) 「ファイル (F)」サブメニュー: ファイルの読み込みと保存に関する以下のコマンドがあります。
- 新規作成 (N), コントロール + N: 新しい文書を編集します。
 - 開く (O), コントロール + O: 既存の文書を開きます。
 - 最近使ったファイル (R), コントロール + R: 最近開いたファイルの一覧表から選択します。
 - 別ファイルの内容を挿入 (I): 既存のファイルの内容を、カーソル位置に挿入します。
 - 保存 (S), コントロール + S: 編集中の文書を保存します。
 - 名前を付けて保存 (A): 編集中の文書を選択したファイルに保存します。
 - お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: この文書をお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6)) =隠す
 - 点字印刷 (P): 編集中の文書を点字印刷します。(BMS 1 6は、ブルートゥース接続のみ) (簡単操作選択項目 A13) =隠す
 - この文書を削除する (D), オルト + デリートキー: 今開いているファイルを削除して、編集ウィンドウを閉じます。
 - 一つ前の文書(P), コントロール + セレクト + P: 今の文書の前に開いていた文書に戻ります。(プログラムの複数起動禁止の時)
 - もう一つ起動 (Y), コントロール + Y: もう一つ点字編集ウィンドウを開きます。(プログラムの複数起動許可の時)
 - 点字編集を閉じる (X): 点字編集ウィンドウを閉じて、メインウィンドウに戻ります。
- (2) 「編集 (E)」サブメニュー: 編集操作に関する以下のコマンドがあります。
- 元に戻す (U), コントロール + Z: 直前の編集操作を取り消します。
 - 次に進む (E): 直前に取り消した編集操作を再実行します。
 - コピー (C), コントロール + C: 選択中の範囲をクリップボードにコピーします。
 - 切り取り (T), コントロール + X: 選択中の範囲をクリップボードに移動します。
 - 貼り付け (P), コントロール + V: クリップボードに登録されている点字文書を、カーソル位置に貼り付けます。
 - 削除 (D): 選択中の範囲を削除します。クリップボードにはコピーされません。
 - 全て選択 (A), コントロール + A: 文書全体を選択します。

コントロール+M (1、3、4の点)：今のカーソル位置をマークします。
コントロール+J (2、4、5の点)：マーク位置に移動します。セレクトキーを組み合わせると、マーク位置までを範囲選択します。
ページ行の編集 (H)、コントロール + P: ページ行編集モードに入ります。
編集情報の表示、オルト + エンターキー: 編集位置と、この文書の情報を表示します。
タイムスタンプの挿入 (S): 現在の日付と時刻を挿入します。(簡単操作選択項目 D1)
=利用可能
編集禁止 (R)、コントロール+セレクト + R: 編集禁止設定をオン/オフします。

- (3) 「検索 (R)」サブメニュー: キーワード検索に関する以下のコマンドがあります。
新規検索 (K)、コントロール + F: 新しいキーワードを検索します。
前を検索 (P)、コマンドキー+2, 3, 6の点: 今のカーソル位置より前を検索します。
後ろを検索 (N)、コマンドキー+3, 5, 6の点: 今のカーソル位置より後ろを検索します。
初めから検索 (F)、コマンドキー+1, 3, 6の点: 文書の初めから検索します。
ファイルから検索 (D): 本文に指定したキーワードが含まれているファイルを探します。
一括置換 (S)、コントロール + H: カーソルより前または後ろにあるキーワードを、別のキーワードに置き換えます。
- (4) 「データ (D)」サブメニュー: データの名前や書式に関する以下のコマンドがあります。
文書名の編集 (T): 文書に付ける点字の名前を編集します。
書式設定 (F): 1ページの行数/マス数や、ページ行の有無を設定します。
見出し行に設定: 今表示している行の見出し行設定をオン/オフします。
ブックマーク行に設定、コントロール + B: 今表示している行のブックマーク設定をオン/オフします。
見出し行一覧、コントロール + L: 文書内の見出し行を一覧表示します。
ブックマーク行一覧、コントロール+セレクト + L: 文書内のブックマーク行を一覧表示します。
字下げ行一覧 (I): 文書内の字下げ行を一覧表示します。
段落結合表示 (P): 文書内の段落を、1行に結合して表示します。
目次の作成 (C): 目次データを作成して、クリップボードにコピーします。
行の設定 (L): 行が折り返された時の字下げを設定します。
- (5) 「移動 (M)」サブメニュー: 表示位置を移動する以下のコマンドがあります。
次の見出し行へ、コマンドキー+3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある見出し行に移動します。
前の見出し行へ、コマンドキー+1, 2, 3, 6の点: 今の表示位置より前にある見出し行に移動します。
次のブックマーク行へ、コマンドキー+2, 3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにあるブックマーク行に移動します。
前のブックマーク行へ、コマンドキー+1, 2, 3, 5, 6の点: 今の表示位置より前にあるブックマーク行に移動します。
次の段落へ、コマンドキー+1, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある段落に移動します。

- 前の段落へ, コマンドキー+1, 2, 3, 4の点: 今の表示位置より前にある段落に移動します。
- 次の行区切りへ, コマンドキー+1, 3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある空行で区切られたブロックに移動します。
- 前の行区切りへ, コマンドキー+1, 2, 3, 4, 6の点: 今の表示位置より前にある空行で区切られたブロックに移動します。
- 場所を指定して移動 (G), コントロール + G: 指定した行数、マス数に移動します。
- テーブルビューモード (M), コントロール + T: タブ区切りの表を編集するモードに入ります。(簡単操作選択項目 D2) =利用可能
- (6) 「ツール (T)」サブメニュー: 以下のコマンドがあります。
- ツリー型集計 (T), コントロール+セレクト + C: タブツリー内の数値項目を集計します。(簡単操作選択項目 D3) =利用可能
- 文書の比較 (D), コントロール+セレクト + D: 編集中の文書と、旧ファイルの内容を比較して、変更内容を表示します。(簡単操作選択項目 D4) =隠す
- 学習カード (C): ランダム出題で、答えを書いて覚えます。(簡単操作選択項目 D5) =利用可能
- タイムラインの表示 (M), コントロール+セレクト + M: 日付が指定されている行を、カレンダー順に表示します。(簡単操作選択項目 D6) =利用可能
- 予定の登録 (S): この文書、または選択範囲に含まれるタイムライン情報を、予定表に登録します。(簡単操作選択項目 D7) =隠す
- (7) 「読み上げ (C)」サブメニュー: 編集中の文書を読み上げるための以下のコマンドがあります。
- 文字読み, コマンドキー+3, 6の点: カーソル位置の文字を読み上げます。
- 単語読み, コマンドキー+2, 5の点: 前後のマス空けで区切られた範囲を読み上げます。
- 行読み, コマンドキー+1, 4の点: カーソルがあるレイアウト行を読み上げます。
- 文書の読み上げ, コマンドキー+1から6の点: カーソルを移動しながら、文書の内容を読み上げます。
- カーソル位置の読み上げ, コマンドキー+1, 5, 6の点: カーソルがある位置を読み上げます。
- (8) 「設定 (S)」サブメニュー: 点字編集ウィンドウの設定に関する以下のコマンドがあります。
- 点字編集の設定: 点字編集についての設定を行います。
- 自動点訳の設定: テキストデータを点訳する際に使用する設定を確認します。

4. 3 テキスト文書の編集

この節では、テキスト文書を編集する方法についてご説明します。

4. 3. 1 テキスト編集で利用できるファイル形式

本機では、テキストファイル、リッチテキストファイルを閲覧／編集できます。

また、本機の拡張機能として、マイクロソフト社のオフィス形式文書や、アドビシステム社のPDF文書の内容を閲覧できる機能を用意しています。

本機の拡張機能については、〈10. 1. 3 BMスマート拡張機能ライセンスについて〉をご参照ください。

〔対応しているテキストデータ形式と文字コード〕

本機で直接読み書きできるテキストデータの形式は、以下のとおりです。

- .txt…テキストファイル。
- .rtf…リッチテキストファイル。

テキストファイルは、次の文字コードに対応しています。

- シフトJISコード（標準）。
- ユニコード。
- ユニコード（ビッグエンディアン）。
- UTF8コード。
- UTF8コード（コード識別サインなし）。

（コード識別サインがないデータを読み込む場合、シフトJISコードとUTF8コードを、可能な範囲で自動識別します）。

〔マイクロソフト社、オフィス形式ファイルの閲覧〕

以下の形式のファイルから、テキスト情報を抽出して閲覧できます。

ワード文書 *.doc, *.docx, *.docm

エクセルワークシート *.xls, *.xlsx, *.xlsm

パワーポイントプレゼンテーション *.ppt, *.pptx, *.pptm

パワーポイントスライドショー*.pps, .ppsx, .ppsm

これらの文書を開くと、その中のテキスト情報を抽出したものが、テキスト編集ウィンドウに表示されます。

テキスト抽出したデータのファイル名は、元のファイル名に、拡張子、.txt、または.rtf が追加されたものになります。

また、エクセルデータのシートや、パワーポイントデータのスライド毎に見出し行が挿入されていますので、見出し行一覧の機能で、目的の場所に移動できます。

〔アドビシステム社、PDF形式ファイルの閲覧〕

PDF形式のファイルからも、テキスト情報を抽出して閲覧できます。

対応しているPDFデータのバージョンは、Ver1.0～Ver1.7です。

ただし、以下のようなPDF文書からはテキスト情報を抽出できません。

- (1) PDF文書の中には、テキストの印刷イメージを画像として保存しているものがあります。本機では、このような文書からはテキスト情報を抽出できません。
- (2) 公式なPDF文書の中には、改ざんを防ぐために暗号化されていたり、アクセスが制限されているものがあります。このような文書も、本機ではテキスト抽出できません。この場合は、アドビシステム社が提供するパソコン用のフリーソフトウェア Acrobat Reader などを使用して、内容を閲覧してください。
- (3) PDF文書では、各言語により、さまざまな文字セットやフォントを利用できるようになっていますが、本機で対応しているのは、日本語のPDF文書です。その他の言語で作成された文書を開くことはできません。
- (4) PDF文書の中には、複雑にレイアウトされているものや、数式などを含むものがあります。レイアウトが複雑な文書からテキスト抽出した場合、内容が正しく読み取れない場合があります。

PDFからのテキスト抽出に成功すると、その内容が、テキスト編集ウィンドウに表示されます。テキスト抽出したデータのファイル名は、元のファイル名に、拡張子、**.txt** が追加されたものになります。

また、PDFファイルのページ毎に見出し行が挿入されていますので、見出し行一覧の機能で、目的のページに移動できます。

4. 3. 2 テキスト編集プログラム

(簡単操作選択項目)「A4 テキスト編集プログラム」＝利用可能

テキスト編集プログラムでは、記憶メディアに保存されているテキストファイルや、リッチテキストファイルを開いて、閲覧／編集できます。

目的の内容がどのファイルに書かれているか分からない時は、指定したキーワードを含むテキスト文書を、フォルダから検索して、開くことができます。

更に、点字ファイルを選択し、その内容をかな変換して編集することもできます。

テキスト編集プログラムを起動するには、メインウィンドウの「テキスト編集」項目を選択して、エンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとT (2・3・4・5の点)を押します。

すると、まず、テキストファイルの選択ウィンドウが開きます。

このウィンドウからの操作で、最初に関くテキスト文書を選択してください。

すると、その内容で、テキスト編集ウィンドウが開きます。

〔A〕テキストファイルの選択ウィンドウ

ここでは、編集する文書を新規に作成するか、または、既存の文書をどのように選ぶかを選択します。

以下のボタンの中から選択してください。

〔新規メモファイルを作成する〕(オルト+N)：内蔵SDメモリー内の「マイドキュメント」フォルダに、自動生成したファイルを編集します。作られるファイル名は、「メモ テキスト」で始まります。

〔マイドキュメントの内容を表示〕(オルト+M)：内蔵SDメモリー内の「マイドキュメント」フォルダを表示します。ここから、既存のファイルを開くか、新しいファイルを作

って編集できます。

[アプリフォルダ (BMS_TextData) の内容を表示] : 接続されている記憶メディアの、アプリフォルダを表示します。ここから、既存のファイルを開くか、新しいファイルを作って編集できます。

[ファイル一覧を表示] (オルト+F) : 最近ファイルを開いたフォルダを表示します。ここから、既存のファイルを選ぶか、新しいファイルを作って編集できます。

[履歴一覧を表示] (オルト+R) : 最近開いたファイルの一覧表を表示します。ファイルを履歴から開くと、文書内の最後に編集していた位置が表示されます。

[ファイルから検索] (オルト+E) : 指定したキーワードをファイルから検索し、キーワードが見つかったファイルを開きます。

[点字ファイルから変換] (オルト+T) : 点字ファイルの内容をかなテキストに変換して表示します。

[新規メモファイルを作成する] を選択すると、すぐにテキスト編集ウィンドウが開きます。

それ以外の方法を選択すると、更に、ファイルや履歴を選択するウィンドウが開きます。

ファイルを選択するウィンドウの操作については、〈2. 2. 1 [A] ファイル選択ウィンドウ〉の項を参照してください。

また、履歴から選択するウィンドウの操作については、〈2. 2. 1 [B] 履歴一覧ウィンドウ〉の項を参照してください。

〔B〕ファイルから検索する

テキストファイルの選択ウィンドウで、[ファイルから検索] ボタンを押すと、指定したキーワードを含むファイルを、フォルダから検索して、開くことができます。

この場合、以下のウィンドウが、順に表示されます。

- A. 「テキストキーワード検索ウィンドウ」: 検索したいキーワードを指定します。
- B. 検索するフォルダの選択ウィンドウ: ファイルを検索するフォルダを指定します。
- C. 検索結果の表示ウィンドウ: すると、検索が実行されて、見つかったファイルが、フォルダ毎に表示されます。

検索結果から、ファイルの項目を選択して、エンターキーを押すと、そのファイルが開きます。

4. 3. 3 テキスト編集ウィンドウの基本操作

このウィンドウでは、テキストファイルとリッチテキストファイルを編集できます。

編集した内容をファイルに上書き保存するには、コントロールキー+Sを押します。

編集が終わったら、コマンドキー+Zを押して、ウィンドウを閉じます。

この文書がもう不要になった場合は、ウィンドウを開いたままでオルトキー+デリートキーを押してください。確認の上、ファイルを削除して、ウィンドウを閉じます。

文書内を移動するには、次のように操作します。

上矢印キー (コマンドキー+1の点) : 前の行に移動します。

下矢印キー (コマンドキー+4の点) : 次の行に移動します。

コントロール+左矢印キー (コマンドキー+2の点) : 前の単語に移動します。

コントロール+右矢印キー (コマンドキー+5の点) : 次の単語に移動します。

左矢印キー (コマンドキー+3の点) : 前のマスに移動します。

右矢印キー（コマンドキー+6の点）：次のマスに移動します。
 ホームキー（コマンドキー+1，3の点）：行の先頭に移動します。
 エンドキー（コマンドキー+4，6の点）：行の末尾に移動します。
 ページアップキー（コマンドキー+2，3の点）：前のページに移動します。
 ページダウンキー（コマンドキー+5，6の点）：次のページに移動します。
 コントロール+ホームキー（コマンドキー+1，2，3の点）：文書の先頭に移動します。
 コントロール+エンドキー（コマンドキー+4，5，6の点）：文書の末尾に移動します。
 タッチカーソルキー：カーソルを、対応するマスに移動します。カーソル位置のタッチカーソルキーを押すと、詳細読みを点字表示します。
 コマンドキー+1，4の点：行の内容を読み上げます。
 コマンドキー+1から6の点：カーソルを移動しながら、文書を読み上げます。
 コマンドキー+1，5，6の点：今のカーソル位置を表示します。
 コントロール+セレクト+R：編集禁止設定をオン/オフします。
 オルト+エンターキー：「編集情報」を表示します。

4. 3. 4 文字入力

次の操作で、点字キーからの入力の状態を変更できます。

コマンドキー+1，6の点：現在の入力モードを読み上げます。

コマンド+左親指キー：キー入力モードと、直接文字入力モードの切り換え

コマンド+右親指キー：キー入力モードでの、漢字変換(IME)のオン/オフ
 (簡単操作選択項目)「C1 日本語漢字変換」=オン

キー入力モードは、一般のキーボードと同様に、半角英数字を入力します。漢字やひらがなを入力する時は、かな漢字変換を使います。

直接文字入力モードは、半角/全角の文字種を指定して、直接文字を入力できます。かな漢字変換を使わずに、ひらがな/カタカナを入力できます。

初期状態はキー入力モードです。

キー入力モードでは、以下の操作で、カナ入力/英数字入力を変更します。

右親指+4，6の点：カタカナモード

右親指+5，6の点：英数字モード

右親指+6の点：キャップス(大文字)モード

直接文字入力モードでは、以下の操作で、文字の種類を変更します。

右親指+ヒ：全角ひらがなモード

右親指+カ：全角カタカナモード

右親指+4，6の点：半角カタカナモード

右親指+4，5の点：全角小文字モード

右親指+4の点：全角大文字モード

右親指+5，6の点：半角小文字モード

右親指+6の点：半角大文字モード

4. 3. 5 テキスト編集での編集操作

テキスト編集ウィンドウで、コピーや削除などの編集操作を行うには、対象範囲を指定するために、まず「範囲選択」を行います。

範囲選択するには、シフトキー（表示の送り・戻しキー、セレクトキーのどれか）を押しながら、タッチカーソルキーや矢印キーなどで選択したい範囲を移動します。

範囲選択できたら、次の中から、目的の操作を行います。

デリートキー: カーソル位置にある1文字を削除します。範囲選択されている時は、選択範囲を削除します。

バックスペースキー: カーソルの左側にある1文字を削除します。範囲選択されている時は、選択範囲を削除します。

コントロール+C: 選択範囲をコピーして、クリップボードに登録します。

コントロール+X: 選択範囲を切り取り、クリップボードに登録します。

コピーや切り取りを行った場合は、目的の場所に移動して、更に以下のコマンドを実行します。

コントロール+V: クリップボードに登録されている文字列を、カーソル位置に貼り付けます。

範囲選択されている時は、選択範囲の内容を、クリップボードの文字列で置き換えます。

クリップボードに点字の文字列が登録されている時は、自動的に、かなに変換されます。

操作の結果が、思うようにならなかった時は、次のコマンドを実行します。

コントロール+Z: 直前に行った編集操作を取り消します。

4. 3. 6 テキストキーワード検索と置換

キーワードを検索するには、次のように操作します。

(1) 検索キーワードを指定して、検索を開始するには、コントロール+Fを押します。

すると、検索するキーワードと、方向を指定するために、以下のウィンドウが、順に表示されます。

A. テキストキーワード検索ウィンドウ

B. 検索の方向を選択するウィンドウ

(2) 後ろ方向を検索するには、コマンドキー+3, 5, 6の点を押します。

(3) 前方向を検索するには、コマンドキー+2, 3, 6の点を押します。

(4) 文書の先頭から検索するには、コマンドキー+1, 3, 6の点を押します。

(5) 指定したキーワードを一括置換するには、コントロール+Hを押します。

すると、置換するキーワードと、方向を指定するために、以下のウィンドウが、順に表示されます。

C. 置換するテキスト文字列の指定ウィンドウ

D. 置換後のテキスト文字列の指定ウィンドウ

E. 置換ウィンドウ

〔1〕新規検索

コントロール+Fを押して、新規検索を開始した場合、次の2ステップで、検索するキーワードと、検索の方法を指定します。

A. テキストキーワード検索ウィンドウ

テキスト文字列を検索します。

検索するキーワードを指定して、エンターキーを押してください。

下矢印キーを押すと、これまでに指定したキーワードを参照できます。

正規表現を使ったあいまい検索をするには、「正規表現を使用して検索する」をチェックします。

英語の大文字／小文字、ひらがなとカタカナ、全角文字と半角文字などを区別して検索するには、以下のチェックボックスをチェックします。

「大文字と小文字を区別する」のチェックボックス：ここをチェックしない場合、半角文字、全角文字の大文字と小文字を同一視して検索します。

「英数字の全角と半角を区別する」のチェックボックス：ここをチェックしない場合、半角文字と全角文字を同一視して検索します。

「ひらがなとカタカナを区別する」のチェックボックス：ここをチェックしない場合、ひらがなとカタカナを同一視して検索します。

〔正規表現で使える記号〕

「正規表現を使用して検索する」をチェックすると、以下の記号（メタ文字）を使った正規表現検索が利用できます。

ピリオド . 任意の文字に一致。 使用例：'()'

大括弧 [] 中で指定した文字に一致。 使用例：'[0123456789]'、または'[0-9]'

大括弧, べき乗 [^] 中で指定しなかった文字に一致。 使用例：'^[0-9]章'

クエスチオン ? 0回、または1回の繰返し。 使用例：'祝祭?日'

アスタリスク * 0回以上の繰返し。 使用例：'田中*様'

プラス + 1回以上の繰返し。 使用例：'第+章'

べき乗 ^ 行頭のみ。 使用例：'^*第'

ドル \$ 行末のみ。 使用例：'~\$'

中括弧, 縦線 {} 複数同時検索。 使用例：'{けんさく|検索|search}'

エンマーク ¥ メタ文字を通常文字として使う。 使用例'¥*¥.txt'

B. 検索の方向を選択するウィンドウ

以下のボタンで、検索する方向を選択します。

「前を検索」は、現在のカーソル位置から、文書の先頭に向かって検索します。

「後ろを検索」は、現在のカーソル位置から、文書の末尾に向かって検索します。

「初めから検索」は、文書の先頭から、末尾に向かって検索します。

これらの検索でキーワードが見つかったら、その位置にカーソルを移動します。

「一覧表示」は、キーワードが見つかった行をリストで表示します。

〔2〕 キーワードの置換

コントロール+Hを押して、キーワードの一括置換を開始した場合、次の3ステップで、置換前と置換後のキーワードと、置換する範囲を指定します。

C. 置換するテキスト文字列の指定ウィンドウ

指定したテキスト文字列を、別の文字列に置き換えます。

置換前の文字列を指定して、エンターキーを押してください。

下矢印キーを押すと、これまでに指定したキーワードを参照できます。

正規表現を使った置換をするには、「正規表現を使用して検索する」をチェックします。

英語の大文字／小文字の違いを区別して検索するには、以下のチェックボックスをチェックします。

「大文字と小文字を区別する」のチェックボックス：ここをチェックしない場合、半角文字、全角文字の大文字と小文字を同一視して検索します。

「英数字の全角と半角を区別する」のチェックボックス：ここをチェックしない場合、半角文字と全角文字を同一視して検索します。

「ひらがなとカタカナを区別する」のチェックボックス：ここをチェックしない場合、ひらがなとカタカナを同一視して検索します。

〔正規表現で使える記号〕

「正規表現を使用して検索する」をチェックすると、以下の記号（メタ文字）を使った正規表現検索が利用できます。

ピリオド `.` 任意の文字に一致。 使用例：`'(.)'`

大括弧 `[]` 中で指定した文字に一致。 使用例：`'[0123456789]'`、または`'[0-9]'`

大括弧、べき乗 `[^]` 中で指定しなかった文字に一致。 使用例：`'[^\0-9]章'`

クエスション `?` 0回、または1回の繰返し。 使用例：`'祝祭?日'`

アスタリスク `*` 0回以上の繰返し。 使用例：`'田中.*様'`

プラス `+` 1回以上の繰返し。 使用例：`'第.+章'`

べき乗 `^` 行頭のみ。 使用例：`'^.*第'`

ドル `$` 行末のみ。 使用例：`'\$'`

中括弧、縦線 `{|}` 複数同時検索。 使用例：`'{けんさく|検索|search}'`

エンマーク、括弧 `\(\)` 一致した文字列の保存。 使用例：`'第\(.+\)章'` 〈置換前文字列〉

エンマーク、数字 `\1 - \9` 保存した文字列の参照。 使用例：`'セクション \1'` 〈置換後文字列〉

エンマーク `\` メタ文字を通常文字として使う。 使用例`'*#.txt'`

D. 置換後のテキスト文字列の指定ウィンドウ

テキスト文字列置換の2ステップ目です。

置換後の文字列を指定して、エンターキーを押してください。

下矢印キーを押すと、これまでに指定したキーワードを参照できます。

E. 置換ウィンドウ

以下のボタンで、置換を行う範囲を選択します。

「前を置換」：文書の先頭から、現在のカーソル位置までの間で置換を行います。

「後ろを置換」：現在のカーソル位置から、文書の末尾までの間で置換を行いません。

4. 3. 7 テキスト文書のレイアウト機能

レイアウト機能は、リッチエディット形式のファイル (.rtf) を開いている時使用できます。
 コマンドキー+3, 4の点: カーソルのある段落のレイアウト情報を読み上げます。
 コマンドキー+3, 4, 6の点: カーソルの左側の文字のフォントを読み上げます。

4. 3. 8 テキスト編集でのジャンプ機能

テキスト文書の中を移動する時、見出し行や、ブックマーク行などの行に付けられたマーク、段落や行区切りなどの行の特長を利用したジャンプ方法を利用できます。

〔見出し行の操作〕

次の見出し行機能が利用できます。

コマンドキー+3, 4, 5の点: リッチエディットファイルを編集している時、カーソル行を見出し行に設定します。テキストファイルでは、行頭に#を入力してください。

コマンドキー+1, 2, 6の点: リッチエディットファイルを編集している時、カーソル行の見出し行設定を解除します。

コマンドキー+3, 4, 5, 6の点: 次の見出し行に移動します。

コマンドキー+1, 2, 3, 6の点: 前の見出し行に移動します。

コントロール+L: 見出し行一覧を表示します。

〔ブックマーク行の操作〕

行頭に次の記号とスペースで印が付けられた行をブックマーク行として扱います。

* / + - = . ? !

コマンドキー+2, 3, 4, 5, 6の点: 次のブックマーク行に移動します。

コマンドキー+1, 2, 3, 5, 6の点: 前のブックマーク行に移動します。

コントロール+セレクト+L: ブックマーク行一覧を表示します。

〔段落に移動〕

前後の段落に移動できます。

コマンドキー+1, 4, 5, 6の点: 次の段落に移動します。

コマンドキー+1, 2, 3, 4の点: 前の段落に移動します。

〔行区切りに移動〕

空行で区切られたブロックの先頭に移動できます。

コマンドキー+1, 3, 4, 5, 6の点: 次の行区切りに移動します。

コマンドキー+1, 2, 3, 4, 6の点: 前の行区切りに移動します。

4. 3. 9 先になで書いた文書を、後で漢字に直す

(簡単操作選択項目)「C1 日本語漢字変換」=オン

点字入力で、新しい文章を書く時、最初から漢字を選択しながら文章を作っていくのは、とても大変です。

漢字を選ぶ時に、今書いている文章と関係のない言葉が、詳細読みの説明として耳から入って来

てしまうと、書いている文章になかなか集中できません。

そこで、先になかで文章を書いてしまい、後から漢字に直せる方法を用意しました。

次のように操作してみてください。

- (1) まず、かなで文章を書きます。

適当な長さでスペースをはさみながら、かなで文章を書いて行きます。

(例)「ひらがな、カタカナの わがちがきで、ブンショウラ さくせいします。」

この時、助詞の「は」や「へ」、長音を含む単語は、墨字のかな表記法で入力してください。

(例)「わたしは とうきょうへ いきます。」

このように、文節単位で区切っておくと、後で楽に漢字に直せます。

- (2) 次に、書いた文章を漢字にしてみます。

漢字に直したい文章の先頭にカーソルを移動してください。

- (3) そこで、次のコマンドを実行します。

メニュー → 編集 → 連続再変換コマンド

(ショートカットキー=コマンドキー+1,2,5,6の点)

日本語変換がオフになっている場合は、次のメッセージが表示されますので、はい(Y)を入力して、ください。

「日本語変換をオンにして、連続再変換を始めますか？」

- (4) すると、最初の文節の変換が始まり、変換候補が表示されます。

ここでの操作は、通常のかな漢字変換と同じです。

スペースキーや、上下矢印キーで変換候補を選択し、エンターキーで確定します。

また、エスケープキーを押すと、変換を取り消すことができます。

- (5) 変換を実行、または中止すると、カーソルは、自動的に次の文節に進みます。

正しい変換候補が表示された所で、エンターキーの代わりに左右親指キーを押すと、そのまま、次の分節の変換に進みます。

- (6) もちろん、途中で文章を書き換えることもできますし、コマンドキー+スペースキーを押して、日本語変換をオフにすることもできます。

4. 3. 10 郵便番号と住所の検索機能

(簡単操作選択項目)「D8 住所の検索機能」=利用可能

この機能は、郵便局の住所データベースから、郵便番号や住所を検索します。テキスト編集ウィンドウで利用できます。

郵便番号、住所の一部、住所の読み方の一部から検索可能です。

〔使い方〕

- (1) 編集集中の文書で、住所を挿入したい場所に、カーソルを移動します。

- (2) 次のコマンドを実行します。

メニュー → ツール → 住所の検索

- (3) すると、住所検索の編集ウィンドウが開きます。

ここで、検索したい情報(郵便番号(半各数字7桁)、住所の一部、住所の読み方の一部(半角カタカナ)のどれか)を入力します。

- (4) すると、該当項目のリストが表示されます。

目的の項目を選択してエンターキーを押すと、郵便番号と住所が、本文に挿入されま

す。

エスケープキーを押すと、上記（3）に戻ります。

再度エスケープキーを押すと、コマンドをキャンセルします。

4. 3. 11 テキスト編集メニュー

テキスト編集ウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

- (1) 「ファイル (F)」サブメニュー: ファイルへの読み書きに関する以下のコマンドがあります。
- 新規作成 (N), コントロール + N: 新しい文書を編集します。
 - 開く (O), コントロール + O: 既存の文書を開きます。
 - 最近使ったファイル (R), コントロール + R: 最近開いたファイルの一覧表から選択します。
 - 別ファイルの内容を挿入 (I): 既存のファイルの内容を、カーソル位置に挿入します。
 - 保存 (S), コントロール + S: 編集中の文書を保存します。
 - 名前を付けて保存 (A): 編集中の文書を選択したファイルに保存します。
 - テキスト保存時の文字コード (C): この文書をテキスト形式で保存する時に使用する文字コードを選択します。
 - お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: この文書をお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す
 - この文書を削除する (D), オルト + デリートキー: 今開いているファイルを削除して、編集ウィンドウを閉じます。
 - 一つ前の文書(P), コントロール + セレクト + P: 今の文書の前に開いていた文書に戻ります。(プログラムの複数起動禁止の時)
 - もう一つ起動 (Y), コントロール + Y: もう一つテキスト編集ウィンドウを開きます。(プログラムの複数起動許可の時)
 - テキスト編集ウィンドウを閉じる (X): テキスト編集ウィンドウを閉じて、メインウィンドウに戻ります。
- (2) 「編集 (E)」サブメニュー: 編集操作に関する以下のコマンドがあります。
- 元に戻す (U), コントロール + Z: 直前の編集操作を取り消します。
 - 次に進む (E): 直前の「元に戻す」を取り消します。
 - コピー (C), コントロール + C: 選択中の範囲をクリップボードにコピーします。
 - 切り取り (T), コントロール + X: 選択中の範囲をクリップボードに移動します。
 - 貼り付け (P), コントロール + V: クリップボードに登録されているテキストを、カーソル位置に貼り付けます。
 - 削除 (D): 選択中の範囲を削除します。クリップボードにはコピーされません。
 - 全て選択 (A), コントロール + A: 文書全体を選択します。
 - 連続再変換, コマンドキー+1, 2, 5, 6の点: 分かち書きされた、カーソルの右側の単語を再変換します。
 - 編集情報の表示, オルト + エンターキー: 編集位置と、この文書の情報を表示します。
 - タイムスタンプの挿入 (S): 現在の日付と時刻を挿入します。(簡単操作選択項目 D1) =利用可能
 - 編集禁止 (R), コントロール+セレクト + R: 編集禁止設定をオン/オフします。
- (3) 「検索 (R)」サブメニュー: キーワード検索に関する以下のコマンドがあります。
- 新規検索 (K), コントロール + F: 新しいキーワードを検索します。

- 前を検索 (P), コマンドキー+2, 3, 6の点: 今のカーソル位置より前を検索します。
後ろを検索 (N), コマンドキー+3, 5, 6の点: 今のカーソル位置より後ろを検索します。
- 初めから検索 (F), コマンドキー+1, 3, 6の点: 文書の初めから検索します。
ファイルから検索 (D): 本文に指定したキーワードが含まれているファイルを探します。
一括置換 (S), コントロール +H: カーソルより前または後ろにあるキーワードを、別のキーワードに置き換えます。
- (4)「書式 (O)」サブメニュー: 文書の見出しやレイアウトに関する以下のコマンドがあります。
- 見出し行に設定: 今表示している行の見出し行設定をオン/オフします。
見出し行一覧, コントロール +L: 見出し行の階層を表示します。
標準フォント (S): 文字の大きさや書体を記憶している値に戻します。
文字フォント設定 (F): 文字の大きさや書体を設定します。
段落設定 (P): 段落の整列とインデントを設定します。
右端で折り返す (W): ウィンドウの右端で行を折り返して表示する設定です。
- (5)「移動 (M)」サブメニュー: 表示位置を移動する以下のコマンドがあります。
- 次の見出し行へ, コマンドキー+3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある見出し行に移動します。
前の見出し行へ, コマンドキー+1, 2, 3, 6の点: 今の表示位置より前にある見出し行に移動します。
ブックマーク行一覧, コントロール+セレクト +L: ブックマーク行の階層を表示します。
次のブックマーク行へ, コマンドキー+2, 3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにあるブックマーク行に移動します。
前のブックマーク行へ, コマンドキー+1, 2, 3, 5, 6の点: 今の表示位置より前にあるブックマーク行に移動します。
次の段落へ, コマンドキー+1, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある段落に移動します。
前の段落へ, コマンドキー+1, 2, 3, 4の点: 今の表示位置より前にある段落に移動します。
次の行区切りへ, コマンドキー+1, 3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある空行で区切られたブロックに移動します。
前の行区切りへ, コマンドキー+1, 2, 3, 4, 6の点: 今の表示位置より前にある空行で区切られたブロックに移動します。
場所を指定して移動 (G), コントロール +G: 指定した行数、マス数に移動します。
タブツリー表示 (T), コントロール+セレクト +T: 文書を行頭のタブの数でツリー表示します。
テーブルビューモード (M), コントロール +T: タブ区切りの表を編集するモードに入ります。(簡単操作選択項目 D2) =利用可能
- (6)「ツール (T)」サブメニュー: 以下のコマンドがあります。
- ツリー型集計 (T), コントロール+セレクト +C: タブツリー内の数値項目を集計します。(簡単操作選択項目 D3) =利用可能
文書の比較 (D), コントロール+セレクト +D: 編集中的文書と、旧ファイルの内容を比較して、変更内容を表示します。(簡単操作選択項目 D4) =隠す

- 学習カード (C): ランダム出題で、答えを書いて覚えます。(簡単操作選択項目 D5) = 利用可能
- タイムラインの表示 (M), コントロール+セレクト + M: 日付が指定されている行を、カレンダー順に表示します。(簡単操作選択項目 D6) = 利用可能
- 予定の登録 (S): この文書、または選択範囲に含まれるタイムライン情報を、予定表に登録します。(簡単操作選択項目 D7) = 隠す
- 住所の検索 (A): 郵便番号から住所を検索して、カーソル位置に挿入します。(簡単操作選択項目 D8) = 利用可能
- (7) 「読み上げ (C)」サブメニュー: 編集中の文書を読み上げるための以下のコマンドがあります。
- 文字読み, コマンドキー+3, 6の点: カーソル位置の文字を読み上げます。
- 単語読み, コマンドキー+2, 5の点: 前後のマス空けで区切られた範囲を読み上げます。
- 行読み, コマンドキー+1, 4の点: カーソルがあるレイアウト行を読み上げます。
- 文書の読み上げ, コマンドキー+1から6の点: カーソルを移動しながら、文書の内容を読み上げます。
- 段落書式の読み上げ, コマンドキー+3, 4の点: カーソルがある段落の書式を読み上げます。
- 文字フォントの読み上げ, コマンドキー+3, 4, 6の点: カーソルがある文字のフォントを読み上げます。
- カーソル位置の読み上げ, コマンドキー+1, 5, 6の点: カーソルがある位置を読み上げます。
- (8) 「設定 (S)」サブメニュー: テキスト編集ウィンドウの設定に関する以下のコマンドがあります。
- テキスト編集の設定: テキスト編集についての設定を行います。
- 点字・テキスト変換の設定: 点字データをかなテキストデータに変換する際に使用する設定を確認します。

4. 4 点字編集とテキスト編集で共通の機能

この節では、点字編集とテキスト編集で共通に利用できる、各種の付加的な機能についてご説明します。

4. 4. 1 ファイルから検索する

キーワードを、編集中のファイル以外から検索したい場合は、次のコマンドを実行します。なお、このコマンドは、クイックメモからは利用できません。

点字編集メニュー → 検索(R) → ファイルから検索(D)

テキスト編集メニュー → 検索(R) → ファイルから検索(D)

すると、以下のウィンドウが、順に表示されます。

A. 検索するキーワードの指定ウィンドウ

「点字キーワード検索ウィンドウ」、または「テキストキーワード検索ウィンドウ」が開きます。

これらのウィンドウの操作については、以下の項目を参照してください。

〈4. 2. 5 点字キーワード検索と置換〉

〈4. 3. 6 テキストキーワード検索と置換〉

- B. 検索するフォルダの選択ウィンドウ
- C. 検索結果の表示ウィンドウ

B. 検索するフォルダの選択ウィンドウ

このウィンドウでは、検索するフォルダを指定します。

「参照」ボタンを押すと、「フォルダの選択」ウィンドウを使って、フォルダを選択できます。サブフォルダの中のファイルも検索したい時は、「サブフォルダも検索」をチェックします。ファイルマスクには、検索を行うファイルの種類を指定します。

C. 検索結果の表示ウィンドウ

このウィンドウが開くと、これまでに検索したファイル数と、その中でキーワードが見つかったファイル数が表示されます。

タブキーを押すと、検索で見つかったファイルを表示する階層リストに移動します。

ここでは、ファイルの項目と、それを含むフォルダの項目が表示されます。フォルダの項目は、右矢印キーで展開し、左矢印キーで折りたたみます。

ファイルの項目でエンターキーを押すと、検索を中止して、そのファイルの内容を表示します。コントロールキーを組み合わせると、別のウィンドウで、そのファイルを開きます。

ファイルを選んでから、「見つかった内容」ボタンを押すと、そのファイルの中でキーワードが見つかった行の一覧を表示します。

4. 4. 2 ブロックの登録／挿入機能

(簡単操作選択項目)「C2 ブロック登録／挿入機能」=オフ

ブロック登録・挿入機能は、予め登録しておいたテキストや点字のブロック（文字列）を、編集中の文書の中に簡単に挿入できる機能です。

クリップボードと同じような機能ですが、点字1文字のマークを付けて、最大252種類までのブロックを登録しておくことができます。

点字のマークには、1～6の点を含んだ6点点字、8点点字が使用できます。

テキスト編集ウィンドウではテキストの文字列、点字編集ウィンドウでは点字の文字列を記憶でき、両者では同じマークで別の内容を保存しておくことができます。

〔操作方法〕

- (1) ブロックの登録：登録したい内容を選択してから、コマンドキー+2,6の点、点字マークの2ストロークを入力します。この操作により、選択範囲の文字列が、指定したマークで記憶されます。
- (2) ブロックの追加登録：登録済みのブロックに追加したい内容を選択してから、セレクトキー+コマンドキー+2,6の点、点字マークの2ストロークを入力します。この操作により、指定したマークで記憶されていた内容に、選択範囲の文字列が追加されます。
- (3) ブロックの変更許可、追記専用、変更禁止の切り替え：コマンドキー+2,5,6の点、点字マークの2ストロークを入力します。セレクトキーを併せて押すと、設定を逆順で変更できます。変更禁止に設定されたマークでは、上記の(1)(2)の操作をしても、記憶されている

内容が上書きされることはありません。

追記専用設定されているマークでは、上記の(1)の操作をしても、(2)の操作をした場合と同じように、新しい内容がそれまでの内容に追加されます。

- (4) 挿入：コマンドキー+3,5の点、点字マークの2ストロークを入力します。
この操作により、指定したマークで記憶されていた内容が、現在のカーソル位置に挿入されます。
- (5) ブロックの編集：コマンドキー+2,3,5の点、点字マークの2ストロークを入力します。
この操作で、新しいテキスト編集ウィンドウか点字編集ウィンドウが開き、登録済みのブロックの内容を編集できます。

まだ登録されていないマークを指定した場合は、次のようなメッセージが表示されます。

「ブロックが登録されていません。新たに編集しますか？」

指定したマークで、新しい内容を編集したい時は、エンターキーを押してください。エスケープキーを押すと、編集を中止します。

〔この機能が利用できるウィンドウ〕

テキスト編集ウィンドウでは、テキストブロックを登録・挿入できます。

点字編集ウィンドウでは、点字ブロックを登録・挿入できます。

点字ディスプレイプログラムでは、テキストブロックを接続先のPCのクリップボードに登録したり、その内容を取得して記憶できます。

接続先のPCのクリップボードに登録した後は、PC側で貼り付けコマンドを実行してください。

〔ブロック挿入で使用できるコマンド〕

ブロック挿入機能では、指定した文字列を貼り付けるだけでなく、以下のような機能が利用できます。

(1) 項目を選んで挿入する

ブロック内の各行に、選択肢を書いて置き、挿入時に、リストから目的の文字列を選択して挿入できます。

この機能を利用するには、ブロックの先頭行に以下のキーワードを指定し、2行目以降に、各選択肢を指定します。

\$select: <プロンプト文字列>

\$select2: <プロンプト文字列>

(点字の場合、\$は5,6の点、1,4,5,6の点の2マス、最後のコロンは、5の点、2の点の2マスです)。

「\$select2:」の場合、各選択肢の、先頭から始めのタブまたは2マス空けまでは、選択肢の名前と見なし、それより後ろの部分が挿入されます。

(2) 日付や時刻を挿入する

ブロックの中に、次のキーワードを書いておくと、今の日付や時刻を挿入できます。

\$year; (年：4桁) \$year2; (年：2桁)

\$month; (月：1桁、または2桁) \$month2; (月：2桁)

\$day; (日：1桁、または2桁) \$day2; (日：2桁)

\$hour; (時：1桁、または2桁) \$hour2; (時：2桁)

\$minute; (分：1桁、または2桁) \$minute2; (分：2桁)

\$second; (秒：1桁、または2桁) \$second2; (秒：2桁)

(点字のみ) \$jday: (日: かな点字表記)

\$jyoubi: (曜日)

\$gengou: (平成) \$gengounen: (年: 平成)

\$yweek: (今年の第何週) \$mweek: (今月の第何週)

〔指定例〕

\$gengou:\$gengounen:年\$month:月\$day:日 (\$jyoubi:) \$hour:時\$minute:分\$second:
秒

平成 29 年 1 月 6 日 (金曜) 8 時 26 分 9 秒

\$year2:/\$month2:/\$day2: \$hour2:.\$minute:.\$second2:

17/01/06 08:26:09

\$year:年の第\$yweek:週

2017 年の第 1 週

\$year:年\$month:月の第\$mweek:週

2017 年 1 月の第 1 週

4. 4. 3 タイムライン表示

(簡単操作選択項目) 「D6 タイムラインの表示機能」 = 利用可能

タイムライン表示機能は、編集中のテキスト文書や点字文書の中で、日付、または日付と時刻が指定されている行を探して、カレンダー順に一覧表示する機能です。

テキスト文書や点字文書で、見出し行が指定されている場合は、タイムラインが含まれている見出し名も表示されます。

(テキスト文書で見出し行を指定するには、# で始まる行を挿入してください)。

この機能を利用するには、以下のコマンドを選択します。

メニュー → ツール → タイムラインの表示

範囲選択している時はその範囲内、範囲選択していない時は文書全体から探します。

タイムラインの一覧表から行を選択してエンターキーを押すと、本文の対応する行に移動できます。

この機能は、いろいろなスケジュールをフリーフォーマットで管理したい時に便利です。

〔日付と時刻の書式〕

日付や時刻は、以下の書式で書きます。

書式の説明の中にある Y,M,D,h,m,s の文字は、それぞれ年月日、時分秒の数字を表します。

また、{中括弧} で囲まれている範囲は省略可能です。

{YYYY/} MM/DD {(曜日)} {hh:mm {ss}}

{YYYY 年} MM 月 DD 日 {(曜日)} {hh 時 mm 分 {ss 秒}}

*年が 100 未満の場合は、20YY 年として扱います。

{HYY/} MM/DD {(曜日)} {hh:mm {ss}}

{平成 YY 年} MM 月 DD 日 {(曜日)} {hh 時 mm 分 {ss 秒}}

*点字文書の場合、一日～十日、二十日は、かな表記も可能です。

*年を省略した場合は、今年の日付として扱います。

ただし、それ以前に、年の指定行「[YYYY年...]」があれば、その年の日付とみなします。
点字文書の場合は、開きが5,6の点、2,3,5,6の点、閉じが2,3,5,6の点、2,3の点の括弧で年の指定を囲みます。

4. 4. 4 テーブルビュー

(簡単操作選択項目)「D2 テーブルビューモード機能」＝利用可能

本機には、テキスト文書や点字文書の中に書かれた2次元の表を参照するための「テーブルビュー」機能があります。

テーブルビューモードに入ると、表の中の項目の間を、矢印キーで移動し、移動先の項目を音声で読み上げます。

また、見出し行や見出し列にマークを付けておくと、表の中を移動した時、現在の項目に対応する見出しを読み上げます。

なお、この機能では、一つの項目内に複数行を含む表はサポートしていません。

〔表の例〕

次の例は、テキスト文書で作成した電話帳の例です。

この表は、5行4列の構成になっていて、各行に、一人分の、氏名、所属、電話番号、Eメールアドレスが記録されています。

テキスト文書で表を書く時は、項目と項目の間をタブで区切ります。

なお、この表はサンプルとして作成したもので、全て架空の内容です。

#*氏名	所属	電話番号	Eメール
田中一郎	イチゴ銀行	03-0123-4567	i.tanaka@ichigo.com
山田二郎	ロンドンデパート	0493-01-2345	j.yamada@rondon.co.jp
鈴木三郎	ハーブ学園	06-0123-7654	s.suzuki@herb.ac.jp
加藤四郎	ニンジンの会	090-0123-4567	s.kato@carrot.or.jp

〔操作方法〕

テーブルビュー機能を使用するには、テキスト編集ウィンドウ、または点字編集ウィンドウを開き、表が書かれた範囲にカーソルを移動してから、次のコマンドを実行します。

メニュー → 移動 → テーブルビューモード

(このコマンドのショートカットは、コントロールキー＋T (2,3,4,5の点) です)。

すると、テーブルビューモードに入り、その表の行数、列数を読み上げます。

項目の間を移動するには、上下左右の矢印キーを使います。

テーブルビューを終了するには、エスケープキーを押します。

表の内容を編集するには、一度テーブルビューを終了して、対応する項目を書き変えてから、再度テーブルビューモードに入ってください。

表の中の見出しの位置は、上の例のように、# (シャープ) や* (アスタリスク) の記号で指定します。

テキスト文書の中の表で見出し行を指定するには、行の先頭に# (シャープ) を書きます。

見出し行が指定されていると、表内を左右矢印キーで移動した時、見出し行の対応する項目を、列見出しとして読み上げます。

また、見出し列を指定するには、見出し行の対応する列の先頭に* (アスタリスク) を書きま

す。

見出し列が指定されていると、表内を上下矢印キーで移動した時、対応する列の項目を、行見出しとして読み上げます。

〔点字文書での表の書き方〕

点字文書の中で表を書く時は、項目と項目の間を、2マス空けて区切ってください。

見出し行を指定するには、行の先頭に星印（3,5の点2マスとマス空け）を書きます。

見出し行が指定されていると、表内を左右矢印キーで移動した時、見出し行の対応する項目を、列見出しとして読み上げます。

また、見出し列を指定するには、見出し行の対応する列の先頭にアスタリスク（1,6の点とマス空け）を書きます。

見出し列が指定されていると、表内を上下矢印キーで移動した時、対応する列の項目を、行見出しとして読み上げます。

4. 4. 5 学習カード

（簡単操作選択項目）「D5 学習カード機能」＝利用可能

学習カードは、用意した学習内容のリストを点字やテキストで読み書きしながら覚えていく、ランダム出題の学習支援機能です。

〔使い方〕

（1）点字編集ウィンドウ、またはテキスト編集ウィンドウを開きます。クイックメモでもOKです。

（2）覚えたい内容のリストを作成します。

各行に一題ずつ、問題、答え、ヒントを書いて行きます。

問題は、言葉を連想するための説明です。

答えは、覚えたい言葉です。

ヒントには、学習しながら一緒に参照したい情報を書きます。この項目は、省略可能です。

これらの項目の間は、テキストの場合はタブ、点字の場合は2マス空けて区切ります。

（3）カーソルをリストの先頭に移動してから、次のコマンドを実行します。

メニュー → ツール → 学習カード

（このコマンドを実行すると、文書内のカーソル位置より後ろの問題が、シャッフルされて読み込まれます。

特定の範囲の問題だけを読み込みたい場合は、その範囲を選択してからコマンドを実行してください。

（4）問題を読み込むと、「学習カードの答え方の選択」ウィンドウが開きます。

答え方：

第1列を読んで、第2列を答える。

第2列を読んで、第1列を答える。

第1列を書いて覚える。

第2列を書いて覚える。

これらの選択肢の中から、区切り文字で分割された部分の、何番目を学習したいかを選びます。

「書いて覚える」選択肢は、問題と答えが両方とも表示されるので、何かを覚え始める時に便利です。

選択肢を選び、エンターキーを押すと、「学習カード」ウィンドウが開きます。

〔学習カードウィンドウの操作〕

学習カードウィンドウには、問題、答え、ヒントの3個の表示欄があります。

これらの表示欄の間は、タブキーで移動します。

上下矢印キーを押すと、前後の問題に移動できます。

問題に答えるには、エンターキーを押します。

すると、入力欄が表示されますので、そこに答えを入力してください。

この状態でも、タブキーを押して、問題欄やヒント欄の内容を確認できます。

答えが正しければ、「正解」と発声して、次の問題に進みます。

答えが正しくなければ、「正解を確認してください。」と発声されて、正解が表示されます。

この場合は、正解を確認してエンターキーを押し、再度、答えを入力してください。

下矢印キーを押すと、間違えた自分の解答を確認できます。

間違えた問題は、後で再出題されます。

全ての問題に答えると、学習カードが終了します。

学習カードを中止するには、エスケープキーを押してください。

4. 4. 6 ツリー型集計機能

(簡単操作選択項目)「D3 ツリー型集計機能」＝利用可能

本機には、テキスト文書や点字文書の中に、ツリースタイルで書いた表を集計する機能があります。この機能は、家計簿をつけたり、旅費の計算のように文書内にメモした表を集計する時に便利です。

〔1〕ツリースタイルの表の書き方

集計したい行は、全て字下げして書きます。

字下げや、項目の区切りには、テキスト文書ではタブ、点字文書では2マスのマス空けを使います。

項目の中に含まれるサブ項目は、項目の行より1段字下げして書きます。

項目の右側には、区切り文字をはさんで、数値や計算式を書くことができます。

数値や式は、電卓機能と同じ要領で、半角の数字と記号で書いてください。

数値や式に単位などの文字列が続いていると、正しく計算できません。単位やコメントを付記したい場合も、間に区切り文字を挿入してください。

〔表の例1〕家計簿

4/01

交通費 880
食費 600+450
被服費 1500

4/02

食費 580
医療費 880

(この例では、第1レベルに日付、第2レベルに支出項目が書かれ、支出項目に数値が付記されています)。

〔表の例2〕旅費の計算

8/12

交通費 (東京～新大阪)
乗車券 8,750
特急券 4,870
宿泊費 8,500

8/13

交通費 (新大阪～金沢)
乗車券 4,750
特急券 2,380
宿泊費 7,500

8/14

交通費 (金沢～東京)
特急券 6,980
乗車券 7,340

(この表では、交通費と宿泊費の項目で、末端の項目の深さが違っていています。このように、数値を書く項目の深さは自由です)。

〔2〕集計機能

この機能では、次の3種類の集計を行います。

(A) 行集計……項目の包含関係に従って、各項目に含まれるサブ項目の値を集計します。

例えば、項目Aに、3個のサブ項目があり、それらに100, 200, 400の値が書かれているとすると、項目Aの行集計値は700になります。

(B) 列集計……値が指定された項目を名前別に集計します。

家計簿の例では、食費が二回出てくるので、食費の列集計値は、それらの合計になります。

(C) 合計……全ての項目の値の合計を計算します。

また、集計結果を表示するために、集計開始レベル、集計終了レベルを指定できます。

行集計では、字下げのレベルがこの範囲の項目の小計を表示します。

列集計では、字下げレベルが集計終了レベルの項目、または字下げレベルがそれより浅い項目

で、かつ数値が指定されているものを集計します。

各集計方法で、値の小計の他、最大／最小値、平均値、割合を計算できます。

〔3〕集計するための操作

ツリー型集計機能を使うには、次のように操作します。

(1) テキスト編集プログラムや点字編集プログラムで、集計する表が書かれた文書を開きます。

(2) 編集プログラムの次のコマンドを実行します。

メニュー → ツール → ツリー型集計

すると、設定シート「ツリー型集計の設定」が開きます。

(3) ここで、使用したい集計機能と、結果として表示したい集計項目をオンにします。設定できたら、エンターキーを押します。

(4) すると、「ツリー型集計」ウィンドウが開き、集計結果が階層リストで表示されます。

コピーボタンを押すと、この集計結果をクリップボードに転送します。

この場合、展開されているノードだけがコピーされますので、先に必要なノードを展開してください。

なお、コントロールキーを押しながら、右矢印キーを押すと、そのノードの中を、末端の項目まで、一度に展開できます。)

4. 4. 7 文書の内容を比較する

(簡単操作選択項目)「D4 文書の比較機能」=隠す

本機には、二個のテキスト文書や点字文書の内容を比較する機能があります。

旧文書と新文書の間の変更内容を比較するには、次のように操作します。

(1) テキスト編集プログラムや点字編集プログラムで、新文書を開きます。

(2) 編集プログラムの次のコマンドを実行します。

メニュー → ツール → 文書の比較

すると、「表示中の文書と比較する、旧文書ファイルを選択してください」というタイトルのファイル一覧ウィンドウが開きます。

(3) ここで、比較したい旧文書を選択して、エンターキーを押します。

すると、「文書の比較」ウィンドウが開き、二個の文書を行単位で比較した結果が表示されます。

このコマンドでは、両文書の共通部分を長いものから順に突き合わせて行き、その前後がどのように変わっているかを調べて、変更内容のリストを作成します。

連続した行が変更されている場合は、複数行のブロックの変更として、一件の変更にまとめて表示します。

この表示は、3階層のリストになっています。

(4) 1階層目は、変更の内容と、各文書内での位置を表示します。

文書全体が一致している場合、または完全に一致していない場合には、その旨のメッセージが表示されます。

それ以外の場合は、行の比較結果が、以下の行で表示されます。

「挿入」……旧文書になく、新文書にある行を示します。

「削除」……旧文書にあり、新文書にない行を示します。

- 「変更」……旧文書と新文書で、内容が変わっている行を示します。
- 「移動」……旧文書と新文書で、場所が移動している行を示します。
- (5) 1階層目で右矢印キーを押すと、2階層目が展開します。
2階層目には、旧文書、新文書の対応する行（ブロック）の文字数が表示されます。
- (6) 更に、2階層目を展開すると、3階層目に、それぞれの行（ブロック）の内容が表示されます。

4. 4. 8 文書編集ウィンドウから、予定を登録する

(簡単操作選択項目)「D7 文書編集からの予定の登録機能」=隠す

テキスト文書や点字文書の中で、日付が指定されている行を抜き出して、その右側の文字列を予定表に登録できます。

範囲選択している時はその範囲内、範囲選択していない時は文書全体が対象になります。

予定の部分が、テキスト文書ではタブ、点字文書では2マス空けで区切られている場合、それらを別々の予定として登録します。

日付や時刻の書き方については、〈4. 4. 3 タイムライン表示〉の項を参照してください。

〔使い方〕

- (1) 文書編集ウィンドウで、日付と予定の書かれた文書を開きます。
- (2) 次のコマンドを実行します。
メニュー → ツール → 予定の登録
すると、日付と予定が指定されている行が一覧表示されます。
このコマンドでは、日付の右側に予定が書かれていない行は、表示されません。
「日付 時刻 予定内容」が指定されている場合、時刻も予定内容の一部として扱います。
- (3) それらの行を予定表に登録する場合は、エンターキーを、登録しない場合はエスケープキーを押してください。

なお、既に同じ日に同文の予定が登録されている場合は、予定は追加されません。

特定の予定のみを登録したい時は、その予定が書かれている行を範囲選択してから、上記コマンドを実行してください。

4. 4. 9 スケジュール文書

(簡単操作選択項目)「D6 お気に入り文書機能」=利用可能

一般のテキスト文書や点字文書を、「スケジュール文書」としてお気に入りに設定することができます。

スケジュール文書を設定すると、以下の機能が利用できます。

- (1) スケジュール文書内に書かれたスケジュールは、登録の操作をしなくても、カレンダーや予定表に表示されます。
スケジュールを書くには、日付の後ろに、その日の予定をメモします。スケジュールが複数ある場合は、タブや2マス空けで区切ります。
日付の書き方については、〈4. 4. 3 タイムライン表示〉の項を参照してください。
もちろん、別の行には、スケジュール以外の内容も書いて構いません。
- (2) スケジュール文書を編集すると、その後に開いたカレンダーや予定表には、最新の

スケジュールが表示されます。

- (3) スケジュール文書を削除するか、スケジュール文書設定を解除すると、そこに書かれていたスケジュールは、カレンダーや予定表に表示されなくなります。

【使い方】

- (1) スケジュール文書に設定したい、テキスト文書または点字文書を開きます。
- (2) 次のコマンドを実行します。
メニュー → ファイル → お気に入り文書に追加
すると、「この文書をお気に入り文書に追加しますか？」のメッセージが表示されますので、エンターキーを押してください。
- (3) すると、設定シート「お気に入り文書の設定」が開きます。
- (4) 下矢印キーで「スケジュール文書」の行まで下がり、タッチカーソルを押して、設定を「オン」に変更します。
- (5) エンターキーを押して、設定を確定すると、スケジュール文書の設定が完了します。

【ToDo キーワードについて】

スケジュール文書には、スケジュールの他に、ToDo 項目（やらなければいけないことのメモ）を書いておくことができます。

ToDo 項目を指定するには、キーワード「ToDo.」の後に、その内容を書きます。

例：「ToDo.買物に行ったら、シャンプーを買って来る。」

「ToDo.」で指定した内容は、常に、スケジュール帳の今日の欄に、ToDo.キーワード付きで表示されます。

第5章 図書データの利用

の章では、デイジーデータと点字図書データの閲覧方法についてご説明します。
また、本機の添付ソフト、「BMシリーズ機器用ユーティリティ」の中に含まれる、「サピエ図書館検索ツール」の使い方もご紹介しています。

5. 1 デイジーデータの閲覧

この節では、各種のデイジーデータの利用方法と、閲覧方法をご説明します。

5. 1. 1 デイジーデータの用語の解説

はじめに、デイジーデータを利用する上で知っておきたい、いくつかの言葉をご説明します。

〔デイジー図書〕

DAISY（デイジーと読みます）とは、視覚障害者や普通の印刷物を読むことが困難な人々のために開発されたデジタル録音図書の規格です。

デイジー図書とは、この規格にそって制作された図書のことを言います。

デイジー図書は、デジタル録音されたデータに、セクションやページ、フレーズなどの印が付けられており、利用者は、その印によって聴きたい箇所にはばやく移動することができます。

〔セクションと見出し〕

デイジーでは、本の章、節、項などの切れ目となる箇所に、「見出し」と呼ばれる印が付けられます。

ある見出しから、次の見出しまでのひと塊の音声を「セクション」と呼びます。

通常、各セクションの先頭のフレーズが見出しとなります。

〔フレーズ〕

デイジーデータは、本文の中も、なるべく細かな単位でジャンプできるように、小さな意味のまとまりで分割されています。

この単位を「フレーズ」と呼びます。

通常、1フレーズは数秒から10数秒程の長さになっています。

〔ページ〕

ページとは、文字どおり本のページごとの区切りを表します。

ページ番号が切り替わる箇所のフレーズに付けられています。

〔グループ〕

グループとは、セクション内に付けられた区切りです。

図表や脚注など本文とは異なる説明箇所などに特別に付けられていることがあります。

〔デイジーデータの種類〕

デイジーデータは、データ内を自由に移動できるだけでなく、音声とテキストなど、複数のメデ

ィアの情報を統合して、それらをシンクロさせながら閲覧できるようになっています。
本機では、音声のみで制作したデイジー図書を「音声デイジー」と呼び、テキストのみで制作したデイジー図書を「テキストデイジー」と呼びます。
また、音声とテキストの両方で制作したデイジー図書を「マルチメディアデイジー」と呼んでいます。

5. 1. 2 デイジーデータを利用する

本機では、朗読情報を含む音声デイジーデータ、本文のテキスト情報を含むテキストデイジーデータ、およびその両方を含むマルチメディアデイジーデータを利用できます。

対応しているデイジーデータのバージョンは、バージョン 2.02 と、バージョン 3.0 です。

デイジーデータを本機で利用するには、次のように準備します。

(1) お手元のデイジーデータが圧縮されている場合は、データを解凍してください。

(2) データをフォルダごと、SDカードやUSBメモリーなどの記憶メディア内のアプリフォルダ(BMS_DaisyData)内にコピーしてください。

デイジーデータをサピエ図書館から検索・ダウンロードして利用される場合は、パソコン上で動作する本機のユーティリティソフト TextPage を使うと便利です。詳しくは、〈5. 3 パソコンで、サピエ図書館からデイジーファイルや点字ファイルをダウンロードする〉の項を参照してください。

なお、デイジーデータを利用する際には、記憶メディアを書き込み禁止にロックしないでください。

5. 1. 3 デイジー再生プログラム

(簡単操作選択項目)「A9 デイジー再生プログラム」=利用可能

デイジー再生プログラムを起動するには、メインウィンドウの「デイジー再生」項目を選択して、エンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとP (1,2,3,4 の点) を押します。

すると、「デイジーデータの選択」ウィンドウが開きます。

〔A〕 デイジーデータの選択」ウィンドウ

このウィンドウには、アプリフォルダ内のデイジーデータと、最近開いたデイジーデータの一覧表が表示されています。

目的のデータを選択してエンターキーを押すと、再生ウィンドウ、閲覧ウィンドウが開きます。今挿入されていないSDカードやUSBメモリーのデータはリストに表示されません。

〔ウィンドウの構成〕

このウィンドウには以下の項目があり、タブキーで項目の間を移動します。

このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

(ステータス表示) リスト内のデータの数が表示されています。

(データリスト) デイジーデータの一覧表が表示されています。

(この本を開く) リストで選択しているデータを開きます。リスト上でエンターキーを押すのと同じです。

(このリストにない本を開く) その他のデータを選択するために、「読み込むファイルの選択」ウィンドウを開きます。

(この本を削除する) リストで選択しているデータを削除します。リスト上でデリートキーを押すのと同じです。

〔データリストの操作〕

データリストでは、次の操作が使用できます。

上矢印キー (コマンドキー+1 の点) : 前の項目に移動します。

下矢印キー (コマンドキー+4 の点) : 次の項目に移動します。

ホームキー (コマンドキー+1, 3 の点) : 最初の項目に移動します。

エンドキー (コマンドキー+4, 6 の点) : 最後の項目に移動します。

エンターキー: このデータを開きます。

デリートキー: データを削除します。

コントロール+C (1, 4 の点): データを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

コントロール+X (1, 3, 4, 6 の点): データを、他の記憶メディアに移動するか、または移動対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

〔B〕 デイジーデータ選択メニュー

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

(1) 「ファイル (F)」サブメニュー: ファイル操作に関する以下のコマンドがあります。

この本を開く: 一覧で選択中の本を開きます。

このリストにない本を開く, コントロール + O: 再生するデイジーデータを選択します。

この本を削除する: 選択中のデイジーデータを削除します。

お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: このデータをお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) = 隠す

デイジーデータの情報: このデータの情報を表示します。

データを探す場所の指定: アプリフォルダと同じように、プログラムの起動時に、一覧に表示するデータを探すフォルダを、追加できます。(簡単操作選択項目 D9) = 隠す

この本をコピーする, コントロール + C: 選択中のデイジーデータを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) = 利用可能

この本を移動する, コントロール + X: 選択中のデイジーデータを、他の記憶メディアに移動するか、移動対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) = 利用可能

(2) 「設定 (S)」サブメニュー: デイジー再生の設定に関する以下のコマンドがあります。

テキストデイジー表示の基本設定: テキストデイジー閲覧ウィンドウの色や文字サイズ、ルビの表示方法を選択します。

5. 1. 4 音声デイジー再生ウィンドウの操作

このウィンドウは、音声データを含むデイジーデータを開いた時に表示されます。
ウィンドウのタイトルには、デイジーデータのタイトルが表示されます。
このウィンドウでは、音声デイジーデータの再生と、データ内の移動操作ができます。
このウィンドウを閉じるには、コマンドキー+E（または、エスケープキー）を押します。
このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔点字キーボタン〕

このウィンドウでは、プレイヤーを操作するために点字キーを使用します。

エンターキー: 再生/停止

3の点: 前のフレーズにスキップ

2・3の点: 前のページにスキップ

1・2・3の点: 前の見出しにスキップ

6の点: 次のフレーズにスキップ

5・6の点: 次のページにスキップ

4・5・6の点: 次の見出しにスキップ

1, 3の点: 巻き戻し

4, 6の点: 早送り

*早送りや巻戻しの状態で見出しの上を通過すると、少し低めの音が鳴ります。

また、早送りや巻戻しの途中で、もう一度同じボタンを押すと、高速送りと低速送りを切り替えられます。

〔移動方法の選択〕

デイジーデータは、先頭からの再生時間や見出し項目など、いろいろな方法でデータの中を移動できるように作られています。

次の操作を使うと、移動方法や、その方法での移動の単位を指定して、データの中を移動できます。

移動の方法とは、見出しやページなど、どの物差しで移動するかを選択です。

移動の単位とは、一度に何分移動するか、どのレベルまでの見出しを探すかなどを選択です。

1, 2の点: 前の移動方法を選択

4, 5の点: 次の移動方法を選択

2の点: その移動方法での、前の移動単位を選択

5の点: その移動方法での、次の移動単位を選択

1の点: その移動単位で前方向にスキップ

4の点: その移動単位で後ろ方向にスキップ

〔再生ボリュームと再生速度を調節する〕

デイジー再生のボリュームは、メインボリュームとオーディオ再生ボリュームで決まります。

また、オーディオ再生速度で、早聞きの速度を調節できます。

これらの設定項目を変更するには、コントロールキーとボリュームボタンで項目を選び、ボリュームボタンで値を変更してください。

〔その他の操作〕

このウィンドウには、以下のボタンがあります。

実行するには、タブキーで移動してスペースキーを押すか、ショートカットキーを入力します。

見出し一覧…ショートカット=オルト+S。

マークを付ける…ショートカット=オルト+M。

マーク一覧…ショートカット=オルト+L。

現在位置の情報表示…ショートカット=オルト+C。

（点字でコメントを書く）

（簡単操作選択項目 D10）=利用可能

今読んでいるセクションや、現在の再生位置にマークを付け、点字でコメントを書きおくことができます。

コメントは、1件1行の、自由な長さの点字文で、本の内容の要約や、感想などを記録できます。

書いたコメントは、後でコメント一覧でノートとして参照したり、それぞれのコメントが付けられた位置にジャンプして、朗読を聞き直すことができます。

次の操作をご利用ください。

- ・コントロール+M(1、3、4の点): 現在位置をマークして、コメントを追加します。
 - ・コントロール+S(2、3、4の点): 現在のセクションをマークして、コメントを追加します。
 - ・コントロール+スペースキー: 直前のマーク位置に付けられているコメントを、一覧表示します。
 - ・コントロール+エンターキー: 直前のマーク位置に、コメントを追加します。
 - ・コントロール+E(1、5の点): データに付けられているコメントの一覧を表示します。
- コメント機能について詳しくは、〈5.4 コメント機能〉の項を参照してください。

〔音声デイジー再生メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

- (1) 再生/停止, エンターキー: データの再生を開始/終了します。
- (2) 早送り (F), 点字キー4, 6の点: データの早送りを開始します。
- (3) 巻戻し (R), 点字キー1, 3の点: データの巻戻しを開始します。
- (4) 「基本移動コマンド」サブメニュー: よく使用する移動方法のショートカットコマンドです。
 - 前のフレーズに戻る, 点字キー3の点: 再生位置を、前のフレーズに戻します。
 - 次のフレーズに進む, 点字キー6の点: 再生位置を、次のフレーズに進めます。
 - 前のページに戻る, 点字キー2, 3の点: 再生位置を、前のページに戻します。
 - 次のページに進む, 点字キー5, 6の点: 再生位置を、次のページに進めます。
 - 前の見出しに戻る, 点字キー1, 2, 3の点: 再生位置を、前の見出しに戻します。
 - 次の見出しに進む, 点字キー4, 5, 6の点: 再生位置を、次の見出しに進めます。
- (5) 「移動方法の選択」サブメニュー: 次に進む/前に戻るのコマンドで、どのように移動するかを選択します。
 - 前の移動方法を選択, 点字キー1, 2の点: 移動方法を、一つ前に変更します。

- 次の移動方法を選択, 点字キー4, 5の点: 移動方法を、一つ後ろに変更します。
その移動方法での、前の移動単位を選択, 点字キー2の点: 移動単位を、一つ前に変更します。
その移動方法での、次の移動単位を選択, 点字キー5の点: 移動単位を、一つ後ろに変更します。
- 「移動方法一覧」サブメニュー: 移動方法を一覧表示します。
- (6) 前に戻る (P), 点字キー1の点: 選択した移動単位で、データの先頭方向にスキップします。
- (7) 次に進む (N), 点字キー4の点: 選択した移動単位で、データの末尾方向にスキップします。
- (8) 見出し一覧 (S): このデータの見出し一覧を表示します。
- (9) 「マーク (M)」サブメニュー: マークを設定、利用するコマンドです。
- マークを付ける (M): 現在位置にマークを付けます。
 - 前のマークに戻る, 点字キー1, 2, 3, 5, 6の点: 再生位置を、前のマーク位置に戻します。
 - 次のマークに進む, 点字キー2, 3, 4, 5, 6の点: 再生位置を、次のマーク位置に進めます。
 - マーク一覧 (L): マークを一覧表示します。
- (10) 現在位置 (C): 現在位置の情報を表示します。
- ここをマークして、コメントを追加 (C), コントロール + M: 現在位置をマークして、コメントを追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 - このセクションにコメントを追加 (S), コントロール + S: 現在のセクションをマークして、コメントを追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 - 直前のマーク位置のコメントを表示 (R), コントロール+スペースキー: 直前のマーク位置に付けられているコメントを、一覧表示します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 - 直前のマーク位置にコメントを追加 (A), コントロール+エンターキー: 直前のマーク位置に、コメントを追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 - このデータ内のコメント一覧 (M), コントロール + E: データに付けられているコメントの一覧を表示します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 - 全てのコメントを削除: このデータに付けられているコメントを、全て削除します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
- (11) 「データ (D)」サブメニュー: デイジーデータに関する以下のコマンドがあります。
- お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: この文書をお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す
- デイジーデータの情報: このデータの情報を表示します。
- (12) 「設定 (S)」サブメニュー: 各種設定を変更するための以下のコマンドがあります。
- オーディオ再生の設定: オーディオ再生設定のウィンドウを表示します。

(点字でコメントを書く)

(簡単操作選択項目 D10) =利用可能

今読んでいるセクションや、現在の再生位置にマークを付け、点字でコメントを書きおくことができます。コメントは、1件1行の、自由な長さの点字文で、本の内容の要約や、感想などを記録できます。書いたコメントは、後でコメント一覧やノートとして参照したり、それぞれのコメントが付けられた位置にジャンプして、本文を読み直すことができます。

次の操作をご利用ください。

- コントロール+M(1、3、4の点): 現在位置をマークして、コメントを追加します。
- コントロール+S(2、3、4の点): 現在のセクションをマークして、コメントを追加します。
- コントロール+スペースキー: 直前のマーク位置に付けられているコメントを、一覧表示します。
- コントロール+エンターキー: 直前のマーク位置に、コメントを追加します。
- コントロール+E(1、5の点): データに付けられているコメントの一覧を表示します。

コメント機能について詳しくは、〈5.4 コメント機能〉の項を参照してください。

5.1.5 テキストデイジー閲覧ウィンドウの操作

このウィンドウは、テキストデータを含むデイジーデータを開いた時に表示されます。

ウィンドウのタイトルには、デイジーデータのタイトルが表示されます。

また、デイジーデータの本文情報が、ウィンドウのテキスト表示部に表示されます。

このウィンドウでは、テキストデイジーデータの読み上げと、データ内の移動操作ができます。

このウィンドウを閉じるには、コマンドキー+E（または、エスケープキー）を押します。

このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔点字キーボタン〕

このウィンドウでは、ビュアを操作するために点字キーを使用します。

- エンターキー: テキストの連続読み
- 3の点: 前のフレーズにスキップ
- 2・3の点: 前のページにスキップ
- 1・2・3の点: 前の見出しにスキップ
- 6の点: 次のフレーズにスキップ
- 5・6の点: 次のページにスキップ
- 4・5・6の点: 次の見出しにスキップ

〔移動方法の選択〕

デイジーデータは、見出し項目やページ数など、いろいろな方法でデータの中を移動できるように作られています。

次の操作を使うと、移動方法や、その方法での移動の単位を指定して、データの中を移動できます。移動の単位とは、どのレベルまでの見出しを探すか、1度に何ページ移動するかなどの選択です。

- 1、2の点: 前の移動方法を選択
- 4、5の点: 次の移動方法を選択
- 2の点: その移動方法での、前の移動単位を選択
- 5の点: その移動方法での、次の移動単位を選択
- 1の点: その移動単位で前方向にスキップ
- 4の点: その移動単位で後ろ方向にスキップ

〔その他の操作〕

このウィンドウには、以下のボタンがあります。

実行するには、タブキーで移動してスペースキーを押すか、ショートカットキーを入力します。

見出し一覧…ショートカット=オルト+S。

マークを付ける…ショートカット=オルト+M。

マーク一覧…ショートカット=オルト+L。

現在位置の情報表示…ショートカット=オルト+C。

また、ショートカット操作、オルト+Tで、フォーカスがテキスト本文の表示に戻ります。

〔テキストデイジー閲覧メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

(1) 読上げ/停止, エンターキー: データの読上げを開始/終了します。

(2) 「基本移動コマンド」サブメニュー: よく使用する移動方法のショートカットコマンドです。

前のフレーズに戻る, 点字キー3の点: カーソル位置を、前のフレーズに戻します。

次のフレーズに進む, 点字キー6の点: カーソル位置を、次のフレーズに進めます。

前のページに戻る, 点字キー2, 3の点: カーソル位置を、前のページに戻します。

次のページに進む, 点字キー5, 6の点: カーソル位置を、次のページに進めます。

前の見出しに戻る, 点字キー1, 2, 3の点: カーソル位置を、前の見出しに戻します。

次の見出しに進む, 点字キー4, 5, 6の点: カーソル位置を、次の見出しに進めます。

(3) 「移動方法の選択」サブメニュー: 次に進む/前に戻るのコマンドで、どのように移動するかを選択します。

前の移動方法を選択, 点字キー1, 2の点: 移動方法を、一つ前に変更します。

次の移動方法を選択, 点字キー4, 5の点: 移動方法を、一つ後ろに変更します。

その移動方法での、前の移動単位を選択, 点字キー2の点: 移動単位を、一つ前に変更します。

その移動方法での、次の移動単位を選択, 点字キー5の点: 移動単位を、一つ後ろに変更します。

「移動方法一覧」サブメニュー: 移動方法を一覧表示します。

(4) 前に戻る (P), 点字キー1の点: 選択した移動単位で、データの先頭方向にスキップします。

(5) 次に進む (N), 点字キー4の点: 選択した移動単位で、データの末尾方向にスキップします。

(6) 見出し一覧 (S): このデータの見出し一覧を表示します。

(7) 「マーク (M)」サブメニュー: マークを設定、利用するコマンドです。

マークを付ける (M): 現在位置にマークを付けます。

前のマークに戻る, 点字キー1, 2, 3, 5, 6の点: カーソル位置を、前のマーク位置に戻します。

次のマークに進む, 点字キー2, 3, 4, 5, 6の点: カーソル位置を、次のマーク位置に進めます。

マーク一覧 (L): マークを一覧表示します。

(8) 現在位置 (C): 現在位置の情報を表示します。

(9) 「データ (D)」サブメニュー: デイジーデータに関する以下のコマンドがあります。

- お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: この文書をお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す
デイジーデータの情報: このデータの情報を表示します。
- (1 0)「編集 (E)」サブメニュー: 編集操作に関する以下のコマンドがあります。
コピー, コントロール + C: 選択中の範囲をクリップボードにコピーします。
全て選択, コントロール + A: 文書全体を選択します。
- (1 1)「検索 (R)」サブメニュー: キーワード検索に関する以下のコマンドがあります。
新規検索, コントロール + F: 新しいキーワードを検索します。
前を検索, コマンドキー+2, 3, 6の点: 今のカーソル位置より前を検索します。
後ろを検索, コマンドキー+3, 5, 6の点: 今のカーソル位置より後ろを検索します。
初めから検索, コマンドキー+1, 3, 6の点: 文書の初めから検索します。
- (1 2)「移動 (M)」サブメニュー: 表示位置を移動する以下のコマンドがあります。
次の見出し行へ, コマンドキー+3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある見出し行に移動します。
前の見出し行へ, コマンドキー+1, 2, 3, 6の点: 今の表示位置より前にある見出し行に移動します。
- (1 3)「読み上げ (C)」サブメニュー: 編集中の文書を読み上げるための以下のコマンドがあります。
文字読み, コマンドキー+3, 6の点: カーソル位置の文字を読み上げます。
単語読み, コマンドキー+2, 5の点: 前後のマス空けで区切られた範囲を読み上げます。
行読み, コマンドキー+1, 4の点: カーソルがあるレイアウト行を読み上げます。
文書の読み上げ, コマンドキー+1から6の点: カーソルを移動しながら、文書の内容を読み上げます。
- (1 4)「設定 (S)」サブメニュー: 各種設定を変更するための以下のコマンドがあります。
テキストデータの表示設定: テキストデータの表示方法を設定します。

5. 1. 6 マルチメディアデイジー再生ウィンドウの操作

このウィンドウは、テキストデータと音声データの両方を含む、マルチメディアデイジーデータを開いた時に表示されます。

ウィンドウのタイトルには、デイジーデータのタイトルが表示されます。

このウィンドウでは、テキストデータの読み上げと、音声デイジーデータの再生、データ内の移動操作ができます。

このウィンドウには、テキスト表示部とオーディオプレイヤーの両方があり、テキスト表示部にフォーカスがある時はテキストスピーチ、その他の場所にフォーカスがある時は、オーディオ再生が優先になります。

このウィンドウを閉じるには、コマンドキー+E (または、エスケープキー) を押します。

このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔点字キーボタン〕

このウィンドウでは、プレイヤーを操作するために点字キーを使用します。

エンターキー: 再生/停止

*ただし、テキスト表示にフォーカスがある時は、テキストの連続読みを行います。

テキスト表示にフォーカスがある状態で、オーディオを再生したい時は、

コントロール+オルト+エンターキーの操作をご使用ください。

3の点: 前のフレーズにスキップ

2・3の点: 前のページにスキップ

1・2・3の点: 前の見出しにスキップ

6の点: 次のフレーズにスキップ

5・6の点: 次のページにスキップ

4・5・6の点: 次の見出しにスキップ

1, 3の点: 巻き戻し

4, 6の点: 早送り

*早送りや巻き戻しの状態で見出しの上を通過すると、少し低めの音が鳴ります。

また、早送りや巻き戻しの途中で、もう一度同じボタンを押すと、高速送りと低速送りを切り替えられます。

〔移動方法の選択〕

ディジーデータは、先頭からの再生時間や見出し項目など、いろいろな方法でデータの中を移動できるように作られています。

次の操作を使うと、移動方法や、その方法での移動の単位を指定して、データの中を移動できます。

移動の単位とは、一度に何分移動するか、どのレベルまでの見出しを探すかなどの選択です。

1, 2の点: 前の移動方法を選択

4, 5の点: 次の移動方法を選択

2の点: その移動方法での、前の移動単位を選択

5の点: その移動方法での、次の移動単位を選択

1の点: その移動単位で前方向にスキップ

4の点: その移動単位で後ろ方向にスキップ

〔その他の操作〕

このウィンドウには、以下のボタンがあります。

実行するには、タブキーで移動してスペースキーを押すか、ショートカットキーを入力します。

見出し一覧…ショートカット=オルト+S。

マークを付ける…ショートカット=オルト+M。

マーク一覧…ショートカット=オルト+L。

現在位置の情報表示…ショートカット=オルト+C。

また、ショートカット操作、オルト+Tで、フォーカスがテキスト本文の表示に戻ります。

（点字でコメントを書く）

（簡単操作選択項目 D10）=利用可能

今読んでいるセクションや、現在の再生位置にマークを付け、点字でコメントを書いておくことができます。コメントは、1件1行の、自由な長さの点字文で、本の内容の要約や、感想などを記録できます。

書いたコメントは、後でコメント一覧でノートとして参照したり、それぞれのコメントが付けられた位置にジャンプして、朗読を聞き直すことができます。

次の操作をご利用ください。

- コントロール+M(1、3、4の点): 現在位置をマークして、コメントを追加します。
- コントロール+S(2、3、4の点): 現在のセクションをマークして、コメントを追加します。
- コントロール+スペースキー: 直前のマーク位置に付けられているコメントを、一覧表示します。
- コントロール+エンターキー: 直前のマーク位置に、コメントを追加します。
- コントロール + E(1、5の点): データに付けられているコメントの一覧を表示します。

コメント機能について詳しくは、〈5. 4 コメント機能〉の項を参照してください。

〔マルチメディアダイジェスト閲覧メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

- (1) 読上げ/停止, エンターキー: データの読上げを開始/終了します。
- (2) 再生/停止, エンターキー: データの再生を開始/終了します。
- (3) 早送り (F), 点字キー4、6の点: データの早送りを開始します。
- (4) 巻戻し (R), 点字キー1、3の点: データの巻戻しを開始します。
- (5) 「基本移動コマンド」サブメニュー: よく使用する移動方法のショートカットコマンドです。
 - 前のフレーズに戻る, 点字キー3の点: カーソル位置、再生位置を、前のフレーズに戻します。
 - 次のフレーズに進む, 点字キー6の点: カーソル位置、再生位置を、次のフレーズに進めます。
 - 前のページに戻る, 点字キー2、3の点: カーソル位置、再生位置を、前のページに戻します。
 - 次のページに進む, 点字キー5、6の点: カーソル位置、再生位置を、次のページに進めます。
 - 前の見出しに戻る, 点字キー1、2、3の点: カーソル位置、再生位置を、前の見出しに戻します。
 - 次の見出しに進む, 点字キー4、5、6の点: カーソル位置、再生位置を、次の見出しに進めます。
- (6) 「移動方法の選択」サブメニュー: 次に進む/前に戻るのコマンドで、どのように移動するかを選択します。
 - 前の移動方法を選択, 点字キー1、2の点: 移動方法を、一つ前に変更します。
 - 次の移動方法を選択, 点字キー4、5の点: 移動方法を、一つ後ろに変更します。
 - その移動方法での、前の移動単位を選択, 点字キー2の点: 移動単位を、一つ前に変更します。
 - その移動方法での、次の移動単位を選択, 点字キー5の点: 移動単位を、一つ後ろに変更します。「移動方法一覧」サブメニュー: 移動方法を一覧表示します。
- (7) 前に戻る (P), 点字キー1の点: 選択した移動単位で、データの先頭方向にスキップします。
- (8) 次に進む (N), 点字キー4の点: 選択した移動単位で、データの末尾方向にスキップします。

- (9) 見出し一覧 (S): このデータの見出し一覧を表示します。
- (10) 「マーク (M)」サブメニュー: マークを設定、利用するコマンドです。
 マークを付ける (M): 現在位置にマークを付けます。
 前のマークに戻る, 点字キー1, 2, 3, 5, 6の点: カーソル位置、再生位置を、前のマーク位置に戻します。
 次のマークに進む, 点字キー2, 3, 4, 5, 6の点: カーソル位置、再生位置を、次のマーク位置に進めます。
 マーク一覧 (L): マークを一覧表示します。
 ここをマークして、コメントを追加 (C), コントロール + M: 現在位置をマークして、コメントを追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 このセクションにコメントを追加 (S), コントロール + S: 現在のセクションをマークして、コメントを追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 直前のマーク位置のコメントを表示 (R), コントロール+スペースキー: 直前のマーク位置に付けられているコメントを、一覧表示します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 直前のマーク位置にコメントを追加 (A), コントロール+エンターキー: 直前のマーク位置に、コメントを追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 このデータ内のコメント一覧 (V), コントロール + E: データに付けられているコメントの一覧を表示します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 全てのコメントを削除: このデータに付けられているコメントを、全て削除します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
- (11) 現在位置 (C): 現在位置の情報を表示します。
- (12) 「データ (D)」サブメニュー: デイジーデータに関する以下のコマンドがあります。
 お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: この文書をお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す
 デイジーデータの情報: このデータの情報を表示します。
- (13) 「編集 (E)」サブメニュー: 編集操作に関する以下のコマンドがあります。
 コピー, コントロール + C: 選択中の範囲をクリップボードにコピーします。
 全て選択, コントロール + A: 文書全体を選択します。
- (14) 「検索 (R)」サブメニュー: キーワード検索に関する以下のコマンドがあります。
 新規検索, コントロール + F: 新しいキーワードを検索します。
 前を検索, コマンドキー+2, 3, 6の点: 今のカーソル位置より前を検索します。
 後ろを検索, コマンドキー+3, 5, 6の点: 今のカーソル位置より後ろを検索します。
 初めから検索, コマンドキー+1, 3, 6の点: 文書の初めから検索します。
- (15) 「移動 (M)」サブメニュー: 表示位置を移動する以下のコマンドがあります。
 次の見出し行へ, コマンドキー+3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある見出し行に移動します。
 前の見出し行へ, コマンドキー+1, 2, 3, 6の点: 今の表示位置より前にある見出し行に移動します。
- (16) 「読み上げ (C)」サブメニュー: 編集中の文書を読み上げるための以下のコマンドがあります。
 文字読み, コマンドキー+3, 6の点: カーソル位置の文字を読み上げます。
 単語読み, コマンドキー+2, 5の点: 前後のマス空けで区切られた範囲を読み上げます。

行読み, コマンドキー+1, 4の点: カーソルがあるレイアウト行を読み上げます。

文書の読み上げ, コマンドキー+1から6の点: カーソルを移動しながら、文書の内容を読み上げます。

(17)「設定 (S)」サブメニュー: 各種設定を変更するための以下のコマンドがあります。

テキストデータの表示設定: テキストデータの表示方法を設定します。

オーディオ再生の設定: オーディオ再生設定のウィンドウを表示します。

5. 1. 7 いろいろな移動方法を使い分けるためのショートカット操作

よく使用する移動方法・移動単位を、ショートカットで指定して、直接ジャンプすることができます。

これらの操作は、各種デイジーデータの再生／閲覧ウィンドウで利用可能です。

〔見出しのレベル移動〕

- 1・2・3の点キー: 前の見出しにスキップ
- 1・2・3の点+4の点: 前のレベル1の見出し。
- 1・2・3の点+5の点: 前のレベル2以上の見出し。
- 1・2・3の点+6の点: 前のレベル3以上の見出し。
- 4・5・6の点キー: 次の見出しにスキップ
- 4・5・6の点+1の点: 次のレベル1の見出し。
- 4・5・6の点+2の点: 次のレベル2以上の見出し。
- 4・5・6の点+3の点: 次のレベル3以上の見出し。

〔ページ移動〕

- 2・3の点キー: 前のページにスキップ
- 2・3の点+5の点: 10ページ前
- 5・6の点キー: 次のページにスキップ
- 5・6の点+2の点: 10ページ後

〔時間移動〕

- 1・3の点+4の点: 1時間前
- 1・3の点+5の点: 10分前
- 1・3の点+6の点: 1分前
- 4・6の点+1の点: 1時間後
- 4・6の点+2の点: 10分後
- 4・6の点+3の点: 1分後

5. 1. 8 デイジー再生のバックグラウンド操作

〔グローバルショートカット〕

他のウィンドウを操作している時でも、次の操作でデイジー再生をコントロールできます。

この機能は、デイジーデータを聞きながら、テキストや点字でメモを取る時などに便利です。

- ウィンキー+0: 巻き戻し
- ウィンキー+1: 再生／停止
- ウィンキー+2: 早送り
- ウィンキー+4: 前のマークへ移動
- ウィンキー+5: マークを付ける

ウィンキー+6: 次のマークへ移動

〔ナビキーによる操作〕

ナビキーの設定で、「オーディオ再生の操作」を選択している場合、他のウィンドウを操作中でも、ナビキーでデジ再生をコントロールできます。

右ボタン=再生/停止

右ボタン+コントロール=早送り

右ボタン+オルト=次のマーク

右ボタン+コントロール+オルト=次の見出し

左ボタン=3秒前（または、前の行）に戻る

左ボタン+コントロール=巻戻し

左ボタン+オルト=前のマーク

左ボタン+コントロール+オルト=前の見出し

左右ボタン+オルト=マークを付ける

左右ボタン+オルト+コントロール=現在位置の読み上げ

5. 2 点字図書の見覧

この節では、点字図書データの利用方法と、見覧方法をご説明します。

5. 2. 1 点字図書データを利用する

本機では、分冊毎に分けてファイルに保存されている点字図書データを、一つの点字図書として見覧できます。

点字図書データを開くと、全巻分のデータを読み込み、専用のビューで表示します。

キーワード検索をする時も、図書全体を一度に検索できます。

前に読んでいた本を開く時は、巻数を覚えていなくても、前回の続きから表示されます。

なお、点字図書データとして開くと、内容を編集することはできません。

図書データは、**.bmbook** という拡張子のファイルにまとめて保存され、次回からは、このファイルだけで点字図書データを見覧できるようになります。

〔対象データ〕

次のようなデータを、点字図書データとして見覧できます。

- サピエ図書館からダウンロードした点字図書データ（フォルダ内に、Detail.txt ファイルがあるもの）。
- その他の点訳図書（フォルダ内に、分冊名をファイル名として、BMS対応形式で保存されているもの）

〔準備〕

点字図書データを本機で利用するには、次のように準備します。

- （1）お手元の点字図書データが圧縮されている場合は、データを解凍してください。
- （2）データをフォルダごと、SDカードやUSBメモリーなどの記憶メディア内のアプリフォルダ(**BMS_BriData**)内にコピーしてください。

点字図書データをサピエ図書館から検索・ダウンロードして利用する場合は、パソコン上で動作

する本機のユーティリティソフト TextPage を使うと便利です。詳しくは、〈5. 3 パソコンで、サピエ図書館からデジファイルや点字ファイルをダウンロードする〉の項を参照してください。

〔データの開き方〕

新しいデータを開く時は、つぎのどれかの方法で操作してください。

- (1) サピエ図書館からダウンロードした点字図書データを開く場合
(その図書データのフォルダ内にDetail.txtファイルがあるもの)
データをコピーした記憶メディアを、本機に接続します。
メディアの検出ウィンドウ内にある、[点字図書を開く] ボタンを押します。
すると「点字図書一覧」ウィンドウが表示されますので、そこから目的のデータを選択してください。

- (2) 内蔵SD内にコピーされているデータを開く場合
(その図書データのフォルダ内に Detail.txt ファイルがあるもの)
ファイル一覧ウィンドウで、以下のコマンドを実行します。
メニュー → プログラム → フォルダ内の点字図書一覧を表示する
すると「点字図書一覧」ウィンドウが表示されますので、そこから目的のデータを選択してください。

- (3) その他の点字図書データを開く場合、
(その図書データのフォルダ内に Detail.txt ファイルがない場合)
ファイル一覧ウィンドウで、点字図書のデータが保存されているフォルダに移動した後、以下のコマンドを実行します。
メニュー → プログラム → フォルダ内の点字ファイルから、点字図書データを作る
すると、フォルダ内のデータをまとめた点字図書データが作成されて、「点字図書閲覧」プログラムが起動します。

一度開いたことのあるデータを読みたい場合は、メインウィンドウから「点字図書閲覧」プログラムを起動してください。

5. 2. 2 点字図書閲覧プログラム

(簡単操作選択項目)「A6 点字図書閲覧プログラム」=利用可能

このプログラムは、複数分冊の点字図書をまとめて読み込み、効率的に閲覧したり、検索できます。

点字図書閲覧プログラムを起動するには、メインウィンドウの「点字図書閲覧」項目を選択して、エンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとW(2・4・5・6の点)を押します。

すると、「点字図書データの選択」ウィンドウが開きます。

このウィンドウには、接続されたメモリーのアプリフォルダ内にある点字図書データと、最近開いた点字図書データの一覧表が表示されています。

目的の図書データを選択してエンターキーを押すと、図書データの閲覧ウィンドウが開きます。

初めに、点字図書の表示方法の問い合わせが表示されますので、お好みの表示方法を選択して、エンターキーを押してください。

なお、今挿入されていないSDカードやUSBメモリーの図書データはリストに表示されません。

このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔ウィンドウの構成〕

このウィンドウには以下の項目があり、タブキーで項目の間を移動します。

(ステータス表示) リスト内の図書データの数が表示されています。

(データリスト) 点字図書データの一覧表が表示されています。

(この本を開く) リストで選択している図書データを開きます。リスト上でエンターキーを押すのと同じです。

(このリストにない本を開く) その他の図書データを選択するために、「読み込むファイルの選択」ウィンドウを開きます。

(この本を削除する) リストで選択している図書データを削除します。リスト上でデリートキーを押すのと同じです。

〔データリストの操作〕

データリストでは、次の操作が使用できます。

上矢印キー (コマンドキー+1の点) : 前の項目に移動します。

下矢印キー (コマンドキー+4の点) : 次の項目に移動します。

ホームキー (コマンドキー+1, 3の点) : 最初の項目に移動します。

エンドキー (コマンドキー+4, 6の点) : 最後の項目に移動します。

エンターキー: この図書データを開きます。

デリートキー: 図書データを削除します。

コントロール+C(1, 4の点): データを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

コントロール+X(1, 3, 4, 6の点): データを、他の記憶メディアに移動するか、または移動対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

〔点字図書データ選択メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

(1)「ファイル (F)」サブメニュー: ファイルの読み込みと保存に関する以下のコマンドがあります。

この本を開く: 一覧で選択中のデータを開きます。

このリストにない本を開く, コントロール + O: 閲覧する点字図書データを選択します。

この本を削除する: 選択中のデータを削除します。

お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: このデータをお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す

点字図書の情報: この点字図書の情報を表示します。

データを探す場所の指定: アプリフォルダと同じように、プログラムの起動時に、一覧に表示するデータを探すフォルダを、追加できます。(簡単操作選択項目 D9) =隠す

この本をコピーする, コントロール + C: 選択中の点字図書データを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) =利用可能
この本を移動する, コントロール + X: 選択中の点字図書データを、他の記憶メディアに移動するか、移動対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) =利用可能

5. 2. 3 点字図書閲覧ウィンドウ

〔表示モードの選択〕

点字図書データを開くと、初めに、「表示方法の選択」ウィンドウが表示されます。行の表示の仕方を以下の選択肢から選んで、エンターキーを押してください。

- 一段落を一行で表示する
- 点字印刷のレイアウトで表示する
- 段落でない行は結合して表示する (BSE 形式データ用)

すると、図書タイトル名のウィンドウが開き、図書の内容が表示されます。このウィンドウでは、点字図書データの読み上げと、データ内の移動操作ができます。本を閉じるには、エスケープキーか、コマンドキー+Zを押します。このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔移動操作〕

文書内を移動するには、次のように操作します。

上矢印キー (コマンドキー+1の点) : 前の行に移動します。

下矢印キー (コマンドキー+4の点) : 次の行に移動します。

左矢印キー (コマンドキー+3の点) : 行内の前の文 (2マス空け区切り) に移動します。

右矢印キー (コマンドキー+6の点) : 行内の次の文 (2マス空け区切り) に移動します。

コントロール+左矢印キー (コマンドキー+2の点) : 前の単語に戻ります。

コントロール+右矢印キー (コマンドキー+5の点) : 次の単語に進みます。

ページアップキー (コマンドキー+2, 3の点) : レイアウト表示の時、前のページに移動します。

段落表示の時、10行分移動します。

ページダウンキー (コマンドキー+5, 6の点) : レイアウト表示の時、次のページに移動します。

段落表示の時、10行分移動します。

コントロール+ページアップキー (コマンドキー+2, 3の点) : 前の改ページ位置に移動します。

コントロール+ページダウンキー (コマンドキー+5, 6の点) : 次の改ページ位置に移動します。

コマンドキー+1, 2, 4, 6の点: 前の分冊に移動します。

コマンドキー+1, 3, 4, 5の点: 次の分冊に移動します。

コントロール+ホームキー (コマンドキー+1, 2, 3の点) : 図書データの先頭に移動します。

コントロール+エンドキー (コマンドキー+4, 5, 6の点) : 図書データの末尾に移動します。

コマンドキー+1, 4の点: 行の内容を読み上げます。

エンターキー、またはコマンドキー+1から6の点: カーソルを移動しながら、文書を読み上げます。

コントロール+M (1、3、4の点): 表示中の行をマークします。

コントロール+J (2、4、5の点): マーク位置に移動します。セレクトキーを組み合わせると、マーク位置までを範囲選択します。

コントロール+C (1、4の点): 選択範囲を、クリップボードにコピーします。

コマンドキー+1、5、6の点: 今のカーソル位置を表示します。

〔検索〕

キーワードを検索するには、次のように操作します。

コントロール+F: 検索キーワードを指定して、検索を開始します。

コマンドキー+3、5、6の点: 後ろ方向を検索します。

コマンドキー+2、3、6の点: 前方向を検索します。

コマンドキー+1、3、6の点: 文書の先頭から検索します。

〔見出し行の操作〕

今表示している行を見出し行に指定したり、前後の見出し行に移動できます。

コマンドキー+3、4、5の点: 見出し行に設定します。

コマンドキー+1、2、6の点: 見出し行設定を解除します。

コマンドキー+3、4、5、6の点: 次の見出し行に移動します。

コマンドキー+1、2、3、6の点: 前の見出し行に移動します。

コントロール+L: 見出し行一覧を開きます。

〔ブックマーク行の操作〕

今表示している行をブックマーク行に指定したり、前後のブックマーク行に移動できます。

コントロール+B: ブックマーク行設定をオン/オフします。

コマンドキー+2、3、4、5、6の点: 次のブックマーク行に移動します。

コマンドキー+1、2、3、5、6の点: 前のブックマーク行に移動します。

コントロール+セレクト+L: ブックマーク行一覧を開きます。

〔段落に移動〕

前後の段落に移動できます。

コマンドキー+1、4、5、6の点: 次の段落に移動します。

コマンドキー+1、2、3、4の点: 前の段落に移動します。

〔行区切りに移動〕

空行で区切られたブロックの先頭に移動できます。

コマンドキー+1、3、4、5、6の点: 次の行区切りに移動します。

コマンドキー+1、2、3、4、6の点: 前の行区切りに移動します。

〔点字でコメントを書く〕

(簡単操作選択項目 D10) = 利用可能

データ内の行に、点字でコメントを書き添えることができます。

コメントは、1件1行の、自由な長さの点字文で、本の内容の要約や、感想などを記録できます。書いたコメントは、後でコメント一覧でノートとして参照したり、それぞれのコメントが付けられた行にジャンプして、本文を読み直すことができます。

次の操作をご利用ください。

- ・コントロール+スペースキー: 表示中の行に付けられているコメントを、一覧表示します。
- ・コントロール+エンターキー: 表示中の行に、コメントを追加します。
- ・コントロール + E(1、5の点): データに付けられているコメントの一覧を表示します。

コメント機能について詳しくは、〈5. 4 コメント機能〉の項を参照してください。

〔点字図書閲覧メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

- (1)「移動 (M)」サブメニュー: 表示位置を移動する以下のコマンドがあります。

見出し行に設定: 今表示している行の見出し行設定をオン/オフします。

次の見出し行へ, コマンドキー+3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある見出し行に移動します。

前の見出し行へ, コマンドキー+1, 2, 3, 6の点: 今の表示位置より前にある見出し行に移動します。

見出し行一覧, コントロール + L: 見出し行の一覧を表示して、選択した行に移動できます。

ブックマーク行に設定, コントロール + B: 今表示している行のブックマーク設定をオン/オフします。

次のブックマーク行へ, コマンドキー+2, 3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにあるブックマーク行に移動します。

前のブックマーク行へ, コマンドキー+1, 2, 3, 5, 6の点: 今の表示位置より前にあるブックマーク行に移動します。

ブックマーク行一覧, コントロール+セレクト + L: ブックマーク行の一覧を表示して、選択した行に移動できます。

次の段落へ, コマンドキー+1, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある段落に移動します。

前の段落へ, コマンドキー+1, 2, 3, 4の点: 今の表示位置より前にある段落に移動します。

次の行区切りへ, コマンドキー+1, 3, 4, 5, 6の点: 今の表示位置より後ろにある空行で区切られたブロックに移動します。

前の行区切りへ, コマンドキー+1, 2, 3, 4, 6の点: 今の表示位置より前にある空行で区切られたブロックに移動します。

次の分冊へ, コマンドキー+1, 3, 4, 5の点: 次の分冊に移動します。

前の分冊へ, コマンドキー+1, 2, 4, 6の点: 分冊の先頭、または前の分冊に移動します。

- (2)「検索」サブメニュー: キーワード検索に関する以下のコマンドがあります。

新規検索, コントロール + F: 新しいキーワードを検索します。

- 前を検索, コマンドキー+2, 3, 6の点: 今のカーソル位置より前を検索します。
 後ろを検索, コマンドキー+3, 5, 6の点: 今のカーソル位置より後ろを検索します。
 初めから検索, コマンドキー+1, 3, 6の点: 文書の初めから検索します。
- (3) 「編集」サブメニュー: 編集に関する以下のコマンドがあります。
 コピー: 選択中の項目をクリップボードにコピーします。
 全てコピー: リストの内容をクリップボードにコピーします。
 ここをマーク (M), コントロール + M: 今のカーソル位置をマークします。
 マーク位置に移動 (J), コントロール + J: カーソルを、マーク位置に移動します。
 この行のコメント, コントロール+スペースキー: 選択中の行のコメントを、表示、または追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 この行にコメントを追加, コントロール+エンターキー: 選択中の行に、コメントを追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 このデータ内のコメント一覧, コントロール + E: この図書データに付けられているコメント一覧を表示して、編集します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
 全てのコメントを削除: この図書データに付けられているコメントを、全て削除します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能
- (4) サブメニュー「ファイル (F)」: ファイルの情報に関する以下のコマンドがあります。
 お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: この文書をお気に入りに追加します。

5. 3 パソコンで、サピエ図書館からデイジーファイルや点字ファイルをダウンロードする

「サピエ図書館」は、視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々を対象として、全国視覚障害者情報提供施設協会が運営する、インターネット上の電子図書館です。

サピエ図書館を利用すると、デイジー図書や点字図書をインターネット上で検索し、読みたい資料を、ダウンロードして、閲覧できます。

サピエ図書館サイトは、一般のブラウザから、以下のURLでアクセスできます。

<https://www.sapie.or.jp/>

本機の付属ソフト「BMシリーズ機器用ユーティリティ」の中にも、サピエ図書館のサービスを効率的に利用できる「サピエ図書館検索ツール」をご用意しています。

ここでは、このソフトを使用して、サピエ図書館から資料を検索・ダウンロードし、本機で利用する方法をご紹介します。

〔必要なもの〕

ここでご紹介する操作を行うには、インターネットに接続できるパソコンが必要です。

また、サピエ図書館のサービスを利用するために、サピエ図書館の個人IDが必要です。

個人IDをまだお持ちでない場合、個人会員登録は無料ですので、点字図書館など、お近くの「サピエ」加盟施設・団体にご相談ください。

BMシリーズ機器用ユーティリティは、当社ホームページの以下のページ、または製品添付のサポートCDROMから、インストールしてください。

ケージーエス福祉機器用ダウンロード

専用ページ: <http://www.kgs-jpn.co.jp/down.html>

パソコンでダウンロードしたデータは、SD カードか USB メモリーに入れて、本機に接続します。

SD カードを使用する場合は、パソコンで読み書きできるドライブも必要になります。

どちらかの記憶メディアをご用意ください。

それでは、操作方法をご説明します。

〔サピエ図書館検索ツールを起動する〕

パソコンで、次のように操作します。

(1) Win キー+R を押して、「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを開きます。

(2) 「textpage」と入力し、Enter キーを押します。

すると、サピエ図書館検索ツールが起動し、「接続ポートの選択」ウィンドウが開きます。

(3) BMスマート、またはブレイルメモシリーズを点字ディスプレイとして使用している場合は、その接続ポートを選択して、Enter キーを押してください。

使用していない場合は、Esc キーを押してください。

すると、「サピエ図書館検索ツール メインウィンドウ」が開きます。

〔サピエ図書館検索ツール メインウィンドウの構成〕

このウィンドウには、以下のボタンがあります。

(サピエ図書館を検索) ボタン

サピエ図書館に接続して、デイジーデータや点字データを検索します。

ダウンロードしたデータは、自動的に解凍されて、あなたのユーザーフォルダ内の「サピエデータ(TextPage)」というフォルダに入ります。

(デイジーデータ一覧) ボタン ダウンロード済みのデイジーデータを一覧表示します。

ここから、デイジーデータのコピーや削除の操作ができます。

(点字データ一覧) ボタン ダウンロード済みの点字データを一覧表示します。

ここから、点字データのコピーや削除の操作ができます。

(バージョン情報) ボタン このプログラムのバージョン情報を表示します。

また、このプログラムで利用しているオープンソースリソースと、それらのライセンス情報の保存場所を説明しています。

(プログラムの終了) ボタン このプログラムを終了します。

〔サピエ図書館から資料を検索し、ダウンロードする〕

サピエ図書館を検索するには、[サピエ図書館を検索] ボタンを押します。

すると、サピエサイトにアクセスします。

このソフトでは、インターネットの操作も、全てダイアログボックスとリストで操作できるようになっています。

各ウィンドウ内の入力欄やリスト、ボタンの間は、Tab キーで移動します。

ページ間の移動のリンクはボタンになっていますので、Tab キーで選択してから Enter キーを押してください。

基本的な検索とダウンロードの操作の流れは、以下のようになります。

(1) サピエ会員ログイン

あなたのサピエIDとパスワードを入力して、Enter キーを押します。

(2) サピエ図書館ウィンドウ

- 「点字データ検索」、「デイジーデータ検索」などのボタンがありますので、Tab キーで選択して、Enter キーを押します。
- (3) データ検索・ダウンロード
 検索したい資料のタイトルや著者名などを入力します。全ての入力欄に入力する必要はありません。サピエ図書館は、キーワードをかな文字で指定しても検索できるので、とても便利です。
- (4) 検索結果の表示
 検索結果のリストが、初期設定で50件ずつ表示されます。
 リストから目的のデータを選択して Enter キーを押すと、そのデータをダウンロードします。
 また、スペースキーを押すと、その資料の詳細情報を表示します。
 資料の詳細情報からは、雑誌のバックナンバーのダウンロードもできます。
 検索結果が複数ページに分けて表示されている時は、「次へ」、「前へ」などのボタンで前後のページに移動してください。

Esc キーを押すと、検索を中止して、メインウィンドウに戻ります。

〔ダウンロードしたデータの管理〕

サピエ図書館からダウンロードしたデータは、自動的に解凍されて、以下のフォルダに保存されます。

デイジーデータ：デスクトップ→あなたのアカウント名→サピエデータ(TextPage)→デイジーデータ

点字データ：デスクトップ→あなたのアカウント名→サピエデータ(TextPage)→点字データ
 (フォルダのパスは、Windows のバージョンにより異なる場合があります)。

〔ダウンロードしたデイジーデータの管理〕

このプログラムのメインウィンドウにある「デイジーデータ一覧」ボタンを押すと、同名のウィンドウが開きます。

このウィンドウには、ダウンロードしたデイジーデータのリストと、以下のボタンがあります。
 デイジーデータを選択してから、Tab キーで目的のボタンに移動し、Enter キーで実行してください。

(選択したドライブのアプリフォルダにコピーする) ボタン

アプリフォルダは、BMスマートでデータの種類ごとに定めているフォルダの名前です。デイジーデータのアプリフォルダは、BMS_DaisyData です。

SD カードやUSBメモリーの中の、アプリフォルダにデータをコピーしておくと、データを対応するプログラムから簡単に開くことができます。

まず、コピーしたい先の記憶メディアをパソコンに接続してください。

その後、コピーしたいデータを選択してから、このボタンを押します。

すると、「アプリフォルダにコピー」ウィンドウが開きます。

本機に接続できる記憶メディアは「リムーバル ディスク」と表示されます。

目的のドライブを選択して Enter キーを押すと、アプリフォルダへのコピーが始まります。なお、コピー先のドライブにアプリフォルダがない場合は、自動的に作成されますので、ご注意ください。

- (クリップボードにコピーする) ボタン デイジーデータをクリップボードにコピーします。
コピーしたいデータを選択してから、このボタンを押してください。
- (データを削除する) ボタン デイジーデータをパソコンから削除します。
削除したいデータを選択してから、このボタンを押してください。

〔ダウンロードした点字データの管理〕

このプログラムのメインウィンドウにある「点字データ一覧」ボタンを押すと、同名のウィンドウが開きます。このウィンドウには、ダウンロードした点字データのリストと、以下のボタンがあります。

点字データを選択してから、Tab キーで目的のボタンに移動し、Enter キーで実行してください。

- (選択したドライブのアプリフォルダにコピーする) ボタン
アプリフォルダは、BMスマートでデータの種類ごとに定めているフォルダの名前です。点字データのアプリフォルダは、BMS_BriData です。
SDカードやUSBメモリーの中の、アプリフォルダにデータをコピーしておくと、データを対応するプログラムから簡単に開くことができます。

まず、コピーしたい先の記憶メディアをパソコンに接続してください。その後、コピーしたいデータを選択してから、このボタンを押します。

すると、「アプリフォルダにコピー」ウィンドウが開きます。

本機に接続できる記憶メディアは「リムーバル ディスク」と表示されます。

目的のドライブを選択してEnter キーを押すと、アプリフォルダへのコピーが始まります。

なお、コピー先のドライブにアプリフォルダがない場合は、自動的に作成されますので、ご注意ください。

- (クリップボードにコピーする) ボタン 点字データをクリップボードにコピーします。
コピーしたいデータを選択してから、このボタンを押してください。

(BMTerm で送信する) ボタン

点字データを、通信ポートからブレイルメモシリーズ機器に送信します。

送信したいデータを選択してから、このボタンを押してください。

すると、データ内のファイル一覧が開き、ブレイルメモシリーズ機器に送信するファイルを選択できます。

また、点字ファイルをパソコン上で開いて読むこともできます。

- (データを削除する) ボタン 点字データをパソコンから削除します。
削除したいデータを選択してから、このボタンを押してください。

5. 4 コメント機能

5. 4. 1 コメント機能とは

コメント機能は、次の種類のデータの自由な場所に、点字でメモや注釈を書き込んで置ける機能です。

- デイジーデータ
- 点字図書データ
- オーディオ／メディアデータ

書き込んだコメントは、コメント一覧などのコマンドで参照できます。

また、そのコメントが付けられた位置にジャンプしたり、コメントの内容を、点字のノートに貼り付けて、保存できます。

コメントは、1件が1行の、自由な長さの点字文で、各データ内で、次の要素と結びつけて記録されます。

- デイジーデータ……マーク
- 点字図書データ……行
- オーディオ／メディアデータ……チャプター

これらの要素を、コメントフォルダと呼びます。

各コメントフォルダには、複数のコメントを記録できます。

コメントフォルダのデータは、次のファイル内に保存され、本体のデータと連動して管理されます。

- デイジーデータ……データフォルダ内のブックマークファイル
- 点字図書データ……点字図書データ内 (.bmbook2)
- オーディオ／メディアデータ……チャプターファイル名 (.chapter2)

本体データを削除すると、コメントの情報も一緒に削除されます。

削除する前に、必要なコメントの情報は、点字ファイルにコピーして、保存してください。

5. 4. 2 コメント機能の操作

コメント機能の操作は、各データ共通で、本体データの閲覧／再生ウィンドウから利用可能です。

- コントロール＋スペースキー：表示中の行、または直前のコメントフォルダに付けられているコメントを、一覧表示します。
- コントロール＋エンターキー：表示中の行、または直前のコメントフォルダに、コメントを追加します。
- コントロール＋E(1、5の点)：データに付けられているコメントの一覧を表示します。
- コントロール＋M(1、3、4の点)：デイジーデータ、オーディオ／メディアデータで、現在位置にコメントを追加します。
- コントロール＋S(2、3、4の点)：デイジーデータで、現在のセクションにコメントを追加

します。

*コメントを一括削除するには、各ウィンドウのメニューから、「全てのコメントを削除」コマンドを実行してください。

5. 4. 3 コメント一覧ウィンドウ

各本体データの閲覧／再生ウィンドウで、コメントを表示するコマンドを実行すると、「コメント一覧」ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、コメントの閲覧や検索、コピーなどができます。

次の操作が可能です。

- 前の項目に移動: 上矢印キー
- 次の項目に移動: 下矢印キー
- 選択中の項目が付けられている位置にジャンプ: エンターキー
- コメント一覧を開く前の位置に戻る: エスケープキー
- 項目の修正: スペースキー
- 前に挿入: インサートキー
- 後ろに挿入: コントロール+エンターキー
- 項目の削除: デリートキー
- 新規検索: コントロール + F(1、2、4の点)
- 前を検索: コマンドキー+2, 3, 6の点
- 後ろを検索, コマンドキー+3, 5, 6の点
- 初めから検索, コマンドキー+1, 3, 6の点
- 選択範囲のコピー: コントロール+C(1、4の点)

第6章 メディアデータの利用

この章では、メディアデータの再生方法と、本機内蔵のマイクから録音する方法についてご説明します。

6. 1 メディアデータの利用方法

本機では、オーディオ情報や音楽情報を録音したメディアデータを利用できます。以下の形式のメディアデータが再生可能です。

- **.wma**…Windows Media オーディオデータ
- **.mp3**…MP3 オーディオデータ
- **.wav**…PCM オーディオデータ
- **.asf**…ASF オーディオデータ
- **.wmv**…Windows Media ビデオデータ

本機には、オーディオ再生と、メディア再生の2種類の再生プログラムがあります。これらには、以下の特長があります。

オーディオ再生プログラムでは、音声の早聞き機能が利用できます。このため、ICレコーダやラジオの録音、インターネットからダウンロードしたスピーチ情報などを聞く時に便利です。また、再生を聞きながらノートを取れるよう、別の編集ウィンドウからも、再生/停止などの操作ができるようになっています。

これに対して、メディア再生プログラムでは、複数の曲を連続再生できるプレイリスト機能を利用できます。このため、音楽CDなどからコピーしたアルバム情報を聞く時に便利です。

インターネットで入手したオーディオデータや、オーディオ機器で録音したオーディオデータを本機で利用する場合、オーディオ再生のアプリフォルダ(BMS_AudioData)にコピーしておくとう便利です。

また、本機で利用したい音楽データは、メディア再生のアプリフォルダ(BMS_MediaData)にコピーしておくとう便利です。

CDからのメディアデータの取り込みには、パソコン上の専用ソフトをご使用ください。詳しくは、**〈6. 3. 4 パソコンで、CDから音楽ファイルを取り込む〉**の項を参照してください。

なお、ネット上で購入した音楽データは、本機ではご利用頂けません。

オーディオ再生やメディア再生のチャプター機能を使用する場合は、記憶メディアを書き込み禁止にロックしないでください。

〔プレイリストについて〕

プレイリストファイル(.playlist)は、音楽アルバムなど、複数の曲を連続再生するために、本機で作成し、利用しているファイル形式です。

プレイリストファイルを選択してエンターキーを押すと、プレイリスト再生ウィンドウが開き、登録されている曲を、連続再生、またはランダム再生できます。プレイリストは、次の場合に、作られます。

- (1) 前面SDカードやUSBメモリー内のアプリフォルダ(BMS_MediaData)の中に、オーディオ形式のファイルを含むフォルダがあると、メディア検出ウィンドウが、そのフォルダ内に、自動的にプレイリストを作ります。
「アーティスト名¥アルバム名¥各オーディオファイル」のように階層的に保存されている場合は、各レベルでのプレイリストを作成します。
- (2) ファイル一覧ウィンドウで、オーディオファイルを保存したフォルダを選択し、次のコマンドを実行すると、そのフォルダ用のプレイリストを作成します。
メニュー → プログラム → フォルダ内の曲を再生する

6. 2 オーディオ再生

この節では、オーディオ再生プログラムを使用して、オーディオデータを再生する操作をご説明します。

6. 2. 1 オーディオ再生プログラム

(簡単操作選択項目)「A7 オーディオ再生プログラム」=利用可能

オーディオ再生プログラムでは、音声を早聞きしたり、再生を聞きながらノートを取る作業ができます。

オーディオ再生プログラムを起動するには、メインウィンドウの「オーディオ再生」項目を選択して、エンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとA(1の点)を押します。

すると、「オーディオデータの選択」ウィンドウが開きます。

このウィンドウには、接続されている記憶メディアのアプリフォルダ内のオーディオデータと、最近使ったオーディオデータの一覧表が表示されています。

目的のファイルを選択してエンターキーを押すと、再生ウィンドウが開きます。

今挿入されていないSDカードやUSBメモリーのファイルはリストに表示されません。

〔ウィンドウの構成〕

このウィンドウには以下の項目があり、タブキーで項目の間を移動します。

このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

(ステータス表示) リスト内のファイルの数が表示されています。

(ファイルリスト) オーディオデータの一覧表が表示されています。

(このファイルを開く) リストで選択しているファイルを開きます。

リスト上でエンターキーを押すのと同じです。

(このリストにないファイルを開く)

その他のファイルを選択するために、「読み込むファイルの選択」ウィンドウを開きます。

(このファイルを削除する)

リストで選択しているファイルを削除します。リスト上でデリートキーを押すのと同じです。

〔ファイルリストの操作〕

ファイルリストでは、次の操作が使用できます。

上矢印キー（コマンドキー+1の点）：前の項目に移動します。

下矢印キー（コマンドキー+4の点）：次の項目に移動します。

ホームキー（コマンドキー+1，3の点）：最初の項目に移動します。

エンドキー（コマンドキー+4，6の点）：最後の項目に移動します。

エンターキー：このファイルを開きます。

デリートキー：このファイルを削除します。

コントロール+C（1，4の点）：データを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー／移動する方法〉を参照してください。

コントロール+X（1，3、4、6の点）：データを、他の記憶メディアに移動するか、または移動対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー／移動する方法〉を参照してください。

〔オーディオデータ選択メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

（1）「ファイル（F）」サブメニュー：ファイルの読み込みと保存に関する以下のコマンドがあります。

このファイルを開く：一覧で選択中のデータを開きます。

このリストにないファイルを開く，コントロール + O：再生するオーディオデータを選択します。

このファイルを削除する：選択中のオーディオデータを削除します。

お気に入り文書に追加（F），コントロール+セレクト + F：このデータをお気に入りに追加します。（簡単操作選択項目 B6）＝隠す

このファイルをコピーする，コントロール + C：選択中のデータを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として登録します。（簡単操作選択項目 C6）＝利用可能

このファイルを移動する，コントロール + X：選択中のデータを、他の記憶メディアに移動するか、移動対象として登録します。（簡単操作選択項目 C6）＝利用可能

オーディオデータの情報：このデータの情報を表示します。

データを探す場所の指定：アプリフォルダと同じように、プログラムの起動時に、一覧に表示するデータを探すフォルダを、追加できます。（簡単操作選択項目 D9）＝隠す。

6. 2. 2 オーディオ再生ウィンドウ

このウィンドウは、オーディオ再生プログラムで、データを選択すると表示されます。

このウィンドウでは、オーディオデータの再生と、データ内の移動操作ができます。

エンターキーを押すと再生が始まり、もう一度押すと再生が止まります。

長い録音データを聞く場合は、内容の切れ目にチャプターを付けておくと、目的の場所にジャンプできて便利です。

再生速度は、オーディオ再生設定のオーディオ再生速度で調節できます。

また、再生音量は、オーディオ再生設定のメインボリュームとオーディオ再生ボリュームで決まります。

このウィンドウを閉じるには、コマンドキー+E（または、エスケープキー）を押します。
このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔点字キーボタン〕

このウィンドウでは、プレイヤーを操作するために点字キーを使用します。

エンターキー: 再生/停止

3の点: 10秒前にスキップ

6の点: 10秒後ろにスキップ

1, 3の点: 巻き戻し

4, 6の点: 早送り

*早送りや巻き戻しの途中で、もう一度同じボタンを押すと、高速送りと低速送りを切り替えられます。

1の点: 前のチャプターまでスキップ

4の点: 次のチャプターまでスキップ

〔再生ボリュームと再生速度を調節する〕

オーディオ再生のボリュームは、メインボリュームとオーディオ再生ボリュームで決まります。

また、オーディオ再生速度で、早聞きの速度を調節できます。

これらの設定項目を変更するには、コントロールキーとボリュームボタンで項目を選び、ボリュームボタンで値を変更してください。

〔その他の操作〕

このウィンドウには、以下のボタンがあります。

実行するには、タブキーで移動してスペースキーを押すか、ショートカットキーを入力します。

チャプターを付ける…ショートカット=オルト+M。

チャプター一覧…ショートカット=オルト+L。

〔点字でコメントを書く〕

（簡単操作選択項目 D10）=利用可能

現在の再生位置にチャプターを付け、点字でコメントを書きしておくことができます。

コメントは、1件1行の、自由な長さの点字文で、録音されている内容の要約や、感想などを記録できます。

書いたコメントは、後でコメント一覧でノートとして参照したり、それぞれのコメントが付けられた位置にジャンプして、録音を聞き直すことができます。

次の操作をご利用ください。

- ・コントロール+M(1, 3, 4の点): 現在位置にチャプターを付けて、コメントを追加します。
- ・コントロール+スペースキー: 直前のチャプターに付けられているコメントを、一覧表示します。
- ・コントロール+エンターキー: 直前のチャプターに、コメントを追加します。
- ・コントロール + E(1, 5の点): データに付けられているコメントの一覧を表示します。

コメント機能について詳しくは、〈5. 4 コメント機能〉の項を参照してください。

〔オーディオデータ再生メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

- (1) 再生/停止, エンターキー: データの再生を開始/終了します。
- (2) 早送り, 点字キー4, 6の点: データの早送りを開始します。
- (3) 巻戻し, 点字キー1, 3の点: データの巻戻しを開始します。
- (4) 10秒戻る, 点字キー3の点: 再生位置を、10秒前に戻します。
- (5) 10秒進む, 点字キー3の点: 再生位置を、10秒後に進めます。
- (6) 「チャプター (M)」サブメニュー: チャプターを設定、利用するコマンドです。

チャプターを付ける (M): 現在位置にチャプターを付けます。

前のチャプターに戻る, 点字キー1の点: 再生位置を、前のチャプターに戻します。

次のチャプターに進む, 点字キー4の点: 再生位置を、次のチャプターまで進めます。

チャプター一覧 (L): チャプターを一覧表示します。

ここをマークして、コメントを追加 (C), コントロール + M: 現在位置をマークして、コメントを追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能

直前のマーク位置のコメントを表示 (R), コントロール+スペースキー: 直前のマーク位置に付けられているコメントを、一覧表示します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能

直前のマーク位置にコメントを追加 (A), コントロール+エンターキー: 直前のマーク位置に、コメントを追加します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能

このデータ内のコメント一覧 (V), コントロール + E: データに付けられているコメントの一覧を表示します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能

全てのコメントを削除: このデータに付けられているコメントを、全て削除します。(簡単操作選択項目 D10) =利用可能

- (7) 「ファイル (F)」サブメニュー: ファイルの読み込みと保存に関する以下のコマンドがあります。

お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: この文書をお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す

オーディオデータの情報: このデータの情報を表示します。

- (8) 「設定 (S)」サブメニュー: 設定に関する以下のコマンドがあります。

オーディオ再生の設定: オーディオ再生設定のウィンドウを表示します。

6. 2. 3 オーディオ再生のバックグラウンド操作

〔グローバルショートカット〕

他のウィンドウを操作している時でも、次の操作でオーディオプレイヤーをコントロールできます。

この機能は、オーディオ再生を聞きながら、テキストや点字でメモを取る時などに便利です。

ウィンキー+0: 巻き戻し

ウィンキー+1: 再生/停止

- ウィンキー+2: 早送り
- ウィンキー+4: 前のマークへ移動
- ウィンキー+5: マークを付ける
- ウィンキー+6: 次のマークへ移動

〔ナビキーによる操作〕

ナビキーの設定で、「オーディオ再生の操作」を選択している場合、他のウィンドウを操作中でも、ナビキーでオーディオ再生をコントロールできます。

- 右ボタン=再生/停止
- 右ボタン+コントロール=早送り
- 右ボタン+オルト=次のマーク
- 左ボタン=3秒前（または、前の行）に戻る
- 左ボタン+コントロール=巻戻し
- 左ボタン+オルト=前のマーク
- 左右ボタン+オルト=マークを付ける
- 左右ボタン+オルト+コントロール=現在位置の読み上げ

6. 3 メディア再生

メディア再生プログラムでは、音楽データが入ったオーディオファイルを再生します。メディア再生のアプリフォルダ名は、bms_MediaData です。アプリフォルダ内にあるサブフォルダには、プレイリストファイルが自動的に作られます。なお、メディア再生は音楽データの再生を目的としているため、音声の早聞きはできません。音声の早聞きを利用したい場合は、オーディオ再生プログラムをご利用ください。

6. 3. 1 メディア再生プログラム

（簡単操作選択項目）「A10 メディア再生プログラム」=利用可能

メディア再生プログラムでは、プレイリスト機能を含む、音楽データの再生ができます。メディア再生プログラムを起動するには、メインウィンドウの「メディア再生」項目を選択して、エンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとM（1・3・4の点）を押します。

すると、「メディアデータの選択」ウィンドウが開きます。このウィンドウには、接続されている記憶メディアのアプリフォルダ内のメディアデータと、最近使ったメディアデータの一覧が表示されています。

目的のファイルを選択してエンターキーを押すと、再生ウィンドウが開きます。プレイリストファイルを選択して、エンターキーを押すと、プレイリスト用の再生ウィンドウが開きます。

今挿入されていないSDカードやUSBメモリのファイルはリストに表示されません。このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔ウィンドウの構成〕

このウィンドウには以下の項目があり、タブキーで項目の間を移動します。

- (ステータス表示) リスト内のファイルの数が表示されています。
- (ファイルリスト) メディアデータの一覧表が表示されています。
- (このファイルを開く) リストで選択しているファイルを開きます。
リスト上でエンターキーを押すのと同じです。
- (このリストにないファイルを開く) その他のファイルを選択するために、「読み込むファイルの選択」ウィンドウを開きます。
- (このファイルを削除する) リストで選択しているファイルを削除します。
リスト上でデリートキーを押すのと同じです。
- (プレイリストを作る) 新しいプレイリストファイルを作ります。
アプリフォルダ内にあるフォルダには、自動的に、フォルダ内のメディアデータを登録したプレイリストファイルが作成されます。
- (プレイリストを編集する) 既存のプレイリストファイルを編集します。

〔ファイルリストの操作〕

ファイルリストでは、次の操作が使用できます。

上矢印キー (コマンドキー+1の点) : 前の項目に移動します。

下矢印キー (コマンドキー+4の点) : 次の項目に移動します。

ホームキー (コマンドキー+1, 3の点) : 最初の項目に移動します。

エンドキー (コマンドキー+4, 6の点) : 最後の項目に移動します。

エンターキー: このファイルを開きます。

コントロール+エンターキー: プレイリスト項目が選択されている時、プレイリストの編集ウィンドウを開きます。

デリートキー: ファイルを削除します。

コントロール+C(1, 4の点): データを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

コントロール+X(1, 3, 4, 6の点): データを、他の記憶メディアに移動するか、または移動対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

〔メディアデータ選択メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

O(1)「ファイル (F)」サブメニュー: ファイルの読み込みと保存に関する以下のコマンドがあります。

このファイルを開く: 一覧で選択中のデータを開きます。

このリストにないファイルを開く, コントロール + O: 再生するメディアデータファイルを選択します。

このファイルを削除する: 選択中のファイルを削除します。

プレイリストを作る: 新規にプレイリストを作成します。

プレイリストを編集する: 既存のプレイリストを編集します。

お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: このデータをお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す

このファイルをコピーする, コントロール + C: 選択中のデータを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) =利用可能

このファイルを移動する, コントロール+X: 選択中のデータを、他の記憶メディアに移動するか、移動対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) =利用可能
メディアデータの情報: このデータの情報を表示します。
データを探す場所の指定: アプリフォルダと同じように、プログラムの起動時に、一覧に表示するデータを探すフォルダを、追加できます。(簡単操作選択項目 D9) =隠す

6. 3. 2 メディア再生ウィンドウ

このウィンドウは、メディア再生プログラムで、メディアデータを選択すると表示されます。このウィンドウでは、メディアデータの再生と、データ内の移動操作ができます。エンターキーを押すと再生が始まり、もう一度押すと再生が止まります。一つのメディアデータの中に複数の曲が入っているような場合は、各曲の頭にチャプターを付けておくと、目的の曲にジャンプできて便利です。再生音量は、オーディオ再生設定のメインボリュームとメディア再生ボリュームで決まります。このウィンドウを閉じるには、コマンドキー+E (または、エスケープキー) を押します。このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔点字キーボタン〕

このウィンドウでは、プレイヤーを操作するために点字キーを使用します。

エンターキー: 再生/停止

3の点: 10秒前にスキップ

6の点: 10秒後ろにスキップ

1, 3の点: 巻き戻し

4, 6の点: 早送り

*早送りや巻き戻しの途中で、もう一度同じボタンを押すと、高速送りと低速送りを切り替えられます。

1の点: 前のチャプターまでスキップ

4の点: 次のチャプターまでスキップ

〔再生ボリューム〕

メディア再生のボリュームは、メインボリュームとメディア再生ボリュームで決まります。

これらの設定項目を変更するには、コントロールキーとボリュームボタンで項目を選び、ボリュームボタンで値を変更してください。

〔その他の操作〕

このウィンドウには、以下のボタンがあります。

実行するには、タブキーで移動してスペースキーを押すか、ショートカットキーを入力します。

チャプターを付ける…ショートカット=オルト+M。

チャプター一覧…ショートカット=オルト+L。

〔メディアデータ再生メニュー〕

メニューから、このファイルをコピーする, コントロール + C: 選択中のデータを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) =利用可能

このファイルを移動する, コントロール + X: 選択中のデータを、他の記憶メディアに移動するか、移動対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) = 利用可能
以下のコマンドが選択できます。

- (1) 再生/停止, エンターキー: データの再生を開始/終了します。
- (2) 早送り, 点字キー4, 6の点: データの早送りを開始します。
- (3) 巻戻し, 点字キー1, 3の点: データの巻戻しを開始します。
- (4) 10秒戻る, 点字キー3の点: 再生位置を、10秒前に戻します。
- (5) 10秒進む, 点字キー3の点: 再生位置を、10秒後に進めます。
- (6) 「チャプター (M)」サブメニュー: チャプターを設定、利用するコマンドです。
チャプターを付ける (M): 現在位置にチャプターを付けます。
前のチャプターに戻る, 点字キー1の点: 再生位置を、前のチャプターに戻します。
次のチャプターに進む, 点字キー4の点: 再生位置を、次のチャプターまで進めます。
チャプター一覧 (L): チャプターを一覧表示します。
- (7) 「ファイル (F)」サブメニュー: ファイルの読み込みと保存に関する以下のコマンドがあります。
お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: この文書をお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) = 隠す
メディアデータの情報: このデータの情報を表示します。
このファイルをコピーする, コントロール + C: 選択中のデータを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) = 利用可能
このファイルを移動する, コントロール + X: 選択中のデータを、他の記憶メディアに移動するか、移動対象として登録します。(簡単操作選択項目 C6) = 利用可能
- (8) 「設定 (S)」サブメニュー: 設定に関する以下のコマンドがあります。
オーディオ再生の設定: オーディオ再生設定のウィンドウを表示します。

6. 3. 3 プレイリスト再生ウィンドウ

このウィンドウは、メディア再生プログラムで、プレイリストファイルを選択すると表示されます。

このウィンドウでは、プレイリスト内のメディアデータの再生と、データ内の移動操作ができます。

エンターキーを押すと再生が始まり、プレイリスト内の曲を順番に再生します。

エンターキーをもう一度押すと再生が止まります。

その他、前後の曲にジャンプしたり、リスト内の曲をランダムな順番で再生することができます。

ランダム再生の順番を変えるには、「ランダム再生」チェックボックスを2回押してください。再生音量は、オーディオ再生設定のメインボリュームとメディア再生ボリュームで決まります。

このウィンドウを閉じるには、コマンドキー+E (または、エスケープキー) を押します。

このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔点字キーボタン〕

このウィンドウでは、プレイヤーを操作するために点字キーを使用します。

エンターキー: 再生/停止

2の点: 前の曲

5の点: 次の曲

3の点: 10 秒前にスキップ

6の点: 10 秒後ろにスキップ

1, 3の点: 巻き戻し

4, 6の点: 早送り

*早送りや巻き戻しの途中で、もう一度同じボタンを押すと、高速送りと低速送りを切り替えられます。

1の点: 前のチャプターまでスキップ

4の点: 次のチャプターまでスキップ

〔その他の操作〕

このウィンドウには、以下のボタンがあります。

実行するには、タブキーで移動してスペースキーを押すか、ショートカットキーを入力します。

前の曲…ショートカット=オルト+B。

次の曲…ショートカット=オルト+A。

最初の曲…ショートカット=オルト+S。

ランダム再生 (チェックボックス) …ショートカット=オルト+D。

チャプターを付ける…ショートカット=オルト+M。

チャプター一覧…ショートカット=オルト+L。

また、ショートカット操作、オルト+Tで、フォーカスが曲名欄に戻ります。

〔メディアデータ再生メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

(1) 再生/停止, エンターキー: データの再生を開始/終了します。

(2) 早送り, 点字キー4, 6の点: データの早送りを開始します。

(3) 巻き戻し, 点字キー1, 3の点: データの巻き戻しを開始します。

(4) 10 秒戻る, 点字キー3の点: 再生位置を、10 秒前に戻します。

(5) 10 秒進む, 点字キー3の点: 再生位置を、10 秒後に進めます。

(6) 「プレイリスト (L)」サブメニュー: プレイリスト内から選曲します。

次の曲 (A), 点字キー5の点: 次の曲に移動します。

前の曲 (B), 点字キー2の点: 前の曲に戻ります。

最初の曲 (S): 最初の曲に移動します。

ランダム再生 (D): ランダム再生設定をオン/オフします。

(7) 「チャプター (M)」サブメニュー: チャプターを設定、利用するコマンドです。

チャプターを付ける (M): 現在位置にチャプターを付けます。

前のチャプターに戻る, 点字キー1の点: 再生位置を、前のチャプターに戻します。

次のチャプターに進む, 点字キー4の点: 再生位置を、次のチャプターまで進めます。

チャプター一覧 (L): チャプターを一覧表示します。

(8) 「ファイル (F)」サブメニュー: ファイルの読み込みと保存に関する以下のコマンドがあります。

お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト +F: この文書をお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す

メディアデータの情報: このデータの情報を表示します。

(9) 「設定 (S)」サブメニュー: 設定に関する以下のコマンドがあります。

オーディオ再生の設定: オーディオ再生設定のウィンドウを表示します。

6. 3. 4 パソコンで、CDから音楽ファイルを取り込む

この項では、Windows7以降の環境で、CDから音楽ファイルを取り込み、本機で楽しむための操作方法をご紹介します。

音楽ファイルの取り込みには、ここでは、Windowsに標準で組み込まれている、「Windows Media Player」を使います。

なお、CDによっては、パソコンでの再生や取り込みができないものがあります。予めご了承ください。

また、取り込んだ音楽ファイルにも著作権があります。取り込んだファイルは、ご自身の責任で正しくご使用ください。

〔必要なもの〕

この操作を行うには、CDが再生可能なドライブを持ったパソコンが必要です。

パソコンで取り込んだ音楽ファイルは、SDカードかUSBメモリーに入れて、本機に接続します。

SDカードを使用する場合は、パソコンで読み書きできるドライブも必要になります。

どちらかの記憶メディアをご用意ください。

それでは、操作方法をご説明します。

〔Windows Media Player を起動する〕

パソコンで、次のように操作します。

(1) Win キー+R を押して、「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを開きます。

(2) 「wmplayer」と入力し、エンターキーを押します。

すると、Windows Media Player が立ち上がります。

〔CDから取り込むための設定をする〕

「Windows Media Player」で、CDから取り込むための設定をしておくと、新しいCDを挿入しただけで、自動的に音楽ファイルがパソコンに取り込まれます。

次回からは、以下の(3)～(5)の作業は必要ありません。

(3) オルトキーでメニューを開き、矢印キーで「ツール」メニューの「オプション」コマンドに移動して、エンターキーを押します。

すると、「オプション」ウィンドウが開きます。

(4) Ctrl+Tab キーを押して、「音楽の取り込み」タブに移動します。

ここで、以下の設定を確認し、お好みで変更します。

保存する場所 初期値は、「マイ ミュージック」になっています。変更の必要はありません。取り込むファイルの形式 初期値は、「Windows Media Audio」になっています。変更の必要はありません。

「取り込んだ音楽を保護する」のチェックを外します。

「CDの取り込みを自動的に開始する」をチェックします。

「取り込み後にCDを取り出す」をチェックしておく、取り込みの完了が分かりやすくなります。

「音質」のスライダーを調節します。右に行くほど、高音質、大容量になります。

- (5) 設定できたら、[OK] ボタンを押して、オプションウィンドウを閉じます。
なお、初回取り込み時には、「取り込むオプション」のウィンドウが表示されます。
この場合は、必ず次のように操作してください。
Tab キーで、ラジオボタンの選択肢、「取り込んだ音楽に、コピー防止を追加しない」に
移動し、スペースキーを押してチェックしてください。
また、著作権の理解に関する質問にチェックを付けてください。

〔CDから音楽を取り込む〕

- (6) Windows Media Player が起動している状態で、目的のCDをドライブに挿入します。
すると、自動的に、音楽ファイルの取り込みが始まります。
上記設定の場合、取り込んだ音楽ファイルは、デスクトップフォルダの、(あなたのアカ
ウント名のフォルダ) → マイ ミュージックの中に、アルバム毎にまとめて保存されま
す。

〔取り込んだアルバムを、記憶メディアにコピーする〕

音楽ファイルの取り込みが終わったら、そのデータを、記憶メディアにコピーします。

- (7) 使い慣れているファイル管理ソフトを起動してください。
(8) まず、上記の場所に作られた、アルバムのフォルダを、フォルダごとコピーします。
ファイル管理ソフトで、アルバム名のフォルダを選択し、コピーコマンドを実行して
ください。
(9) 次に、このデータを、用意した記憶メディアのアプリフォルダ(BMS_MediaData)内に
貼り付けます。
記憶メディアをパソコンに接続し、ファイル管理ソフトを操作して、記憶メディアの中
の BMS_MediaData フォルダ内に入ります。
ここで、貼り付けコマンドを実行すると、アルバムのデータのコピーが始まります。

〔本機で再生する〕

- (10) コピーできたら、記憶メディアを安全に取り外して、本機に接続します。
すると、記憶メディア検出のメッセージが表示されます。
ここからは、本機側で、以下のように操作します。
(11) オルトキー+M (1,3,4 の点) を押して、[メディア再生で、BMS_MediaData フォ
ルダ内のデータを再生する] ボタンを選択します。
すると、メディア再生プログラムが起動して、データ一覧内に、アルバム名のプレイリ
ストが表示されます。この操作は、メディア再生プログラムのグローバルショートカッ
ト (ウィンキー+M) を押しても同じです。
(12) 再生ウィンドウを開くには、上下矢印キーでデータを選択し、エンターキーを押して
ください。

6. 4 マイクから録音する

この節では、ボイスレコーダーを利用して、内蔵マイクから録音する操作をご説明します。

6. 4. 1 ボイスレコーダープログラム

(簡単操作選択項目)「A8 ボイスレコーダープログラム」=利用可能

ボイスレコーダープログラムでは、内蔵マイクから録音したり、録音したオーディオデータを再生できます。

ボイスレコーダープログラムを起動するには、メインウィンドウの「ボイスレコーダー」項目を選択して、エンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとV（1・2・3・6の点）を押します。

ボイスレコーダープログラムを起動すると、まず録音ウィンドウが開きます。

ボイスレコーダーで録音したファイルは、内蔵SDメモリー内の「¥マイ ドキュメント¥ボイスレコーダー」フォルダ内に、録音した日付と時刻のファイル名で保存されます。

前に録音したファイルを聞きたい時は、エスケープキーを押して、録音ウィンドウを閉じてください。

録音を行わないで録音ウィンドウを閉じると、今回の録音のために用意されたファイルは、自動的に削除されます。

6. 4. 2 録音ウィンドウ

このウィンドウでは、マイクから録音します。

このウィンドウを閉じるには、コマンドキー+E（または、エスケープキー）を押します。

〔点字キーボタン〕

このウィンドウでは、レコーダーを操作するために点字キーを使用します。

エンターキー: 録音/停止

〔その他の操作〕

このウィンドウには、以下のボタンがあります。

実行するには、タブキーで移動してスペースキーを押すか、ショートカットキーを入力します。チャプターを付ける…ショートカット=オルト+M。

6. 4. 3 録音したデータを再生する

ボイスレコーダーの録音ウィンドウを閉じると、「ボイスレコーダー」ウィンドウが表示されます。

このウィンドウには、これまでに録音したファイルの一覧表が表示されています。

目的のファイルを選択してエンターキーを押すと、再生ウィンドウが開きます。

このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔ウィンドウの構成〕

このウィンドウには以下の項目があり、タブキーで項目の間を移動します。

(ステータス表示) リスト内のファイルの数が表示されています。

(ファイルリスト) 録音済みファイルの一覧表が表示されています。

(再生) リストで選択しているファイルを再生します。リスト上でエンターキーを押すのと同じです。

(録音) 新しいファイルを用意して、録音ウィンドウを開きます。

(削除) リストで選択しているファイルを削除します。リスト上でデリートキーを押すのと同じです。

【ファイルリストの操作】

ファイルリストでは、次の操作が使用できます。

上矢印キー (コマンドキー+1の点) : 前の項目に移動します。

下矢印キー (コマンドキー+4の点) : 次の項目に移動します。

ホームキー (コマンドキー+1, 3の点) : 最初の項目に移動します。

エンドキー (コマンドキー+4, 6の点) : 最後の項目に移動します。

エンターキー: このファイルを開きます。

デリートキー: このファイルを削除します。

【ボイスレコーダーメニュー】

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

(1) 再生 (P): このデータを再生します。

(2) 録音 (R): 新規に録音します。

(3) 削除 (D): このデータを削除します。

(4) 「ファイル (F)」サブメニュー: ファイルの読み込みと保存に関する以下のコマンドがあります。

お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: このデータをお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) = 隠す

オーディオデータの情報: このデータの情報を表示します。

(5) 「設定 (S)」サブメニュー: ボイスレコーダーの設定に関する以下のコマンドがあります。オーディオ録音の設定: オーディオ録音についての設定を行います。

6. 4. 4 再生ウィンドウ

このウィンドウは、ボイスレコーダーウィンドウで、録音済みのファイルを選択すると表示されます。

このウィンドウでは、録音したオーディオデータを再生できます。

エンターキーを押すと再生が始まり、もう一度押すと再生が止まります。

長い録音データを聞く場合は、内容の切れ目にチャプターを付けておくと、目的の場所にジャンプできて便利です。

再生速度は、オーディオ再生設定のオーディオ再生速度で調節できます。

また、再生音量は、オーディオ再生設定のメインボリュームとオーディオ再生ボリュームで決まります。

このウィンドウを閉じるには、コマンドキー+E (または、エスケープキー) を押します。

このウィンドウの操作は、オルトキーを押して、メニューからも選択できます。

〔点字キーボタン〕

このウィンドウでは、プレイヤーを操作するために点字キーを使用します。

エンターキー: 再生/停止

3の点: 10秒前にスキップ

6の点: 10秒後ろにスキップ

1, 3の点: 巻き戻し

4, 6の点: 早送り

*早送りや巻き戻しの途中で、もう一度同じボタンを押すと、高速送りと低速送りを切り替えられます。

1の点: 前のチャプターまでスキップ

4の点: 次のチャプターまでスキップ

〔グローバルショートカット〕

他のウィンドウを操作している時でも、次の操作でオーディオプレイヤーをコントロールできます。

この機能は、オーディオ再生を聞きながら、テキストや点字でメモを取る時などに便利です。

ウィンキー+0: 巻き戻し

ウィンキー+1: 再生/停止

ウィンキー+2: 早送り

ウィンキー+4: 前のマークへ移動

ウィンキー+5: マークを付ける

ウィンキー+6: 次のマークへ移動

〔ナビキーによる操作〕

ナビキーの設定で、「オーディオ再生の操作」を選択している場合、他のウィンドウを操作中でも、ナビキーでオーディオ再生をコントロールできます。

右ボタン=再生/停止

右ボタン+コントロール=早送り

右ボタン+オルト=次のマーク

左ボタン=3秒前（または、前の行）に戻る

左ボタン+コントロール=巻き戻し

左ボタン+オルト=前のマーク

左右ボタン+オルト=マークを付ける

左右ボタン+オルト+コントロール=現在位置の読み上げ

〔その他の操作〕

このウィンドウには、以下のボタンがあります。

実行するには、タブキーで移動してスペースキーを押すか、ショートカットキーを入力します。

チャプターを付ける…ショートカット=オルト+M。

チャプター一覧…ショートカット=オルト+L。

コントロール+C(1, 4の点): データを、他の記憶メディアにコピーするか、コピー対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

コントロール+X(1、3、4、6の点): データを、他の記憶メディアに移動するか、または移動対象として、クリップボードに登録します。詳しくは、〈2. 4. 3 アプリフォルダ間で、データをコピー/移動する方法〉を参照してください。

〔オーディオデータ再生メニュー〕

このウィンドウのメニューから、以下のコマンドが選択できます。

- (1) 再生/停止, エンターキー: データの再生を開始/終了します。
- (2) 早送り, 点字キー4, 6の点: データの早送りを開始します。
- (3) 巻戻し, 点字キー1, 3の点: データの巻戻しを開始します。
- (4) 10秒戻る, 点字キー3の点: 再生位置を、10秒前に戻します。
- (5) 10秒進む, 点字キー3の点: 再生位置を、10秒後に進めます。
- (6) 「CHAPTER (M)」サブメニュー: CHAPTERを設定、利用するコマンドです。
CHAPTERを付ける (M): 現在位置にCHAPTERを付けます。
前のCHAPTERに戻る, 点字キー1の点: 再生位置を、前のCHAPTERに戻します。
次のCHAPTERに進む, 点字キー4の点: 再生位置を、次のCHAPTERまで進めます。
CHAPTER一覧 (L): CHAPTERを一覧表示します。
- (7) 「ファイル (F)」サブメニュー: ファイルの読み込みと保存に関する以下のコマンドがあります。
お気に入り文書に追加 (F), コントロール+セレクト + F: この文書をお気に入りに追加します。(簡単操作選択項目 B6) =隠す
オーディオデータの情報: このデータの情報を表示します。
- (8) 「設定 (S)」サブメニュー: 設定に関する以下のコマンドがあります。
オーディオ再生の設定: オーディオ再生設定のウィンドウを表示します。

第7章 外部機器との接続

この章では、本機の通信機能についてご説明します。

7. 1 通信機能の概要

この節では、本機にある通信ポートと、その特長をご説明します。

〔本機の通信ポート〕

本機には、次の通信ポートがあります。

- USBポート……パソコンとの間で高速に通信できるポートです。
- ブルートゥースポート（BTポート）……内蔵の無線通信ポートです。
- RS-232Cシリアルポート（RSポート）【BMS40のみ】……点字プリンタやブレイルメモと接続するために使用します。

本機を他の機器と接続するには、これらの通信ポートのどれかを使用します。

各ポートには、それぞれに特長があります。

お客様の目的にあったポートをご利用ください。

また、接続の際は、本機と接続先機器の通信条件を合わせてください。

〔1〕USBポート

最も高速な通信ポートで、本機をWindowsパソコンと接続するために使用します。

ケーブルで接続する前に、パソコン側に本機用のUSBドライバをインストールする必要があります（当社ホームページからダウンロードするか、製品同梱のサポートCDROM内のものをご使用ください）。

ケージーエス福祉機器用ダウンロード

専用ページ: <http://www.kgs-jpn.co.jp/down.html>

その後、本体の右側面中央にあるUSBミニジャック（USBファンクションポート）とパソコンを接続してください。

（本体左側面にあるUSBホストポートは、通信ポートとしては使用できません）。

本機側の通信条件は、以下のコマンドで設定します。

メインメニュー → 接続 → USBポート → USBポートの設定

〔2〕ブルートゥースポート（BTポート）

無線通信により、ブルートゥース通信機能を持つパソコンやブレイルメモ、その他の情報機器と接続するために使用します（パソコンにこの機能がない場合は、USB接続の通信モジュール等で拡張可能です）。

このポートを使用すると、本機からパソコンを無線接続で操作できます。

パソコン（その他の情報機器）と接続する場合、初めに、パソコン側でペアリングと呼ばれる接続許可のための操作をする必要があります。

パソコンとペアリングするための操作については、〈7. 2. 2 本機とパソコンをブルートゥースで接続する〉の項を参照してください。

（本機のブルートゥース通信機能は、音声の転送や、キーボードの接続等には使用できません）

ん)。

本機側の通信条件は、以下のコマンドで設定します。

メインメニュー → 接続 → ブルートゥースポート → ブルートゥースポートの設定

パソコンと接続する場合は、パソコン側で対応する通信ポートを開くと、自動的に接続されま
す。

ブレイルメモと接続する場合は、以下のコマンドをご使用ください。

メインメニュー → 接続 → ブルートゥースポート → ブルートゥースポート接続

〔3〕RS-232Cシリアルポート（RSポート）【BMS40のみ】

点字プリンタやブレイルメモと接続するために使用します。

BMS40の背面左側にコネクタがあります。

ご使用の際は、製品同梱のシリアルケーブル（クロス接続用）、または点字プリンタ同梱のシリ
アルケーブルをご使用ください。

本機側の通信条件は、以下のコマンドで設定します。

メインメニュー → 接続 → RSポート → RSポートの設定

〔本機とブレイルメモを接続する〕

本機がBMS40で、相手側のブレイルメモがBMpk（ブレイルメモポケット）以外の場合
は、シリアルポートで接続します。

本機がBMS16の時、または相手側のブレイルメモがBMpkの時は、ブルートゥースポート
で接続します。

ただし、BMS16とブレイルメモBM16、またはBN46Xとを直接接続することはできま
せん。

この場合は、パソコン等を経由して文書を転送して頂く必要があります。

両方の機械からパソコンに接続可能な場合は、付属ソフト、BMシリーズ機器用ユーティリティ
内の中継通信プログラム PortLink をお試しください。

（RSポートでの接続）

（1）両機のシリアルポートの通信条件を合わせます。

以下のコマンドで確認してください。

BMスマート側：メインメニュー → 接続 → RSポート → RSポートの設定

ブレイルメモ側：メインメニュー → 各種設定 → 一般の通信条件の設定

（2）両機を、本機付属のシリアルケーブルで接続します。

（ブルートゥースポートでの接続）

（1）両機のブルートゥースポートの通信条件を合わせます。

以下のコマンドで確認してください。

BMスマート側：メインメニュー → 接続 → ブルートゥースポート → ブルートゥ
ースポートの設定

ブレイルメモ側：メインメニュー → 外部機器との接続 → ブルートゥース → ブルー
トゥース通信の設定

（2）BMスマート側から、次のコマンドで接続します。

メインメニュー → 接続 → ブルートゥースポート → ブルートゥース接続

この場合、作業が終了したら、次のコマンドでブルートゥース通信を切断してくださ
い。

メインメニュー → 接続 → ブルートゥースポート → ブルートゥース切断

本機とブレイルメモとのブルートゥース接続について、詳しくは〈7. 2. 3 本機とブレイルメモをブルートゥース接続する〉の項を参照してください。

〔利用できる通信機能〕

本機では、次の通信機能が利用できます。

- (1) 本機を、点字ディスプレイとして、パソコン、その他の情報機器の操作に利用できます。
- (2) 本機と、旧モデルであるブレイルメモシリーズ機器の間で、点字文書の送受信が行えます。
- (3) 本機と別のBMスマート、ブレイルメモ、パソコンとの間で、点字によるチャットを行えます。
- (4) 本機と点字プリンタを接続して、点字印刷を行えます。(BMS16は、ブルートゥース接続のみ)

〔Windows パソコン用の付属ソフト BM ユーティリティについて〕

BMスマートをパソコンと接続して便利にご利用頂くために、以下のソフトウェアを用意しています。これらのソフトウェアをご使用になるには、当社ホームページの以下のページ、または製品添付のサポートCDROMから、「BMシリーズ機器用ユーティリティ」をインストールしてください。

ケーゲーエス福祉機器用ダウンロード

専用ページ: <http://www.kgs-jpn.co.jp/down.html>

- (1) MSHELL…コンピュータの中のファイルを選択して実行したり、コピー、移動、貼り付けなどの操作を行うための、点字表示対応のユーティリティです。
- (2) BMFEP…BMシリーズ機器からのキー操作をWindowsのキー操作に変換するためのアプリケーション・ソフトです。(Windows Vista以降では、管理者アカウントで実行してください)。
- (3) サピエ図書館検索ツール…「サピエ図書館」から点字/デジタリ図書館の情報をダウンロードし、BMシリーズ機器で利用するための操作を簡単に行うためのユーティリティソフトです。
「ファイル名を指定して実行」から起動する場合は、TextPageと入力してください。
このプログラムの使い方については、〈5. 3 パソコンで、サピエ図書館からデジタリファイルや点字ファイルをダウンロードする〉の項を参照してください。
- (4) BMPad…ブレイルメモシリーズおよび点字ディスプレイBT46への点字表示に対応したテキストエディタです。
点字表示は、組込み点訳エンジンSuzuで点訳したかな点字、または漢点字表示が選択できます。
- (5) BriPad…ブレイルメモシリーズ(BM24/BM46 Ver2.3以降, BMpk)および点字ディスプレイBT46への点字表示に対応した点字エディタです。
- (6) BMTerm…BMシリーズ機器とパソコンの間で、文書情報を送受信するためのアプリケーション・ソフトです。
組込みの簡易点訳エンジンSuzuを使って、パソコン上のテキスト情報を点訳し、BMシリーズ機器に送信することができます。
なお、BMスマートでは、このプログラムの機能の内、データのバックアップ/リスト

ア機能はご使用頂けません。Windows 標準のコピー機能をご使用ください。

- (7) BMChat…パソコンとBMシリーズ機器の間でチャット（点字による会話）を行うためのアプリケーション・ソフトです。

7. 2 パソコンやブレイルメモと接続するための準備

この節では、USBポートやBluetoothポートを使って、本機とパソコンやブレイルメモを接続するための準備についてご説明します。

7. 2. 1 本機とパソコンをUSBで接続する

本機とパソコンをUSBで接続するにはパソコンにUSB 仮想 COM ドライバをインストールする必要があります。

〔1〕動作環境

本機のUSB仮想COMドライバは、以下のOS 環境において動作を確認しています。

OS環境：

Windows XP(※1)

Windows Vista(※2)

Windows 7(※3)

Windows 8 / Windows 8.1

Windows10

各 32 ビット 版 および 64 ビット 版

(※1) : Windows XP ServicePack 3 以上、64 ビット 版は ServicePack2 以上

(※2) : Windows Vista ServicePack 2 以上

(※3) : Windows 7 ServicePack 1 以上

* Windows XP でのご利用について

このUSBドライバは、Windows XP OS で動作いたしますが、マイクロソフト社のWindows XP サポート終了に伴い、XP でのご利用は基本的には推奨いたしません。

〔2〕ドライバインストール手順

本機のUSB仮想COMドライバは、本機をパソコンに接続する前にインストールする必要があります。

次の手順で、インストールを行ってください。

- (1) 本機付属のCDRを、パソコンのCDドライブに挿入します。
- (2) お使いのコンピュータが32ビットの場合は、CDR内の以下のプログラムを実行してください。 **kgs_bm_usbcom_Driver¥preinstall32.exe**
また、お使いのコンピュータが64ビットの場合は、以下のプログラムを実行してください。 **kgs_bm_usbcom_Driver¥preinstall64.exe**
- (3) インストーラが起動したら、指示に従って操作してください。
- (4) インストールが完了すると、以下のようなメッセージが表示されます。メッセージを確認してからエンターキーを押してください。

- 「BM スマート 用 USB ドライバのインストールが完了しました。ドライバは、正しくこのコンピュータにインストールされました。今、このコンピュータにデバイスを接続できます。デバイス付属の説明書がある場合は、最初に説明書をお読みください。」
- (5) 本機とコンピュータをUSBケーブルで接続します。

- (6) 「デバイスマネージャー」を開き、このドライバのために用意された通信ポートの番号を確認します。

「ポート (COMとLPT)」の中に、「KGS BM-SMART USB Serial (COMx)」という項目が追加されていることを確認してください。

この表示の中の、COMxの部分が、この接続を利用するために指定する、通信ポートの番号になります。

以上で、ドライバのインストールは完了です。

7. 2. 2 本機とパソコンをBluetoothで接続する

本機をパソコンにBluetoothデバイスとして登録するには以下のように操作します。

〔Windows vista/7/8/8.1/10 の場合〕

- (1) コンピュータのBluetooth機能が有効になっていることを確認してください。
外部USBBluetoothアダプターをお使いの場合は、コンピュータに接続して、コンピュータから正しく検出されていることを確認してください。
- (2) 本機の電源を入れます。
- (3) コントロールパネルの検索ボックスに“bluetooth”とタイプします。
タブキーを押して「Bluetooth デバイスの追加」を選び、エンターキーを押します。
- (4) すると、Bluetoothデバイスの検出が始まります。
検索が終るまでに、数秒かかる場合がありますので、しばらくお待ちください。
検索が終わると、見つかったBluetoothデバイスが、デバイス一覧に表示されます。
- (5) 矢印キーを使って、デバイス一覧から、本機の項目を選び、[次へ] ボタンを押します。
初期設定では、本機は「BMsmartKGS」と表示されます。本機の項目が表示されない場合は、本機の電源が入っていることを確かめてから、[再試行] ボタンを押してください。
- (6) 「ペアリングコードの入力」ボタンを選び、編集フィールドに「1234」と入力して、「次へ」を選びます。
- (7) 数秒待つと、Bluetoothデバイスの接続に成功したことを知らせるメッセージが表示されますので、[閉じる] ボタンを押してください。

〔Windows XP の場合〕

- (1) コンピュータのBluetooth機能が有効になっていることを確認してください。
外部USBBluetoothアダプターをお使いの場合は、コンピュータに接続して、コンピュータから正しく検出されることを確認してください。
- (2) 本機の電源を入れます。
- (3) コンピュータでコントロールパネルを開き、「Bluetooth デバイス」の項目を選択してください。
- (4) 「Bluetooth デバイス」ダイアログボックスが開いたら、タブキーで [追加] ボタンに移

- 動し、エンターキーを押してください。
- (5) ブルートゥースデバイスの準備ができていることを確認するチェックボックスをチェックしてから、[次へ] ボタンを押します。
すると、ブルートゥースデバイスの検出が始まります。
検索が終わるまでに、数秒かかる場合がありますので、しばらくお待ちください。
検索が終わると、見つかったブルートゥースデバイスが、デバイス一覧に表示されます。
 - (6) 矢印キーを使って、デバイス一覧から、本機の項目を選び、[次へ] ボタンを押します。
初期設定では、本機は「BMsmartKGS」と表示されます。
本機の項目が表示されない場合は、本機の電源が入っていることを確かめてから、[再試行] ボタンを押してください。
 - (7) 「マニュアルにあるパスキーを使用する」ラジオボタンを選択し、パスキーの編集フィールドに「1234」とタイプして、[次へ] ボタンを押します。
すると、ブルートゥースの接続処理が行われ、接続に成功すると、割当てられたCOMポートの番号が表示されます。
 - (8) [完了] を選んでウィザードを終了し、更に「Bluetooth デバイス」ダイアログボックスも閉じてください。新しく作られた接続を使用するために、これらのウィンドウを先に閉じておく必要がありますので、ご注意ください。

7. 2. 3 本機とブレイルメモをブルートゥース接続する

本機をブレイルメモとブルートゥース接続するには、次のように操作します。

- (1) BMスマート側から、次のコマンドを実行します。
メインメニュー → 接続 → ブルートゥースポート → ブルートゥースポート接続
すると、「接続先デバイスの選択」ウィンドウが開きます。
- (2) このウィンドウには、これまでに接続したことがあるブルートゥース機器の一覧表が表示されます。
ここに、接続したいブレイルメモが表示されている時は、その項目を選択してエンターキーを押します。すると、両機がブルートゥースで接続されます。
- (3) ブレイルメモには、相手側からのブルートゥース接続をコントロールする機能があります。もし、ブレイルメモ側に、「BTポートからの、ブルートゥースアクセスを許可しますか?」というメッセージが表示されていたら、そのメッセージ内で、「ホスト」と表示されている上のタッチカーソルキーを押してください。

まだ、本機とブレイルメモを接続したことがない場合や、上の操作でうまく接続できない場合は、以下の〔ブルートゥース認証接続の操作〕をお試してください。

〔ブルートゥース認証接続の操作〕

この操作は、本機とブレイルメモの間で、パスキーという暗証番号を交換し、安全な接続相手として確認させるためのものです。

この操作は、毎回行う必要はありません。

- (1) ブレイルメモ側で、以下のコマンドを実行します。
メインメニュー → 各種設定 → ブルートゥース → ブルートゥース認証受け付け
ブレイルメモの機種がBM32、BMpkの時は、この操作で、点字表示部に、「パスキー」と表示され、その後ろに、この機械のパスキー（4桁の数字）が表示されます。
この場合は、下記（4）に進んでください。

- (2) ブレイルメモの機種が BM24, BM46 の場合は、ここでバックスペースキーを押して、デバイス探索を行います。
デバイス探索が終了すると、周辺にあるBluetooth機器の一覧が表示されます。
- (3) Bluetooth機器一覧の中から、BMスマートの項目を選択してエンターキーを押してください。
この操作で、点字表示部に、「パスキー」と表示され、その後ろに、この機械のパスキー（4桁の数字）が表示されます。
- (4) BMスマート側から、次のコマンドを実行します。
メインメニュー → 接続 → Bluetoothサポート → Bluetoothサポート接続
すると、「接続先デバイスの選択」ウィンドウが開きます。
- (5) タブキーを押して、[探索] のボタンに移動し、スペースキーを押します。
すると、「近くにあるBluetooth機器を探しています。」と発声して、Bluetooth探索が始まります。
- (6) Bluetooth探索が終わると、見つかったBluetooth機器が一覧表示されます。
この中から、目的のブレイルメモを選択してください。
- (7) タブキーを押して、「相手機器のピンコード」という欄に移動します。
ここに、ブレイルメモ側で表示されている「パスキー」の数字を入力し、エンターキーを押します。
- (8) ブレイルメモ側に「認証に成功しました。」と表示されれば、接続成功です。
「認証に失敗しました。」と表示された場合は、上記(1)からやり直してみてください。

7. 3 本機を点字ディスプレイとして使用する

本機は、パソコン（その他の情報機器）と接続し、点字ディスプレイ装置としてご利用頂けます。

ご使用の際は、パソコン側で動作するスクリーンリーダー、その他の点字対応ソフトウェアをご用意ください。

また、Windows パソコン上で動作する本機のユーティリティソフト BMFEP を使うと、スクリーンリーダーを使いながら、本機の操作でパソコンを操作することができます。

〔準備〕

ご使用のソフトウェアの設定機能で、以下の項目を設定してください（詳細は、各ソフトウェアのマニュアルをご覧ください）。

- (1) 点字ディスプレイの機種……BMスマート、またはBMシリーズ機器を選択します。
（BMS 40には、ブレイルメモ 46C/46D）の互換モードがあり、着信信号により自動判別します。ただし、この設定ではBMS 40の点字入力機能は利用できません）。
- (2) 通信ポート……BMSを接続した通信ポートに割り当てられているポート番号（COMx）を指定します。
USB接続の場合、パソコン側のコネクタの位置が変わるとポート番号が変わる場合がありますので、いつも同じコネクタに接続するようにしてください。
- (3) 通信条件……BMS側の設定と同じ通信条件を指定します。

〔接続と切断〕

本機を点字ディスプレイとして使用する場合の接続操作は、全て相手側機器から行います。本機側では、点字ディスプレイ開始要求を受信すると、自動的に点字ディスプレイプログラムが起動します。

点字ディスプレイのウィンドウも、コマンドキー+Zの操作で閉じることができます。

この場合、通信は継続していますので、ウィンキー+Dの操作で点字ディスプレイを再起動することができます。

また、一部のソフトウェアを除き、本機をスリープモードにするか、電源オフすると、パソコン側で通信を切断します。

この場合、パソコン側の「点字デバイスコントローラー」ウィンドウ内の〔接続〕ボタンを押すことで、本機を再接続できます。

〔点字ディスプレイ機能と本体機能を併用する〕

点字ディスプレイが動作している状態では、次の操作で点字ディスプレイモードとPDAモード（本体機能を使用する状態）を切り換えられます。

（BMS40の操作）

PDAモードに変更する……前面キーの右側3個を押す。

点字ディスプレイモードに変更する……前面キーの左側3個を押す。

（BMS16の操作）

PDAモードに変更する……左右のナビキーの右キーを押す。

点字ディスプレイモードに変更する……左右のナビキーの左キーを押す。

〔クリップボード転送機能〕

次の操作で、本機とWindowsパソコンのクリップボード間で、テキスト情報やブレイルメモ形式の点字情報（64KB以内）を転送できます。

これらの操作は、点字ディスプレイウィンドウ、テキスト編集ウィンドウ、点字編集ウィンドウで有効です。

コマンドキー+1,3,5の点……パソコンから本機に転送します。

コマンドキー+2,4,6の点……本機からパソコンに転送します。

7. 4 点字文書の送受信

（簡単操作選択項目）「A11 点字文書送受信プログラム」=隠す

本機と、本機の旧モデルであるブレイルメモシリーズ機器との間で、点字文書を送受信することができます。

なお、パソコンとの間でデータを移動する場合は、SDカードやUSBメモリーなどの記憶メディアを利用することをお勧めします。

本機とブレイルメモとの間で点字文書の送受信を行うには、次のように操作します。

〔1〕通信ポートを接続する

本機とブレイルメモは、Bluetoothで接続します。

本機がBMS40の場合は、シリアルポートも利用可能です。

本機をブレイルメモと接続する方法については、〈7. 1 [本機とブレイルメモを接続する]〉の項を参照してください。

〔2〕データを転送する

本機側から、以下の操作で、文書を送受信します。

- (1) ウィンキーとR (1,2,3,5 の点) を押して、「点字データの送受信」プログラムを起動します。すると、「通信ポートの選択」ウィンドウが表示されます。
- (2)、上記1. で準備した通信ポートを選択して、エンターキーを押します。すると、「点字データの送受信」のウィンドウが開きます。
- (3) これ以降の操作は、文書を受信する場合と文書を送信する場合で異なります。

以下の項目を参照してください。

〔A〕ブレイルメモ内の文書を、本機で受信する場合

ブレイルメモ内の文書を、本機で受信する場合は、引き続き本機側で、次のように操作します。

- (1) 「点字データの送受信」ウィンドウで、オルトキーとR (1,2,3,5 の点) を押して、[文書を受信する] ボタンを選択します。すると、「文書選択ウィンドウ」が開きます。
- (2) このウィンドウには、接続先のブレイルメモで公開している点字文書の一覧が表示されています。
受信したい文書を選択してエンターキーを押します。
- (3) すると、文書の受信が始まり、「文書の受信中」ウィンドウが表示されます。
- (4) 文書の受信が終了すると、「保存先点字ファイルの選択」ウィンドウが開きます。
ここで、この文書を本機に保存するためのファイル名を指定してエンターキーを押します。今表示されている文書名でよければ、そのままエンターキーを押してください。
- (5) これで、一件の文書の受信が終わりました。
別の文書を受信するには、(2)に戻って操作してください。
文書の受信作業を終了するには、エスケープキーを押してください。
すると、「文書一覧」ウィンドウを閉じて、「点字データの送受信」ウィンドウに戻ります。
- (6) 「点字データの送受信」ウィンドウを閉じるには、もう一度エスケープキーを押してください。

〔B〕本機内の文書をブレイルメモに送信する場合

本機内の文書をブレイルメモに送信する場合は、引き続き本機側で、次のように操作します。

- (1) 「点字データの送受信」ウィンドウで、オルトキー+S (2,3,4 の点) を押して、[文書を送信する] ボタンを選択します。すると、「送信する点字ファイルの選択」ウィンドウが開きます。
- (2) 上下矢印キーで送信したい文書を選び、エンターキーを押します。
複数の文書を送信したい時は、シフトキー（表示の送りキー、戻しキー、セレクトキーのどれか）を押しながら、上下矢印キーを押して、選択したい文書の範囲を移動します。すると、文書の送信が始まり、「文書の送信中」ウィンドウが表示されます。
- (3) 「文書の送信が終了しました。」というメッセージが表示されたら、選択した文書がブレイルメモに送信できています。
エンターキーを押して、メッセージを閉じてください。

すると、「点字データの送受信」ウィンドウに戻ります。

(4)「点字データの送受信」ウィンドウを閉じるには、もう一度エスケープキーを押します。

〔ブレイルメモと本機の間で、クリップボード情報をやり取りする〕

ブレイルメモシリーズ機器を本機と接続している場合、ブレイルメモ側の「接続先へコピー」、「接続先から貼り付け」コマンドにより、文書情報を送受信できます。

この機能を使うには、ブレイルメモとBMスマートを、ブルートゥースなどで接続し、次のように操作してください。

(接続先へコピーコマンド)

ブレイルメモで、文書内の転送したい内容を範囲選択し、「接続先へ貼り付け」コマンドを実行します。

すると、BMスマート側には、「接続先から操作中です」のメッセージが表示され、続いて、次の問い合わせのメッセージが表示されます。

「受信した点字データを、クリップボードに登録してよろしいですか？」

転送した内容をクリップボードに登録してよい場合は、BMスマート側でエンターキーを押してください。

【(注意) エンターキーを押す前に、BMスマートの編集作業で、「切り取り」コマンドにより、大切な情報をクリップボードに保存していないことを、よく確認してください。クリップボードに残されていたデータは、この操作により消去されます。

(接続先から貼り付けコマンド)

ブレイルメモに転送したい点字情報を、BMスマート側でコピーし、クリップボードに登録します。

転送したい情報がテキスト文書に書かれている場合は、一度、点字編集ウィンドウに貼り付けて、点訳してから、改めてクリップボードに登録してください。

次に、ブレイルメモ側で、情報を貼り付けたい場所へ移動し、「接続先から貼り付け」コマンドを実行します。

7. 5 点字チャット

(簡単操作選択項目)「A12 点字チャットプログラム」=隠す

本機には、主に盲聾者の方のコミュニケーション支援を目的とした、点字によるチャット機能があります。この機能では、本機と別のBMスマート、ブレイルメモ、パソコンを接続して、点字で会話することができます。

〔1〕チャットを始めるには

A. 他のブレイルメモとチャットする場合

本機と、他のBMスマートやブレイルメモとチャットする場合、どちらの機械からでもチャットを始めることができます。

本機をブレイルメモと接続する方法については、〈7. 1 〔本機とブレイルメモを接続す

る)の項を参照してください。

本機からチャットを始めるには、次のように操作します。

(ブレイルメモ側のチャット機能の操作については、ブレイルメモのマニュアルをご覧ください)。

- (1) ウィンキー+1,6の点を押して、点字チャットプログラムを起動します。
すると、「通信ポートの選択」ウィンドウが開きます。
- (2) ここで、チャット相手の機器と接続する通信ポートを選択します。
本機とブレイルメモとのBluetooth接続について、詳しくは〈7. 2. 3 本機とブレイルメモをBluetooth接続する〉の項を参照してください。
- (3) 相手機器との接続に成功すると、本機と相手側の機器の両方で「点字チャット」ウィンドウが開きます。

B. パソコンとチャットする場合

本機とパソコンとの間で点字チャットを行う場合、パソコン側の操作で接続します。

BMシリーズ機器用ユーティリティ内の点字チャットプログラム BMChat をご使用ください。
接続に成功すると、本機側でも自動的に「点字チャット」ウィンドウが開きます。

〔2〕チャットウィンドウの操作

このウィンドウでは、接続中の相手とチャットを行います。

このウィンドウには、以下の項目があり、タブキーで項目の間を移動します。

- (A) あなたの発言：行頭に、3,5の点、3,6の点のマークが表示されています。
- (B) 相手の発言：行頭に、3,6の点、2,6の点のマークが表示されています。
- (C) 発言リスト：これまでの、あなたと相手の発言を、時間順に確認できます。

あなたの発言の前には、3,5の点が2マス、相手の発言の前には、2,6の点が2マス表示されません。

〔あなたから発言する〕

発言を始めるには、スペースキーを押します。

すると、あなたの発言ウィンドウにフォーカスが移動します。

ここに、点字を書くと、あなたの発言が相手側に送信されます。

書き間違えた時は、バックスペースキーを押して、行末から削除してください。

発言を書き終わったら、エンターキーを押します。

〔相手の発言を読む〕

このウィンドウでは、追従モードと、非追従モードの切り替えができます。

追従モード：コントロール+エンターキー

非追従モード：コントロール+スペースキー

追従モードでは、相手が発言を始めると、フォーカスが相手の発言欄に移動し、常に相手の最新の発言内容を表示します。

相手の最新の発言から離れて、これまでの会話を確認したい時は、非追従モードに変更します。
確認が終わったら、相手の発言を読むために、追従モードに戻してください。

〔チャットを終了する〕

チャットを終了するには、コントロール+エスケープキーを押します。
その後、コマンド+Zでウィンドウを閉じてください。

7. 6 点字印刷（BMS16は、ブルートゥース接続のみ）

（簡単操作選択項目）「A13 点字印刷プログラム」＝隠す

本機から点字プリンタに接続し、点字文書を印刷するには、次のように操作します。

〔1〕点字プリンタに接続する

本機では、以下の点字プリンタに対応しています。

- 標準点字プリンタ……制御コードを含まない標準点字データ（NABCC データ）で印刷する際に選択します。
- プレイロコメット（プレイロノルウェイ社製）
- エベレスト・ベーシックD（Ver4）（インデックス社製）
- エベレスト・ベーシックD（インデックス社製）
- ET・ジュリエット（イネープリングテクノロジー社製）
- ロメオ・トーマス（イネープリングテクノロジー社製）
- TC32（日本テレソフト社製）
- ESA721（ジェー・ティー・アール社製）
- ESA solo / Ten 100（ジェー・ティー・アール社、レンテック社製）
- Dog Basic・Dog Multi（日本テレソフト社製）
- Dog Pro（日本テレソフト社製）

本機と点字プリンタの間は、RS-232Cシリアルケーブル（クロス接続用）で接続します。
点字プリンタに付属のケーブルがあり、本機と接続可能な場合は、点字プリンタ付属のものをご使用ください。

点字プリンタに付属のケーブルがなく、本機付属のシリアルケーブルで接続できる場合は、本機付属のものをご使用ください。

〔2〕点字印刷を実行する

〔メインウィンドウから点字印刷プログラムを起動する場合〕

次のように操作してください。

- （1）メインウィンドウのプログラム一覧で、「点字印刷」の項目に移動し、エンターキーを押します。
- （2）すると、「点字ファイルの選択」ウィンドウが開きます。
このウィンドウから、ファイル一覧、または履歴一覧を開き、印刷したい点字ファイルを選択します。
- （3）すると、「点字プリンタの選択」ウィンドウが開きます。
「プリンタの種類」のリストで、ご使用の点字プリンタを選択してください。

- (4) [プリンタの設定] ボタンを押すと、選択した点字プリンタのための設定シートが開きます。ここで、点字用紙のサイズや印刷書式、通信速度などを指定してください。
また、Bluetooth接続の点字プリンタを使用する場合は、この設定内の「接続ポート」項目で、使用する通信ポートを選択してください。
設定できたら、エンターキーを押します。
- (5) 通信速度など、点字プリンタ側でも設定する必要がある項目があります。
点字プリンタのマニュアルを参照の上、本機側の設定と合うように調節してください。
- (6) [次へ] ボタンを押すと、「点字印刷範囲の選択」ウィンドウが開きます。
印刷開始ページ、印刷終了ページ、印刷部数などを指定します。
片面打ちの点字プリンタで、両面印刷をサポートしている場合、表ページと裏ページの二回に分けて印刷します。
この場合は、印刷面に「表面」を選択して、まず表ページの印刷を行います。
設定できたら、[次へ] ボタンを押します。
- (7) Bluetooth接続で印刷する場合は、ここで、Bluetooth機器一覧のウィンドウが表示されますので、接続するプリンタを選択してください。
初回接続する時は、[探索] ボタンを押して、接続相手の点字プリンタを探します。) Bluetooth機器の選択について詳しくは、〈7. 2. 3 本機とブレイルメモをBluetooth接続する〉の項を参照してください。
- (8) すると、「印刷を開始してよろしいですか？」という確認のメッセージが表示されます。
点字プリンタ側の印刷準備ができていることを確認してから、エンターキーを押してください。
- (9) すると、本機から点字プリンタにデータが送信され、点字印刷が始まります。
表面印刷を行なった場合、「続けて、裏ページを印刷しますか？」というメッセージが表示されます。
この場合は、点字プリンタの印刷が終了してから、紙を裏返しにセットし、エンターキーを押してください。
- (10) データの送信が終わると、「データの送信が終了しました。」というメッセージが表示されます。ここで、エンターキーを押すと、点字印刷プログラムが終了します。

〔点字編集プログラムから起動する場合〕

次のように操作します。

- (1) ウィンキーとB (1,2 の点) を押して、「点字編集プログラム」を起動します。
すると、「点字ファイルの選択」ウィンドウが開きます。
このウィンドウから、ファイル一覧、または履歴一覧を開き、印刷したい点字ファイルを選択します。
- (2) すると、選択した点字文書の内容が表示されます。
適宜、レイアウトなどが整っていることを確認してください。
- (3) 次のコマンドを実行します。
メニュー → ファイル → 点字印刷
すると、点字印刷プログラムが実行され、今開いている点字文書が転送されます。
これ以降は、前項の(3)と同様に操作してください。

7. 7 外部ドライブモード

外部ドライブモードは、本機の内蔵SDカードの中を、パソコンのドライブとして見せるための機能です。

この機能を使用するためには、本機を外部ドライブモードで起動した後、本機とパソコンをUSBケーブルで接続します。

〔外部ドライブモードに入るには〕

外部ドライブモードに入るには、コントロールキーを押した状態で、本機を起動します。

しばらくすると、点字と音声で、「ドライブモード」と表示されます。

この状態でUSBケーブルを接続すると、パソコン上にドライブが追加されて、本機の内蔵SDにアクセスできる状態になります。

外部ドライブモードで起動中は、5分間隔で、現在ドライブモードであることを音声で通知します。

〔外部ドライブモードを終了するには〕

外部ドライブモードを終了するには、次のように操作します。

- (1) パソコン側で、「ドライブの安全な取り外し」を実行します。
- (2) USBケーブルを取り外します。
- (3) 電源スイッチを押して、本機を終了します。

【警告】

本機の内蔵SDカードにアクセスしている状態で、USBケーブルを外したり、本機の電源をオフにしないでください。

内蔵SDカードの記憶状態に異常をきたし、本機が起動できなくなったり、大切なファイルが失われる危険があります。

【注意】

本機の内蔵SDカードの中には、ファームウェア（本機を動作させるためのプログラム）が含まれています。以下のフォルダは、絶対に削除しないでください。

¥sdmemory¥Programs

7.8 液晶ディスプレイの接続

本機の左側面にある外部ディスプレイポートに液晶ディスプレイを接続すると、本機の内容を外部のディスプレイに表示することができます。

外部ディスプレイと接続するD-sub 15ピンのケーブルは、本機には付属していません。パソコンショップなどでお買い求めください。

液晶ディスプレイをお選びの際は、以下の仕様を満たしているものをお選び下さい。

解像度：1024×768

水平周波数：50.0kHz 前後

垂直周波数：61.6kHz 前後

第8章 設定とカスタマイズ

この章では、本機の各種設定機能についてご説明します。

8. 1 各種調節機能

ここでは、本機の以下の6種類の調節機能についてご説明します。

- 〔A〕 オートスリープ機能を調節する
- 〔B〕 低バッテリーの通知を調節する
- 〔C〕 自動バックアップ機能を調節する
- 〔D〕 消音モードで起動する
- 〔E〕 スポットメッセージを調節する
- 〔F〕 音声ガイドの詳しさを調節する

〔A〕 オートスリープ機能を調節する

「オートスリープ」は、本機を指定した時間操作しなかった時、自動的にスリープモードに入る機能です。ただし、ファイルコピー中のようにスリープできない時、デイジーデータの再生中のように長い時間操作しないで使う機能を利用している時は、オートスリープは掛かりません。また、会議のメモを取っている時のような場合、次の操作でオートスリープ機能をオフにすることができます。

操作：コントロールキーを押しながら、電源ボタンを2秒程度押す

本機をバッテリーで使用している場合、初期設定では、5分間操作しないと、オートスリープが掛かります。

オートスリープするまでの時間は、以下のコマンドで設定できます。

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

このコマンドで、次の3件の設定項目を変更できます。

「AC接続時スリープ」(なし、または5分～1時間、初期値=なし)

本機にACアダプタを繋いで使用している時のオートスリープ時間を指定します。

「バッテリー使用時スリープ」(なし、または5分～1時間、初期値=5分)

本機をバッテリーで使用している時のオートスリープ時間を指定します。

「スリープ許容時間」(15分～無制限)

スリープ状態がここで指定した時間続くと、自動的に電源オフします。

(スリープ許容時間設定は、OSのバージョンが、NK Version=1.103以降の機械でご利用頂けます)。

〔B〕 低バッテリーの通知を調節する

本機をバッテリーで使用している時に、バッテリー残量が少なくなると、以下のメッセージでお知らせします。

バッテリー残量が15%以上の時：「充電してください」

バッテリー残量が10%以下の時：「すぐに充電してください。編集中のデータが失われる危険があります。」

初期設定では、バッテリー残量が10%以下になると、通知が始まります。

低バッテリーを通知する残量は、以下のコマンドで設定できます。

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

(このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+M (1,3,4の点) です)。

このコマンドで、次の設定項目を変更できます。

「バッテリーアラーム」……5パーセント未満～50パーセント

〔C〕自動バックアップ機能を調節する

本機には、プログラムを使用している時、急な電源オフなどに備えて、定期的にバックアップを取る機能があります。プログラムを終了せずに電源オフした場合、次回起動時に、自動的に同じプログラムが起動します。

また、この際、編集集中の文書は、専用のバックアップ領域から読み込まれます。

ただし、低バッテリー時には、バックアップが正常に取れない場合もありますので、編集した文書は、ご自身でも、適当な間隔で、ファイルに保存するようにしてください。

(この機能に関連した設定項目)

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

(このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+M (1,3,4の点) です)。

このコマンドで、次の2件の設定項目を変更できます。

「自動バックアップ」(なし、1分～10分)

文書編集での自動バックアップの時間間隔を指定します。

「バックアップサウンド」(オン/オフ)

バックアップの際、ブザー音を鳴らすかどうかを指定します。

〔D〕消音モードで起動する

本機の音声出力は、以下の操作でオン/オフできます。

コマンドキー+M (1,3,4の点) ……音声ミュートのオン/オフ

コントロールキー+コマンドキー+M (1,3,4の点) ……ブザー音のみ鳴らす

本機の起動時に、音声出力するかどうかは、以下のコマンドで設定できます。

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

(このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+M (1,3,4の点) です)。

このコマンドで、次の設定項目を変更できます。

「消音モード」

選択肢：前回の状態で起動 (初期設定)、常に音声オフで起動、常に音声オンで起動

「前回の状態で起動」が選択されていると、前回電源オフ時の音声ミュート状態を、次に起動した時も継続します。

音声オフで起動した場合も、起動後に、音声ミュートのオン/オフコマンドで音声オンにすることができます。

〔E〕スポットメッセージを調節する

スポットメッセージは、状態の変化や、コマンドの実行結果などを、短い時間の点字表示で伝える機能です。

例えば、次のような時に、スポットメッセージが表示されます。

- バッテリーが少なくなり、充電が必要な時。
- 編集ウィンドウで、カーソルが文末まで移動した時。
- 編集ウィンドウで、編集禁止に設定されているため、文書を変更できない時。
- 選択範囲をコピーした時。

なお、スポットメッセージをすぐに消したい時は、タッチカーソルを押してください。

スポットメッセージの設定は、以下のコマンドで変更できます。

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

(このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+M (1,3,4の点) です)。

このコマンドで、次の2件の設定項目を変更できます。

「スポットメッセージ表示時間」(0.5秒~4秒) ……スポットメッセージの継続時間を指定します。

「スピーチオンの時の点字スポット」 ……音声が出ている時にも、スポットメッセージを表示するか否かを指定します。

〔F〕 音声ガイドの詳しさを調節する

本機には、ウィンドウを開いた時や、フォーカス移動でウィンドウやコントロールを移動した時に、そこでの操作方法を音声で説明する機能があります。

ガイドの説明内容は、通常の見上げと区別するために、別の声質で見上げます。

ガイド音声のレベルは、次のコマンドで設定できます。

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

(このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+M (1,3,4の点) です)。

このコマンドで、次の設定項目を変更できます。

「音声ガイドのレベル」 ……選択肢：シンプル, 標準, ガイド1, ガイド2
(初期設定は、標準です)。

シンプル ……ウィンドウを移動した時に、タイトルを読みます。

標準 ……ウィンドウを移動した時に、タイトルと説明欄を読みます。

ガイド1 ……標準に加えて、ウィンドウを移動した時に、ウィンドウ内のコントロールの数と、ウィンドウの基本操作を説明します。

ガイド2 ……ガイド1に加えて、フォーカス移動した時に、各コントロールの基本操作を説明します。

8. 2 操作のカスタマイズ

ここでは、本機の以下の5種類のカスタマイズ機能についてご説明します。

- 〔A〕 矢印キーのリピート機能
- 〔B〕 表示の送りキーと戻しキーを入れ替える
- 〔C〕 6点キーをカニタイプ配列で使う
- 〔D〕 片手入力モード
- 〔E〕 USBキーボードを接続して使う

〔A〕 矢印キーのリピート機能

矢印キーのリピート機能は、上下左右の矢印キーを押し続けた時、そのキーを何度も押したのと同じように、カーソルや表示位置を続けて移動できる機能です。

一般のキーボードでは、全てのキーでキーリピートが掛かりますが、本機では矢印キーのみに掛かります。

この機能は、以下のコマンドで設定します。

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

（このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+M（1,3,4の点）です）。

このコマンドで、次の設定項目を変更できます。

「矢印キーのリピート」……選択肢：なし、0.5秒、1秒

「なし」を選ぶと、キーリピートは掛かりません。

「0.5秒」、「1秒」は、矢印キーを押し始めてからキーリピートが始まるまでの時間です。

その前にキーを離すと、通常の一度押しになります。

この設定は、本機を点字ディスプレイとして使う場合も有効です。

〔B〕 表示の送りキーと戻しキーを入れ替える

点字表示を右に進める「送りキー」と、左に戻す「戻しキー」は、左右の配置を変更することができます。

標準設定では、右側が送りキーになっていますが、左側を送りキーにすると、片手読みの時に、手が表示の先頭にある状態で、表示を進められるようになります。

この設定は、以下のコマンドで変更します。

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

（このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+M（1,3,4の点）です）。

このコマンドで、次の設定項目を変更できます。

表示のスクロール……選択肢：「左で戻し、右で送り」、「左で送り、右で戻し」

この設定は、本機を点字ディスプレイとして使う場合も有効です。

〔C〕 6点キーをカニタイプ配列で使う

本機では、6点キーの並び順を、次の2種類の設定で使用することができます。

- ・パーキンス式配列……左から、3,2,1 - 4,5,6の点（標準設定）

- ・カニタイプ式配列……左から、4,5,6 - 3,2,1の点

また、カニタイプ式で8点点字を入力する時は、右親指キーが7の点、左親指キーが8の点になります。左親指キーがエンターキー、右親指キーがスペースキーの配置は、カニタイプ式でも変わりません。

この設定は、以下のコマンドで変更します。

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

（このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+M（1,3,4の点）です）。

このコマンドで、次の設定項目を変更できます。

6点キーの配置……選択肢：パーキンス式（標準）、カニタイプ式

なお、この設定は、通常の文字入力と、コマンドキー操作の両方で使われます。

また、本機を点字ディスプレイとして使う場合も有効です。

〔D〕片手入力モード

(簡単操作選択項目)「C3 片手入力機能」=オフ

本機には、点字の6点を片手操作で入力できるようにするために、片手入力モードが用意されています。

片手入力と両手入力は、以下のように切り替えます。

(A) 左手入力モードに入る……親指キーの左2個と、6点キーの左3個を同時に押す。

(B) 右手入力モードに入る……親指キーの右2個と、6点キーの右3個を同時に押す。

(C) 両手入力に戻す……親指キー3個と、6点キー6個を同時に押す。

〔片手入力で使用するキー〕

片手入力でするキーは、次の8個です。

左手入力と右手入力では、使用するキーが、左右対称になります。

以下で、左手入力の際の左側、右手入力の際の右側を利き手側と呼び、その反対側を逆手側と呼びます。

1,4の点キー……利き手側の人差し指キー

2,5の点キー……利き手側の中指キー

3,6の点キー……利き手側の薬指キー

7,8の点キー……利き手側の親指キー

エンターキー……逆手側の親指キー

半スペースキー……逆手側の人差し指キー

スペースキー……利き手側親指キーと、逆手側人差し指キー

クリア……逆手側の親指キーと人差し指キー

〔入力方法〕

片手入力では、点字を、左半分(1,2,3,7の点)と、右半分(4,5,6,8の点)に分け、2回のストロークで入力します。

1,4の点キーは、1ストローク目に押すと1の点、2ストローク目に押すと4の点になります。他の点のキーも同様です。

例えば、1,5の点の点字を入力したい時は、1ストローク目で、1,4の点キー、2ストローク目で、2,5の点キーを順番に押します。

点字の左半分(1,2,3,7の点)がない場合は、1ストローク目に、半スペースキーを押します。

同様に、点字の右半分(4,5,6,8の点)がない場合は、2ストローク目に、半スペースキーを押します。

マス空けの時はスペースキー、改行するにはエンターキーを押します。

1ストローク目の入力を間違えてしまった時は、クリアキーを押して書き直します。

〔コントロールキー、オルトキー、セレクトキー、ウィンキーとの組み合わせ〕

コントロールキー、オルトキー、セレクトキー、ウィンキーと点字の組み合わせを入力する場合は、点字を入力する前に、以下のキーを先押ししてください。

コントロールキー……逆手側親指キーと利き手側人差し指キー

オルトキー……逆手側親指キーと利き手側中指キー

セレクトキー……逆手側親指キーと利き手側子指キー

ウィンキー……逆手側親指キーと利き手側親指キー

〔ブレイルメモ互換の片手入力モードについて〕

ブレイルメモ互換の片手入力モードも、操作方法は通常の片手入力とほぼ同じですが、利き手側の小指キーも使用して、より高速に入力できる所が特長です。

小指キーを通常の操作（コントロールキーやウィンキーなど）で使いたい時は、両手入力モードに戻してください。

ブレイルメモ互換の片手入力モードに入るには、以下のように操作します。

- (A) ブレイルメモ互換の左手入力モードに入る……親指キーの左2個と、6点キーの左3個、左小指キー1を同時に押す。
- (B) ブレイルメモ互換の右手入力モードに入る……親指キーの右2個と、6点キーの右3個、右小指キー1を同時に押す。

ブレイルメモ互換の片手入力モードでは、利き手側の小指キー2個を、以下のように使用します。

- 小指キー1……スペースキー
- 小指キー2……半スペースキー

点字の左側と右側に、点があるマスの入力方法は、通常の片手入力モードと同じです。

点字の左半分（1,2,3,7の点）がない場合、半スペースキー（小指キー2）と点字の右側の点を押して、1ストロークで入力を完了できます。

同様に、点字の右半分（4,5,6,8の点）がない場合は、スペースキー（小指キー1）と点字の左側の点を押して、1ストロークで入力を完了できます。

ブレイルメモ互換モードの半スペースキー（小指キー2）は、1ストローク目の入力をクリアするため、2ストローク目には使用できません。

2ストローク目には、スペースキー（小指キー1）を使用してください。

〔E〕 USBキーボードを接続して使う

本機には、本体左側面手前のUSBホストポートから、日本語USBキーボードを接続できます。

USBキーボードからの操作は、本体点字キーをキー入力モードで操作する場合と同じように処理されます。

本体コマンドキーと、USBキーボードからの操作の対応については、〈付録B. USBキーボードからの操作〉の項を参照してください。

〔USBキーボードからの点字入力ウィンドウの操作〕

USBキーボードから点字編集ウィンドウを操作する場合、次の設定で操作方法を選択できます。

メインメニュー → 各種設定 → 点字編集の設定

（このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+B（1,2の点）です）。

このコマンドで、次の設定項目を変更できます。

「フルキー入力モード」

選択肢：NABCCモード、アスキーモード、ローマ字モード

NABCCモードでは、フルキーからの英数字キー入力を、NABCC（北米点字コード）の点字パターンとして入力します。入力確定の操作は必要ありません。

NABCCコードについては、〈付録（A4）「NABCC（北米点字）コード」〉の項を参

照してください。

アスキーモードでは、フルキーからの英数字/かな文字入力を、マス空け毎に点訳して入力します。無変換キーで、英数字入力とかな入力を切り替えます。

ローマ字モードでは、ローマ字変換で、かなを入力します。英数字入力モードの操作は、アスキー入力モードと同じです。無変換キーで、英数字入力とローマ字入力を切り替えます。

8.3 ユーザーショートカット機能

(簡単操作選択項目)「C5 ユーザーショートカット機能」=オフ

ユーザーショートカット機能は、標準のショートカットが割り当てられていないコマンドに、ショートカット操作を追加できる機能です。

自分がよく使うコマンドに、独自のショートカット操作を設定できます。

なお、標準で割り当てられているショートカットは変更できません。

ユーザーショートカットを設定するには、次のように操作します。

(1) オルトキーを押して、メニューを開き、目的のコマンドを表示します。

(2) セレクトキー+スペースキーを押します。

すると、「ユーザーショートカットの設定」の設定シートが開きます。

(3) このウィンドウで、ショートカットを設定します。

「ショートカット」の項目をオンにして、目的の操作を指定してください。

選択できるショートカット操作は、コントロールキー、またはコントロールキー+セレクトキーと、アルファベット、数字の組み合わせです。

(4) ショートカットが設定できたら、エンターキーを押して確定します。

もし、指定したショートカットがメニュー内の他のコマンドで使われていれば、その旨のメッセージが表示されます。

この場合は、別のショートカット操作に変更してください。

エスケープキーを押すと、ユーザーショートカットの設定を中止します。

なお、今設定されているユーザーショートカットは、メニュー内で、セレクト+エスケープキーを押すと確認できます。

また、以下のコマンドにより、全てのメニューに設定されたユーザーショートカットもクリアされます。

メインメニュー → 各種設定 → 全ての設定を初期値に戻す

〔コマンド検索機能〕

(簡単操作選択項目)「C4 コマンド検索機能」=オフ

コマンド検索機能は、メニューの中から、指定したキーワードを含むコマンドを検索する機能です。

コマンド検索を行うには、次のように操作します。

(1) オルトキーを押して、メニューを開きます。

(2) スペースキーを押します。

すると、「コマンド検索」のウィンドウが開き、キーワードを入力する状態になります。

(3) ここで、探したいコマンドの一部分を、漢字表記、または点字表記のカタカナで入力し、エンターキーを押します。

(カタカナで入力する場合、例えば「登録」は「トーロク」のように、長音を使って入力してください)。すると、メニュー内のコマンドが検索されます。

(4) キーワードを含むコマンドが見つかったら、メニュー表示に戻り、見つかったコマンドが表示されます。

目的のコマンドを選択して、エンターキーを押すと、そのコマンドを実行できます。

もし、指定したキーワードを含むコマンドが見つからなければ、その旨のメッセージが表示されます。

この場合は、別のキーワードで、上記(2)から検索操作をやり直してみてください。

8. 4 設定機能一覧

8. 4. 1 全般設定

全般設定では、本機の全般的な動作に関する設定を行います。

全般設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → 全般設定

グローバルショートカット：ウィンキー + コントロールキー + M (1・3・4の点)

エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

AC接続時スリープ=ACアダプタ接続で使用中、最後に操作してからオートスリープするまでの時間を指定します。

選択肢：なし, 5分, 10分, 15分, 30分, 1時間

バッテリー使用時スリープ=バッテリーで使用中、最後に操作してからオートスリープするまでの時間を指定します。

選択肢：なし, 5分, 10分, 15分, 30分, 1時間

スリープ許容時間=スリープ状態になってから、ここで指定した時間が過ぎると、バッテリー節約のため、自動的に電源オフします (OSバージョン、NK Version=1.103以降)。

選択肢：15分, 30分, 1時間, 2時間, 無制限

低バッテリーアラーム=バッテリー切れの警告を、バッテリー残量何パーセントから表示するかを指定します。

選択肢：5パーセント未満, 5パーセント, 10パーセント, 15パーセント, 20パーセント, 30パーセント, 40パーセント, 50パーセント

ウィンドウ一覧=本機の起動時に、開いているウィンドウの一覧を表示するかどうかを指定します。

選択肢：なし, 電源をオンした時, 電源オンと, スリープから復帰した時

自動バックアップ=テキスト編集、点字編集で、自動バックアップする間隔を指定します。

選択肢：なし, 1分, 3分, 5分, 10分

バックアップサウンド=自動バックアップを取る時、効果音を鳴らすかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

ゴミ箱最大件数=ゴミ箱に保留するデータの件数を指定します。

選択肢：無制限, 5件, 10件, 15件, 20件, 30件, 50件

ゴミ箱サイズ＝ゴミ箱に保留するデータのサイズを指定します。

選択肢：128 メガバイト, 256 メガバイト, 384 メガバイト, 512 メガバイト, 640 メガバイト

メモリーを挿入した時＝SDカードやUSBメモリーを接続した時の動作を指定します。

選択肢：音声で通知する, メッセージを表示する

アプリフォルダ＝SDカードやUSBメモリー内のアプリフォルダを使用するかどうかを指定します。

選択肢：自動作成し利用する, 利用する, 利用しない

(BMS16 の場合)

ナビキーの配置＝左手操作用の配置(左側をナビキー1、右側をナビキー2)にするか、

右手操作用の配置(左側をナビキー2、右側をナビキー1)にするかを選択します。

選択肢：左手操作用(ナビキー1、ナビキー2), 右手操作用(ナビキー2、ナビキー1)

ナビキー1 標準設定＝ナビキー1に割り当てるキーの標準設定を指定します。

選択肢：上下矢印キー, ホーム, エンドキー, 左右矢印キー, タブキー, 検索, 見出し行, オーディオ再生の操作, 表示の送り・戻し

ナビキー1 トグル設定＝ナビキー1を、2種類の操作の切り替えで使うための設定です。「なし」に設定すると、全ての選択肢から選択できます。

選択肢：なし, 上下矢印キー, ホーム, エンドキー, 左右矢印キー, タブキー, 検索, 見出し行, オーディオ再生の操作, 表示の送り・戻し

ナビキー2 標準設定＝ナビキー2に割り当てるキーの標準設定を指定します。

選択肢：上下矢印キー, ホーム, エンドキー, 左右矢印キー, タブキー, 検索, 見出し行, オーディオ再生の操作, 表示の送り・戻し

ナビキー2 トグル設定＝ナビキー2を、2種類の操作の切り替えで使うための設定です。「なし」に設定すると、全ての選択肢から選択できます。

選択肢：なし, 上下矢印キー, ホーム, エンドキー, 左右矢印キー, タブキー, 検索, 見出し行, オーディオ再生の操作, 表示の送り・戻し

(BMS40 の場合)

ナビキー標準設定＝ナビキーに割り当てるキーの標準設定を指定します。

選択肢：上下矢印キー, ホーム, エンドキー, 左右矢印キー, タブキー, 検索, 見出し行, オーディオ再生の操作, 表示の送り・戻し

ナビキートグル設定＝ナビキーを、2種類の操作の切り替えで使うための設定です。「なし」に設定すると、全ての選択肢から選択できます。

選択肢：なし, 上下矢印キー, ホーム, エンドキー, 左右矢印キー, タブキー, 検索, 見出し行, オーディオ再生の操作, 表示の送り・戻し

拡張ナビキー設定＝拡張ナビキー(前面キーの左側2個、右側2個の同時押し)に割り当てるキーの設定を指定します。

選択肢：上下矢印キー, ホーム, エンドキー, 左右矢印キー, タブキー, 検索, 見出し行, オーディオ再生の操作

点字スクロールの読み上げ＝表示の送り／戻しキーを押した時、新しい点字表示内容を読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：点字スクロールの読み上げ: なし, あり

表示のスクロール＝表示の送りキーと戻しキーの配置を指定します。

選択肢：左で戻し、右で送り、左で送り、右で戻し

(BMS16 の場合)

ワードラップモード＝点字表示が単語の途中で切れないようにするかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

キースキャン設定＝本体キーが全て離されたと判断するタイミングを指定します。

選択肢：高速, 標準, 確実

6点キーの配置＝6点キーへの点字の点の割り当て方を指定します。

選択肢：パーキンス式 (321-456) (標準), カニタイプ式 (456-321)

矢印キーのリピート＝矢印キーを長押しした時、複数回押したのと同じように振舞うかどうかを指定します。

選択肢：なし, 0.5 秒, 1 秒,

カーソル表示方法＝点字表示部の文字以外の点を点滅させるかどうかを指定します。

選択肢：静止表示, 遅い点滅, 速い点滅

スポットメッセージ表示時間＝短い時間表示する点字メッセージの継続時間を指定します。

選択肢：0.5 秒, 1 秒, 1.5 秒, 2 秒, 2.5 秒, 3 秒, 3.5 秒, 4 秒

スピーチオンの時の点字スポット＝音声出力している時も点字スポットメッセージを表示するかどうかを指定します。

選択肢：表示する, 表示しない

点字の自動送り＝点字の自動送りの時間間隔を指定します。自動送りは、表示の送り＋戻しキーの同時押しで始めます。

選択肢：1.0 秒, 1.2 秒, 1.4 秒, 1.6 秒, 1.8 秒, 2.0 秒, 2.2 秒, 2.4 秒, 2.6 秒, 2.8 秒, 3.0 秒, 3.2 秒, 3.4 秒, 3.6 秒, 3.8 秒, 4.0 秒, 4.2 秒, 4.4 秒, 4.6 秒, 4.8 秒, 5.0 秒,

キーロックアラーム＝キーロック中にキーが押された時の振舞いを指定します。キーロックは、親指キー3個と点字の「□」でオン／オフします。

選択肢：なし, ビープ音のみ, ビープ音とメッセージ

消音モード＝本機を消音モードで起動するかどうかを指定します。

選択肢：前回の状態で起動, 常に音声オフで起動, 常に音声オンで起動, 常に音声オフ (ビープ音あり) で起動

コントロール識別サイン＝リストなどの表示の両側に点字の枠を表示するかどうかを指定します。

選択肢：表示しない, 表示する

スピーチ単語ユーザ辞書を使用する＝メインメニュー → ツール → スピーチ単語登録で指定したユーザ辞書を、音声スピーチで使用するかどうかを選択します。

選択肢：オフ, オン

点訳単語ユーザ辞書を使用する＝メインメニュー → ツール → 点訳単語登録で指定したユーザ辞書を、点訳エンジンで使用するかどうかを選択します。

選択肢：オフ, オン

文字入力マクロ辞書を使用する＝メインメニュー → ツール → 文字入力マクロ登録で指定したユーザ辞書を、文字入力と点字表示で使用するかどうかを選択します。

選択肢：オフ, オン

音声ガイドのレベル＝フォーカス移動時の読み上げ内容と、操作説明の詳しさを選択します。

選択肢：シンプル, 標準, ガイド1, ガイド2

ヘルプの表示方法＝各種ヘルプの表示方法を指定します。

選択肢：リストで表示する, 階層リスト（ツリービュー）で表示する

8. 4. 2 メッセージの点訳設定

メッセージの点訳設定では、本機のメッセージやメニューを点訳する方法を設定します。メッセージの点訳設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → メッセージの点訳設定

エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

漢点字を使用する＝漢字を含む文の点訳に漢点字を使用するかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

基本モード＝外国語引用符などの言語を表す記号の使い方を選択します。

選択肢：日本語, 英語, コンピュータ, NABCC6点, NABCC8点

二級点字の使用＝英文の点訳で、二級点字を使用するかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

変換できなかった文字を記号で表示する＝かな点字に変換できない記号を3・6の点で表すかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

8. 4. 3 スピーチの設定

スピーチの設定では、読み上げのボリュームや速度などを調節します。スピーチの設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → スピーチの設定

エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

テキストスピーチエンジン（ドキュメントトーカー）を設定します。

スピーチ速度＝読み上げの速さを指定します。

数値 [1 - 13]

スピーチ音量＝声の大きさを指定します。

数値 [1 - 9]

ピッチ＝声の高さを指定します。

数値 [1 - 5]

声質＝男性の声か女性の声かを選択します。

選択肢：男性音, 女性音

記号読み＝文の読み上げ中に、記号を読むかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

句読点読み＝文の読み上げ中に、区読点を読むかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

8. 4. 4 テキスト編集の設定

テキスト編集の設定では、テキスト編集時の読み上げ方を設定します。

テキスト編集の設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → テキスト編集の設定

グローバルショートカット：ウィンキー + コントロールキー + T (2・3・4・5の点)

エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

入力読み＝テキスト編集ウィンドウへの文字入力を読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

IME 読み＝IME の変換候補を読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

削除読み＝削除した文字を読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

移動読み＝カーソル移動した時に、移動先の文字や行を読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

編集操作読み＝コピーなどの編集操作をした時、実行されたコマンドを読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

文字読み設定＝カタカナ、アルファベット大文字などの文字の種類を読み方を指定します。

選択肢：文字種を読まない, 文字種が変化した時に読む, 常に文字種を読む

文字詳細読み設定＝文字を読む時、詳細読みするかどうかを指定します。

選択肢：常に詳細読みする, 確認した時に詳細読みする, 常に文字種を読む

行読み設定＝行を読む時、全体を読むか、カーソルの右を読むかを指定します。

選択肢：行頭から読む, カーソルの右側を読む

入力モード＝入力モードを変更した時の通知方法を指定します。

選択肢：読まない, 読み上げる, スポットメッセージを表示する

IME 変換の選択範囲表示＝IME 変換候補の選択範囲を点字表示するかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

ステータス表示＝カーソル位置を常に点字表示部の端に表示しておくかどうかを指定します。

選択肢：なし, 左側に表示, 右側に表示

(BMS40)

ステータスの幅＝ステータス表示で使うマス数を指定します。

選択肢：4マス, 8マス, 12マス

右端で折り返す＝行末までウィンドウの横幅内に表示しきれない時、行を折り返し表示するかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

オートインデント＝改行した時、前の行と同じ字下げを挿入するかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

一行編集の自動範囲選択＝各種ダイアログの一行テキスト編集に、これまでの値を表示して、選択状態にするか否かを指定します。

選択肢：オフ, オン

標準のファイル形式＝テキスト文書のためのファイル名に拡張子が指定されなかった時、どの

形式にするかを選択します。

選択肢：テキストファイル (.txt), リッチテキストファイル (.rtf)

セクション番号で始まる行を見出し行とみなす＝「1.1」のような番号で始まる行を、見出し行として扱うか否かを選択します。

選択肢：オフ, オン

8. 4. 5 点字編集の設定

点字編集の設定では、点字編集時の読み上げ方を設定します。

点字編集の設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → 点字編集の設定

グローバルショートカット：ウィンキー + コントロールキー + B (1・2の点)

エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

基本メッセージを発声する＝カーソルのオン/オフなど、点字編集中の一般的なメッセージを読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

カーソル移動読み＝カーソル移動した時に、移動先の文字や行を読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

入力の読み上げ＝点字編集ウィンドウへの文字入力を読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：なし, 文字読み, 単語読み, 全て

編集操作読み＝コピーや削除など、点字編集ウィンドウの編集操作を読み上げるかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

ステータス表示＝カーソル位置を常に点字表示部の端に表示しておくかどうかを指定します。

選択肢：なし, 左側に表示, 右側に表示

(BMS40)

ステータスの幅＝ステータス表示で使うマス数を指定します。

選択肢：4マス, 8マス, 12マス

点字の種類＝8点点字の表示方法を指定します。

選択肢：6点, 上付き8点, 下付き8点

見出し行の折り返し＝見出し行が折り返される時の字下げ幅を指定します。

選択肢：なし, 2マス, 4マス

オートインデント＝改行した時、前の行と同じ字下げを挿入するかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

一行編集の自動範囲選択＝各種ダイアログの一行点字編集に、これまでの値を表示して、選択状態にするか否かを指定します。

選択肢：オフ, オン

フルキー入力＝外付けのUSBキーボードからの入力方法を選択します。

選択肢：NABCCモード, ASCIIモード, ローマ字モード

8. 4. 6 テキスト・点字変換設定

テキスト・点字変換設定では、テキスト文書を点訳する方法を設定します。
 テキスト・点字変換設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。
メインメニュー → 各種設定 → テキスト・点字変換設定
 エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

漢点字を使用する＝漢字を含む文の点訳に漢点字を使用するかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

基本モード＝外国語引用符などの言語を表す記号の使い方を選択します。

選択肢：日本語, 英語, コンピュータ, NABCC6 点, NABCC8 点

二級点字の使用＝英文の点訳で、二級点字を使用するかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

変換できなかった文字を記号で表示する＝かな点字に変換できない記号を3・6の点で表すかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

8. 4. 7 点字テキスト変換設定

点字テキスト変換設定では、点字データをテキスト変換する際の変換方法を設定します。
 点字テキスト変換設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。
メインメニュー → 各種設定 → 点字テキスト変換設定
 エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

漢点字を使用する＝漢点字を含む点字文章を、テキスト変換するかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

基本モード＝点字文章が日本語点字か、英語点字かを指定します。

選択肢：日本語, 英語, コンピュータ

かなの種類＝かな点字を、ひらがな、カタカナ、半角カタカナのどれに変換するかを指定します。

選択肢：ひらがな, カタカナ, 半角カタ

二級点字の使用＝点字文章の中で、二級点字を使用しているかどうかを指定します。

選択肢：オフ, オン

8. 4. 8 オーディオ再生の設定

オーディオ再生の設定では、オーディオ再生時のボリュームや再生速度などを調節します。
 オーディオ再生の設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。
メインメニュー → 各種設定 → オーディオ再生の設定
 エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

メインボリューム＝スピーカーまたはヘッドフォンから出る音量を指定します。

数値 [1 - 15]

オーディオ再生速度＝オーディオ再生、デジタイズ再生の際の話速変換速度を、1倍～4倍の13段階で指定します。

選択肢：1倍, 1.25倍, 1.5倍, 1.75倍, 2倍, 2.25倍, 2.5倍, 2.75倍, 3倍, 3.25倍, 3.5倍, 3.75倍, 4倍

オーディオ再生ボリューム＝オーディオ再生、デジタイズ再生の際の音量を指定します。実際の音量は、この設定と、メインボリュームの値で決まります。

数値 [1 - 20]

メディア再生ボリューム＝メディア再生の際の音量を指定します。実際の音量は、この設定と、メインボリュームの値で決まります。

数値 [1 - 20]

ビープ音量＝効果音の音量を指定します。実際の音量は、この設定と、メインボリュームの値で決まります。

数値 [0 - 10]

ビープ音の高さ＝効果音の高さを指定します。

数値 [0 - 4]

8. 4. 9 オーディオ録音の設定

オーディオ録音の設定では、オーディオ録音時の音質を調節します。

オーディオ録音の設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → オーディオ録音の設定

エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

チャンネル数＝モノラル（1チャンネル）かステレオ（2チャンネル）かを選択します。

選択肢：モノラル, ステレオ

ビット数＝音の分解度を指定します。大きくすると音質が上がりますが、データも大きくなります。

選択肢：8ビット, 16ビット

サンプリング＝1秒間の記録回数を指定します。大きくすると音質が上がりますが、データも大きくなります。

選択肢：11025, 22050, 44100

8. 4. 10 ボリュームボタンに割り当てられている設定

（簡単操作選択項目）「B8 ボリュームボタンに割り当てられている設定機能」＝隠す

ボリュームボタンに割り当てられている設定では、ボリュームボタンに割り当てられている設定項目を一括変更できます。

全般設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → ボリュームボタンに割り当てられている設定

グローバルショートカット：ウィンキー + コントロールキー + V（1・2・3・6の点）

エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

ボリュームボタンに割り当てられているオーディオ、スピーチ、点字自動送りの項目を設定します。

チャンネル選択＝ボリュームボタンで調整する項目を選択します。コントロールキー＋ボリュームボタンで選択するのと同様です。

選択肢：メインボリューム、スピーチ速度、スピーチ音量、ビープ音量、オーディオ再生速度、オーディオ再生ボリューム、メディア再生ボリューム、自動送り時間

メインボリューム＝スピーカーまたはヘッドフォンから出る音量を指定します。この設定は、「オーディオ再生設定」内にあるものと同じです。

数値 [1 - 15]

スピーチ速度＝スピーチの速さを指定します。この設定は、「スピーチの設定」内にあるものと同じです。

数値 [1 - 13]

スピーチ音量＝スピーチの音量を指定します。実際の音量は、この設定と、メインボリュームの値で決まります。この設定は、「スピーチの設定」内にあるものと同じです。

数値 [1 - 9]

ビープ音量＝効果音の音量を、0～10の11段階で指定します。実際の音量は、この設定と、メインボリュームの値で決まります。この設定は、「オーディオ再生設定」内にあるものと同じです。

数値 [0 - 10]

オーディオ再生速度＝オーディオ再生、デイジー再生の際の話速変換速度を指定します。この設定は、「オーディオ再生設定」内にあるものと同じです。

選択肢：1倍、1.25倍、1.5倍、1.75倍、2倍、2.25倍、2.5倍、2.75倍、3倍、3.25倍、3.5倍、3.75倍、4倍

オーディオ再生ボリューム＝オーディオ再生、デイジー再生の際の音量を、1～20の20段階で指定します。実際の音量は、この設定と、メインボリュームの値で決まります。この設定は、「オーディオ再生設定」内にあるものと同じです。

数値 [1 - 20]

メディア再生ボリューム＝メディア再生の際の音量を、1～20の20段階で指定します。実際の音量は、この設定と、メインボリュームの値で決まります。この設定は、「オーディオ再生設定」内にあるものと同じです。

数値 [1 - 20]

自動送り時間＝点字の自動送りの時間間隔を、1秒～5秒の21段階で指定します。自動送りは、表示の送り＋戻しキーの同時押しで始めます。この設定は、「全般設定」内にあるものと同じです。

選択肢：1.0秒、1.2秒、1.4秒、1.6秒、1.8秒、2.0秒、2.2秒、2.4秒、2.6秒、2.8秒、3.0秒、3.2秒、3.4秒、3.6秒、3.8秒、4.0秒、4.2秒、4.4秒、4.6秒、4.8秒、5.0秒、

8. 4. 11 サイドキーの設定

(簡単操作選択項目)「B7 サイドキー設定機能」＝隠す

サイドキーの設定では、サイドキーへのキーの割り当てを設定します。サイドキーの設定ウィンドウを開くには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → サイドキーの設定

エンターキーを押すと、変更した設定が有効になります。

〔設定項目〕

6個のサイドキーと、その組み合わせ押しに割り当てるキー操作を指定します。

それぞれの操作に対して、キーコードと、コントロールキー、オルトキー、セレクトキー、ウィンキーの組み合わせを指定できます。

8.5 ワンタッチ設定

(簡単操作選択項目)「B9 ワンタッチ設定機能」=隠す

ワンタッチ設定は、メインメニューにある複数の設定シートの設定内容をショートカットキーに登録しておき、いつでも、どこからでも、ワンタッチで設定変更できるようにする機能です。ワンタッチ設定のショートカットとして、ウィン+オルトキーと、下がり数字、アルファベットとの組み合わせ、計36種類が使えます。

例えば、ワンタッチ設定Xに登録した設定は、ショートカット（ウィンキー+オルトキー+X）で呼び出すことができます。

〔1〕ワンタッチ設定のショートカットに、設定を割り当てる方法

ワンタッチ設定のショートカットに設定を割り当てるには、次のように操作します。

(1) 次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → ワンタッチ設定

すると、設定シート「ワンタッチ設定」が開きます。

(2) このウィンドウには、ワンタッチ設定のショートカット36種類が、一行に一つずつ並んでいます。

この中から、上下矢印キーで、使用したいショートカットを選択します。

(3) 本機の今の設定をショートカットに保存するには、[選択中のショートカットに、現在の設定をコピーする] ボタンを押します。

ショートカットに割り当てられている設定をクリアするには、[選択中のショートカットの設定を消去する] ボタンを押します。

(4) ショートカットに割り当てる設定を変更するには、目的のショートカットの所で、スペースキーを押します。

例えば、ワンタッチ設定Xを選んでスペースキーを押すと、「ワンタッチ設定Xに含める設定シート」のウィンドウが開きます。

(5) このウィンドウには、以下の設定シートの項目が並んでいます。

各行の左側に、それぞれの設定シートをワンタッチ設定Xに含めるかどうかを指定するためのチェックボックスがあります（3,4の点がチェックした状態、3,6の点がチェックされていない状態です）。

- 全般設定
- メッセージの点訳設定
- スピーチの設定
- テキスト編集の設定
- 点字編集の設定

- テキスト・点字変換の設定
- 点字・テキスト変換の設定
- オーディオ再生の設定
- オーディオ録音の設定

チェックを付けたり、外したりするには、タッチカーソルキーを押します。

例えば、「スピーチの設定」と「オーディオ再生の設定」をチェックしておく、ショートカット（ウィンキー+オルトキー+X）を実行した時、これら二つの設定シートの値が変更されます。

- (6) 各設定シート内の設定内容を確認／変更するには、スペースキーを押します。
 例えば「スピーチの設定」の行でスペースキーを押すと、「スピーチの設定」の設定シートが開きます。ここで指定する値は、このワンタッチ設定を実行した時に使われます。設定シートの内容を適宜変更してから、エンターキーを押してください。
 すると、「ワンタッチ設定Xに含める設定シート」のウィンドウに戻ります。
- (7) 必要な設定が終わったら、エンターキーを押して、ワンタッチ設定Xの登録内容を保存します。すると、「ワンタッチ設定」ウィンドウに戻ります。
- (8) エスケープキーを押して、このウィンドウを閉じます。

〔2〕ワンタッチ設定を呼び出す

ワンタッチ設定を呼び出すには、設定を割り当てたショートカット操作を実行します。

例えば、上記のようにワンタッチ設定Xを登録している場合、どのウィンドウにいる時でも、ショートカット、ウィンキー+オルトキー+Xを押して、この設定を呼び出せます。

ショートカット操作を実行すると、「ワンタッチ設定Xを適用しました」と発声され、「スピーチの設定」と「オーディオ再生の設定」が変更されます。

ただし、ショートカット、ウィンキー+オルトキー+Xを、お気に入り文書機能のショートカットとして割り当てている場合は、そちらが優先されます。

お気に入り文書に割り当てている操作を確認するには、以下のコマンドを実行します。

メインメニュー → ファイル → お気に入り文書一覧

（このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+コントロールキー+F（1,2,4の点）です）。

この機能について詳しくは、〈2. 2. 2 〔D〕お気に入り文書一覧〉の項を参照してください。

8. 6 全ての設定を初期値に戻す

- (1) 本機の、全ての設定を初期値に戻すには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → 各種設定 → 全ての設定を初期値に戻す

すると、設定の初期化の確認のメッセージが表示されます。

ここでエンターキーを押すと、全ての設定が初期値に戻ります。

ただし、簡単操作設定については、設定を変更すると、本機の操作方法自体が大きく変わってしまうため、このコマンドでは、設定を変更していません。

簡単操作設定を初期値に戻すには、以下のコマンドで「簡単操作設定」ウィンドウを開き、[標準に戻す] ボタンをご使用ください。

メインメニュー → 各種設定 → 簡単操作設定

- (2) ボリュームとナビキーの設定を初期値に戻したい時は、前面にあるキー4個を、1秒以内に2回、同時押ししてください。
- (3) ほとんどの設定シートには、以下のようなボタンがあります。

[標準値から変更している項目を表示する]

このボタンを押すと、その設定シートの中で、標準値から変更されている項目と、それらの現在の値、および標準値が表示されます。

[標準に戻す]

このボタンを押すと、設定シート内の各設定項目が標準値に変更されます。

この設定を有効にするには、エンターキーを押して設定を確定してください。

エスケープキーを押すと、設定は標準値に戻りません。

8.7 簡単操作設定

簡単操作設定ウィンドウでは、本機の機能を制限して、操作を簡単にするための設定を行います。

以下の設定項目があります。

〔設定項目〕

簡単操作設定＝「以下の設定を有効にして、本機の操作を簡単にする」か、「以下の設定を無効にして、本機の全ての機能を利用可能にする」かを選択します。

初期値: 以下の設定を有効にして、本機の操作を簡単にする

- A1 クイック優先モード＝本機を電源オンした時、クイックメモプログラムを自動的に起動する、クイック優先モードをオン/オフします。

クイック優先モードは、本機で、主に、点字のメモをとりたいお客様に便利です。

このモードでは、ウィンキー＋セレクトキーの操作により、クイックメモウィンドウとメインウィンドウの間を移動できます。

メインウィンドウから操作を始めたいお客様は、この設定をオフにしてください。

初期値: オン

- A2 時計とアラーム＝時計やアラーム、各種タイマーの機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、時計やアラームは、利用できなくなります。

初期値: 利用可能

- A3 カレンダーと予定表＝カレンダーと予定表の機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、カレンダーや予定表は、利用できなくなります。

初期値: 利用可能

- A4 テキスト編集プログラム＝テキストファイルの編集機能、およびオフィスやPDFなどの文書を閲覧する拡張機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、テキストファイルなどを編集できなくなります。

初期値: 利用可能

- A5 点字編集プログラム=点字編集プログラムを、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、点字編集プログラムは、利用できなくなります。
クイックメモは、この設定に関わらず、常に利用可能です。
初期値: 利用可能
- A6 点字図書閲覧プログラム=サピエ図書館などからダウンロードした点字図書データの閲覧機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、点字図書は、分冊毎の点字ファイルを点字編集プログラムなどで開いて読む形になります。
初期値: 利用可能
- A7 オーディオ再生プログラム=早聞きを含む音声データの再生機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、オーディオ再生プログラムは、利用できなくなります。
初期値: 利用可能
- A8 ボイスレコーダープログラム=本機の内蔵マイクを使って録音する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、ボイスレコーダープログラムは、利用できなくなります。
初期値: 利用可能
- A9 デイジー再生プログラム=デイジーデータの再生機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、デイジーデータの閲覧は、できなくなります。
初期値: 利用可能
- A10 メディア再生プログラム=アルバムデータのプレイリスト再生を含む、音楽データの再生機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、メディア再生プログラムは、利用できなくなります。
初期値: 利用可能
- A11 点字文書送受信プログラム=当社のブレイルメモ機などとの間で、点字文書を送受信する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、点字文書送受信プログラムは、起動できなくなります。
接続先からコマンドを受信した場合は、プログラムが自動的に起動して、文書を送受信できます。
初期値: 隠す
- A12 点字チャットプログラム=本機同士、またはブレイルメモやPCとの間で、点字でチャットする機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、点字チャットプログラムは、起動できなくなります。
接続先からコマンドを受信した場合は、プログラムが自動的に起動して、チャットに回答できます。

- 初期値: 隠す
- A13 点字印刷プログラム＝本機から点字プリンタに接続して、点字印刷する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインウィンドウの項目がなくなり、点字印刷は、できなくなります。
初期値: 隠す
- B1 電卓ツール＝点字の式を入力して計算できる機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
また、点字文書やテキスト文書の中の階層的に書かれた計算表を集計する、「ツリー型集計機能」を利用するか否かも設定します。
この機能隠すと、メインメニューの項目がなくなり、電卓は、利用できなくなります。
初期値: 利用可能
- B2 グローバル検索ツール＝最近使った文書の中からキーワード検索する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインメニュー項目がなくなり、グローバル検索は、利用できなくなります。
初期値: 隠す
- B3 デイジー変換ツール＝点字文書やテキスト文書から、テキストデイジーデータに変換する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインメニューの項目がなくなり、デイジー変換ツールは、利用できなくなります。
初期値: 隠す
- B4 記憶メディアの管理ツール＝SDカードやUSBメモリーをチェックしたり、フォーマットする機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインメニューの項目がなくなり、記憶メディアの管理ツールは、利用できなくなります。
初期値: 隠す
- B5 各種ユーザ辞書＝点字表示や音声読み上げのためのユーザ辞書登録、文字入力マクロ機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインメニューの項目がなくなり、スピーチ単語登録、点訳単語登録、文字入力マクロ登録の各機能は、利用できなくなります。
初期値: 隠す
- B6 お気に入り文書機能＝各種の文書やデータを、お気に入り文書一覧に入れたい、ショートカットを割り当てて開けるようにする機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインメニューや各プログラムのメニューの項目がなくなり、お気に入り文書機能は、利用できなくなります。
初期値: 隠す
- B7 サイドキー設定機能＝サイドキーへのキー割り当ての変更機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインメニューの項目がなくなり、サイドキーの設定機能は、利用できなくなります。サイドキーは、使えます。
初期値: 隠す

- B8 ボリュームボタンに割り当てられている設定機能＝ボリュームボタンに割り当てられている、オーディオ、スピーチ、点字自動送りの設定を一括変更できる機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインメニューの項目がなくなり、ボリュームボタンに割り当てられている設定機能は、利用できなくなります。ボリュームボタンは、使えます。
初期値: 隠す
- B9 ワンタッチ設定機能＝本機の各種の設定を登録しておき、ワンタッチで変更できるようにする機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。
この機能隠すと、メインメニューの項目がなくなり、ワンタッチ設定機能は、利用できなくなります。
初期値: 隠す
- B10 内蔵SDカード、データのバックアップ機能＝内蔵SDカード内に保存されているデータを、別の記憶メディアにバックアップする機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。この機能隠すと、メインメニューの項目がなくなり、内蔵SDカード内のデータのバックアップ機能は、利用できなくなります。
初期値: 隠す
- C1 日本語漢字変換＝日本語IMEによるかな漢字変換機能を、利用可能にするか、オフにするかの設定です。また、テキスト編集プログラムでの「連続再変換機能」を利用するか否かも設定します。
この機能をオフにすると、漢字変換はできなくなります。ひらがなやカタカナは、直接文字入力モードで入力できます。
初期値: オン
- C2 ブロック登録／挿入機能＝点字やテキストのブロックを登録しておき、簡単に文書中に挿入できる機能を、利用可能にするか、オフにするかの設定です。
この機能をオフにすると、ブロック登録・挿入のキー操作が無効になります。
初期値: オフ
- C3 片手入力機能＝通常の両手入力方式と、左手／右手の片手入力方式を切り換えられる機能を、利用可能にするか、オフにするかの設定です。
この機能をオフにすると、片手入力は、選択できなくなります。
初期値: オフ
- C4 コマンド検索機能＝メニューを開いている時、キーワードを指定してコマンドを検索できる機能を、利用するか、オフにするかの設定です。
この機能をオフにすると、コマンド検索の操作は無効になります。
初期値: オフ
- C5 ユーザショートカット機能＝メニュー内の、標準のショートカット操作が割当てられていないコマンドに、ショートカット操作を追加できる機能を、利用するか、オフにするかの設定です。
この機能をオフにすると、ユーザショートカット機能は無効になります。
初期値: オフ
- C6 データリスト、履歴一覧からの、コピー・移動機能＝各種のデータや文書を、簡単な操作で、他の記憶メディアのアプリフォルダに移動したり、コピーできる機能を、利用するか、

オフにするかの設定です。この機能をオフにすると、各種データの再生・閲覧プログラムや、履歴一覧ウィンドウなどにある、「このデータをコピーする」、「このデータを移動する」などのコマンドが無効になります。

初期値: 利用可能

D1 タイムスタンプの挿入機能＝文書編集プログラムで、編集中の文書に、現在の日付や時刻を挿入する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、タイムスタンプの挿入コマンドは、利用できなくなります。

初期値: 利用可能

D2 テーブルビューモード＝文書編集プログラムで、文書の中に書かれた表の中を、項目単位で移動しながら読み上げられる機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、テーブルビューコマンドは、利用できなくなります。

初期値: 利用可能

D3 ツリー型集計機能＝文書編集プログラムで、文書の中に書かれたツリースタイルの表を集計する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、ツリー型集計コマンドは、利用できなくなります。

初期値: 利用可能

D4 文書の比較機能＝2個の文書を比較する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、文書の比較コマンドは、利用できなくなります。

初期値: 隠す

D5 学習カード機能＝単語帳のような学習支援機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、学習カードコマンドは、利用できなくなります。

初期値: 利用可能

D6 タイムラインの表示機能＝文書の中で、日付が書かれた行をカレンダー順に一覧表示して、目的の行にジャンプできる機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、タイムライン表示コマンドは、利用できなくなります。

初期値: 利用可能

D7 文書編集からの予定の登録機能＝文書の中で、日付が指定されている行を抜き出して、その右側を予定表に登録する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、文書編集からの予定の登録コマンドは、利用できなくなります。

初期値: 隠す

D8 住所の検索機能＝テキスト編集で、郵便番号や住所を検索する機能を、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、住所の検索コマンドは、利用できなくなります。

初期値: 利用可能

D9 データを探す場所の指定機能=各種データ再生プログラムで、アプリフォルダの他にも、データを探す場所を指定できる機能を、利用するか隠してしまうかの設定です。

この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、データを探す場所の指定コマンドは、利用できなくなります。

初期値: 隠す

D10 コメント機能=各種データ再生プログラムで、現在の場所に点字のコメントを書いておける機能を、利用するか隠してしまうかの設定です。この機能隠すと、プログラムのメニュー項目がなくなり、コメントの追加や、参照のコマンドは、利用できなくなります。

初期値: 利用可能

E ホビー機能=メインメニューのホビー項目の中にある各種ゲームを、利用可能にするか、隠してしまうかの設定です。

初期値: 隠す

F1 同じプログラムの複数起動=同じプログラムのウィンドウを、いくつか同時に開けるようにするか、ウィンドウ一つで使うようにするかの選択です。

この項目を「禁止」するに設定すると、テキスト編集/点字編集プログラムには、「一つ前の文書」コマンドが追加され、直前の文書に戻れるようになります。

初期値: 禁止する

F2 音声ガイドのレベル=フォーカス移動時の読み上げ内容と、操作説明の詳しさを選択します。

この設定は、「全般設定」内にあるものと同じです。

初期値: 標準

第9章 ホビー機能

(簡単操作選択項目)「E ホビー機能」=隠す

この章では、本機のホビー機能についてご紹介します。

本機では、点字を触りながら楽しめる、以下の6種類のゲームを用意しています。

これらは、メインメニューの「ホビー」サブメニューから実行できます。

- (1) 〈クモの糸〉……マークや数字が同じカードをクリックして、ポイントを集めるトランプゲームです。
- (2) 〈神経衰弱〉……同じ数字のカードを組み合わせて、ポイントを集めるトランプゲームです。
- (3) 〈白黒〉……表と裏が白・黒のコマを8×8マスの盤の上に置き、相手のコマを挟んで裏返ししながら、自分の色のコマを増して行くゲームです。
- (4) 〈ナンバープレイス (ナンプレ)〉……1~9の数字が、同じ行、列、ブロック内に重ならないように、数字で空白を埋めて行くゲームです。
- (5) 〈魚釣り〉……仕掛けをうまく操って、魚を誘い、あたりにあわせて釣り上げます。
- (6) 〈暗算マスター〉……算盤をイメージしながら、暗算の練習ができるゲームです。
- (7) お宝さがし……盤の中に埋まっているお宝を見つけるゲームです。
- (8) 将棋盤……将棋盤です。詰め将棋などを考える時にご利用ください。

9. 1 クモの糸

〔遊び方〕

場に表向けに並べられたトランプのカードを、1枚ずつ取って行き、その順番で得点を競うゲームです。

最初は、52枚のカードの内、20枚が、5行4列に表示されます。

その左側、縦線で区切られている所は、最後に取ったカードが表示されるスペースです。

20枚のカードの中から、好きなカードを1枚取ると、取ったカードがここに移動します。

カードを取るには、そのカードの上のタッチカーソルを押します。

カードを取った所には、後ろのカードが順番に詰められて、最後に新しいカードが1枚補充されます。

2枚目からは、縦線の左側に表示されているカードと関係のあるカードを、右側から探して取って行きます。

前に取ったカードと、新しく取ったカードの関係で、ポイントが加算されます。

このようにして、全部のカードを取り終ると、ゲーム終了です。

〔ポイント〕

ポイントは、以下のルールで加算されます。

同じマークのカード 2点

同じ数字のカード 3点

同じマークの連続する数字のカード3枚 $3 \times 3 = 9$ 点

絵札が入っていると、その数字分加算されます (ジャック、クイーン、キングの連続は36点)。

同じ数字のカード3枚 10点

絵札の連続は、その数字の2倍分加算されます（キングの3連続は、26点）。

同じマークの7・5・3の順 30点

別のマークの、前後の数字のカードは、ポイントが入りません。

それ以外のカードを取ると、20ポイント没収になります。

〔操作〕

行の間は、上下矢印キーで移動します。

残り20枚になるとアナウンスが流れ、それ以降はカードが補充されないなので、行数が減って行きます。

今の得点は、コマンドキー+Sで確認できます。

また、ゲーム終了のメッセージには、得点と、掛かった時間が表示されます。

9. 2 神経衰弱

〔遊び方〕

場に裏向けに並べられたトランプのカードの中から、同じ数字のペアを探すゲームです。

最初は、52枚のカードが、11行5列に表示されます。

その中から、好きなカード1枚を捲ります。

カードを捲るには、そのカードの上のタッチカーソルを押します。

次に、このカードと同じ数字と思う、もう一枚のカードを、予想して捲ります。

捲った2枚のカードが同じ数字の時は、成功です。2枚のカードが場からなくなり、空の枠に変わります。

捲った2枚のカードが同じ数字でなかった時は、失敗です。1枚目のカードは裏返しに戻り、2枚目のカードはそのまま残ります。

次に、このカードと同じと思うカードを、別のカードの中から探します。

前に捲ったのと別のカードでペアを作りたい時は、残っているカードをクリックして、裏返しに戻します。

このようにして、全てのカードがペアにできたら、ゲーム終了です。

このゲームは、1度捲ったカードをしっかり覚えておく所がポイントです。

2度目に捲ったカードで、正しくペアを作れたかどうかをカウントして、「正解率」として表示します。

〔操作〕

行の間は、上下矢印キーで移動します。

今の正解率は、コマンドキー+Sで確認できます。

また、ゲーム終了のメッセージには、正解率と、掛かった時間が表示されます。

9. 3 白黒

表と裏が白・黒のコマを8×8マスの盤の上に置き、相手のコマを挟んで裏返ししながら、自分の色のコマを増して行くゲームです。

〔遊び方〕

表と裏が白・黒のコマを8×8マスの盤の上に置き、相手のコマを挟んで裏返ししながら、自分の色のコマを増して行くゲームです。

もし、あなたが黒なら、盤の上の黒のコマと、新しく置く黒のコマで、縦・横・斜めに、一枚以上の白のコマを挟めるマスにコマを置きます。

挟んだ白のコマも、裏返して黒にします。

自分のコマが置ける所がーヶ所もない時だけ、パスすることができます。

黒と白が交互に自分の色のコマを置いて行き、全てのマスが埋まるか、どちらもコマを置ける所がなくなったらゲーム終了です。

ゲームが終わった時に、自分の色のコマが多い方が勝ちです。

このゲームでは、盤の隅に置いたコマは裏返されることがなく、逆に、相手の多くのコマを裏返すのに役立ちます。

そこで、うまく盤の隅のマスに、自分の色のコマを置けるようにゲームを進めるのが一つのポイントです。

〔操作方法〕

始めに、遊び方を選択します。

点字表示の左半分に、ゲームの相手キャラクタ名が表示されています。

キャラクタ名の上のタッチカーソルを押すと、次のキャラクタに変わります。お好みのレベルのキャラクタを選択してください。

黒・白の表示は、あなたのコマの色を選択する所です。黒が先手になります。

キャラクタの後に表示される「対戦モード」は、二人で交互に操作してゲームをするモードです。

遊び方が選択できたら、「開始」の上のタッチカーソルを押してください。

プレイ中の点字表示は、12行、16マスを使用しています。

1行目には、今の黒・白のコマの数が表示されます。

12行目には、直前の相手の手が表示されます。

2行目と11行目は枠線です。

その間の行に、8行分の盤の表示があります。

各行の左端に、次の番のコマの色（黒か白）が表示されます。

その右に、行番号に続いて、8マス分の表示スペースがあります。

コマがない所は、3の点、または6の点、コマがある所は、白のシカ、黒のクの仮名点字を表示します。

盤上の四隅から2行2マス目の所には、星を表す2点が表示されます。

自分の番の時に、盤上のコマを置けるマスのタッチカーソルを押してください。

挟んだコマは、自動的に裏返ります。

コマを置ける場所がない場合、またはコマを置ける場所があるかどうか分からない時は、表示の左端の白か黒の上のタッチカーソルを押してください。

コマを置ける場所がない場合は、この操作でパスできます。

2行目の「ガイド」は、コマが置ける所を教えてくれるボタンです。

このボタンを押すと、コマが置けるマスに、裏返せるコマの数がブリンク表示されます。

10マス以上裏返せる時は、メの字のブリンクになります。

裏返せるコマが一番多いマスの行に表示が移動しますが、でもそこが一番よい手かどうかは分かりません。

2手目からは、11行目に、「まった」ボタンが表示されます。

このボタンを押すと、直前の手を取り消すことができます。

9. 4 ナンバープレイス (ナンバー)

〔遊び方〕

9行、9列のマスに、1から9の数字を入れて、全てのマス埋めるパズルゲームです。

但し、同じ数字を、同じ行や、同じ列に2回以上使うことはできません。

このゲームでは、横の並びを行と呼び、縦の並びを列と呼びます。

また、3行3列ごとに区切られた、9個のブロックの内でも、同じ数字を1度しか使えません。

予め、いくつかのマスには数字が入っていて、これらをヒント数字と呼びます。

ヒント数字は、変更できません。

ヒント数字のないマスに、各行・列・ブロック内で重ならないように数字を入れて行きます。

でも、ヒント数字の数が少ないので、うまくやらないと、ルール通りに最後まで数字を入れることができません。

入る数字が一つしかない所を探して埋めて行きましょう。

ちょっと難しいパズルゲームです。

〔操作方法〕

点字表示は、13行、16マスになっています。

その中に、9行、9列の数字が、3行3列ずつ枠線で区切られて並んでいます。

数字は、数符なしの「アイウルラエレリオ」で表しています。

各数字行の先頭には、行番号を表す点字1マスがあります。

一番上が1行目、一番下が9行目です。

また、列は、一番左を1列目、一番右を9列目と呼びます。

ブロックは、左上の3×3マスが1ブロック、その右側が2ブロック、その右側が3ブロックです。

1ブロックの下が4ブロックで、右下隅のブロックが9ブロックになります。

ヒント数字のないマスには、7の点が表示されます。

行の間は、上下矢印キーで移動します。

また、今注目している数字の位置に、カーソルを表示しています。カーソルは、7・8の点のブロックです。

カーソルは、左右矢印キーで移動します。

数字を表示しているマスのタッチカーソルを押しても、カーソルを移動できます。

また、カーソルがあるマスのタッチカーソルを押すと、カーソルをオフにできます。

点字キーを押すと、カーソル位置に任意の点字を入力できます。

ただし、「アイウルラエレリオ」以外の点字は、答えとしては認識されません。

一度入力した数字を消すには、スペースキーを押します。

全部のマスに正しい答えが入力できると、ゲーム完了となります。

途中でウィンドウを閉じたり、電源をオフにしても、次回開いた時には、同じ状態からゲームを続けられます。

9. 5 魚釣り

〔遊び方〕

海の中にある釣針を操作して、魚を釣るゲームです。

はじめ、私たちは10匹のエサを持っています。

このエサで、何匹の魚が釣れるか、何ポイントゲットできるかを競います。

時間制限はありません。

〔操作方法〕

ゲームを開始すると、点字表示部に点線が表示されます。この点線は海面を表しています。

表示の左端にある数符のない数字は、その場所の水深が何メートルかを示します。

海面の下のほぼ中央にある点が、釣針です。この針を上下左右の矢印キーで操作して、魚を探します。

下矢印キーで釣針を下ろしていくと、この海を泳いでいる、いろいろな種類の魚に出会います。

泳いでいる魚の上のタッチカーソルを押すと、魚の種類が分かります。

魚がエサに出会うと、エサを食います。

また、魚の前でエサを動かすと、エサの食いがよくなります。

魚が針に掛かっている間は、魚の表示がブルブルします。

ブルブルしたら、針を動かさずに、針の上のタッチカーソルを押してください。すぐに押さないと、エサを取られてしまいます。

この海の深さは30メートルで、深さによって、泳いでいる魚の種類が変わります。

また、魚の種類によって、釣れた時のポイントが変わります。

深い海に行く程、釣りにくい魚が出て来ます。

お楽しみに。

9. 6 暗算マスター

〔遊び方〕

5個の数の読み上げ算をします。

読み上げられた数字を足し算して、最後に答えを入力してください。

点字表示の右5マスに、算盤で計算する時のイメージを、点字で表したものを表示しています。

答えの参考にしてみてください。

各マスは、1桁の数を表しています。

一番右のマスが1桁目で、全部で5桁まで表せるようになっています。

右下の点だけのマスは、その桁が0であることを示します。

各マスの4・5・6・3の点で、算盤の1の玉を表します。

一番上の点だけのマスは1、点が2個のマスは2のように、数符の形の4点で、1～4の数を表します。

各マスの2の点は、算盤の5の玉を表しています。

5の玉があるマスでは、1の玉の数に5を足した数が、その桁の数になります。

なるべく数を意識せず、形の変化だけで計算できるようになるのがポイントです。

算盤をあまりやったことのない人も、このイメージを触ってコツを掴んでおくと、いざという時に役立つかも知れません。

9.7 お宝さがし

〔遊び方〕

「お宝さがし」は、マインスイーパーというゲームに似たゲームです。縦横12マスの盤の中に、15個のお宝が埋まっています。盤のマスを開いて行き、お宝を全て発見できると、任務完了です。お宝が埋まっている隣のマスを開くと、ヒントとして、周りにお宝の数が表示されます。ヒントの数字を頼りに、お宝がありそうなマスを開いて行きます。お宝が埋まっていないマスを開くと、その周りの、お宝がないマスをいっぺんに開くことができます。

ヒントを頼りにお宝の場所を推測して開くことで、高いポイントがゲットできます。より、早く、より高いポイントで、あなたの任務を達成してください。任務が終了すると、ゲットしたポイントと、掛かった時間が、メッセージボックスで表示されます。この場合、次のゲームに進むには、エンターキーを、間違えた所を確認したい場合には、エスケープキーを押してください。

エスケープキーを押した場合、再度エンターキーを押すことで、次のゲームに進めます。また、ステータス表示の読み上げ（コマンドキー+S（2・3・4の点）で、これまでの得点と、残りのお宝の数を確認できます。

〔操作方法〕

点字表示は、14行、16マスになっています。上下の2行は枠線で、その中に、12行、12マスの盤が表示されています。各行の左端には、行番号を表す点字1マス（A～L）が表示されます。行の間は、上下矢印キーで移動します。盤上の、まだ開いていないマスには、4の点が表示されています。マスを開くには、タッチカーソルを押します。開いたマスに、お宝があると、1・6の点が表示されます。また、まだ開いていない、縦・横・斜めの隣のマスにお宝があると、ヒントとして、その合計の数字、1～8が表示されます。この数字には、既に見つかったお宝の数は入りません。数字は、数符なしの「アイウルラエレリ」で表しています。そのマスにも、隣のマスにも、お宝がないマスは、点がない、スペースの表示になります。お宝を普通に開くと、1ポイントゲットします。お宝を開く時、セレクトキーや送りキー、戻しキーなどを組み合わせると、10ポイントになります。ただし、この操作で、お宝がない所を開いてしまうと、直ちに任務失敗になってしまいます。ヒントの数字で、お宝の場所が特定できる所を探すのが、このゲームのポイントです。

9. 8 将棋盤

〔このプログラムでできること〕

このプログラムでは、次のことができます。

- (1) 将棋版を表示して、2人で試合をする。
- (2) 将棋の本などを読みながら、局面を再現して、練習する。
- (3) 詰め将棋の問題を入力して、考える。

試合モードでは、盤の状態が点字で表示され、先手、後手が交互にコマを動かして試合を進めます。局面を考える時は、1手戻る、1手進むなどのコマンドにより、実際にコマを移動させて、よりよい手を考えることができます。

別の手筋を考えたい時は、局面の保存、局面の再現コマンドにより、今の状態を保存したり、再現したりできます。

編集モードでは、コマの配置を手入力できるほか、点訳書の中で、棋譜表記法で書かれているコマの配置をコピーすることもできます。この機能は、詰め将棋を楽しむ時などに便利です。

〔使い方〕

このプログラムを起動すると、前回終了時の盤の状態が再現されます。

新しく試合を始める時は、ファイルメニューの「新しい試合」コマンドを実行します。

局面を保存したい時は、「局面の保存」コマンドや、「名前を付けて保存」コマンドを実行します。

「局面の保存」コマンドは、1回分の局面を、簡単に保存しておけるコマンドです。この情報は、「局面の再現」コマンドにより、呼び出すことができます。

「名前を付けて保存」コマンドで保存した局面データは、「ファイルから読み込み」コマンドにより、読み出します。

詰め将棋を楽しむ時は、ファイルメニューにある、「盤面の新規編集」コマンドを実行します。

すると、空の盤が表示されるので、そこに問題のコマの配置や、持ちコマを入力します。

点訳書からコマの配置をコピーする時は、点訳書の配置図の所を範囲選択してクリップボードにコピーした後、編集メニューの、盤面の貼り付けコマンドを実行します。

問題が入力できたら、エンターキーを押して、試合モードに入り、解答を考えます。

〔点字表示の説明〕

点字表示は、13行で構成されています。

3行目から、11行目までの行の、7マス目から15マス目の範囲に、将棋盤が表示されます。

1行目と13行目は、持ちコマを表示するスペースです。

2行目と12行目は、盤の上下の枠線です。

(盤の向き)

盤の向きは、表示モードコマンドにより、切り替えることができます。

次の3種類の選択肢があります。

(ゲームメニュー → 表示モードの選択サブメニュー内)

- 先手側を手前に表示：一般的な将棋盤の表し方です。
3～5行目が後手側、9～11行目が先手側の陣地になります。
編集モードや、詰め将棋を考える時は、常に、この向きで表示します。
- 後手側を手前に表示：盤を逆向きに表示します。
3～5行目が先手側、9～11行目が後手側の陣地になります。
- 手番の側を手前に表示：次の手番の側が下になるように、1手ずつ、表示の向きを切り替えます。試合を始めると、まず、この表示モードになります。
盤の上側が後手側の場合、1行目に後手の持ちゴマ、13行目に先手の持ちゴマが表示されます。

また、「手番の側を手前に表示」モードの時は、常に13行目が手番の人の持ちゴマ、1行目が相手の持ちゴマになります。

（筋と段）

将棋盤のマスは、縦方向の「筋」と、横方向の「段」を表す二つの数字を使って表します。

2行目と12行目にある枠線の行には、7マス目から15マス目に、盤の筋を表す、1～9の数字が、数符なしで表示されます。

筋番号は、後手の角側の端が1筋、飛車側の端が9筋です。

段数は、常に、一番後手側が1段、先手側が9段です。

上下の枠線の間の、点字9行で、盤の9段を表します。

各行の先頭2マスには、次が先手番の時は、「セン」、後手番の時は、「ゴ」と表示されます。

また、盤面を編集集中の時は、ここに「ヘン」と表示されます。

その後ろに、盤の段を表す数字（1～9）が、数符なしで表示されます。

各行の6マス目と16マス目は、左右の枠線です。

その間の9マスに、対応する筋のコマが表示されます。

（コマを表す点字）

各コマは、点字の棋譜表記法に従って、以下の点字で表示しています。

歩兵（フ） ア（1の点）（*1）

ト金（トキン） ト（2,3,4,5の点）

香車（キョーシャ） コ（2,4,6の点）

成り香（ナリキョー） ソ（2,4,5,6の点）

桂馬（ケイマ） ケ（1,2,4,6の点）

成り桂（ナリケイ） セ（1,2,4,5,6の点）

銀将（ギン） シ（1,2,5,6の点）

成り銀（ナリギン） ミ（1,2,3,5,6の点）

金将（キン） キ（1,2,6の点）

飛車（ヒシャ） ヒ（1,2,3,6の点）

竜（リュウ） ル（1,4,5の点）

角行（カク） カ（1,6の点）

馬（ウマ） マ（1,3,5,6の点）

玉将（ギョク） メ（1～6の点）（*2）

合ゴマ（アイゴマ） ヘ（1,2,3,4,6の点）（*3）

また、盤上のコマには、どちらのコマかを示すため、上記の点字に、先手のコマには、7の点、後手のコマには8の点を付記しています。

コマが置かれていないマスには、先手番の時は7の点、後手番の時は8の点が表示されます。

(※1) 歩兵(フ)は、点字棋譜表記法では、先手のコマを4の点、後手のコマを1の点で表しますが、このソフトでは、1の点で統一しています。また、歩兵を「フ」の点字で表わす場合もありますが、歩兵に挟まれた他のコマを読みやすくするために、棋譜と同じ点字を使用しています。

(※2) 将棋のコマには、通常、王将(オーショー)と玉将(ギョクショー)の区別がありますが、ルール上の違いはないため、このソフトでは、玉将に統一しています。

また、点字棋譜表記法では、玉将を2マスの点字で表しますが、スペースの都合のため、他のソフトでも使用されている「メ」の点字1マスで表しています。

(※3) 合ゴマは、詰め将棋の時に、後手番で使用する、匿名のコマです。

*以下の操作説明では、盤を表示している行や、持ちゴマを表示している行で、対応するマスのタッチカーソルを押すことを、「クリックする」と記します。

〔試合中の操作方法〕

(1) 行の移動

表示行は、上下矢印キーや、ホーム/エンドキーで移動します。

また、1～9の下がり数字を入力すると、盤上のその数字の段に移動します。

(2) マスの選択とカーソル

- マスを1度クリックすると、マスが選択されます。
マスが選択されると、そこにあるコマの点字を含めたマス全体がブリンクします。
- マスを2度クリックすると、カーソルが表示されます。
カーソルは、7・8の点で表します。
- カーソルがあるマスを再度クリックすると、カーソルがオフになります。
- エスケープキーを押しても、マスの選択や、カーソルをクリアできません。

(3) コマを動かす

コマを動かす時は、コマがあるマスと、動かす先のマスの2箇所をクリックします。
どちらを先にクリックしても構いません。

ただし、歩兵だけは、コマがあるマスをクリックすると、すぐに1マス進みます。

コマが成れる所で、「成らず」にしたい時は、セレクトキーを押しながら、クリックしてください。また、動かすコマを、点字で指定することもできます。

例えば、自分のコマ、8・8角を、2・2のマスに成り込ませたい時は、2・2のマスをクリックしてから、角を表す点字「か」を入力します。

この方法は、2・2のマスに移動できる自分の角が1枚しかない時に利用できます。

(4) 持ちゴマを打つ

コマを打つ時は、自分の持ちゴマの行にあるコマと、打ちたいマスの2箇所をクリックします。どちらを先にクリックしても構いません。また、打つコマを、点字で指定すること

もできます。

例えば、5・5のマスに、角を打ちたい時は、5・5のマスをクリックして、カーソルを表示してから、角を表す点字「か」を入力します。

(そのマスに移動できる自分のコマがない時は、クリック1回でもコマを打てます)。

(5) コマがある所をクリックした時の表示

コマがあるマスをクリックして選択すると、そのコマが動けるマスがブリンク表示になります。この機能は、自分のコマをクリックすると、移動先の確認に、相手のコマをクリックすると、そのコマが効いている範囲の確認に利用できます。

また、マスをクリックした後、コントロール+Qキーを押すと、そのマスに効いている、相手のコマ、自分のコマを読み上げます。

(6) コマの位置を確認する

コマの点字に、身方、相手を表す、7の点、8の点を付けて入力すると、その種類のコマがあるマスに、カーソルを移動できます。

例えば、後手側の銀将の場所を確認したい時は、銀将を表す点字「シ」に、8の点を組み合わせ入れて入力します。

同じ種類のコマが盤上に複数ある時は、同じ点字を繰り返し入力して、カーソルを目的のマスに移動させてください。

例えば、上と同じ、銀将の点字を続けて入力すると、次の、後手の銀将のコマの位置に移動します。なお、カーソルがオンの時、そのマスを選択するには、スペースキーを押します。

(7) 相手がした操作を確認する

直前の相手の手を確認するには、コントロール+Lキーを押します。

この操作で、直前の操作を読み上げ、そのマスを表示します。

このマスを選択し、続けて「同飛車」などの操作をしたい場合は、スペースキーを押します。また、現在選択中のマスを確認するには、コントロール+Pキーを押します。

この操作で、選択中のマスを読み上げ、そのマスを表示します。

カーソル位置を確認するには、コマンドキー+1、5、6の点を押してください。

(8) 手の取り消しと、再実行

前の手を取り消したい時は、コントロール+Zキーを押します。

また、取り消した手を再実行するには、コントロール+Rキーを押します。

次が第何手で、どちらの手番かは、ステータスの読み上げコマンド(コマンドキー+S)で確認できます。

〔盤面の編集集中の操作〕

「盤面の新規編集」コマンドを実行すると、盤面や持ちコマを編集できる状態になります。

(1) 盤面を編集するには、編集したいマスの上のタッチカーソルを押して、カーソルを表示します。カーソルは、7・8の点のブリンクで表しています。

同じ場所を再度クリックすると、カーソルがオフになります。

- (2) カーソル位置にコマを配置するには、置きたいコマの点字を入力します。
後手側のコマを入力する時は、8の点を組み合わせてください。8の点がない場合は、先手のコマになります。
- (3) カーソル位置のコマを削除するには、デリートキーを押します。
- (4) 持ちゴマを入力するには、持ちゴマの行に移動して、コマの点字を入力します。
この場合は、7の点や8の点は不要です。
すると、そのコマが表示に追加されて、選択状態になります。
同じコマを複数枚入力する時は、スペースキーを押して、選択状態のコマを増やすことができます。
- (5) 持ちゴマを削除するには、削除したいコマの上のタッチカーソルを押して、選択状態にします。
ここでデリートキーを押すと、選択状態のコマを1枚減らすことができます。
編集が終わったら、エンターキーを押して、試合モードに入ります。
編集を終了する前に、少なくとも、後手側の玉将を、盤上に配置してください。

〔ショートカットキー一覧〕

各コマンドに、次のショートカットが割り当てられています。

Ctrl+B	局面の再現コマンド
Ctrl+C	盤面のコピーコマンド
Ctrl+E	盤面の新規編集コマンド
Ctrl+G	後手側を手前に表示コマンド
Ctrl+7	先手側を手前に表示コマンド（標準の向き）
Ctrl+X	手番の側を手前に表示コマンド（試合モード用）
Ctrl+L	最後の手の場所に移動コマンド
Ctrl+N	新しい試合コマンド
Ctrl+O	ファイルから読み込みコマンド
Ctrl+P	選択中の場所に移動コマンド
Ctrl+R	1手進むコマンド
Ctrl+S	上書き保存コマンド
Ctrl+V	盤面の貼り付けコマンド
Ctrl+W	局面の保存コマンド
Ctrl+Z	1手戻るコマンド

第10章 サポート機能

この章では、ファームウェアのバージョンアップや拡張機能ライセンスのインストールの方法、本機のテスト機能の使い方をご説明します。

10. 1 ファームウェアのバージョンアップと拡張機能ライセンスのインストール方法

この節では、ファームウェアバージョンの確認とバージョンアップの方法、拡張機能ライセンスのインストールと試用期間についてご説明します。

10. 1. 1 バージョンとライセンスの確認

本機のファームウェアやOSのバージョン、拡張機能ライセンスの状態を確認するには、以下のように入力します。

(1) 次のコマンドを実行します。

メインメニュー → ヘルプ → バージョン情報

(このコマンドのグローバルショートカットは、ウィンキー+H (1,2,5 の点) です)。

(2) すると、「本機の情報」ウィンドウが開き、次の情報が表示されます。

ファームウェア……ファームウェアのバージョンです。

OSビルド……OSのバージョン情報です。

電源ボード Version……本機内部にある電源ボードのバージョン情報です。

シリアル番号……Windows CE のシリアル番号です。

アクセスキー……本機で「商用配布点字データ」を閲覧する際に使用する機械の識別番号です。

BMスマート拡張機能ライセンス……拡張機能ライセンスの番号が表示されます。

10. 1. 2 ファームウェアをバージョンアップする方法

本機のファームウェアは、インターネットとパソコンを使って、簡単にバージョンアップできます。

上記環境をお持ちの場合は、以下のように操作してください。

インターネットからファイルをダウンロードできる環境をお持ちでない場合は、以下の連絡先までご連絡ください。

連絡先: 「ケージーエス株式会社」

TEL: 0493-72-7311

(1) 本機のファームウェアは、当社の以下のページからダウンロードできます。

ケージーエス福祉機器用ダウンロード専用ページ: <http://www.kgs-jpn.co.jp/down.html>

BMS16 と BMS40 では、ファームウェアに同梱されているマニュアルが異なります。お持ちの機種種のファームウェアパッケージをダウンロードしてください。

- (2) ダウンロードしたファイルを解凍してください。
- (3) すると、Programs という名前のフォルダができます。このフォルダ毎、SD カード、または USB メモリーのルートフォルダにコピーします。
(SD カードや USB メモリーは、8ギガバイト程度までのものをご使用ください。
それ以上のものは、認識に時間が掛かり、ファームウェアの検出が間に合わない場合があります)。
- (4) 上記をコピーした記憶メディアを本機に接続して、電源をオンにしてください。
すると、本機の起動中に、ファームウェアの更新処理が行われ、新しいバージョンで起動します。

内蔵 SD カードの残り容量が少ないと、ファームウェアをインストールできない場合があります。この場合は、その旨のメッセージが発声されますので、内蔵 SD カードの内容を整理してみてください。

また、既にインストールされているファームウェアの方のバージョンが高い場合にも、インストールは行われません。

なお、本機が起動すると、「Programs」フォルダは、「Programs (インストール済み)」にリネームされます。

再度インストールする場合は、フォルダ名を元に戻してください。

〔ファームウェアのバージョンアップコマンドを使用する〕

本機起動時のバージョンアップがうまく行かない場合は、以下の方法もお試してください。

- (1) 本機が起動している状態で、新しいファームウェアの Programs フォルダが入った SD カード、または USB メモリーを接続します。
- (2) 以下のコマンドを実行します。
メインメニュー → ヘルプ → ファームウェアのバージョンアップ
- (3) このコマンドで新しいバージョンのファームウェアが見つかったら、インストールの確認のメッセージが表示されます。
- (4) この場合、エンターキーを押すと、ファームウェアのコピーが始まります。
コピーできたら、本機を再起動してください。
新しいファームウェアが検出できない場合は、本機のファームウェアのバージョンや、インストール用に使用している記憶メディアの内容をご確認ください。

10. 1. 3 BMスマート拡張機能ライセンスについて

BMスマートファームウェア Ver1.2 より、本機の機能の中で、より専門的な機能、上級者向けの機能を、「拡張機能」として整備させて頂くことになりました。

このバージョンには、以下の拡張機能があります。

〔BMスマート Ver1.2.0 拡張機能〕

- ・マイクロソフトオフィス（ワード・エクセル・パワーポイント）データの閲覧機能。
- ・PDFデータの閲覧機能。

〔ライセンスと試用期間について〕

本機の拡張機能をご利用頂くには、本機に、別売の「BMスマート拡張機能ライセンス」をインストールして頂く必要があります。

このライセンスは、一度インストールすれば、今後のバージョンアップの際にも、継続的に拡張機能をご利用頂けます。

また、機械の修理などの際には、代替機など、別のBMスマートにライセンスを移動してご利用頂くことが可能です（移動の際には、インストールに使用したライセンスSDが必要になります）。

*なお、このライセンスは、点字辞書「スマートコータクン」のライセンスとは別のものになります。スマートコータクンをご利用になるには、本ライセンスは必要ありません。

本機の拡張機能には、30日分のお試し期間が用意されています。

この期間内は、ファームウェアに含まれる該当機能を、ご自由に無償にてご試用頂けます。

この期間内に、拡張機能の使い勝手を、是非ご確認ください。

〔ライセンスのご購入について〕

「BMスマート拡張機能ライセンス」は、ケージーエス株式会社で販売致します。

詳しくは、以下までお問い合わせください。

ケージーエス株式会社 0493-72-7311

ライセンスは、専用SDカードに入っています。

このSDカードは、ライセンスのインストール、およびアンインストールをする際に必要となります。その他で必要になることはありませんので、大切に保管してください。

〔ライセンスのインストール方法について〕

本機に、「BMスマート拡張機能ライセンス」をインストールするには、次のように操作します。

(1) 本機の前面SDスロットに、「BMスマート拡張機能ライセンスSD」を挿入します。

(2) 次のコマンドを実行します。

メインメニュー → ヘルプ → BMスマート拡張機能ライセンスのインストール

すると、ライセンスが自動的にインストールされます。

*ライセンスをアンインストールする場合も、同じライセンスSDを挿入して、上記のコマンドを実行してください。

(3) ライセンスを確認するには、次のコマンドを実行します。

メインメニュー → ヘルプ → バージョン情報

すると、「本機の情報」ウィンドウが開き、その中に、拡張機能ライセンスのインストールの有無が表示されます。

10.2 テスト機能

本機には、以下のテスト機能があります。

本機の調子が悪くなった場合にご利用ください。

10.2.1 点字表示ピンの動きを確認する

点字を読んでいて、表示部の不調を感じた時は、次のコマンドで、各ピンの動きや強さを確認できます。

メインメニュー → ヘルプ → 点字表示テスト

このコマンドでは、点字表示部の各マスに、空白と、1点、2点、4点、8点のパターン、計

16種類を表示します。

上下矢印キーを押すと、表示するパターンが変わります。

左右矢印キーを押すと、点滅の周波数を変更できます。

タッチカーソルキーを押すと、そのマスが何マス目かを発声します。

このコマンドを終了するには、コマンドキー+Z（1,3,5,6の点）を押します。

10. 2. 2 操作キーの働きをチェックする

操作キーの不調を感じた時は、次のコマンドで、各キーの働きをチェックできます。

メインメニュー → ヘルプ → キー入力テスト

このコマンドでは、押されたキーの情報を、そのまま点字表示と音声で通知します。

文字やコマンドに変換される前の、キー操作の情報を確認できます。

エスケープかエンターを3回続けて押すと、このコマンドを終了します。

10. 2. 3 バッテリー充放電テストコマンドについて

このコマンドでは、現在の充放電状態について、以下の内容を確認できます。

- ・状態：充電中、バッテリー使用中、AC電源で動作中
- ・開始時刻
- ・開始時のバッテリー残量
- ・経過時間
- ・現在のバッテリー残量

また、[最近の記録を表示する] ボタンの所でタッチカーソルを押すと、バッテリー充放電記録のウィンドウが開きます。

このウィンドウでは、最近256件の充放電記録を参照できます。

[CSV形式でファイルに出力する] ボタンを押すと、最近256件の充放電記録を、前面SDカード、またはUSBメモリー内の、「バッテリー充放電記録.csv」ファイルに保存します。

10. 2. 4 通信ポートの状態をチェックする

本機には、通信ポートの状態と、通信内容をチェックするための、以下のコマンドがあります。

メインメニュー → 接続 → USBポート → USBポートの状態

メインメニュー → 接続 → ブルートゥースポート → ブルートゥースポートの状態

【BMS40】メインメニュー → 接続 → RSポート → RSポートの状態

これらのコマンドを使うと、通信ポートを通常の目的で使用しながら、それらの状態や通信内容をチェックできます。

これらのコマンドを実行すると、各ポートの状態を表示するウィンドウが開きます。

表示される項目は、以下の通りです。

ポートの状態……このポートの今の状態を表示します。

送信コマンド……このポートから送信したコマンドの数を表示します。

送信バイト……このポートから送信したバイト数を表示します。

受信コマンド……このポートで受信したコマンドの数を表示します。

受信バイト……このポートで受信したバイト数を表示します。

エスケープキーを押すと、表示を終了します。

10. 2. 5 教育施設用機能制限について

この機能は、本機を、学校などの教育施設で試験の解答などに利用頂く場合に、使用してはいけない機能、ふさわしくない機能を利用不可にするものです。

以下の機能が対象になります。

- 電卓、ツリー型集計（計算機能）
- スマートコータクン（点字辞書機能）
- ホビー機能（ゲームなど）

この機能を有効にするには、以下のコマンドを実行します。

メインメニュー → ヘルプ → 教育施設用機能制限

すると、以下のメッセージが表示されます。

「教育施設用機能制限を設定すると、辞書機能、計算機能が利用できなくなります。本機を再起動して、制限を有効にしてよろしいですか？」

ここで、Y（1、3、4、5、6の点）を入力すると、本起が再起動し、設定が有効になります。再起動後のメインウィンドウの説明欄には、教育施設用機能制限を設定した、日時が表示されます。期間終了後に、この機能制限が有効になっていたことを確認するために、ここに表示された情報を記録しておいてください。

機能制限が必要でなくなったら、上記のコマンドを再度実行します。

すると、以下のメッセージが表示されます。

「教育施設用機能制限が設定されています（設定した日時）。本機を再起動して、制限を解除してよろしいですか？」

ここで、Y（1、3、4、5、6の点）を入力すると、本起が再起動し、制限が解除されます。このように、機能制限自体は簡単に解除できますが、設定日時を確認することにより、期間中、制限対象の機能が使用されなかったことを確かめることができます。

第11章 スマートコータクン

この章では、スマートコータクンについてご紹介します。

スマートコータクンは、高村明良氏開発の点字編集システム『コータクン』のブレイルメモスマートバージョンです。

スマートコータクンからは、点訳辞書「スマートディック」をご利用頂けます。

BMスマートには、スマートコータクンのプレインストール版が組み込まれています。

プレインストール版では、「ジュニア英和辞典」と「カタカナ語辞典」の2種類の点訳辞書をご利用頂けます。

「スマートディック」は、英和辞典のほか、国語辞典、四字熟語、和英辞典、仏和辞典など、30種類の辞書が組み込まれた点字辞書です。

これら30種類の辞書をご利用になるには、別途、スマートコータクン製品版をご購入頂く必要があります。

なお、スマートコータクンは点字のみ表示され、音声での読み上げや、かなの対応表示はありません。

スマートコータクンを起動するには、メインウィンドウの「スマートコータクン」の項目を選択して、エンターキーを押すか、グローバルショートカット、ウィンキーとK（1・3の点）を押します。

使用方法については、スマートコータクンのヘルプをご参照ください。

スマートコータクンを実行後、オルトキーを押すとメニューが表示されます。

メニューから「7 ヘルプ」を選択しエンターキーを押すとヘルプが表示されます。

〔お問い合わせ先〕

スマートディックのご購入など、辞書に関する各種お問い合わせは以下の「つつじフレンド」へご連絡ください。

点字ボランティアグループ つつじフレンド

担当：加藤 美佐子

電話：03-3885-7234

メール：QZR13454@nifty.com <mailto:QZR13454@nifty.com>

付録

A. 本機で使える点字コード

(A1) 半角英数字モードで使用できる記号

半角英数字モードでは、ASCII コードの記号が入力できます。
以下に、ASCII コードの記号と点字パターンの対応を示します。

! (感嘆符) ……2,3,5 の点
 " (コーテーション) ……2,3,5,6 の点
 # (シャープ) ……1,4,6 の点
 \$ (ドル) ……1,4,5,6 の点
 % (パーセント) ……1,2,4,5,6 の点
 & (アンド) ……1,2,3,4,6 の点
 ' (アポストロフィ) ……3 の点
 ((丸括弧開き) ……2,3,6 の点
) (丸括弧閉じ) ……3,5,6 の点
 * (アスタリスク) ……1,6 の点
 + (プラス) ……3,4,6 の点
 , (コンマ) ……2 の点
 - (マイナス) ……3,6 の点
 . (ピリオド) ……2,5,6 の点
 / (スラッシュ) ……3,4 の点
 : (コロン) ……5 の点, 2 の点
 ; (セミコロン) ……2,3 の点
 < (小なり) ……3,5 の点, 3,5 の点
 = (イコール) ……2,5 の点, 2,5 の点
 > (大なり) ……2,6 の点, 2,6 の点
 ? (疑問符) ……5 の点, 2,3,6 の点
 @ (アット) ……2,4,6 の点
 [(大括弧開き) ……1,2,3,5,6 の点
 ¥ (エンマーク) ……1,2,4,6 の点
] (大括弧閉じ) ……2,3,4,5,6 の点
 ^ (ハット) ……4,5 の点
 _ (アンダーライン) ……5 の点, 3,6 の点
 ` (アクサングラフ) ……5 の点, 1,5 の点
 { (中括弧開き) ……1,2,6 の点
 | (縦線) ……1,2,5,6 の点
 } (中括弧閉じ) ……3,4,5 の点
 ~ (チルダ) ……5 の点, 1,4 の点

(A2) 半角かなモードで使用できる記号

半角かなモードでは、次の記号が使用できます。

- ッ (促音) ……2 の点
 - (長音) ……2,5 の点
 - 。(句点) ……5 の点、2,3 の点
 - 、(読点) ……5 の点、3 の点
 - ・(中点) ……5 の点、2 の点
 - 「(かぎ括弧開き) ……5,6 の点、3 の点
 - 」(かぎ括弧閉じ) ……6 の点、2,3 の点
- アイウエオ、ヤユヨの小文字を単独で入力したい時は、4,5 の点に続けてかなを入力します。

(A3) 主な全角記号

全角モードでは、シフト JIS/UNICODE に定められた記号の内、よく使用されるものを入力できます。

以下に、本機で利用可能な主な全角記号を示します。

以下で、8 の点は、右親指キーとの組み合わせを表します。

- 、(読点) ……5 の点、3 の点
- 。(句点) ……5 の点、2,3 の点
- 、(コンマ) ……4,5 の点、3 の点
- 。(ピリオド) ……4,5 の点、2,3 の点
- ・(中点) ……5 の点、2 の点
- :(コロン) ……5,6 の点、2,3 の点
- ;(セミコロン) ……4,5 の点、2 の点
- ? (疑問符) ……5 の点、2,6 の点
- ! (感嘆符) ……5 の点、2,3,5 の点
- ‘ (シングルコーテーション開き) ……4,5,6 の点、2,3 の点
- ’ (アポストロフィ, シングルコーテーション閉じ) ……4,5,6 の点、3 の点
- “ (コーテーション開き) ……4,5,6 の点、2,3,6 の点
- ” (コーテーション閉じ) ……4,5,6 の点、3,5,6 の点
- ((丸括弧開き) ……5 の点、2,3,5,6 の点
-) (丸括弧閉じ) ……2,3,5,6 の点、2 の点
- [(亀甲括弧開き) ……4,5,6 の点、1,2,3,5,6 の点
-] (亀甲括弧閉じ) ……4,5,6 の点、2,3,4,5,6 の点
- [(大括弧開き) ……4,5,6 の点、1,2,3,4,6 の点
-] (大括弧閉じ) ……4,5,6 の点、1,3,4,5,6 の点
- { (中括弧開き) ……4,5,6 の点、1,2,6 の点
- } (中括弧閉じ) ……4,5,6 の点、3,4,5 の点
- < (山括弧開き) ……4,5,6 の点、2,4,6 の点
- > (山括弧閉じ) ……4,5,6 の点、1,3,5 の点
- 《 (二重山括弧開き) ……4,5,6 の点、2,4,5,6 の点
- 》 (二重山括弧閉じ) ……4,5,6 の点、1,2,3,5 の点
- 「(かぎ括弧開き) ……5,6 の点、3 の点
- 」(かぎ括弧閉じ) ……6 の点、2,3 の点

- 『(二重かぎ括弧開き) ……5,6 の点, 3,6 の点
 』(二重かぎ括弧閉じ) ……3,6 の点, 2,3 の点
 【(黒括弧開き) ……4,5,6 の点, 1,2,3,4,5 の点
 】(黒括弧閉じ) ……4,5,6 の点, 1,2,4,5,6 の点
 + (プラス) ……3,4,5,6,8 の点, 2,6 の点
 - (マイナス) ……3,4,5,6,8 の点, 3,5 の点
 ± (プラスマイナス) ……3,4,5,6,8 の点, 2,3,6 の点
 × (掛ける) ……3,4,5,6,8 の点, 1,3,4 の点
 ÷ (割る) ……3,4,5,6,8 の点, 1,4,5 の点
 = (イコール) ……3,4,5,6,8 の点, 2,5 の点
 ≠ (ノットイコール) ……3,4,5,6,8 の点, 1,2,5,6 の点
 < (小なり) ……3,4,5,6,8 の点, 2,4,6 の点
 > (大なり) ……3,4,5,6,8 の点, 1,3,5 の点
 ≤ (小なりイコール) ……3,4,5,6,8 の点, 2,4,5,6 の点
 ≥ (大なりイコール) ……3,4,5,6,8 の点, 1,2,3,5 の点
 ∞ (無限大) ……3,4,5,6,8 の点, 1,2,3,4,5,6 の点
 ∴ (ゆえに) ……1,3,4,8 の点, 6 の点, 1,6 の点
 ♂ (オス) ……1,3,4,8 の点, 1,3,4 の点
 ♀ (メス) ……1,3,4,8 の点, 1,2,4 の点
 ° (角度のド) ……3,4,5,6,8 の点, 2,5,6 の点
 ′ (角度のフン) ……3,4,5,6,8 の点, 2 の点
 ″ (角度のビョウ) ……3,4,5,6,8 の点, 2,3 の点
 °C (温度のドシー) ……2,5,6,8 の点, 2,5,6 の点, 1,4 の点
 ¥ (エンマーク) ……1,3,4,8 の点, 1,3,4,5,6 の点
 \$ (ドル) ……1,3,4,8 の点, 1,4,5 の点
 ¢ (セント) ……1,3,4,8 の点, 1,4 の点
 £ (ポンド) ……1,3,4,8 の点, 1,2,3 の点
 % (パーセント) ……1,3,4,8 の点, 1,2,3,4 の点
 # (シャープ) ……1,3,4,8 の点, 1,3,4,5 の点
 & (アンド) ……1,3,4,8 の点, 1,2,3,4,6 の点
 * (アスタリスク) ……1,3,4,8 の点, 3,5 の点
 @ (アット) ……1,3,4,8 の点, 1 の点
 § (セクション) ……1,3,4,8 の点, 2,3,4,6 の点
 ☆ (白星) ……1,3,4,8 の点, 2,3,4 の点
 ★ (黒星) ……1,3,4,8 の点, 2,3,4,5 の点
 ○ (白丸) ……1,3,4,8 の点, 1,3,5,6 の点
 ● (黒丸) ……1,3,4,8 の点, 1,2,3,5,6 の点
 ◎ (二重丸) ……1,3,4,8 の点, 4,6 の点, 1,3,5,6 の点
 ◇ (白ひし形) ……1,3,4,8 の点, 2,4,6 の点
 ◆ (黒ひし形) ……1,3,4,8 の点, 2,4,5,6 の点
 □ (白四角) ……1,3,4,8 の点, 1,3,4,6 の点
 ■ (黒四角) ……1,3,4,8 の点, 1,2,3,4,5,6 の点
 △ (白三角) ……1,3,4,8 の点, 3,4,6 の点
 ▲ (黒三角) ……1,3,4,8 の点, 3,4,5,6 の点

- ▽（白逆三角）……1,3,4,8 の点, 1,4,6 の点
- ▼（黒逆三角）……1,3,4,8 の点, 1,4,5,6 の点
- ※（米印）……1,3,4,8 の点, 2,6 の点
- 〒（郵便マーク）……1,3,4,8 の点, 1,2,3,4,5 の点
- （右矢印）……3,4,5,6,8 の点, 1,2,5 の点
- ←（左矢印）……3,4,5,6,8 の点, 2,4,5 の点
- ↑（上矢印）……3,4,5,6,8 の点, 3,4,5,6 の点
- ↓（下矢印）……3,4,5,6,8 の点, 1,4,5,6 の点
- =（ゲタ）……1,3,4,8 の点, 1,2,4,6 の点

(A4) NABCC（北米点字）コード

NABCC（北米点字）コードは、ASCII コードと点字のパターンの対応を定めた規格で、両者の間の変換の際に広く使用されています。

以下に、ASCII コードの文字と点字パターンの対応を示します。

以下で、7 の点は、左親指キーとの組み合わせを表します。

- ！（感嘆符）……2,3,4,6 の点
- ”（コーテーション）……5 の点
- #（シャープ）……3,4,5,6 の点
- \$（ドル）……1,2,4,6 の点
- %（パーセント）……1,4,6 の点
- &（アンド）……1,2,3,4,6 の点
- ’（アポストロフィ）……3 の点
- （（丸括弧開き）……1,2,3,5,6 の点
- ）（丸括弧閉じ）……2,3,4,5,6 の点
- *（アスタリスク）……1,6 の点
- +（プラス）……3,4,6 の点
- ,（コンマ）……6 の点
- （マイナス）……3,6 の点
- .（ピリオド）……4,6 の点
- /（スラッシュ）……3,4 の点
- 0……3,5,6 の点
- 1……2 の点
- 2……2,3 の点
- 3……2,5 の点
- 4……2,5,6 の点
- 5……2,6 の点
- 6……2,3,5 の点
- 7……2,3,5,6 の点
- 8……2,3,6 の点
- 9……3,5 の点
- :（コロン）……1,5,6 の点
- ;（セミコロン）……5,6 の点
- <（小なり）……1,2,6 の点

= (イコール) ……1,2,3,4,5,6 の点
> (ダイナリ) ……3,4,5 の点
? (疑問符) ……1,4,5,6 の点
@ (アット) ……4 の点
A ……1,7 の点
B ……1,2,7 の点
C ……1,4,7 の点
D ……1,4,5,7 の点
E ……1,5,7 の点
F ……1,2,4,7 の点
G ……1,2,4,5,7 の点
H ……1,2,5,7 の点
I ……2,4,7 の点
J ……2,4,5,7 の点
K ……1,3,7 の点
L ……1,2,3,7 の点
M ……1,3,4,7 の点
N ……1,3,4,5,7 の点
O ……1,3,5,7 の点
P ……1,2,3,4,7 の点
Q ……1,2,3,4,5,7 の点
R ……1,2,3,5,7 の点
S ……2,3,4,7 の点
T ……2,3,4,5,7 の点
U ……1,3,6,7 の点
V ……1,2,3,6,7 の点
W ……2,4,5,6,7 の点
X ……1,3,4,6,7 の点
Y ……1,3,4,5,6,7 の点
Z ……1,3,5,6,7 の点
[(大括弧開き) ……2,4,6 の点
¥ (エンマーク) ……1,2,5,6 の点
] (大括弧閉じ) ……1,2,4,5,6 の点
^ (ハット) ……4,5 の点
_ (アンダーライン) ……4,5,6 の点
` (アクサングラフ) ……4,7 の点
a ……1 の点
b ……1,2 の点
c ……1,4 の点
d ……1,4,5 の点
e ……1,5 の点
f ……1,2,4 の点
g ……1,2,4,5 の点
h ……1,2,5 の点

i	……2,4 の点
j	……2,4,5 の点
k	……1,3 の点
l	……1,2,3 の点
m	……1,3,4 の点
n	……1,3,4,5 の点
o	……1,3,5 の点
p	……1,2,3,4 の点
q	……1,2,3,4,5 の点
r	……1,2,3,5 の点
s	……2,3,4 の点
t	……2,3,4,5 の点
u	……1,3,6 の点
v	……1,2,3,6 の点
w	……2,4,5,6 の点
x	……1,3,4,6 の点
y	……1,3,4,5,6 の点
z	……1,3,5,6 の点
{ (中括弧開き)	……2,4,6,7 の点
(縦線)	……1,2,5,6,7 の点
} (中括弧閉じ)	……1,2,4,5,6,7 の点
~ (チルダ)	……4,5,7 の点

(B) USBキーボードからの操作

本機には、USBキーボードが接続できます。

本体コマンドキーと、USBキーボードからの操作の対応は、以下のとおりです。

(以下、本体コマンドキー、USBキーボード操作の順)

コマンドキー+1,2,3,4 の点 (前の段落に移動)	……コントロール+ファンクション 11
コマンドキー+1,2,3,4,5,6 の点 (文書の連続読み上げ)	……コントロール+0
コマンドキー+1,2,3,4,6 の点 (前の行区切りに移動)	……コントロール+ファンクション 12
コマンドキー+1,2,3,5,6 の点 (前のブックマーク行に移動)	……コントロール+ファンクション 8
コマンドキー+1,2,3,6 の点 (前の見出し行に移動)	……コントロール+ファンクション 7
コマンドキー+1,2,4 の点(F) (フォーカス項目の読み上げ)	……コントロール+シフト+6
コマンドキー+1,2,5 の点(H) (ヘルプの表示)	……ファンクション 1
コマンドキー+1,2,5,6 の点 (名前の変更)	……ファンクション 2
コマンドキー+1,2,6 の点 (見出し解除)	……コントロール+ファンクション 6
コマンドキー+1,3,4,5,6 の点 (次の行区切りに移動)	……ファンクション 12
コマンドキー+1,3,5 の点 (クリップデータの受信)	……ファンクション 9
コマンドキー+1,3,5,6 の点(Z) (プログラムの終了)	……オルト+F 4
コマンドキー+1,3,6 の点 (初めから検索)	……コントロール+ファンクション 3
コマンドキー+1,4 の点 (行の読み上げ)	……コントロール+9
コマンドキー+1,4,5,6 の点 (次の段落に移動)	……ファンクション 11
コマンドキー+1,5,6 の点 (カーソル位置の確認)	……コントロール+シフト+0

コマンドキー+1,6の点（入力モードの確認）……コントロール+シフト+5
コマンドキー+2,3,4の点(S)（ステータス情報の読み上げ）……コントロール+シフト+9
コマンドキー+2,3,4,5の点(T)（タイトルの読み上げ）……コントロール+シフト+8
コマンドキー+2,3,4,5,6の点（次のブックマークに移動）……ファンクション8
コマンドキー+2,3,6の点（前を検索）……シフト+ファンクション3
コマンドキー+2,4,5,6の点(W)（ウィンドウの読み上げ）……コントロール+シフト+7
コマンドキー+2,4,6の点（クリップボードデータの送信）……コントロール+ファンクション9
コマンドキー+2,5の点（単語の読み上げ）……コントロール+8
コマンドキー+3,4の点（段落モードの読み上げ）……コントロール+シフト+1
コマンドキー+3,4,5の点（見出し行に設定）……ファンクション6
コマンドキー+3,4,5,6の点（次の見出し行に移動）……ファンクション7
コマンドキー+3,4,6の点（フォントの読み上げ）……コントロール+シフト+2
コマンドキー+3,5,6の点（次を検索）……ファンクション3
コマンドキー+3,6の点（文字の読み上げ）……コントロール+7



ケージーエス株式会社
KGS CORPORATION